

**令和 7 年度**  
**男女共同参画社会づくりのための**  
**佐賀県民意識調査報告書**  
**(全体版)**

**令和 8 年 4 月**

**佐賀県 健康福祉部 男女参画・こども局**  
**男女参画・女性の活躍推進課**

# 目 次

第1章 調査概要	
1. 調査の目的	1
2. 調査実施期間	1
3. 調査対象	1
4. 調査方法	1
5. 調査主体	1
6. 調査結果監修	1
7. 調査委託先	1
8. 参考資料	1
9. 回収結果	1
10. 報告書の見方	2
11. 設問項目	3
第2章 調査結果総括	
男女の地位について	11
家庭・子育てについて	11
職業について	11
社会について	12
配偶者からの暴力について	12
男女共同参画社会の実現について	13
健康課題について	13
第3章 調査結果	
1. 回答者属性	14
F-1 あなたの性別は	14
F-2 あなたの年齢は	14
F-3 あなたの現在のお仕事は	14
F-4 配偶者（パートナー）はいますか	15
F-5 配偶者（パートナー）のお仕事は	15
F-6 18歳未満の子どもはいますか	15
F-7 配偶者（パートナー）以外の同居家族はいますか	16
2. 設問回答	
【男女の地位について】	
問1 あなたは、次にあげる①～⑦分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか	17
①家庭生活	21
②職場	23
③学校教育の場	25
④地域活動・社会活動の場	27
⑤政治の場	29
⑥法律や制度の上	31
⑦社会通念・慣習・しきたりなど	33
問2 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要だと思うことは何ですか。	35
【家庭・子育てについて】	
問3 あなたは、一般的に「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思いますか	37
問3-1 そう思う理由は何ですか	39

問3-2 そう思わない理由は何ですか	41
問4 あなたのご家庭では、日常の家事（炊事・掃除・洗濯など）は主にどなたが行っていますか。また、あなたはどのような仕事の分担が理想的だと考えますか	43
<b>【現在の仕事の分担】</b>	
① 食事の支度・あとかたづけ	44
② 掃除・洗濯	45
③ 食料品・日用品等の買物	46
④ 対外的な対応（町内会等のご近所付き合い、親戚付き合いなど）	47
⑤ 子ども（乳児・幼児含む）の世話	48
⑥ 子どもの学校行事への参加	49
⑦ 子どもの送迎	50
⑧ 高齢者の世話（介護）	51
<b>【理想と考える仕事の分担】</b>	
⑨ 食事の支度・あとかたづけ	52
⑩ 掃除・洗濯	53
⑪ 食料品・日用品等の買物	54
⑫ 対外的な対応（町内会等のご近所付き合い、親戚付き合いなど）	55
⑬ 子ども（乳児・幼児含む）の世話	56
⑭ 子どもの学校行事への参加	57
⑮ 子どもの送迎	58
⑯ 高齢者の世話（介護）	59
問5 次の①～⑦について、あなたの考えに近いものは何ですか	60
① 女性は理系に向いていない	61
② 男性はいい大学を出て出世を目指すべきだ	62
③ 女性に高い学歴は必要ない	63
④ 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	64
⑤ 女性は結婚によって、経済的に安定を得る方がいい	65
⑥ 男性は社会の第一線で活躍するべきだ	66
⑦ 男性も女性も炊事・掃除・洗濯は同等のレベルでできた方がいい	67
<b>【職業について】</b>	
問6 あなたは、女性が働くことについてどう思いますか	68
問6-1 選んだ理由は何ですか	70
問7 あなたは、女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか	72
問8 職場の男性が育児休業を取得するとしたら、あなたはどう思いますか	74
問9 男性が育休を取得する上で、何がハードルになると思いますか	75
問10 あなたの今の職場では、①～⑩について男性・女性どちらの方が優遇されていると思いますか	77
① 賃金	78
② 昇進、昇格、幹部役員への適用	79
③ 採用	80
④ 能力評価	81
⑤ 配属先・転勤	82
⑥ 仕事の内容・職種	83
⑦ 意思決定の場への参画（会議など）	84
⑧ 休暇等の取りやすさ	85
⑨ 時間外労働の負担	86
⑩ 教育・研修	87

問 1 1	あなたは、過去 5 年間の間に、職場においてセクシュアルハラスメントや パワーハラスメント等のハラスメントにあったことがありますか	88
	※「ある」と回答した方のハラスメント	89
問 1 1 - 1	あなたは職場において、ハラスメントにあった際にどこかに相談したり、 被害を訴えたりしましたか。	90
	※「相談した」と回答した方の相談先	91

### 【社会について】

問 1 2	あなたは、自分自身が管理職等への登用や企画・方針決定の場に 参画することを望みますか	92
①	職場の管理職	93
	【自らは望まない、依頼されても断る理由】	94
②	P T A 会長、こども会会長	96
	【自らは望まない、依頼されても断る理由】	97
③	自治会長、町内会長	99
	【自らは望まない、依頼されても断る理由】	100
④	自治体の審議会や委員のメンバー	102
	【自らは望まない、依頼されても断る理由】	103
⑤	国や地方自治体の議員	105
	【自らは望まない、依頼されても断る理由】	106
問 1 3	地域や社会生活で「男女差」を感じたことのある場面は次のうちどれですか	108
問 1 4	あなたは「男性だから、女性だからこうあるべき」という固定的な意識をなくす 必要があると思いますか	110
問 1 5	あなたは、次の①～⑬の役職について、今後女性が増えたほうがいいと思いますか	111
①	閣僚（国務大臣）	113
②	知事や市町長	114
③	国会議員、県・市町の議会議員	115
④	県・市町の審議会や委員会の委員	116
⑤	県・市町など役所の管理職	117
⑥	小・中・高校の校長、副校長、教頭	118
⑦	大学教授・学長	119
⑧	裁判官・検察官・弁護士	120
⑨	医師、歯科医師	121
⑩	農協など団体の役員	122
⑪	会社の管理職	123
⑫	経営者・起業家	124
⑬	自治会長・P T A 会長	125

### 【配偶者からの暴力について】

問 1 6	あなたはこれまでに、配偶者や恋人から、 次の①～⑩のことをされた経験がありますか	126
①	命の危険を感じるぐらいの暴力を受けた	128
②	医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた	129
③	医師の治療は必要ない程度の暴力を受けた	130
④	望まないのに性的な行為を強要された	131
⑤	妊娠を望まないのに、避妊してもらえなかった	132
⑥	何を言っても長期間無視され続けた	133
⑦	交友関係や電話、メール等を細かく監視された	134
⑧	大声でどなられたり、威圧的な物言いをされた	135
⑨	馬鹿にされたり、暴言を吐かれた	136

⑩ 経済的に押さえつけられた（生活費を渡さないなど）	137
問16-1 配偶者からの暴力を経験した際、誰かに相談しましたか。 あてはまるものを選んでください	138
問16-2 相談しなかった理由は何ですか	138
問17 DVや性暴力の悩みを相談できる窓口などであなたが知っているものは何ですか	139
問18 DVや性暴力被害の相談窓口で対応してほしいことは何ですか	141

【男女共同参画社会の実現について】

問19 県では誰もが個性と能力を発揮できる社会の実現に向けて、様々な取組を行っています。あなたが知っているものはどれですか	143
問20 あなたは、県や市町の行政機関は男女共同参画社会づくりのために何をすべきだと思いますか	145

【健康課題について】

問21 家族やパートナー、同僚など周りの女性の生理やPMS、更年期症状による体調や機嫌の変化を感じたことはありますか	147
※「ある」と回答した方がその時感じたこと	148
問22 あなたは、家庭や職場で生理・PMS・更年期の症状などの体調不良を周りに伝えてありますか	150
問22-1 その理由は何ですか	151
問23 男性や女性の特有の健康課題を抱えることで、どのようなことに難しさを感じますか	152
① 責任の重い仕事や役割を担うこと	153
② 管理職となること	154
③ 赴任や留学等のキャリアアップ	155
④ 希望の職業や働き方を続けること	156
⑤ 正社員として働き続けること	157
問24 男性や女性の特有の健康課題を抱えている時でも、普段と変わらない能力で仕事をするために、職場に必要なものは何ですか	158

【意見・要望の自由記述】

意見・要望の項目別件数	160
性別・年齢別の個別回答	161



# 第 1 章 調査概要

# 第1章 調査概要

## 1. 調査目的

本調査は、令和3年度から令和7年度を計画期間とする「佐賀県男女共同参画基本計画（第5次計画）」の次期計画策定に先立ち、県民の男女共同参画に関する意識を把握するとともに、性別及び年代別の課題やニーズを明確化し、今後の男女共同参画社会の実現に向けた施策の立案及び推進に資する基礎資料を収集・分析することを目的とする。

## 2. 調査実施期間

令和7年11月10日（月）から令和7年12月17日（水）まで

## 3. 調査対象

- (1) 業務の対象範囲 佐賀県全域
- (2) 業務の対象者 佐賀県に在住する18歳以上の男女
- (3) サンプル数 4,000人
- (4) サンプルの抽出方法 各市町選挙管理委員会所管の「選挙人名簿」から無作為抽出

## 4. 調査方法

郵送により送付、紙媒体及びWeb回答

## 5. 調査主体

佐賀県 健康福祉部 男女参画・こども局 男女参画・女性の活躍推進課

## 6. 調査結果監修

内田 信子 氏（学校法人旭学園 理事長）  
荒木 薫 氏（佐賀大学ダイバーシティ推進室 室長）

## 7. 調査委託先

一般社団法人 長崎交流センター

## 8. 参考資料

令和2年度 佐賀県「男女共同参画社会づくりのための佐賀県民意識調査報告書」  
令和6年度 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」

## 9. 回収結果

本調査の配布数及び回収結果は下記のとおり。

配布数：4,000件 回答数：1,713件 回答率：42.8%

## 〈参考〉

アンケート票数と誤差との関係は、当然アンケート票数が少ないと誤差は大きく、アンケート票数が多いと誤差は小さくなる。しかし、統計学において、アンケート票数と誤差の関係については、一定の数を超えると、票数を大幅に増やしても誤差はほとんど変わらなくなることが知られている。この「一定の数」は、下記の計算式によって表される。

$$\sigma = k \sqrt{\frac{(M - n)}{(M - 1)} \times \frac{p(1 - p)}{n}}$$

M : 母集団                      n : 有効回答数                      p : 結果の比率  
K : 信頼率による定数        σ : 標本誤差

必要サンプル数を計算すると  $n=383.92$  となる。  
※ $M=647,207$  (令和7年4月1日時点の18歳以上人口)  
※ $p$ については、安全側を取り、比率の標準偏差 $\sqrt{p(1-p)}$ が最大となる0.5を用いる。  
※ $k$ は信頼率を決めると自動的に決まる定数で、信頼率に対応する標準正規分布の%点である。信頼率は、統計的な慣習として95%とすることが多く、信頼率95%ならば $k$ は1.96となる。  
※標本誤差については、統計学的に誤差を3~5%に抑えたいため、今回は5%として0.05を用いる。

今回の調査においては、有効回答数が1,713件であり、対象者の意向の把握として十分信頼性があるといえる。

ただし、付問等により回答数が少なくなった場合は信頼性が担保されない可能性があり、参考程度にとどめておく必要がある。

## 10. 報告書の見方

- (1) 比率は百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分率の計が100%にならない場合がある。
- (2) 基数となる実数は $n$ として掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答を行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (4) 図表中には、回答者数が非常に少ない場合がある。このような場合には、回答比率の数字が動きやすく、厳密な比較をすることが難しいので、回答の傾向をみる程度になる。
- (5) 図表の各項目は表示の関係上省略して表示する場合がある。
- (6) 集計対象数は「N」、単一回答は「SA」、複数回答は「MA」、記述式回答は「FA」で表している。
- (7) 単一回答(SA)に対し複数回答した場合は無効とし集計を行っている。

## 11. 設問項目

設問		選択肢	回答 区分	頁
<input type="checkbox"/> 男女の地位について				
問 1	あなたは、次にあげる①～⑦分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(〇はそれぞれ1つ)	<p>●選択肢</p> <p>女性の方が優遇されている どちらかといえば女性の方が優遇されている 平等 どちらかといえば男性の方が優遇されている 男性の方が優遇されている</p> <p>●項目</p> <p>①家庭生活 ②職場 ③学校教育の場 ④地域活動・社会活動の場 ⑤政治の場 ⑥法律や制度の上 ⑦社会通念・慣習・しきたりなど</p>	SA	17
問 2	あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要だと思うことは何ですか。(〇は1つ)	<p>1. 法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改める</p> <p>2. 性別によるさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める</p> <p>3. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど積極的に能力の向上を図る</p> <p>4. 女性の就業、社会参加を支援する体制・施設やサービスの充実を図る</p> <p>5. 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実する</p> <p>6. 学校教育において、社会や家庭における男女平等と相互理解についての教育を充実する</p> <p>7. その他(具体的にお書きください: )</p>	SA	35
問 3	あなたは、一般的に「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思いますか。(〇は1つ) ※ご自身の希望ではなく、考え方の是非についてお答えください。	<p>1. そう思う</p> <p>2. どちらかといえばそう思う</p> <p>3. どちらかといえばそう思わない</p> <p>4. そう思わない</p>	SA	37
問 3-1	【問3で1または2と答えた方がお答えください。】 そう思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)	<p>1. 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから</p> <p>2. 自分の父親も外で働き、母親は専業主婦だったから</p> <p>3. 男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから</p> <p>4. 女性が家庭を守った方が、子どもの成長に良いと思うから</p> <p>5. 家事・育児と両立しながら女性が働くのは大変だと思うから</p> <p>6. その他(具体的にお書きください: )</p>	MA	39
問 3-2	【問3で3または4と答えた方がお答えください。】 そう思わない理由は何ですか。(〇はいくつでも)	<p>1. 性別による役割分担意識を押し付けるべきではないから</p> <p>2. 自分の両親も外で働いていたから</p> <p>3. 夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから</p> <p>4. 女性も働いて能力を発揮したほうが、社会にとって良いと思うから</p> <p>5. 夫も家事・育児に参画すれば、妻も働くことは可能だと思うから</p> <p>6. その他(具体的にお書きください: )</p>	MA	41



設問		選択肢	回答区分	頁
問 6-1	【問 6 で 2～5 のいずれかを選んだ方がお答えください】 あなたが問 6 で、2～5 のいずれかを選んだ理由は何ですか。(○は 1 つ)	1. 女性は家庭を守るべきだから 2. 仕事と家庭の両立が難しいから 3. 現在の子育て支援制度では不十分だから 4. 母親は子どもと一緒にいるべきだから 5. その他(具体的にお書きください: )	SA	70
問 7	あなたは、女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。(○は 1 つ)	1. 配偶者(パートナー)の理解や家事・育児への協力 2. 配偶者(パートナー)以外の家族の理解や家事・育児への協力 3. 保育施設や学童保育、福祉施設やホームヘルパーの充実 4. 労働時間の短縮、フレックスタイム(自身で出勤時間を選択できる)制度の導入 5. 職場の理解 6. 休暇制度の充実(育児・介護休業など) 7. 職場での男女平等の確保(昇進・昇給など) 8. 仕事のやりがいや充実感 9. その他(具体的にお書きください: )	SA	72
問 8	職場の男性が育児休業を取得するとしたら、あなたはどう思いますか。(○は 1 つ)	1. 男性も取得すべき 2. 男性が取得することには違和感がある 3. 2、3日ならいいが、長期取得はすべきではない 4. 業務への影響などを考えると、取得すべきではない 5. その他(具体的にお書きください: )	SA	74
問 9	男性が育休を取得する上で、何がハードルになると思いますか。(○はいくつでも)	1. 会社での育児休業制度の未整備 2. 会社や上司、職場の理解がない 3. 収入減 4. 仕事の忙しさ 5. 今後のキャリア形成への悪影響(昇進・解雇など) 6. 配偶者や家族、周りからの反対 7. ハードルはない 8. その他(具体的にお書きください: )	MA	75
問 10	【現在働いている方がお答えください】 あなたの今の職場では、①～⑩について男性・女性どちらの方が優遇されていると思いますか。(○はそれぞれ 1 つ)	●選択肢 男性が優遇されている 女性が優遇されている 差はない  ●項目 ① 賃金 ② 昇進、昇格、幹部役員への適用 ③ 採用 ④ 能力評価 ⑤ 配属先・転勤 ⑥ 仕事の内容・職種 ⑦ 意思決定の場への参画(会議など) ⑧ 休暇等の取りやすさ ⑨ 時間外労働の負担 ⑩ 教育・研修	SA	77

設問		選択肢	回答区分	頁
問 11	あなたは、過去5年間の間に、職場においてセクシュアルハラスメントやパワーハラメント等のハラスメントにあつたことがありますか。	1. ある ※「ある」と回答した方は、①～④からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。 ①セクハラにあつたことがある ②パワハラにあつたことがある ③出産や育児に関するハラスメントにあつたことがある ④その他ハラスメントにあつたことがある 2. ない	SA ・ MA	80
問 11-1	【ハラスメントにあつたことがある方（問 11 で①～④を選んだ方）がお答えください】 あなたは職場において、ハラスメントにあつた際にどこかに相談したり、被害を訴えたりしましたか。	1. 相談した ※「相談した」と回答した方は、①～⑥から相談先をすべて選んで○をつけてください。 ①職場の窓口 ②公的な窓口 ③同僚や上司 ④家族や社外の友人 ⑤専門の相談員（弁護士など） ⑥その他（具体的にお書きください： ） 2. 相談していない	SA ・ MA	90
<b>□社会について</b>				
問 12	あなたは、自分自身が管理職等への登用や企画・方針決定の場に参画することを望みますか。（○は1～4の中からそれぞれ1つ） ※自分がその環境にいると想定してお答えください。	●選択肢 自ら望む 依頼されたら就く 自らは望まない 依頼されても断る ●項目 ①職場の管理職 ②PTA会長、子ども会会長 ③自治会長、町内会長 ④自治体の審議会や委員のメンバー ⑤国や地方自治体の議員 ●「自らは望まない」「依頼されても断る」を選んだ理由 知識や能力の面で不安があるから 責任が重く、自信がないから 興味がないから 時間的・経済的に余裕がないから 家族や周りの理解や協力が得られないから 両立できる環境が整備されていないから その他（具体的にお書きください： ）	SA	92
問 13	地域や社会生活で「男女差」を感じたことのある場面は次のうちどれですか。（○はいくつでも）	1. 親戚の集まりでの役割が男女で決まっている（法事や習い事など） 2. 地域での役割が男女で決まっている（会合などの意思決定に参加するのは男性が中心、清掃活動や福祉活動は女性が中心など） 3. 男性が「地域活動」を担っている 4. 女性が「地域活動」を担っている 5. 男性ならではの生きづらさがある（男性だからあきらめたことがある） 6. 女性ならではの生きづらさがある（女性だからあきらめたことがある） 7. あてはまる選択肢はない 8. その他（具体的にお書きください： ）	MA	108

設問		選択肢	回答 区分	頁
問 14	あなたは「男性だから、女性だからこうあるべき」という固定的な意識をなくす必要があると思いますか。(○は1つ)	1. そう思う(差を感じる) 2. ややそう思う(やや差を感じる) 3. ややそう思わない(やや差を感じない) 4. そう思わない(差を感じない) 5. わからない・考えたことがない	SA	110
問 15	あなたは、次の①～⑬の役職について、今後女性が増えたほうが良いと思いますか。(○はそれぞれ1つ)	●選択肢 そう思う どちらかといえばそう思う どちらかといえばそう思わない そう思わない  ●項目 ①閣僚(国務大臣) ②知事や市町長 ③国会議員、県・市町の議会議員 ④県・市町の審議会や委員会の委員 ⑤県・市町など役所の管理職 ⑥小・中・高校の校長、副校長、教頭 ⑦大学教授・学長 ⑧裁判官・検察官・弁護士 ⑨医師、歯科医師 ⑩農協など団体の役員 ⑪会社の管理職 ⑫経営者・起業家 ⑬ 自治会長・PTA会長	SA	111
<b>□配偶者からの暴力について</b>				
問 16	【配偶者・恋人・パートナーがいる人がお答えください】 あなたはこれまでに、配偶者や恋人から、次の①～⑩のことをされた経験がありますか。「ある」もしくは「ない」どちらか1つに○をつけてください。	●選択肢 ある ない  ●項目 ①命の危険を感じるぐらいの暴力を受けた ②医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた ③医師の治療は必要ない程度の暴力を受けた ④望まないのに性的な行為を強要された ⑤妊娠を望まないのに、避妊してもらえなかった ⑥何を言っても長期間無視され続けた ⑦交友関係や電話、メール等を細かく監視された ⑧大声でどなられたり、威圧的な物言いをされた ⑨馬鹿にされたり、暴言を吐かれた ⑩経済的に押さえつけられた(生活費を渡さないなど)	SA	126
問 16-1	【問 16 の①～⑩でひとつでも「ある」を選んだ方がお答えください】 経験した際、誰かに相談しましたか。あてはまるものに○をつけてください。	1. 相談した 2. 相談しなかった	SA	138
問 16-2	【問 16-1 で「2. 相談しなかった」と答えた方がお答えください】 相談しなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)	1. 相談するほどのことではないから 2. 自分に原因(悪いところ)があるから 3. 自分が我慢すれば、何とかやっていけるから 4. 相談しても無駄だから 5. 世間体が悪い、恥ずかしいから 6. 相手の行為が愛情表現だと思ったから 7. どこに(誰に)相談してよいか分からないから	MA	138

設問		選択肢	回答 区分	頁
		8. 相手の仕返ししが怖いから 9. 相手愛しており、別れたくないから 10. 別れた後、自分だけでは生活できないから 11. その他（具体的にお書きください： ）		
問 17	DVや性暴力の悩みを相談できる窓口などであなたが知っているものは何ですか。（〇はいくつでも）	1. DV 専用相談窓口（アバンセ） 2. 佐賀県女性相談支援センター 3. さが mirai（性暴力救援センター・さが） 4. 警察相談専用電話 #9110 5. 女性の人権ホットライン 6. 性暴力相談に関する SNS 相談（CureTime） 7. その他（具体的にお書きください： ） 8. すべて知らない	MA	139
問 18	DVや性暴力被害の相談窓口で対応してほしいことは何ですか。（〇はいくつでも）	1. 対面での相談 2. 電話での相談 3. メールでの相談 4. SNS、チャットなどでの相談 5. 匿名での相談 6. 24 時間体制の相談 7. 通話料無料の相談 8. 同性の相談員への相談 9. 心理専門職による相談 （臨床心理士、公認心理師など） 10. 専門家への相談（弁護士など） 11. その他（具体的にお書きください： ）	MA	141
<b>□男女共同参画社会の実現について</b>				
問 19	県では誰もが個性と能力を發揮できる社会の実現に向けて、様々な取組を行っています。あなたが知っているものはどれですか。（〇はいくつでも）	1. 女性の活躍推進佐賀県会議 （SAGA WOMEN'S ACTION） 2. マイナス1 歳からのイクカジ 3. SAGA PAPA POCKET BOOK （佐賀県版父子手帳） 4. SAGA PAPA 育休アシスト奨励金 （男性の育休取得促進） 5. フェムケア、フェムテック 6. プレコンセプションケア 7. すべて知らない	MA	143
問 20	あなたは、県や市町の行政機関は男女共同参画社会づくりのために何をすべきだと思いますか。（〇はいくつでも）	1. 地域に応じた政策や計画の策定 2. 女性の就業支援とキャリアアップの支援 3. 子育て支援の充実 4. 男性の家事・育児への参加促進 5. DV・性暴力被害者支援の充実 6. 地域での啓発活動 7. 実態の調査と分析 8. 県と市町とのネットワークづくり 9. 民間企業や地域団体との連携 10. その他（具体的にお書きください： ）	MA	145
<b>□健康課題について</b>				
問 21	家族やパートナー、同僚など周りの女性の生理やPMS、更年期症状による体調や機嫌の変化を感じたことはありますか。	1. ある ※「ある」と回答した方は、その時感じたことをすべて選んで〇を付けてください。 ①心配になった ②どのように対応すればよいのかわからなかった ③体調などの変化を理解したいと思った ④サポートをしたいと思った ⑤仕事等のパフォーマンスが低下していると感じた	SA ・ MA	147

設問		選択肢	回答 区分	頁
		⑥重要なことは任せられないと思った ⑦生理の症状は我慢すべきと思った ⑧自然なことで仕方のないことだと思った ⑨特に感じたことはない ⑩その他（具体的にお書きください： ）  2. ない		
問 22	【女性がお答えください】 あなたは、家庭や職場で生理・PMS・更年期の症状などの体調不良を周りに伝えて いますか。（〇はそれぞれ1つ）	●選択肢 伝えている たまに伝えている ほとんど伝えない 伝えない  ●項目 ①家庭 ②職場	SA	150
問 22-1	【問 22 で 3 または 4 を選んだ方がお 答えください】 その理由は何ですか。（〇はいくつでも）	1. 恥ずかしいから 2. 理解してもらえないと思うから 3. 迷惑をかけたくないから 4. 自分の問題だと思っているから 5. 男性にはわかりづらいと思うから 6. 以前、伝えた際に反応が悪かったから 7. 言っても何も変わらないと思うから 8. 伝えるタイミングがわからないから 9. その他（具体的にお書きください： ）	MA	151
問 23	男性や女性の特有の健康課題を抱えるこ とで、どのようなことに難しさを感じま すか。（〇はそれぞれ1つ）	●選択肢 難しいと感じる やや難しいと感じる さほど難しいとは感じない 難しいとは感じない そういう経験はない わからない  ●項目 ①責任の重い仕事や役割を担うこと ②管理職となること ③赴任や留学等のキャリアアップ ④希望の職業や働き方を続けること ⑤正社員として働き続けること	SA	152
問 24	男性や女性の特有の健康課題を抱えてい る時でも、普段と変わらない能力で仕事 をするために、職場に必要なものは何で ですか。（〇はいくつでも）	1. 柔軟な勤務制度 2. 休暇を取りやすい環境づくり 3. 社員の理解を深めるための啓発や研修 4. 通院費・治療費の助成 5. 長時間労働の削減 6. 相談しやすい仕組み （面談実施、窓口設置など） 7. その他（具体的にお書きください： ） 8. 特にない	MA	158
<b>□あなたご自身のことについて</b>				
F-1	あなたの性別は（〇は1つ）	1. 女性 2. 男性 3. 回答しない	SA	14
F-2	あなたの年齢は（〇は1つ）	1. 10歳代 4. 40歳代 7. 70歳代 2. 20歳代 5. 50歳代 8. 80歳以上 3. 30歳代 6. 60歳代	SA	14

設問		選択肢	回答 区分	頁
F-3	あなたの現在のお仕事は（○は1つ） （出産休暇や育児休業中の方も働いているものとみなします。）	1. 正規の職員・従業員（役員を含む） 2. 非正規の職員・従業員（期間従業員、契約社員、派遣社員を含む） 3. 自営業主・自由業 4. 家族従業者（家業を手伝っている者） 5. 主婦・主夫 6. 学生 7. 無職（主婦・主夫、学生を除く） 8. その他（具体的にお書きください： ）	SA	14
F-4	配偶者（パートナー）はいますか（○は1つ）※事実婚を含む	1. 配偶者（パートナー）あり 2. 配偶者（パートナー）と離別 3. 配偶者（パートナー）と死別 4. 未婚	SA	15
F-5	配偶者（パートナー）のお仕事は （出産休暇や育児休業中の方も働いているものとみなします。）	1. 正規の職員・従業員（役員を含む） 2. 非正規の職員・従業員（期間従業員、契約社員、派遣社員を含む） 3. 自営業主・自由業 4. 家族従業者（家業を手伝っている者） 5. 主婦・主夫 6. 学生 7. 無職（主婦・主夫、学生を除く） 8. その他（具体的にお書きください： ）	SA	15
F-6	18歳未満の子どもはいますか（○は1つ）	1. いる                      2. いない	SA	15
F-7	配偶者（パートナー）以外の同居家族はいますか（○はいくつでも）	1. 18歳未満の子ども 2. 18歳以上の子ども 3. 自分または配偶者（パートナー）の両親 4. 自分または配偶者（パートナー）の祖父母 5. 自分または配偶者（パートナー）の兄弟 6. 孫 7. 誰もいない（配偶者のみまたは単身） 8. その他（具体的にお書きください： ）	MA	16
F-8	県で進めている「性別にかかわらず、互いを尊重し、誰もが個性と能力を發揮できる佐賀県づくり」の実現のために、ご意見やご要望がありましたら自由にお書きください。		FA	160



## 第2章 調査結果総括

## 第2章 調査結果総括

### 【男女の地位について】

「平等」の回答が最も高くなっている項目は、「③学校教育の場」の71.1%のみとなっており、他項目はすべて「男性優遇（「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている）」となっている。

「男性優遇」が最も高いのは「⑤政治の場」が72.6%、次いで「⑦社会通念・慣習・しきたりなど」が70.6%、「①家庭生活」が40.1%と続いている。また、男女間の認識の乖離が最も大きいのは「⑥法律や制度の上」で27.1ポイント、次いで「①家庭生活」で25.1ポイント、「⑦社会通念・慣習・しきたりなど」で14.1ポイント、いずれの項目も女性の「男性優遇」との認識が男性の「男性優遇」との認識より高くなっている。

男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要だと思うことは「性別によるさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」が36.8%で最も高い。

### 【家庭・子育てについて】

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思いますかについて、「思わない（「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない）」が72.9%、「思う（「どちらかといえばそう思う」+「そう思う）」が25.5%となっている。

「思う」理由は「家事・育児と両立しながら女性が働くのは大変だと思うから」が51.7%、「女性が家庭を守った方が、子どもの成長に良いと思うから」が43.7%、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が30.0%と続いております、「思わない」理由は「性別による役割分担意識を押し付けるべきではないから」が47.5%で、「夫も家事・育児に参画すれば、妻も働くことは可能だと思うから」が45.4%、「女性も働いて能力を発揮したほうが、社会にとって良いと思うから」が36.2%と続いている。

日常の家事について理想と考える仕事の分担は「夫婦とも同じくらい」が過半数を超えているものの、現在の仕事の分担で食事や掃除等の日常の家事は6割以上、子育てに関する項目は3割以上を「主に妻」が担っており、「夫婦とも同じくらい」とする理想の仕事の役割分担と現実の仕事の役割分担との乖離は2倍以上となっている。

考え方として肯定できるのは「⑦男性も女性も炊事・掃除・洗濯は同等のレベルでできた方がいい」が83.8%、「④男性は仕事をして家計を支えるべきだ」が63.3%、「⑥男性は社会の第一線で活躍するべきだ」が47.9%と続いている。

一方、肯定できないのは「③女性に高い学歴は必要ない」が87.2%、「①女性は理系に向いていない」が76.9%、「② 男性はいい大学を出て出世を目指すべきだ」が73.4%、「⑤女性は結婚によって、経済的に安定を得る方がいい」が56.9%と過半数以上を占め続いている。

### 【職業について】

女性が働くことについては、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が50.8%で、「出産・子育てを機に仕事を中断し、子どもの成長後再び働く方がよい」が37.8%、「出産・子育てを機に仕事をやめる方がよい」が1.7%続いております、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」としない理由は、「仕事と家庭の両立が難しいから」が43.1%、「母親は子どもと一緒にいるべきだから」が22.5%、「現在の子育て支援制度では不十分だから」が21.8%となっている。

また、女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためには「配偶者（パートナー）の理解や家事・育児への協力」が34.5%、「職場の理解」が16.9%、「労働時間の短縮、フレックスタイム（自身で出勤時間を選択できる）制度の導入」が12.5%となっている。

男性の育児休業の取得に関しては、「男性も取得すべき」が69.9%、「男性が取得することには違和感がある」が16.6%、「2、3日ならいいが、長期取得はすべきではない」が14.3%と続いております、男性が育児休業を取得する上でのハードルは「会社や上司、職場の理解がない」が49.3%、「収入減」が46.0%、「会社での育児休業制度の未整備」が44.2%となっている。

現在の職場での男女の待遇の全ての項目で「差はない」が最も高く、「差はない」は「⑩教育・

研修」の78.8%、「⑧休暇等の取りやすさ」が68.8%、「③採用」が66.5%と続いており、「男性が優遇されている」が最も高いのは、「②昇進、昇格、幹部役員への適用」の43.2%、「①賃金」が32.4%、「⑦意思決定の場への参画（会議など）」が27.2%と続いている。また、「女性が優遇されている」が最も高いのは、「⑨時間外労働の負担」の20.5%、「⑧ 休暇等の取りやすさ」が19.0%、「⑤ 配属先・転勤」が13.4%と続いている。

職場でのセクシュアルハラスメントやパワーハラスメント等のハラスメント経験は「ある」が19.8%、「ない」が71.8%となっており、性別での傾向の相違はみられない。ハラスメントの内容は「パワハラにあったことがある」が75.8%、「セクハラにあったことがある」が20.1%、「その他ハラスメントにあったことがある」が14.5%、「出産や育児に関するハラスメントにあったことがある」が7.1%の順となっている。ハラスメントにあった際の相談や訴えの有無では「相談した」が46.3%、「相談していない」が53.4%となっており、相談先は「同僚や上司」が68.8%でトップであった。

## 【社会について】

自分自身が管理職等への登用や企画・方針決定の場に参画すること「望む（「自ら望む」＋「依頼されたら就く）」と「望まない（「自らは望まない」＋「依頼されても断る）」を見ると、「①職場の管理職」は「望む」が38.8%、「望まない」が55.5%、「②PTA会長、こども会会長」は「望む」が17.8%、「望まない」が75.3%、「③自治会長、町内会長」は「望む」が16.3%、「望まない」が78.0%、「④自治体の審議会や委員のメンバー」は「望む」が20.8%、「望まない」が73.3%、「⑤国や地方自治体の議員」は「望む」が10.0%、「望まない」が83.1%となっている。

地域や社会生活で「男女差」を感じたことのある場面は「親戚の集まりでの役割が男女で決まっている」が43.3%、「地域での役割が男女で決まっている」が37.7%、「男性が「地域活動」を担っている」が18.6%続いている。

「男性だから、女性だからこうあるべき」という固定的な意識をなくす必要の有無は、「あると思う（「そう思う」＋「ややそう思う）」が72.2%、「あると思わない（「そう思わない」＋「ややそう思わない）」が18.2%となっている。

今後女性の役職が増えたほうがいいと思いますかという問いに対し、質問の全13項目で「思う（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う）」が「思わない（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない）」を大きく上回っている。

## 【配偶者からの暴力について】

配偶者からの暴力は全ての項目で「ない」が67.3%以上で高くなっており、「ある」が14.0%以下となっている。

「ある」が最も高かったのは「⑧大声でどなられたり、威圧的な物言いをされた」の14.0%、次いで「⑨馬鹿にされたり、暴言を吐かれた」が12.7%、「④望まないのに性的な行為を強要された」が4.5%と続いており、性別では全ての項目で「ある」は女性が男性を上回っている。

経年比較で「ある」は全ての項目で令和1年調査より減少しており、「⑧大声でどなられたり、威圧的な物言いをされた」の▲8.5ポイントが最も大きく、次いで「⑨馬鹿にされたり、暴言を吐かれた」が▲7.9ポイント、「⑥何を言っても長期間無視され続けた」が▲6.8ポイントと続いている。

DVを経験した際、相談した」は21.4%、「相談しなかった」は71.7%となっており、性別での傾向の相違はないが「相談した」は女性の方が10.1ポイント高くなっている。

経年比較で「相談した」は令和1年調査と比べ1.5ポイント減少しており、平成26年調査と同数に戻っている。

「相談しなかった」理由は「相談するほどのことではないから」が55.2%で最も高く、次いで「自分が我慢すれば、何とかやっつけていけるから」が39.0%、「相談しても無駄だから」が31.1%と続いており、性別での相違はみられない。

経年比較で増加したのは「相談するほどのことではないから」が11.1ポイント、「自分に原因（悪いところ）があるから」が9.6ポイント、「相手の仕返しが怖いから」が1.7ポイントとなっている。

---

DVや性暴力の悩みを相談できる窓口などで知っているものは、「DV専用相談窓口(アバンセ)」が26.2%で最も高く、次いで「佐賀県女性相談支援センター」が24.2%、「警察相談専用電話#9110」が22.4%と続いており、「すべて知らない」は43.0%となっており、相談窓口の認知度は低い。

相談窓口で対応してほしいことは「匿名での相談」が49.2%で最も高く、次いで「24時間体制の相談」が46.6%、「電話での相談」・「通話料無料の相談」が38.8%と続いている。

### 【男女共同参画社会の実現について】

県の取組の認知度は「女性の活躍推進佐賀県会議(SAGA WOMEN'S ACTION)」が9.1%で最も高くなっており、次いで「SAGA PAPA 育休アシスト奨励金(男性の育休取得促進)」6.0%、「SAGA PAPA POCKET BOOK(佐賀県版父子手帳)」が4.3%と続いており、「すべて知らない」が80.4%となっており、県の取組への認知度は低い。

県や市町の行政機関は男女共同参画社会づくりのために行うべきことは、「子育て支援の充実」が55.2%で最も高く、次いで「地域に応じた政策や計画の策定」が43.7%、「男性の家事・育児への参加促進」が36.1%と続いている。

### 【健康課題について】

家族やパートナー、同僚など周りの女性の生理やPMS、更年期症状による体調や機嫌の変化を感じたことが、「ある」が60.2%で、「ない」が35.7%、「ある」と感じた時に、感じたことは「心配になった」が48.7%で最も高く、次いで「体調などの変化を理解したいと思った」が40.1%、「サポートをしたいと思った」が38.2%と続いている。

女性が生理・PMS・更年期の症状などの体調不良を「家庭」では「伝えている」が33.2%、次いで「たまに伝えている」が31.0%、「伝えない」が16.7%、「ほとんど伝えない」が13.9%の順となり、「伝える(「伝えている」+「たまに伝えている」)」は64.2%、「伝えていない(「伝えない」+「ほとんど伝えない」)」は30.6%となっている。また、「職場」では「伝えない」が28.7%で最も高く、次いで「たまに伝えている」が22.1%、「ほとんど伝えない」が21.3%、「伝えている」が13.4%の順となり、「伝える」は35.5%、「伝えていない」は50.0%となっている。

一方、「伝えない」理由は「自分の問題だと思っているから」が45.4%で最も高く、次いで「言っても何も変わらないと思うから」が36.5%、「迷惑をかけたくないから」が32.2%と続いている。

男性や女性の特有の健康課題を抱えることで、「難しい(「難しいと感じる」+「やや難しいと感じる」)」と「難しくない(「難しいとは感じない」+「さほど難しいとは感じない」)」で見ると、「①責任の重い仕事や役割を担うこと」は「難しい」が45.8%、「難しくない」が24.8%、「②管理職となること」は「難しい」が41.8%、「難しくない」が27.3%、「③赴任や留学等のキャリアアップ」は「難しい」が37.6%、「難しくない」が24.6%、「④希望の職業や働き方を続けること」は「難しい」が34.7%、「難しくない」が38.8%、「⑤正社員として働き続けること」は「難しい」が27.3%、「難しくない」が45.7%となっており、「難しくない」が「難しい」を上回ったのは「④希望の職業や働き方を続けること」と「⑤正社員として働き続けること」となっている。

男性や女性の特有の健康課題を抱えている時でも、普段と変わらない能力で仕事をするために、職場に必要なものは「休暇を取りやすい環境づくり」が69.8%で最も高く、次いで「柔軟な勤務制度」が62.9%、「相談しやすい仕組み(面談実施、窓口設置など)」が48.4%と続いている。

## 第3章 調査結果

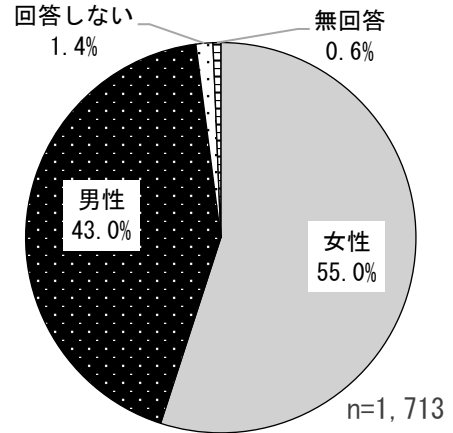
### 第3章 調査結果

#### 1. 回答者属性

##### F-1 あなたの性別は（〇は1つ）

「女性」が55.0%、「男性」が43.0%、「回答しない」が1.4%となっている。

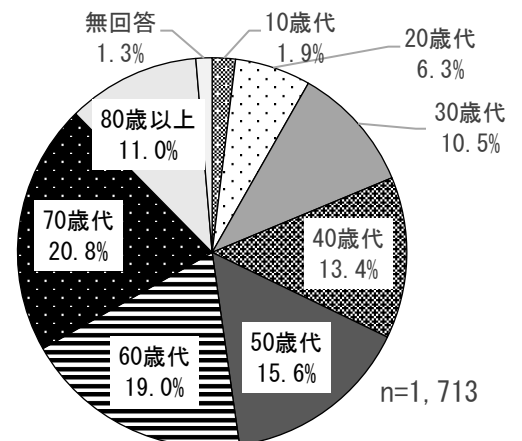
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	女性	942	55.0
2	男性	736	43.0
3	回答しない	24	1.4
4	無回答	11	0.6
	N (% <sup>^</sup> -)	1,713	100



##### F-2 あなたの年齢は（〇は1つ）

[70歳代]が20.8%で最も多く、次いで「60歳代」が19.0%、「50歳代」が15.6%と続いており、佐賀県の年齢人口比率に近い回答状況となっている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	10歳代	33	1.9
2	20歳代	108	6.3
3	30歳代	180	10.5
4	40歳代	230	13.4
5	50歳代	267	15.6
6	60歳代	326	19.0
7	70歳代	357	20.8
8	80歳以上	189	11.0
9	無回答	23	1.3
	N (% <sup>^</sup> -)	1,713	100

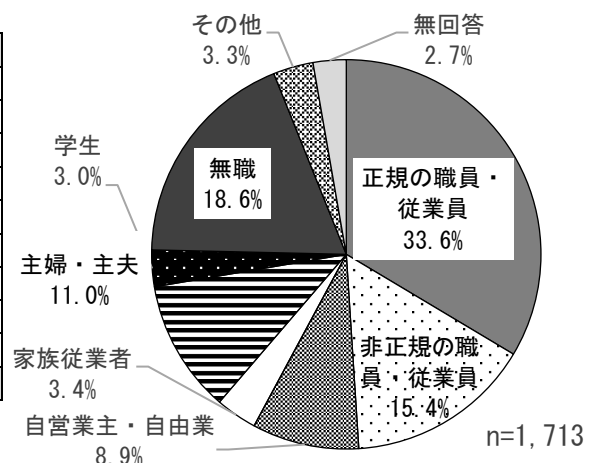


##### F-3 あなたの現在のお仕事は（〇は1つ）

（出産休暇や育児休業中の方も働いているものとみなします。）

「正規の職員・従業員」が33.6%で最も多く、次いで「無職」が18.6%、「非正規の職員・従業員」が15.4%と続いている。

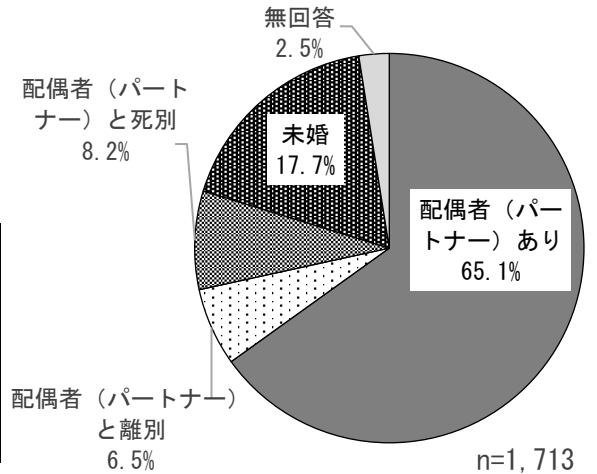
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	正規の職員・従業員	575	33.6
2	非正規の職員・従業員	264	15.4
3	自営業主・自由業	152	8.9
4	家族従業者	59	3.4
5	主婦・主夫	189	11.0
6	学生	52	3.0
7	無職	318	18.6
8	その他	57	3.3
9	無回答	47	2.7
	N (% <sup>^</sup> -)	1,713	100



F-4 配偶者（パートナー）はいますか（〇は1つ）※事実婚を含む

「配偶者（パートナー）あり」が65.1%で最も多く、次いで「未婚」が17.7%、「配偶者（パートナー）と死別」が8.2%、「配偶者（パートナー）と離別」が6.5%となっている。

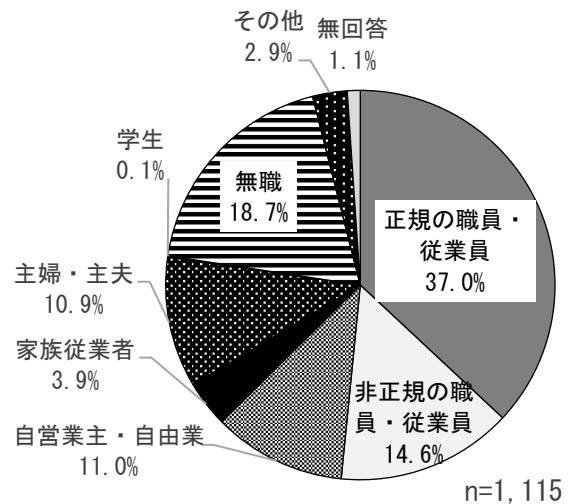
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	配偶者（パートナー）あり	1,115	65.1
2	配偶者（パートナー）と離別	111	6.5
3	配偶者（パートナー）と死別	140	8.2
4	未婚	304	17.7
5	無回答	43	2.5
	N (%ベース)	1,713	100



F-5 配偶者（パートナー）のお仕事は（出産休暇や育児休業中の方も働いているものとみなします。）

「正規の職員・従業員」が37.0%で最も多く、次いで「無職」が18.7%、「非正規の職員・従業員」が14.6%と続いている。

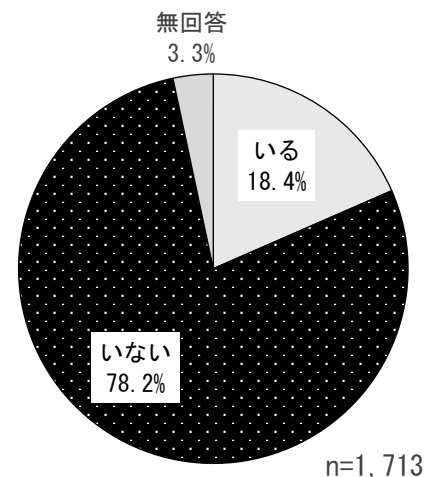
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	正規の職員・従業員	412	37.0
2	非正規の職員・従業員	163	14.6
3	自営業主・自由業	123	11.0
4	家族従業者	43	3.9
5	主婦・主夫	121	10.9
6	学生	1	0.1
7	無職	208	18.7
8	その他	32	2.9
9	無回答	12	1.1
	N (%ベース)	1,115	100



F-6 18歳未満の子どもはいますか（〇は1つ）

「いる」が18.4%、「いない」が78.2%となっている。

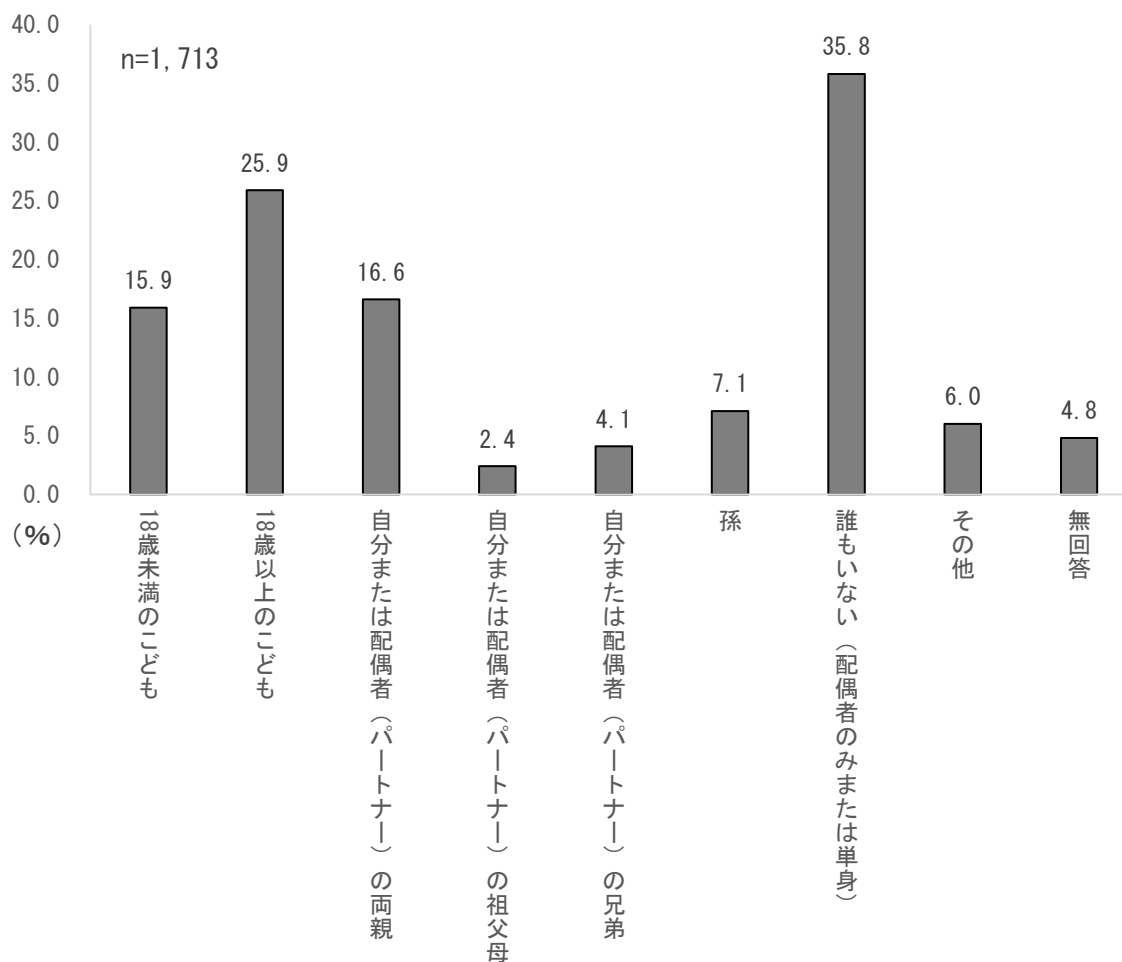
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	いる	316	18.4
2	いない	1340	78.2
3	無回答	57	3.3
	N (%ベース)	1,713	100



F-7 配偶者（パートナー）以外の同居家族はいますか（〇はいくつでも）

「誰もいない（配偶者のみまたは単身）」が 35.8%で最も多く、次いで「18歳以上の子ども」が 25.9%、「自分または配偶者（パートナー）の両親」が 16.6%、「18歳未満の子ども」が 15.9%と続いている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	18歳未満の子ども	272	15.9
2	18歳以上の子ども	444	25.9
3	自分または配偶者（パートナー）の両親	284	16.6
4	自分または配偶者（パートナー）の祖父母	41	2.4
5	自分または配偶者（パートナー）の兄弟	71	4.1
6	孫	122	7.1
7	誰もいない（配偶者のみまたは単身）	614	35.8
8	その他	103	6.0
9	無回答	83	4.8
	N (%ベース)	1,713	100



## 2. 設問回答

### 【男女の地位について】

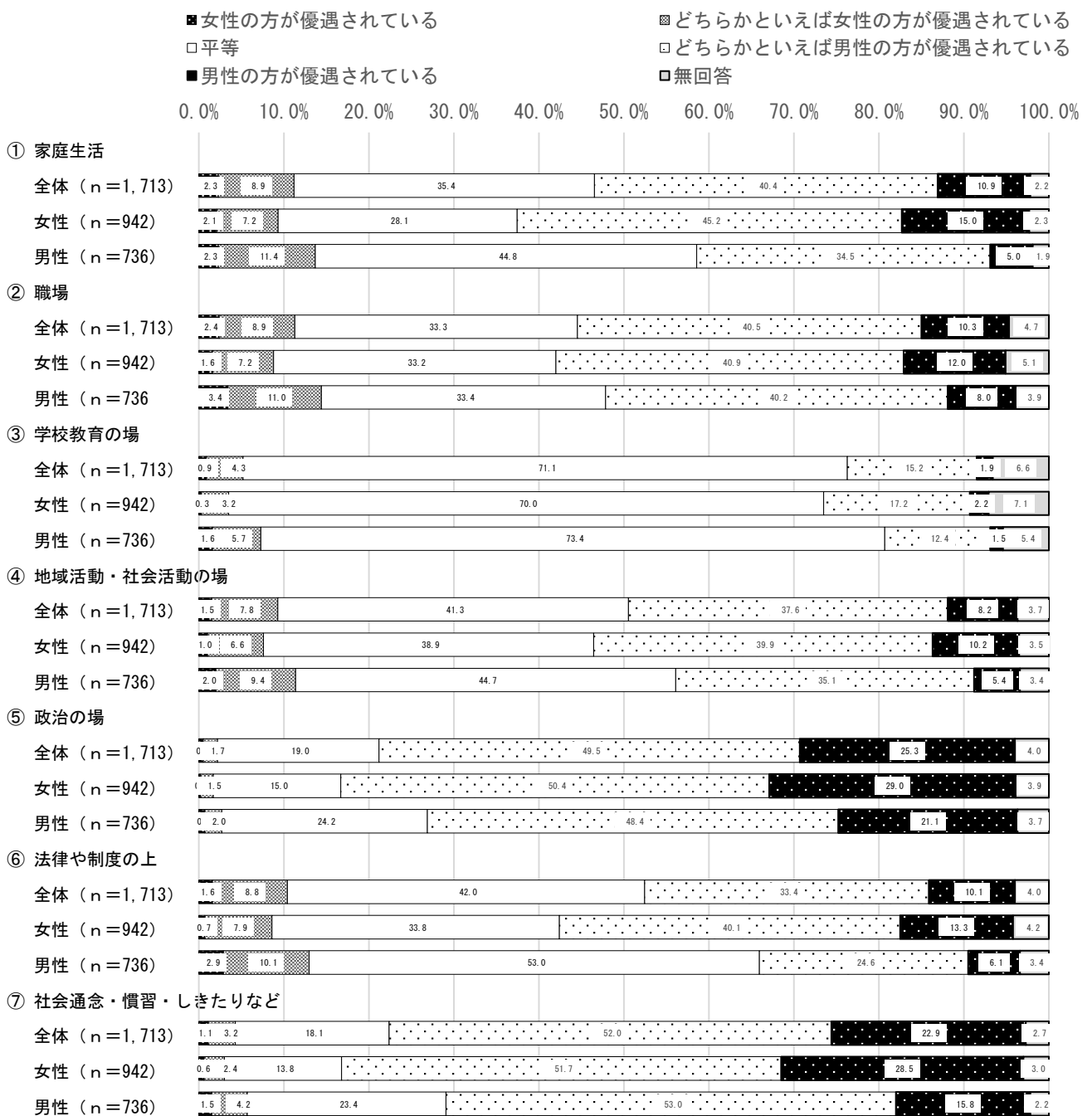
【全員がお答えください】

問1 あなたは、次にあげる①～⑦分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。  
(〇はそれぞれ1つ)

「平等」の回答が最も高くなっている項目は、「③学校教育の場」の71.1%。  
調査した6項目のうち5項目において、5割以上が「男性優遇」と回答。

「平等」の回答が最も高くなっている項目は、「③学校教育の場」の71.1%のみとなっており、他項目はすべて「男性優遇（「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている）」となっている。

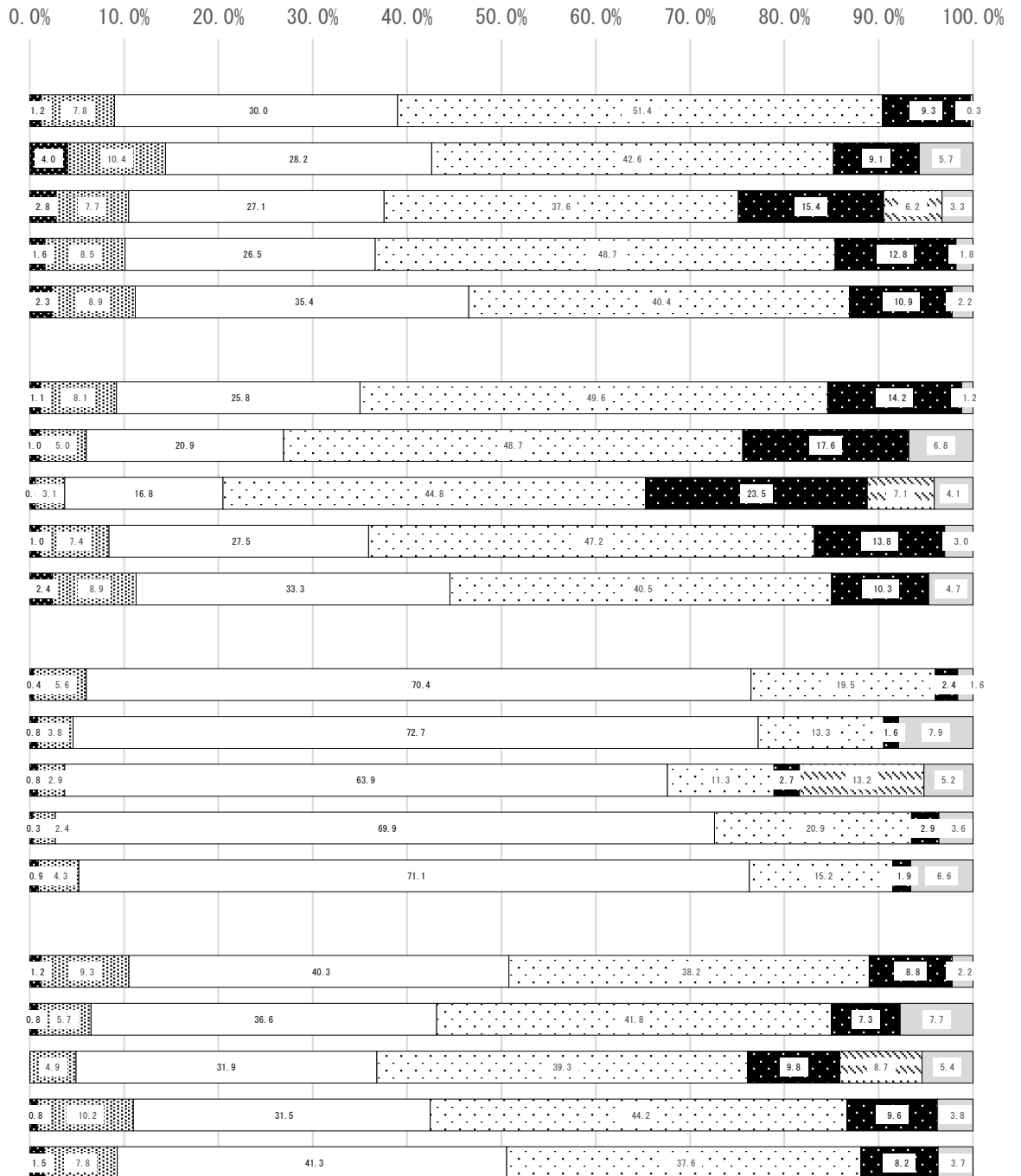
「男性優遇」が最も高いのは「⑦社会通念・慣習・しきたりなど」が74.9%、次いで「⑤政治の場」が74.8%、「①家庭生活」が51.3%と続いている。



【他調査、経年比較】

令和1年佐賀県調査との比較では、全項目で「平等」と回答した割合が増加しており、また全項目で「男性優遇」と回答した割合が低下している。令和6年内閣府調査との比較でも同様の結果となった。

- 女性の方が優遇されている
- 平等
- 男性の方が優遇されている
- 無回答
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ わからない

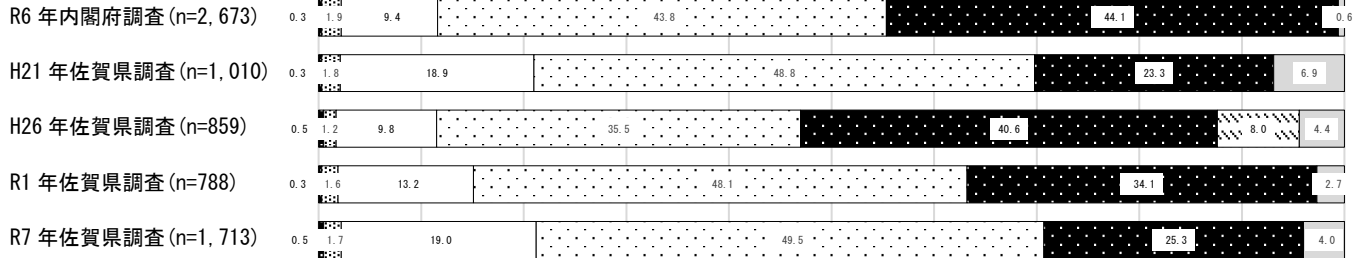


※H26年の調査では選択項目「わからない」があったため、他年度調査と単純比較できないことに留意する必要がある。

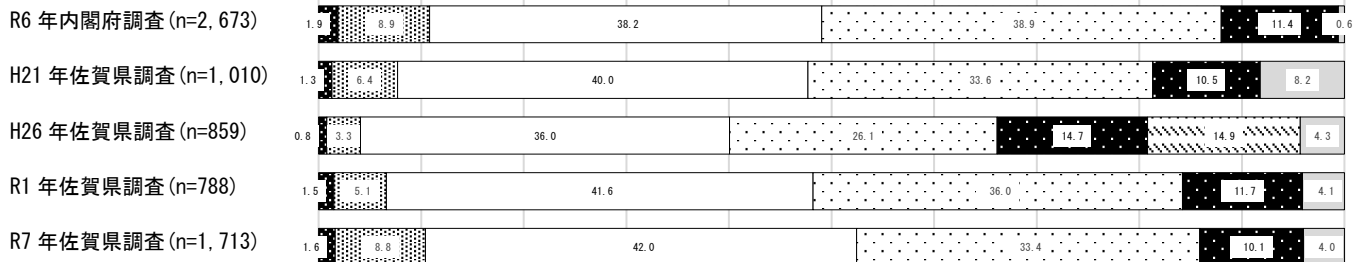
- 女性の方が優遇されている
- 平等
- 男性の方が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- わからない

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%

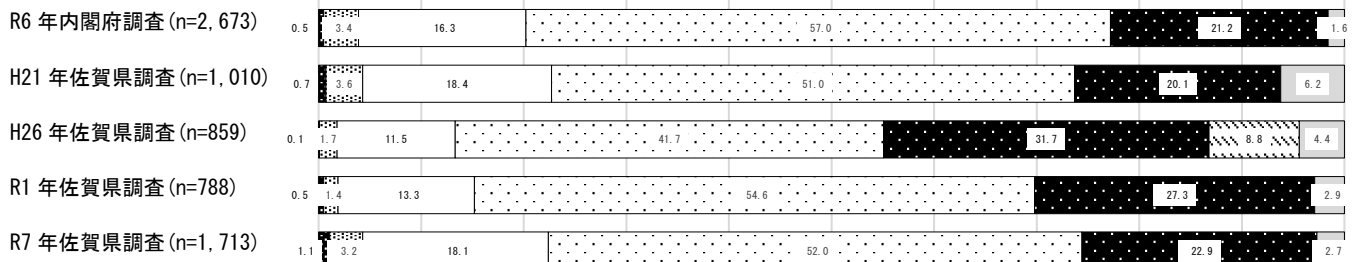
⑤ 政治の場



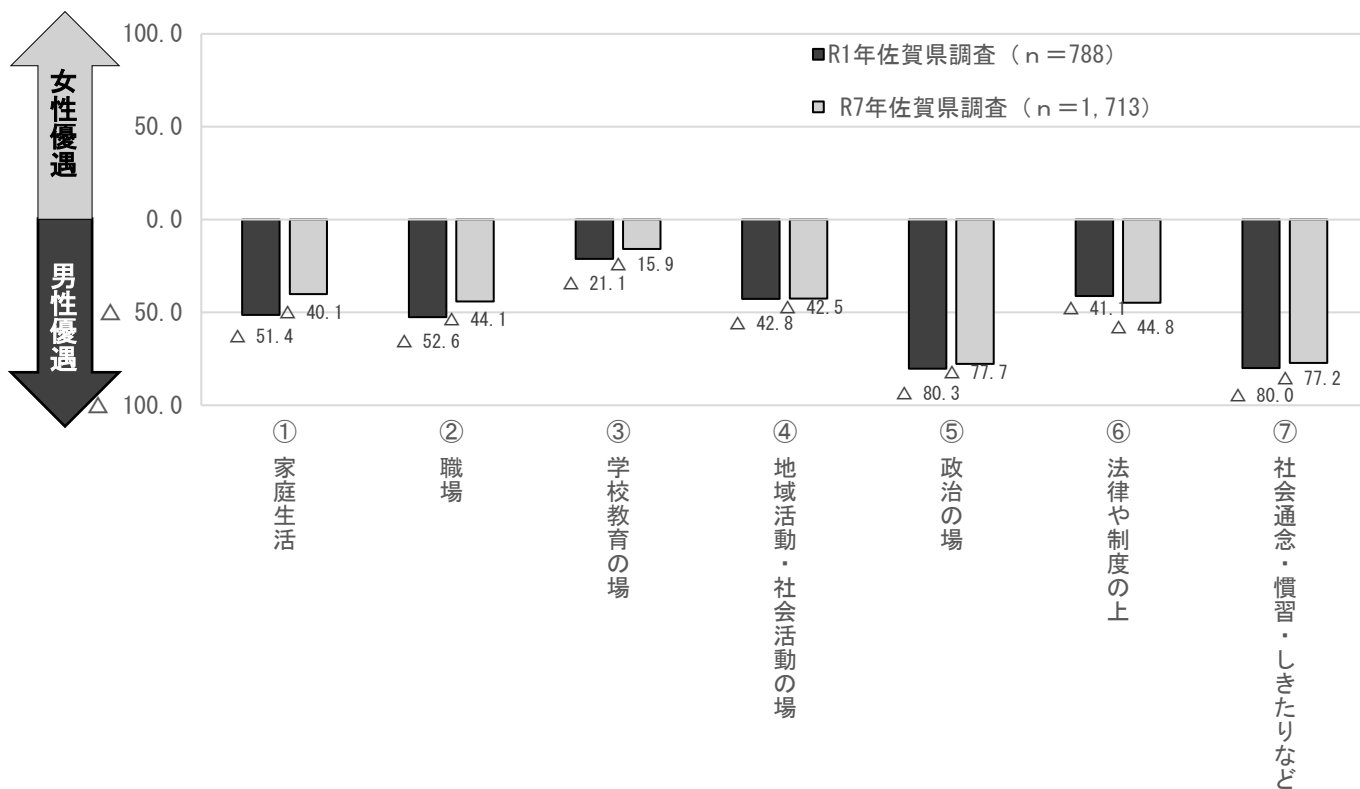
⑥ 法律や制度の上



⑦ 社会通念・慣習・しきたりなど



「男性優遇」と「女性優遇」を比較してみるとすべての項目で「男性優遇」の認識が上回っている。経年比較では「①家庭生活」、「②職場」、「③学校教育の場」、「④地域活動・社会活動の場」、「⑤政治の場」、「⑦社会通念・慣習・しきたりなど」の項目で「男性優遇」の認識が減少となったが「⑥法律や制度の上」は「男性優遇」の認識が増加となっている。



**優遇度算出式**

優遇度 = (「女性の方が優遇されている」 + 「どちらかといえば女性の方が優遇されている」) - (「どちらかといえば男性の方が優遇されている」 + 「男性の方が優遇されている」)

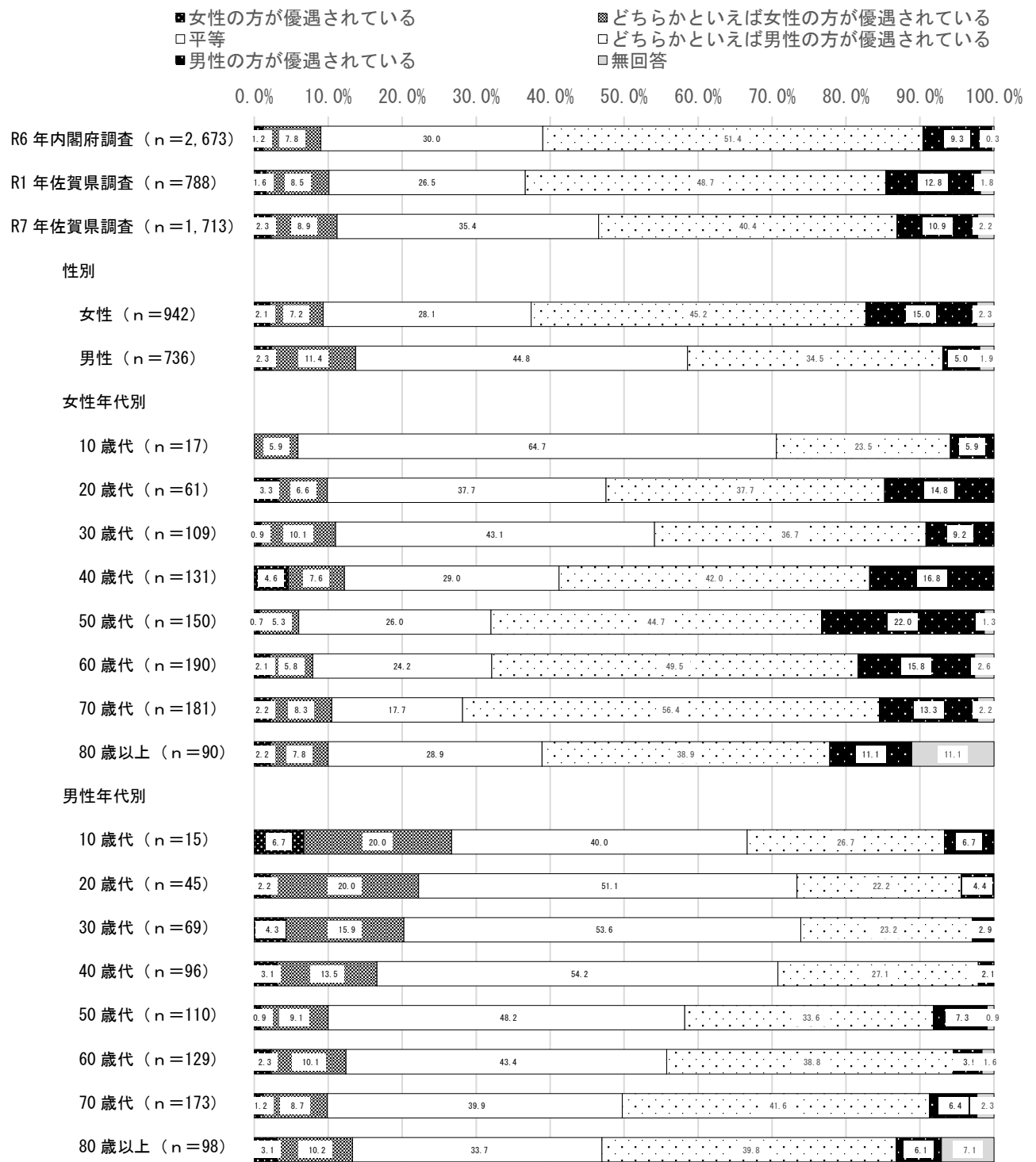
※R1年以前は「わからない」の選択肢があるため単純比較はできないため表記していない。

## ① 家庭生活

全体で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が40.4%で最も高く、次いで「平等」が35.4%、「男性の方が優遇されている」が10.9%と続き、「男性優遇」は51.3%、「女性優遇」は11.2%となっている。

経年比較では、令和1年佐賀県調査では「平等」と答えた人の割合は8.9ポイント高く、内閣府調査と比較しても5.4ポイント高い。

男女別では「男性」は「平等」が44.8%、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が45.2%と最も高かった。



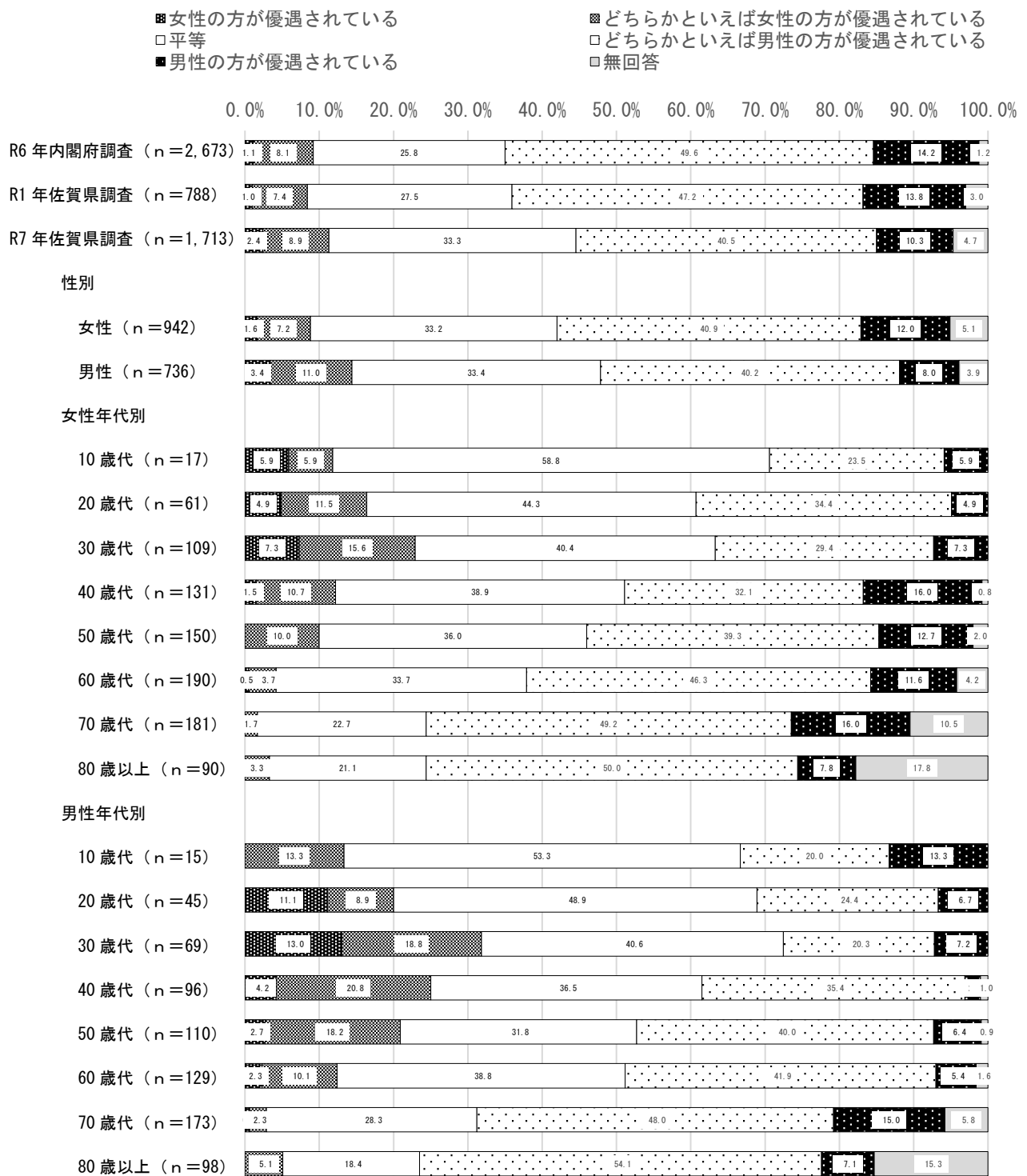
① 家庭生活									
	① 女性の方が優遇されている	② どちらかといえば女性の方が優遇されている	③ 平等	④ どちらかといえば男性の方が優遇されている	⑤ 男性の方が優遇されている	無回答	⑥ 女性優遇と認識 (①+②)	⑦ 男性優遇と認識 (④+⑤)	男性優遇との認識差 (⑦-⑥)
R6 年内閣府調査 (n=2,673)	1.2	7.8	30.0	51.4	9.3	0.3	9.0	60.7	▲ 51.7
R1 年佐賀県調査 (n=788)	1.6	8.5	26.5	48.7	12.8	1.8	10.1	61.5	▲ 51.4
R7 年佐賀県調査 (n=1,713)	2.3	8.9	35.4	40.4	10.9	2.2	11.2	51.3	▲ 40.1
女性 (n=942)	2.1	7.2	28.1	45.2	15.0	2.3	9.3	60.2	▲ 50.9
男性 (n=736)	2.3	11.4	44.8	34.5	5.0	1.9	13.7	39.5	▲ 25.8
女性 10 歳代 (n=17)	0.0	5.9	64.7	23.5	5.9	0.0	5.9	29.4	▲ 23.5
女性 20 歳代 (n=61)	3.3	6.6	37.7	37.7	14.8	0.0	9.9	52.5	▲ 42.6
女性 30 歳代 (n=109)	0.9	10.1	43.1	36.7	9.2	0.0	11.0	45.9	▲ 34.9
女性 40 歳代 (n=131)	4.6	7.6	29.0	42.0	16.8	0.0	12.2	58.8	▲ 46.6
女性 50 歳代 (n=150)	0.7	5.3	26.0	44.7	22.0	1.3	6.0	66.7	▲ 60.7
女性 60 歳代 (n=190)	2.1	5.8	24.2	49.5	15.8	2.6	7.9	65.3	▲ 57.4
女性 70 歳代 (n=181)	2.2	8.3	17.7	56.4	13.3	2.2	10.5	69.7	▲ 59.2
女性 80 歳以上 (n=90)	2.2	7.8	28.9	38.9	11.1	11.1	10.0	50.0	▲ 40.0
男性 10 歳代 (n=15)	6.7	20.0	40.0	26.7	6.7	0.0	26.7	33.4	▲ 6.7
男性 20 歳代 (n=45)	2.2	20.0	51.1	22.2	4.4	0.0	22.2	26.6	▲ 4.4
男性 30 歳代 (n=69)	4.3	15.9	53.6	23.2	2.9	0.0	20.2	26.1	▲ 5.9
男性 40 歳代 (n=96)	3.1	13.5	54.2	27.1	2.1	0.0	16.6	29.2	▲ 12.6
男性 50 歳代 (n=110)	0.9	9.1	48.2	33.6	7.3	0.9	10.0	40.9	▲ 30.9
男性 60 歳代 (n=129)	2.3	10.1	43.4	38.8	3.9	1.6	12.4	42.7	▲ 30.3
男性 70 歳代 (n=173)	1.2	8.7	39.9	41.6	6.4	2.3	9.9	48.0	▲ 38.1
男性 80 歳以上 (n=98)	3.1	10.2	33.7	39.8	6.1	7.1	13.3	45.9	▲ 32.6

## ② 職場

全体で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が40.5%で最も高く、次いで「平等」が33.3%、「男性の方が優遇されている」が10.3%と続き、「男性優遇」は50.8%、「女性優遇」は11.3%となっている。

経年比較では男女平等認識は5.8ポイント改善がみられ、内閣府調査と比べても男女平等認識は7.5ポイント高くなっている。

男女別での相違は「男性」は「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が11.0%、「女性」は「男性の方が優遇されている」が12.0%で、3位項目となっている。



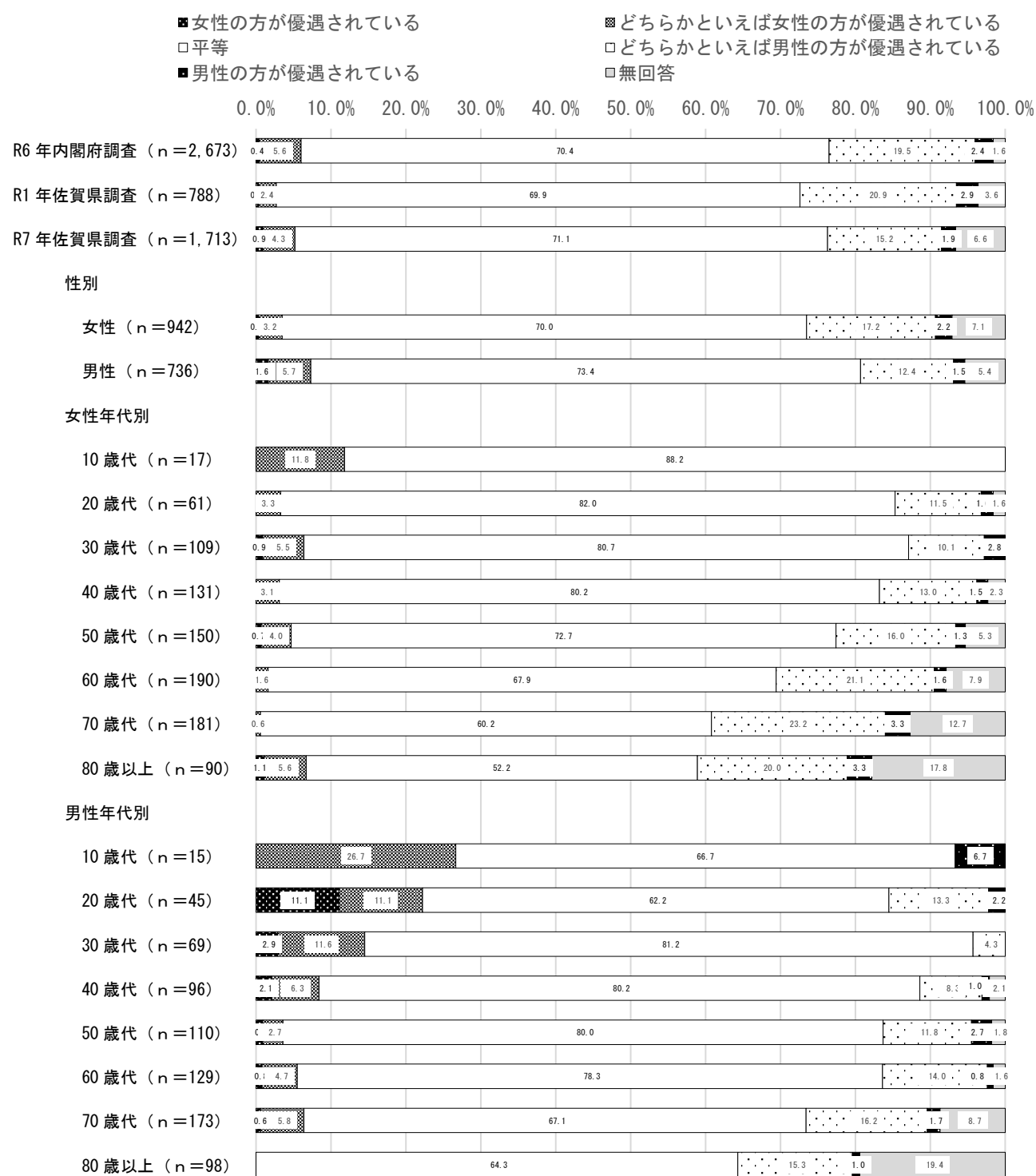
② 職場									
	① 女性の方が優遇されている	② どちらかといえば女性の方が優遇されている	③ 平等	④ どちらかといえば男性の方が優遇されている	⑤ 男性の方が優遇されている	無回答	⑥ 女性優遇と認識 (A+B)	⑦ 男性優遇と認識 (D+E)	男性優遇との認識差 (F-G)
R6年9月内閣府調査 (n=2,673)	1.1	8.1	25.8	49.6	14.2	1.2	9.2	63.8	▲ 54.6
R1年佐賀県調査 (n=788)	1.0	7.4	27.5	47.2	13.8	3.0	8.4	61.0	▲ 52.6
R7年佐賀県調査 (n=1,713)	2.4	8.9	33.3	40.5	10.3	4.7	11.3	50.8	▲ 39.5
女性 (n=942)	1.6	7.2	33.2	40.9	12.0	5.1	8.8	52.9	▲ 44.1
男性 (n=736)	3.4	11.0	33.4	40.2	8.0	3.9	14.4	48.2	▲ 33.8
女性10歳代 (n=17)	5.9	5.9	58.8	23.5	5.9	0.0	11.8	29.4	▲ 17.6
女性20歳代 (n=61)	4.9	11.5	44.3	34.4	4.9	0.0	16.4	39.3	▲ 22.9
女性30歳代 (n=109)	7.3	15.6	40.4	29.4	7.3	0.0	22.9	36.7	▲ 13.8
女性40歳代 (n=131)	1.5	10.7	38.9	32.1	16.0	0.8	12.2	48.1	▲ 35.9
女性50歳代 (n=150)	0.0	10.0	36.0	39.3	12.7	2.0	10.0	52.0	▲ 42.0
女性60歳代 (n=190)	0.5	3.7	33.7	46.3	11.6	4.2	4.2	57.9	▲ 53.7
女性70歳代 (n=181)	0.0	1.7	22.7	49.2	16.0	10.5	1.7	65.2	▲ 63.5
女性80歳以上 (n=90)	0.0	3.3	21.1	50.0	7.8	17.8	3.3	57.8	▲ 54.5
男性10歳代 (n=15)	0.0	13.3	53.3	20.0	13.3	0.0	13.3	33.3	▲ 20.0
男性20歳代 (n=45)	11.1	8.9	48.9	24.4	6.7	0.0	20.0	31.1	▲ 11.1
男性30歳代 (n=69)	13.0	18.8	40.6	20.3	7.2	0.0	31.8	27.5	4.3
男性40歳代 (n=96)	4.2	20.8	36.5	35.4	2.1	1.0	25.0	37.5	▲ 12.5
男性50歳代 (n=110)	2.7	18.2	31.8	40.0	6.4	0.9	20.9	46.4	▲ 25.5
男性60歳代 (n=129)	2.3	10.1	38.8	41.9	5.4	1.6	12.4	47.3	▲ 34.9
男性70歳代 (n=173)	0.6	2.3	28.3	48.0	15.0	5.8	2.9	63.0	▲ 60.1
男性80歳以上 (n=98)	0.0	5.1	18.4	54.1	7.1	15.3	5.1	61.2	▲ 56.1

### ③ 学校教育の場

全体で「平等」が71.1%で最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が15.2%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が4.3%と続き、「男性優遇」は17.1%、「女性優遇」は5.2%となっている。

経年比較では男女平等認識は1.2ポイント改善がみられ、内閣府調査と比べても男女平等認識は0.7ポイント高くなっている。

男女別での傾向の相違はみられない。



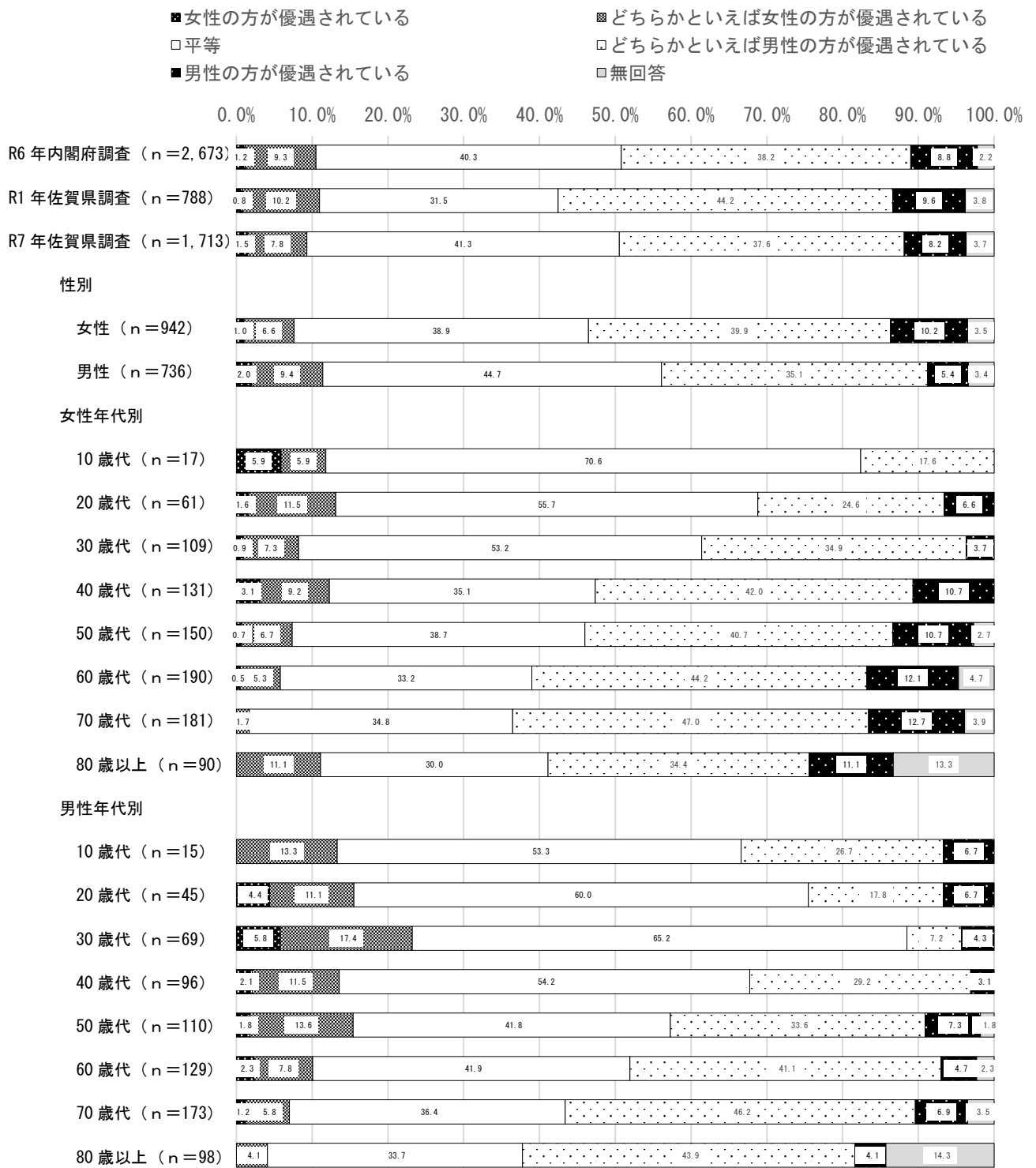
③ 学校教育の場									
	① 女性の方が優遇されている	② どちらかといえば女性の方が優遇されている	③ 平等	④ どちらかといえば男性の方が優遇されている	⑤ 男性の方が優遇されている	無回答	⑥ 女性優遇と認識 (①+②)	⑦ 男性優遇と認識 (④+⑤)	男性優遇との認識差 (⑦-⑥)
R6年9月内閣府調査 (n=2,673)	0.4	5.6	70.4	19.5	2.4	1.6	6.0	21.9	▲ 15.9
R1年佐賀県調査 (n=788)	0.3	2.4	69.9	20.9	2.9	3.6	2.7	23.8	▲ 21.1
R7年佐賀県調査 (n=1,713)	0.9	4.3	71.1	15.2	1.9	6.6	5.2	17.1	▲ 11.9
女性 (n=942)	0.3	3.2	70.0	17.2	2.2	7.1	3.5	19.4	▲ 15.9
男性 (n=736)	1.6	5.7	73.4	12.4	1.5	5.4	7.3	13.9	▲ 6.6
女性10歳代 (n=17)	0.0	11.8	88.2	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0	11.8
女性20歳代 (n=61)	0.0	3.3	82.0	11.5	1.6	1.6	3.3	13.1	▲ 9.8
女性30歳代 (n=109)	0.9	5.5	80.7	10.1	2.8	-	6.4	12.9	▲ 6.5
女性40歳代 (n=131)	0.0	3.1	80.2	13.0	1.5	2.3	3.1	14.5	▲ 11.4
女性50歳代 (n=150)	0.7	4.0	72.7	16.0	1.3	5.3	4.7	17.3	▲ 12.6
女性60歳代 (n=190)	0.0	1.6	67.9	21.1	1.6	7.9	1.6	22.7	▲ 21.1
女性70歳代 (n=181)	0.0	0.6	60.2	23.2	3.3	12.7	0.6	26.5	▲ 25.9
女性80歳以上 (n=90)	1.1	5.6	52.2	20.0	3.3	17.8	6.7	23.3	▲ 16.6
男性10歳代 (n=15)	0.0	26.7	66.7	0.0	6.7	0.0	26.7	6.7	20.0
男性20歳代 (n=45)	11.1	11.1	62.2	13.3	2.2	0.0	22.2	15.5	6.7
男性30歳代 (n=69)	2.9	11.6	81.2	4.3	0.0	0.0	14.5	4.3	10.2
男性40歳代 (n=96)	2.1	6.3	80.2	8.3	1.0	2.1	8.4	9.3	▲ 0.9
男性50歳代 (n=110)	0.9	2.7	80.0	11.8	2.7	1.8	3.6	14.5	▲ 10.9
男性60歳代 (n=129)	0.8	4.7	78.3	14.0	0.8	1.6	5.5	14.8	▲ 9.3
男性70歳代 (n=173)	0.6	5.8	67.1	16.2	1.7	8.7	6.4	17.9	▲ 11.5
男性80歳以上 (n=98)	0.0	0.0	64.3	15.3	1.0	19.4	0.0	16.3	▲ 16.3

#### ④ 地域活動・社会活動の場

全体で「平等」が41.3%で最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が35.1%、「男性の方が優遇されている」が8.2%と続き、「男性優遇」は45.8%、「女性優遇」は9.3%となっている。

経年比較では男女平等認識は9.8ポイント改善がみられ、内閣府調査と比べても男女平等認識は1.0ポイント高くなっている。

男女別での傾向の相違はみられない。



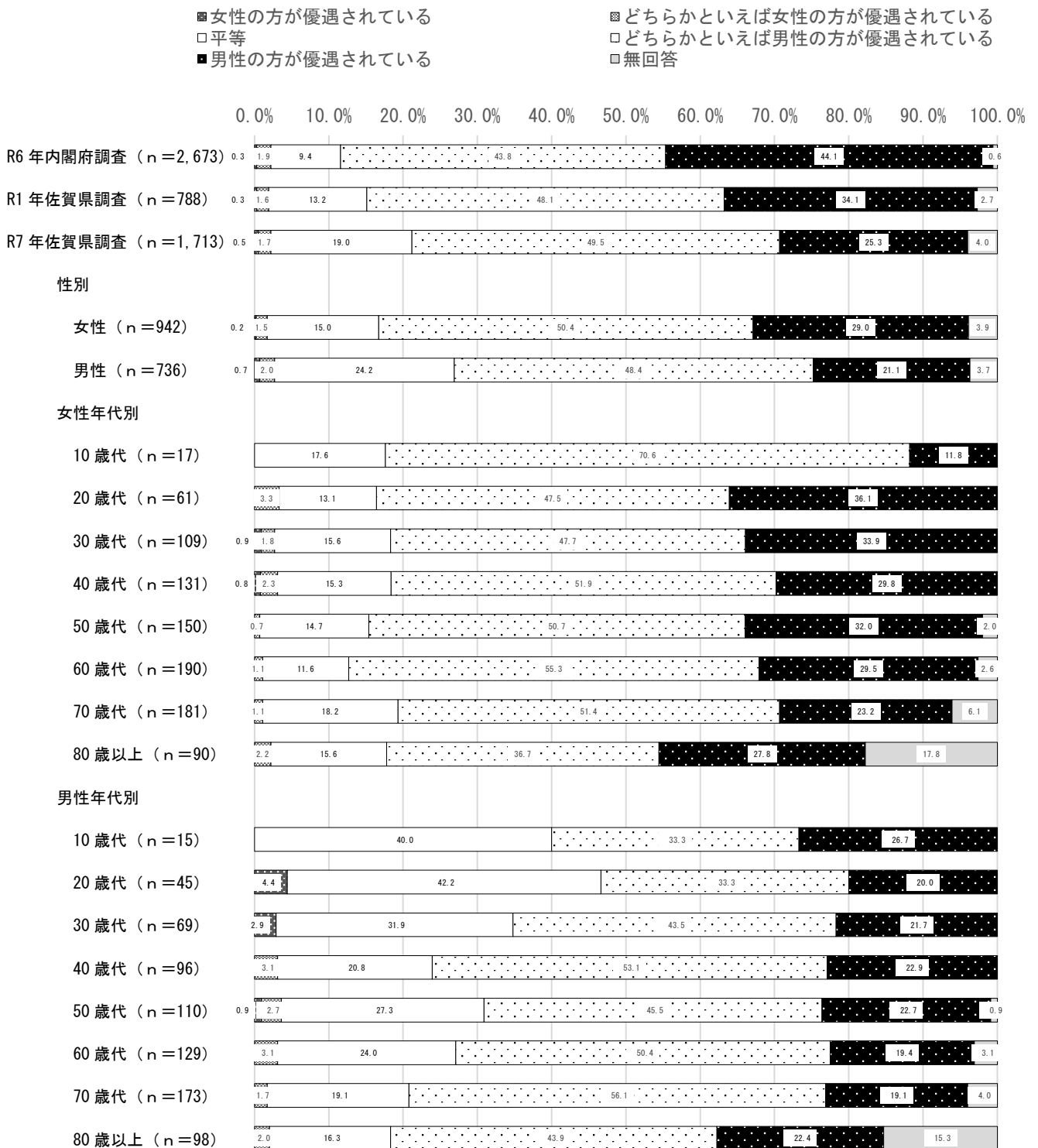
④ 地域活動・社会活動の場									
	① 女性の方が優遇されている	② どちらかといえば女性の方が優遇されている	③ 平等	④ どちらかといえば男性の方が優遇されている	⑤ 男性の方が優遇されている	無回答	⑥ 女性優遇と認識 (A+B)	⑦ 男性優遇と認識 (D+E)	男性優遇との認識差 (F-G)
R6年9月内閣府調査 (n=2,673)	1.2	9.3	40.3	38.2	8.8	2.2	10.5	47.0	▲ 36.5
R1年佐賀県調査 (n=788)	0.8	10.2	31.5	44.2	9.6	3.8	11.0	53.8	▲ 42.8
R7年佐賀県調査 (n=1,713)	1.5	7.8	41.3	37.6	8.2	3.7	9.3	45.8	▲ 36.5
女性 (n=942)	1.0	6.6	38.9	39.9	10.2	3.5	7.6	50.1	▲ 42.5
男性 (n=736)	2.0	9.4	44.7	35.1	5.4	3.4	11.4	40.5	▲ 29.1
女性10歳代 (n=17)	5.9	5.9	70.6	17.6	0.0	0.0	11.8	17.6	▲ 5.8
女性20歳代 (n=61)	1.6	11.5	55.7	24.6	6.6	0.0	13.1	31.2	▲ 18.1
女性30歳代 (n=109)	0.9	7.3	53.2	34.9	3.7	0.0	8.2	38.6	▲ 30.4
女性40歳代 (n=131)	3.1	9.2	35.1	42.0	10.7	0.0	12.3	52.7	▲ 40.4
女性50歳代 (n=150)	0.7	6.7	38.7	40.7	10.7	2.7	7.4	51.4	▲ 44.0
女性60歳代 (n=190)	0.5	5.3	33.2	44.2	12.1	4.7	5.8	56.3	▲ 50.5
女性70歳代 (n=181)	0.0	1.7	34.8	47.0	12.7	3.9	1.7	59.7	▲ 58.0
女性80歳以上 (n=90)	0.0	11.1	30.0	34.4	11.1	13.3	11.1	45.5	▲ 34.4
男性10歳代 (n=15)	0.0	13.3	53.3	26.7	6.7	0.0	13.3	33.4	▲ 20.1
男性20歳代 (n=45)	4.4	11.1	60.0	17.8	6.7	0.0	15.5	24.5	▲ 9.0
男性30歳代 (n=69)	5.8	17.4	65.2	7.2	4.3	0.0	23.2	11.5	11.7
男性40歳代 (n=96)	2.1	11.5	54.2	29.2	3.1	0.0	13.6	32.3	▲ 18.7
男性50歳代 (n=110)	1.8	13.6	41.8	33.6	7.3	1.8	15.4	40.9	▲ 25.5
男性60歳代 (n=129)	2.3	7.8	41.9	41.1	4.7	2.3	10.1	45.8	▲ 35.7
男性70歳代 (n=173)	1.2	5.8	36.4	46.2	6.9	3.5	7.0	53.1	▲ 46.1
男性80歳以上 (n=98)	0.0	4.1	33.7	43.9	4.1	14.3	4.1	48.0	▲ 43.9

⑤ 政治の場

全体で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が49.5%で最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」が25.3%、「平等」が19.0%と続き、「男性優遇」は74.8%、「女性優遇」は2.2%となっている。

経年比較では男女平等認識は5.8ポイント改善がみられ、内閣府調査と比べても男女平等認識は9.6ポイント高くなっている。

男女別での傾向の相違はみられない。



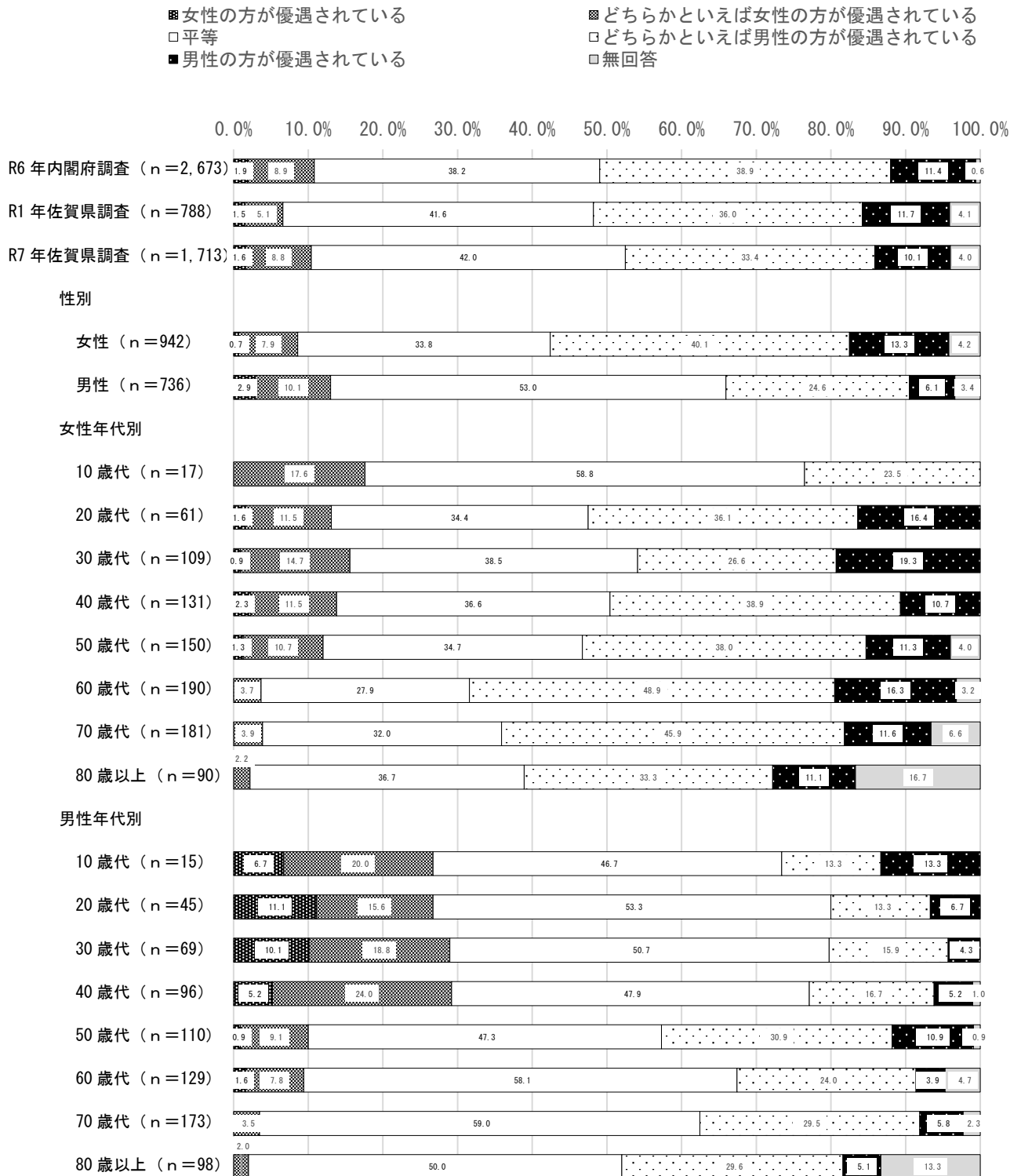
⑤ 政治の場									
	① 女性の方が優遇されている	② どちらかといえば女性の方が優遇されている	③ 平等	④ どちらかといえば男性の方が優遇されている	⑤ 男性の方が優遇されている	無回答	⑥ 女性優遇と認識 (A+B)	⑦ 男性優遇と認識 (D+E)	男性優遇との認識差 (F-G)
R6 年 9 月内閣府調査 (n=2,673)	0.3	1.9	9.4	43.8	44.1	0.6	2.2	87.9	▲ 85.7
R1 年佐賀県調査 (n=788)	0.3	1.6	13.2	48.1	34.1	2.7	1.9	82.2	▲ 80.3
R7 年佐賀県調査 (n=1,713)	0.5	1.7	19.0	49.5	25.3	4.0	2.2	74.8	▲ 72.6
女性 (n=942)	0.2	1.5	15.0	50.4	29.0	3.9	1.7	79.4	▲ 77.7
男性 (n=736)	0.7	2.0	24.2	48.4	21.1	3.7	2.7	69.5	▲ 66.8
女性 10 歳代 (n=17)	0.0	0.0	17.6	70.6	11.8	0.0	0.0	82.4	▲ 82.4
女性 20 歳代 (n=61)	0.0	3.3	13.1	47.5	36.1	0.0	3.3	83.6	▲ 80.3
女性 30 歳代 (n=109)	0.9	1.8	15.6	47.7	33.9	0.0	2.7	81.6	▲ 78.9
女性 40 歳代 (n=131)	0.8	2.3	15.3	51.9	29.8	0.0	3.1	81.7	▲ 78.6
女性 50 歳代 (n=150)	0.0	0.7	14.7	50.7	32.0	2.0	0.7	82.7	▲ 82.0
女性 60 歳代 (n=190)	0.0	1.1	11.6	55.3	29.5	2.6	1.1	84.8	▲ 83.7
女性 70 歳代 (n=181)	0.0	1.1	18.2	51.4	23.2	6.1	1.1	74.6	▲ 73.5
女性 80 歳以上 (n=90)	0.0	2.2	15.6	36.7	27.8	17.8	2.2	64.5	▲ 62.3
男性 10 歳代 (n=15)	0.0	0.0	40.0	33.3	26.7	0.0	0.0	60.0	▲ 60.0
男性 20 歳代 (n=45)	4.4	0.0	42.2	33.3	20.0	0.0	4.4	53.3	▲ 48.9
男性 30 歳代 (n=69)	2.9	0.0	31.9	43.5	21.7	0.0	2.9	65.2	▲ 62.3
男性 40 歳代 (n=96)	0.0	3.1	20.8	53.1	22.9	0.0	3.1	76.0	▲ 72.9
男性 50 歳代 (n=110)	0.9	2.7	27.3	45.5	22.7	0.9	3.6	68.2	▲ 64.6
男性 60 歳代 (n=129)	0.0	3.1	24.0	50.4	19.4	3.1	3.1	69.8	▲ 66.7
男性 70 歳代 (n=173)	0.0	1.7	19.1	56.1	19.1	4.0	1.7	75.2	▲ 73.5
男性 80 歳以上 (n=98)	0.0	2.0	16.3	43.9	22.4	15.3	2.0	66.3	▲ 64.3

⑥ 法律や制度の上

全体で「平等」が42.0%で最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が33.4%、「男性の方が優遇されている」が10.1%と続き、「男性優遇」は43.5%、「女性優遇」は10.4%となっている。

経年比較では男女平等認識は0.4ポイント改善がみられ、内閣府調査と比べても男女平等認識は3.8ポイント高くなっている。

男女別での傾向の相違は「男性」は「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が10.1%で3位項目となっている。



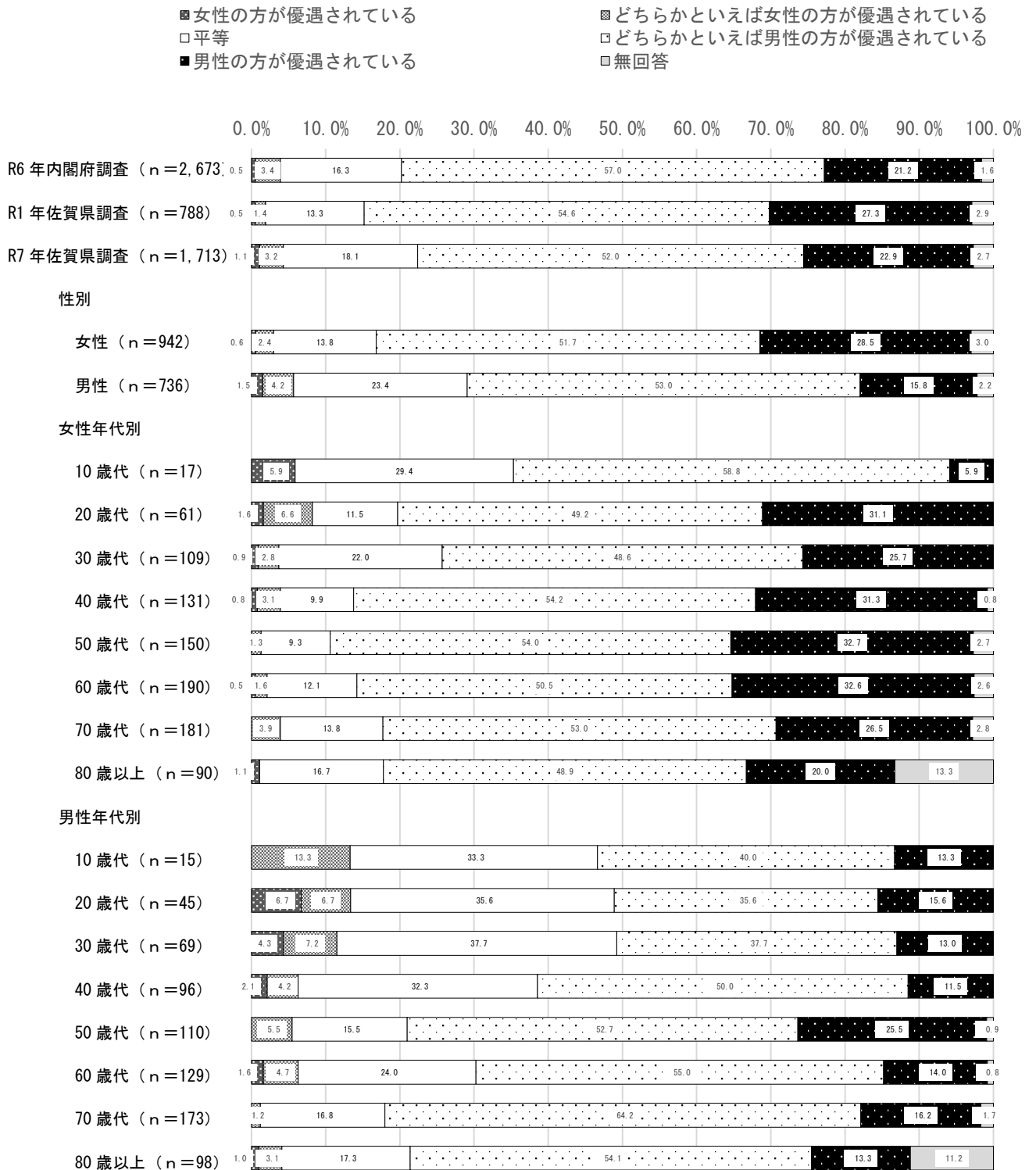
⑥ 法律や制度の上									
	① 女性の方が優遇されている	② どちらかといえば女性の方が優遇されている	③ 平等	④ どちらかといえば男性の方が優遇されている	⑤ 男性の方が優遇されている	無回答	⑥ 女性優遇と認識 (A+B)	⑦ 男性優遇と認識 (D+E)	男性優遇との認識差 (F-G)
R6 年 9 月内閣府調査 (n=2,673)	1.9	8.9	38.2	38.9	11.4	0.6	10.8	50.3	▲ 39.5
R1 年佐賀県調査 (n=788)	1.5	5.1	41.6	36.0	11.7	4.1	6.6	47.7	▲ 41.1
R7 年佐賀県調査 (n=1,713)	1.6	8.8	42.0	33.4	10.1	4.0	10.4	43.5	▲ 33.1
女性 (n=942)	0.7	7.9	33.8	40.1	13.3	4.2	8.6	53.4	▲ 44.8
男性 (n=736)	2.9	10.1	53.0	24.6	6.1	3.4	13.0	30.7	▲ 17.7
女性 10 歳代 (n=17)	0.0	17.6	58.8	23.5	0.0	0.0	17.6	23.5	▲ 5.9
女性 20 歳代 (n=61)	1.6	11.5	34.4	36.1	16.4	0.0	13.1	52.5	▲ 39.4
女性 30 歳代 (n=109)	0.9	14.7	38.5	26.6	19.3	0.0	15.6	45.9	▲ 30.3
女性 40 歳代 (n=131)	2.3	11.5	36.6	38.9	10.7	0.0	13.8	49.6	▲ 35.8
女性 50 歳代 (n=150)	1.3	10.7	34.7	38.0	11.3	4.0	12.0	49.3	▲ 37.3
女性 60 歳代 (n=190)	0.0	3.7	27.9	48.9	16.3	3.2	3.7	65.2	▲ 61.5
女性 70 歳代 (n=181)	0.0	3.9	32.0	45.9	11.6	6.6	3.9	57.5	▲ 53.6
女性 80 歳以上 (n=90)	0.0	2.2	36.7	33.3	11.1	16.7	2.2	44.4	▲ 42.2
男性 10 歳代 (n=15)	6.7	20.0	46.7	13.3	13.3	0.0	26.7	26.6	0.1
男性 20 歳代 (n=45)	11.1	15.6	53.3	13.3	6.7	0.0	26.7	20.0	6.7
男性 30 歳代 (n=69)	10.1	18.8	50.7	15.9	4.3	0.0	28.9	20.2	8.7
男性 40 歳代 (n=96)	5.2	24.0	47.9	16.7	5.2	1.0	29.2	21.9	7.3
男性 50 歳代 (n=110)	0.9	9.1	47.3	30.9	10.9	0.9	10.0	41.8	▲ 31.8
男性 60 歳代 (n=129)	1.6	7.8	58.1	24.0	3.9	4.7	9.4	27.9	▲ 18.5
男性 70 歳代 (n=173)	0.0	3.5	59.0	29.5	5.8	2.3	3.5	35.3	▲ 31.8
男性 80 歳以上 (n=98)	0.0	2.0	50.0	29.6	5.1	13.3	2.0	34.7	▲ 32.7

⑦ 社会通念・慣習・しきたりなど

全体で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 52.0%で最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」が 22.9%、「平等」が 18.1%と続き、「男性優遇」は 74.9%、「女性優遇」は 4.3%となっている。

経年比較では男女平等認識は 4.8 ポイント改善がみられ、内閣府調査と比べても男女平等認識は 1.8 ポイント高くなっている。

男女別での傾向の相違は「男性」は「平等」が 23.4%で 2 位項目となっている。



⑦ 社会通念・慣習・しきたりなど									
	① 女性の方が優遇されている	② どちらかといえば女性の方が優遇されている	③ 平等	④ どちらかといえば男性の方が優遇されている	⑤ 男性の方が優遇されている	無回答	⑥ 女性優遇と認識 (A+B)	⑦ 男性優遇と認識 (D+E)	男性優遇との認識差 (F-G)
R6年9月内閣府調査 (n=2,673)	0.5	3.4	16.3	57.0	21.2	1.6	3.9	78.2	▲ 74.3
R1年佐賀県調査 (n=788)	0.5	1.4	13.3	54.6	27.3	2.9	1.9	81.9	▲ 80.0
R7年佐賀県調査 (n=1,713)	1.1	3.2	18.1	52.0	22.9	2.7	4.3	74.9	▲ 70.6
女性 (n=942)	0.6	2.4	13.8	51.7	28.5	3.0	3.0	80.2	▲ 77.2
男性 (n=736)	1.5	4.2	23.4	53.0	15.8	2.2	5.7	68.8	▲ 63.1
女性10歳代 (n=17)	5.9	0.0	29.4	58.8	5.9	0.0	5.9	64.7	▲ 58.8
女性20歳代 (n=61)	1.6	6.6	11.5	49.2	31.1	0.0	8.2	80.3	▲ 72.1
女性30歳代 (n=109)	0.9	2.8	22.0	48.6	25.7	0.0	3.7	74.3	▲ 70.6
女性40歳代 (n=131)	0.8	3.1	9.9	54.2	31.3	0.8	3.9	85.5	▲ 81.6
女性50歳代 (n=150)	0.0	1.3	9.3	54.0	32.7	2.7	1.3	86.7	▲ 85.4
女性60歳代 (n=190)	0.5	1.6	12.1	50.5	32.6	2.6	2.1	83.1	▲ 81.0
女性70歳代 (n=181)	0.0	3.9	13.8	53.0	26.5	2.8	3.9	79.5	▲ 75.6
女性80歳以上 (n=90)	1.1	0.0	16.7	48.9	20.0	13.3	1.1	68.9	▲ 67.8
男性10歳代 (n=15)	0.0	13.3	33.3	40.0	13.3	0.0	13.3	53.3	▲ 40.0
男性20歳代 (n=45)	6.7	6.7	35.6	35.6	15.6	0.0	13.4	51.2	▲ 37.8
男性30歳代 (n=69)	4.3	7.2	37.7	37.7	13.0	0.0	11.5	50.7	▲ 39.2
男性40歳代 (n=96)	2.1	4.2	32.3	50.0	11.5	0.0	6.3	61.5	▲ 55.2
男性50歳代 (n=110)	0.0	5.5	15.5	52.7	25.5	0.9	5.5	78.2	▲ 72.7
男性60歳代 (n=129)	1.6	4.7	24.0	55.0	14.0	0.8	6.3	69.0	▲ 62.7
男性70歳代 (n=173)	0.0	1.2	16.8	64.2	16.2	1.7	1.2	80.4	▲ 79.2
男性80歳以上 (n=98)	1.0	3.1	17.3	54.1	13.3	11.2	4.1	67.4	▲ 63.3

【全員がお答えください】

問2 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要だと思うことは何ですか。(〇は1つ)

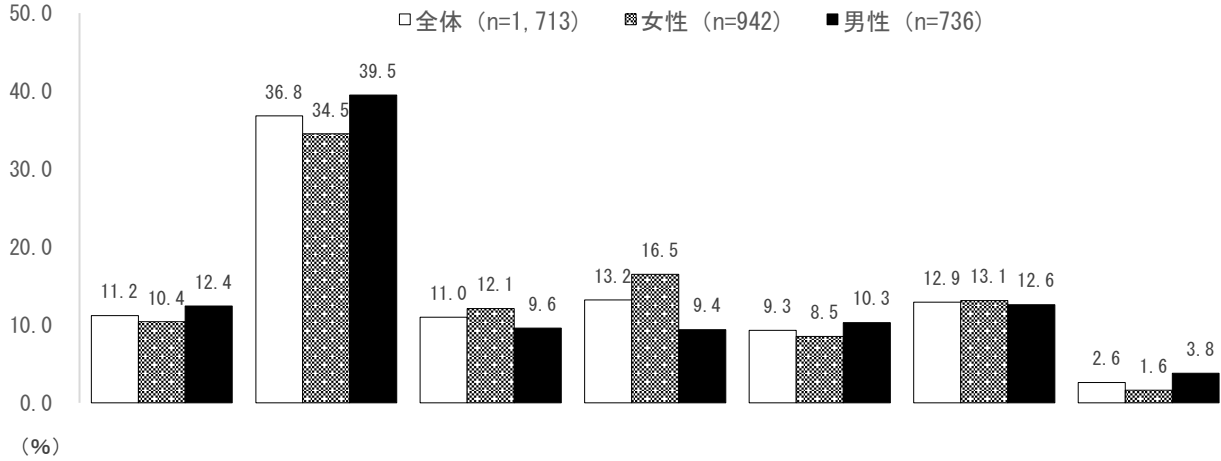
「性別によるさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」が36.8%でトップ。

全体では「性別によるさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」が36.8%で最も高く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する体制・施設やサービスの充実を図る」が13.2%、「学校教育において、社会や家庭における男女平等と相互理解についての教育を充実する」が12.9%と続いている。

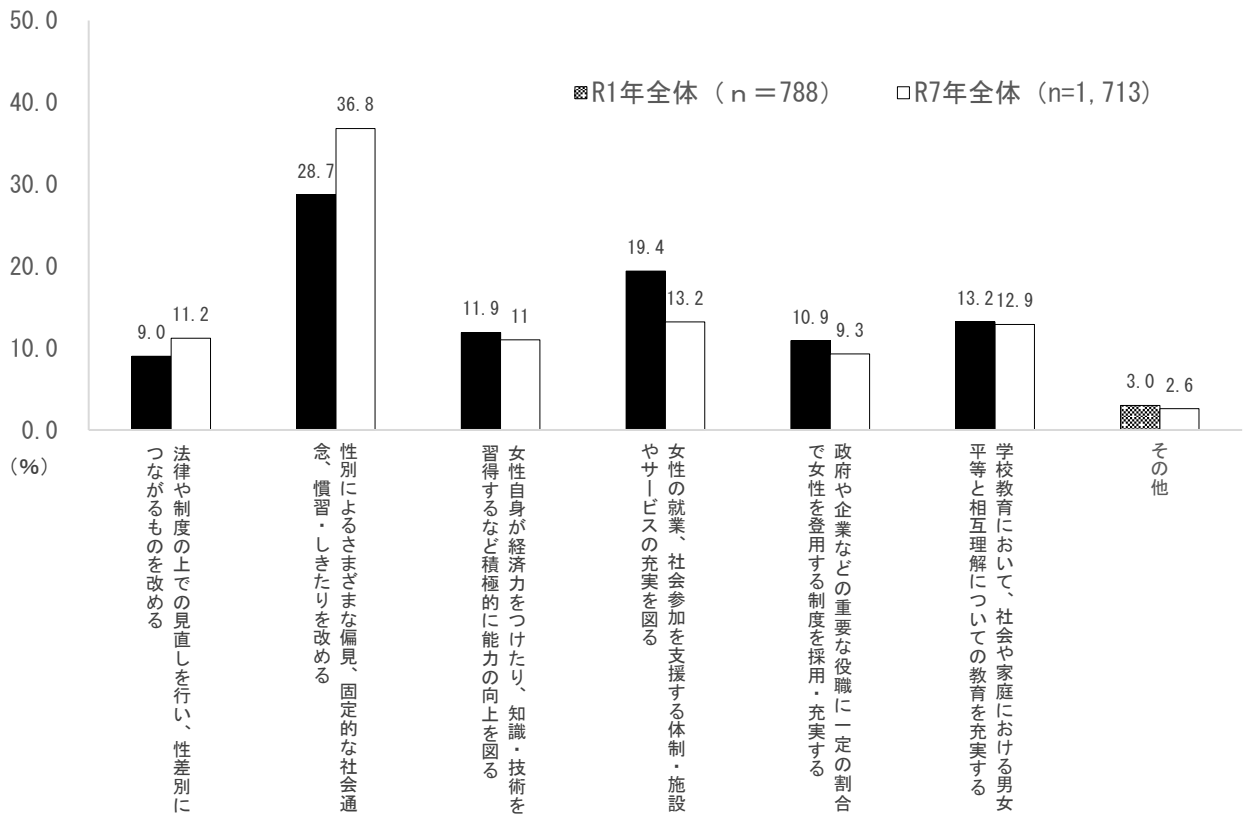
性別での相違は「女性」は「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど積極的に能力の向上を図る」が4位項目に上がり、「男性」は「女性の就業、社会参加を支援する体制・施設やサービスの充実を図る」が6位項目に下がっている。

経年変化での上位3項目の変化はみられない。

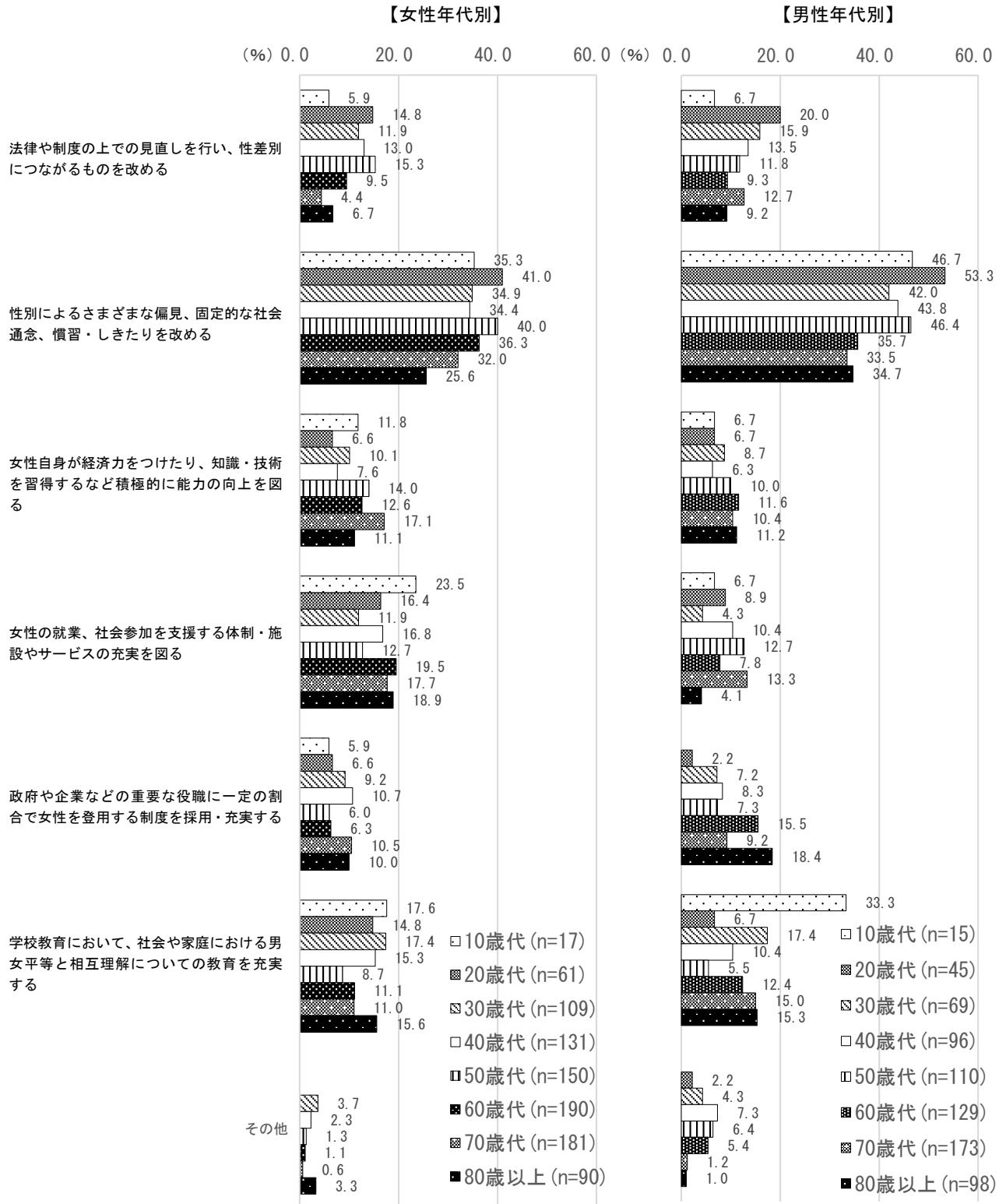
【R7年佐賀県調査】



【R1年佐賀県調査との比較】



性別・年齢別にみると全体1位項目の「性別によるさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」は年齢が若いほど「女性」よりも「男性」が重視する傾向がみられ、全体2位項目の「女性の就業、社会参加を支援する体制・施設やサービスの充実を図る」は「女性」の年齢が上がるほど重視する傾向がみられる。



## 【家庭・子育てについて】

【全員がお答えください】

問3 あなたは、一般的に「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思いますか。  
 (○は1つ) ※ご自身の希望ではなく、考え方の是非についてお答えください。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との考えを72.9%が否定、25.5%が肯定。

全体では「そう思わない」が43.8%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が29.1%、「どちらかといえばそう思う」が21.1%と続き、「思わない(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)」が72.9%、「思う(「どちらかといえばそう思う」+「そう思う」)」が25.5%となっている。

経年比較で「思わない」はR1年佐賀県調査と比べ7.7ポイント増加し、内閣府調査と比べても「思わない」は8.1ポイント高くなっている。

性別・年齢別では、女性はすべての年代において「思う」と回答している割合が35%以下だった。一方、男性は30代以上では年代の上昇とともに「思う」の割合が増加の傾向にあり、80歳以上では46.9%が「思う」と回答している。

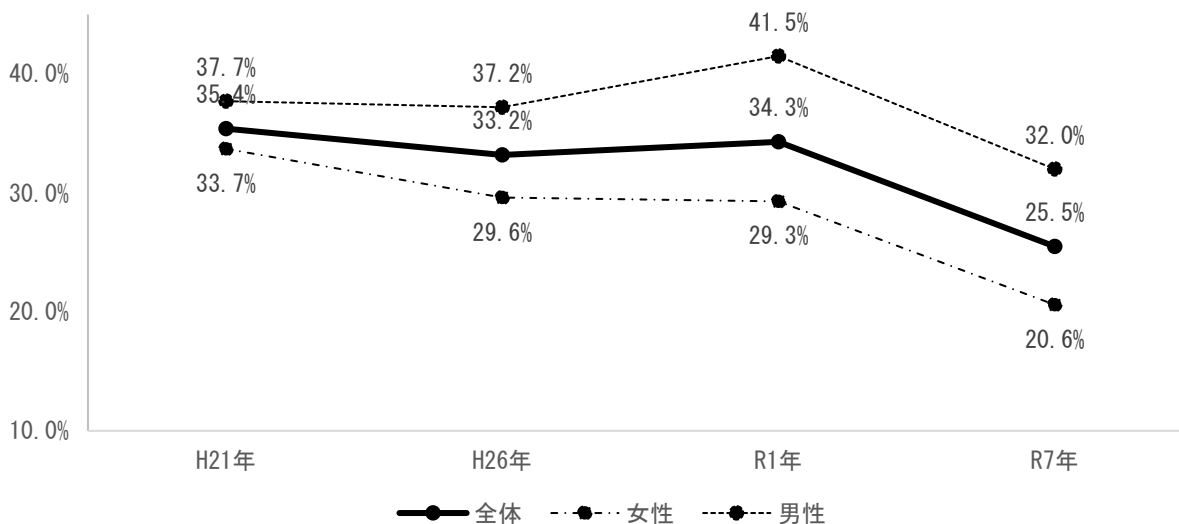
■ 思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答



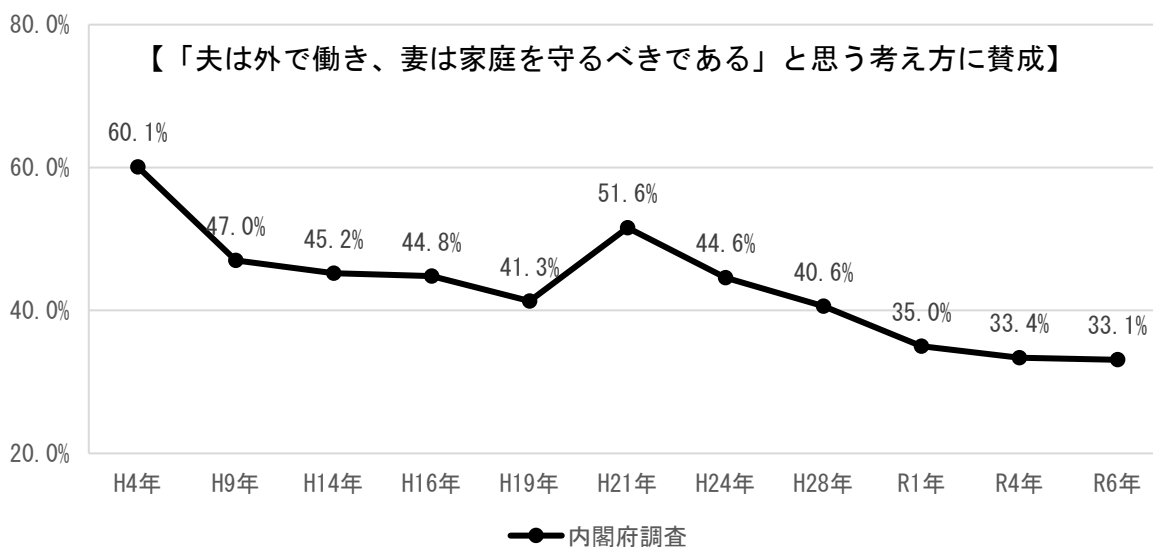
経年比較で「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思う割合は令和1年調査で増加したものの、今回調査では男女ともに減少している。

一方、内閣府の調査との経年比較では「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」は全国平均を下回っており、今回調査は令和6年調査と比べ7.6ポイント低くなっている。

【「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思う】



【「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思う考え方に賛成】



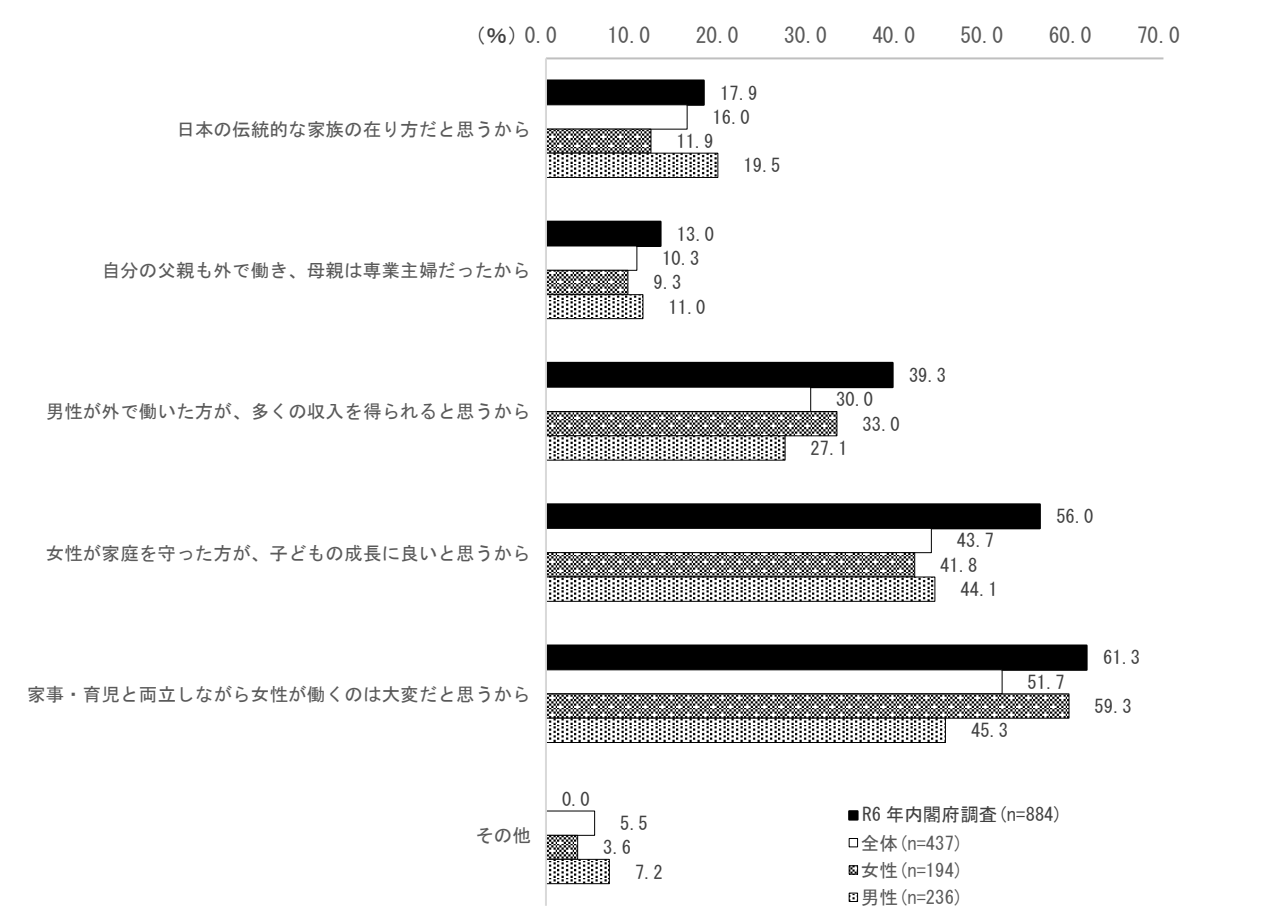
【問3で「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた方がお答えください。】  
 問3-1 そう思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「家事・育児と両立しながら女性が働くのは大変だと思うから」が51.7%でトップ。

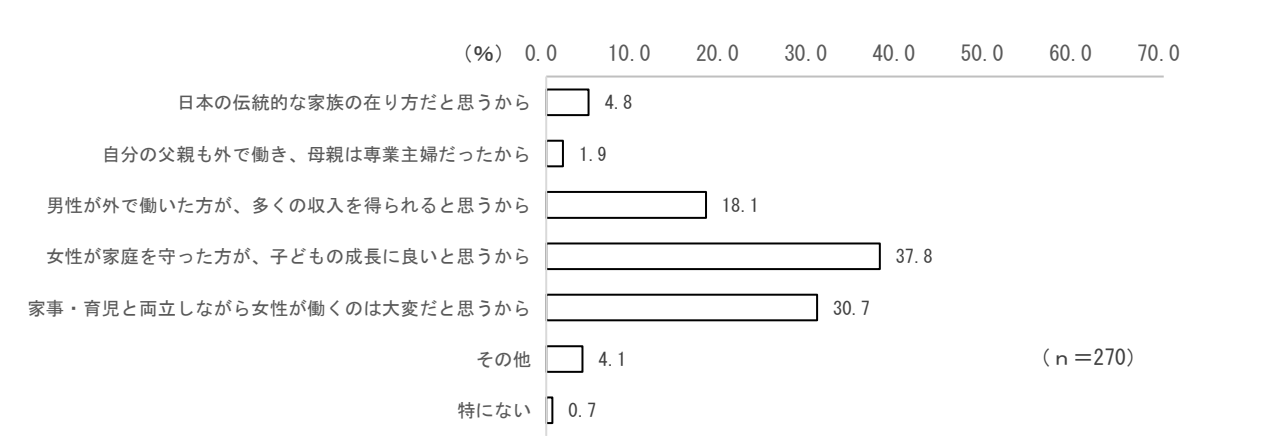
全体では「家事・育児と両立しながら女性が働くのは大変だと思うから」が51.7%で最も高く、次いで「女性が家庭を守った方が、子どもの成長に良いと思うから」が43.7%、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が30.0%と続いている。

性別で見ると、女性は男性よりも1位項目「家事・育児と両立しながら女性が働くのは大変だと思うから」に回答している人が多く、男性は女性よりも2位項目「女性が家庭を守った方が、子どもの成長に良いと思うから」に回答している人が多くなっている。

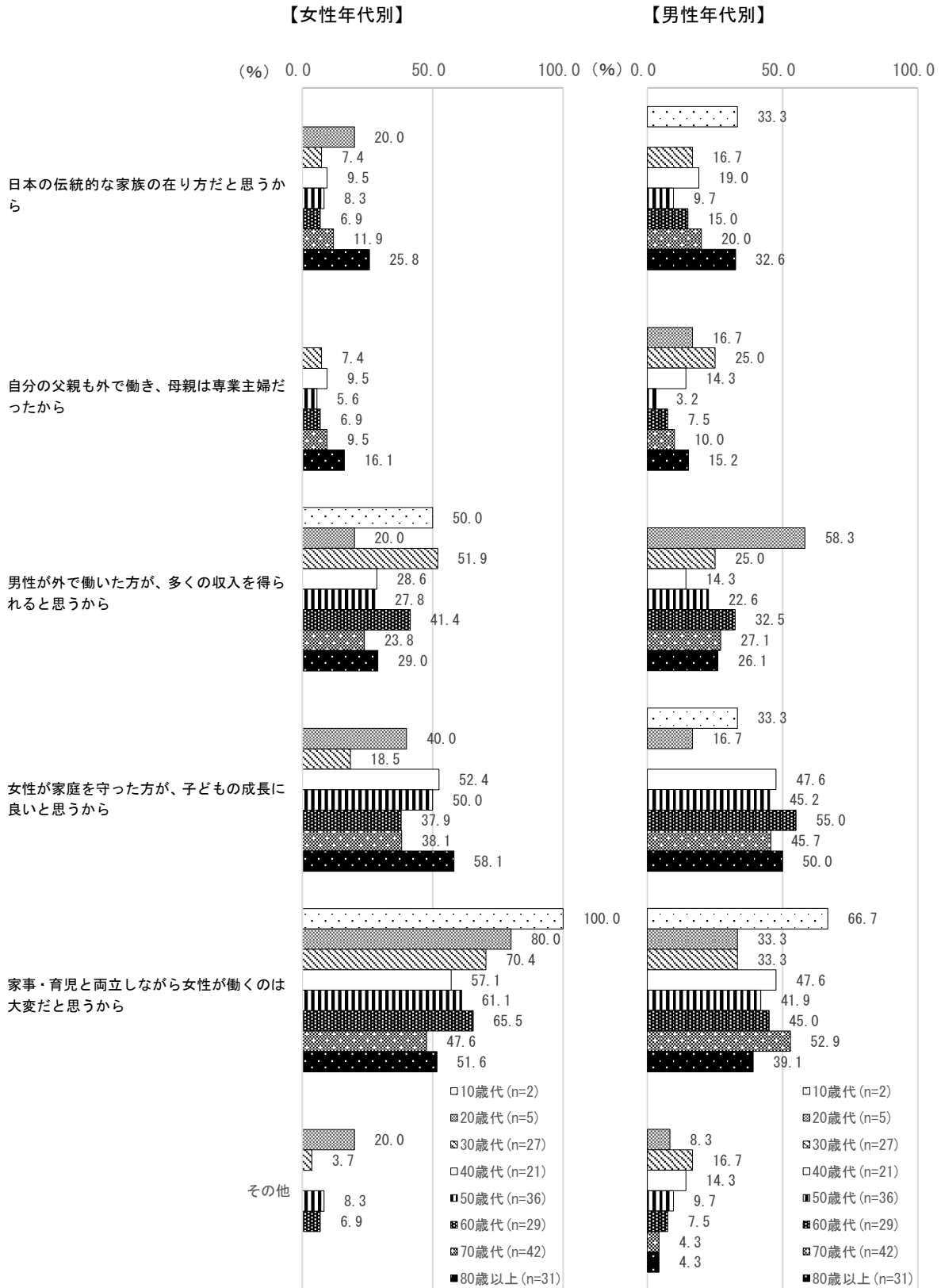
令和1年調査は単回答のため参考として掲載しているが同様の傾向がみられる。



【R1年佐賀県調査※単一回答】



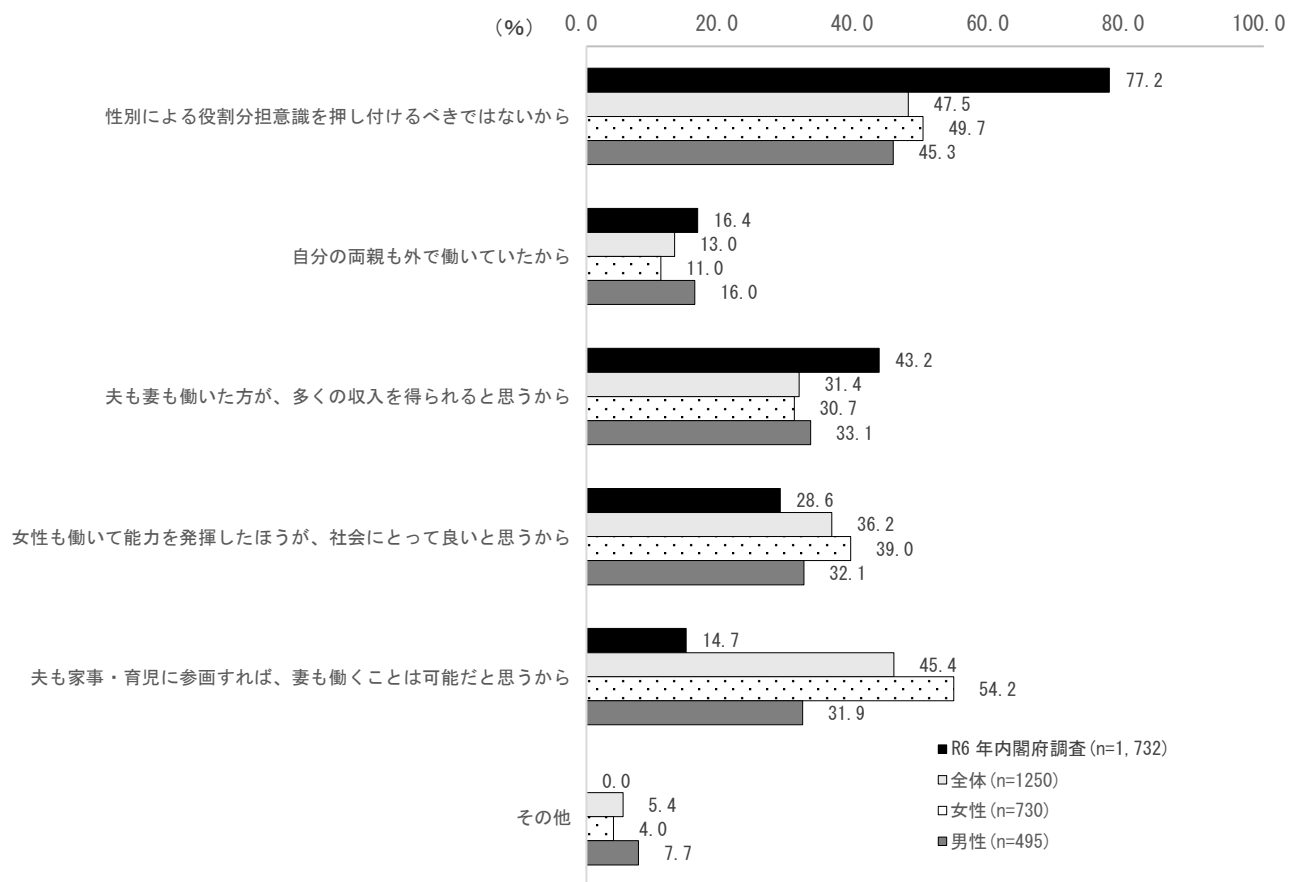
性別・年齢別にみると全体1位項目の「家事・育児と両立しながら女性が働くのは大変だと思うから」は働き世代（30歳代から60歳代）において、男性より女性の方が回答が多い。また、全体2位項目の「女性が家庭を守った方が、子どもの成長に良いと思うから」は60歳代以上において男性が女性より回答が多い。



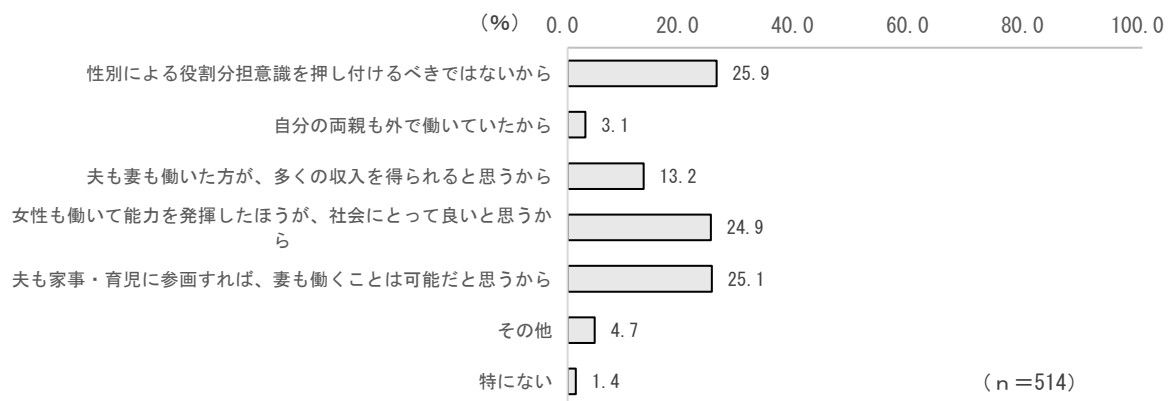
【問3で「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と答えた方がお答えください。】  
 問3-2 そう思わない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「性別による役割分担意識を押し付けるべきではないから」が47.5%でトップ。

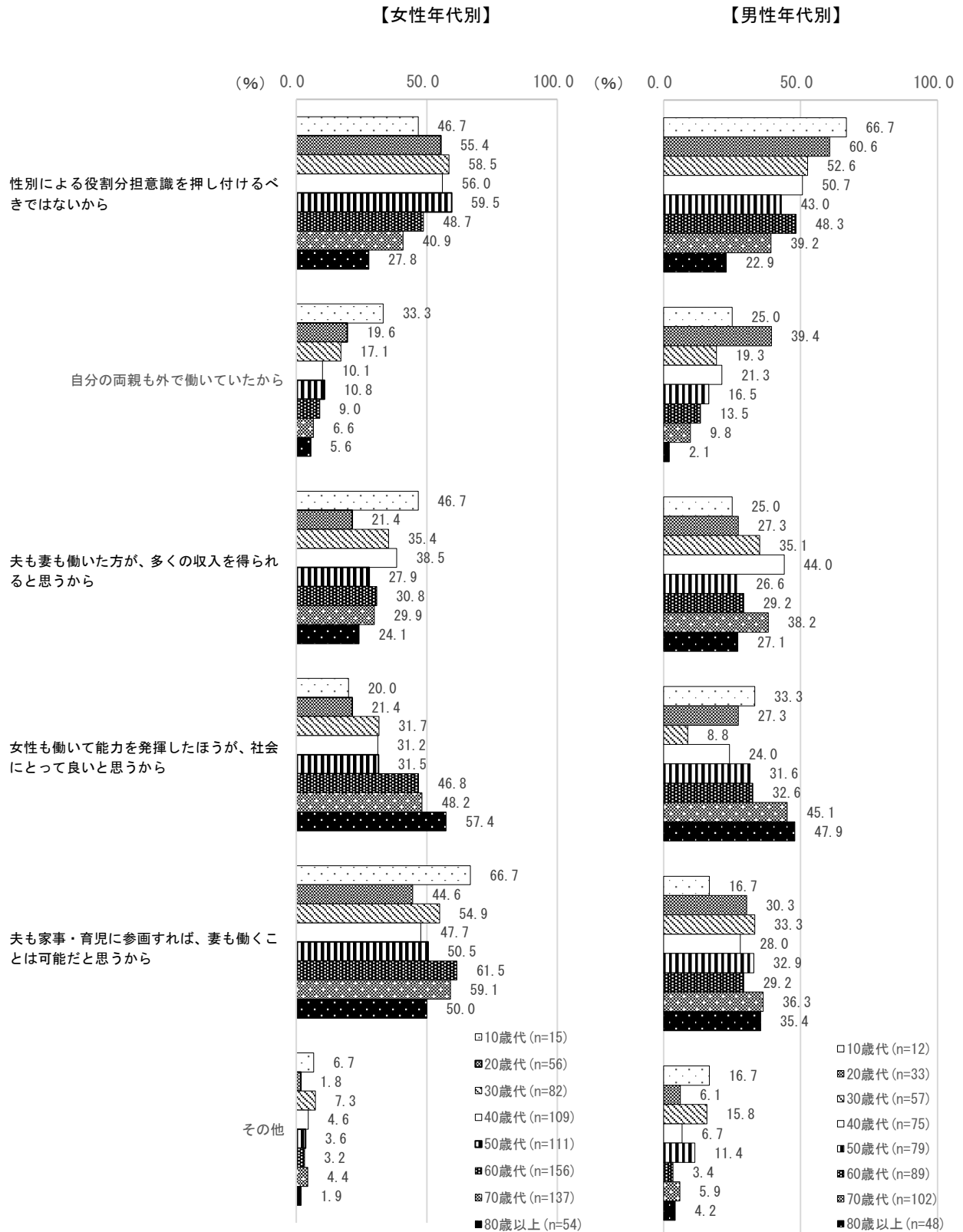
全体では「性別による役割分担意識を押し付けるべきではないから」が47.5%で最も高く、次いで「夫も家事・育児に参画すれば、妻も働くことは可能だと思うから」が45.4%、「女性も働いて能力を發揮したほうが、社会にとって良いと思うから」が36.2%と続いており、男女間の相違は、女性は「夫も家事・育児に参画すれば、妻も働くことは可能だと思うから」が1位項目、男性が「夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が2位項目となっている。また、他調査との比較では、全体2位項目の「夫も家事・育児に参画すれば、妻も働くことは可能だと思うから」は、内閣府調査では5位項目であり、妻の就労に対する考え方に差がみられる。令和1年調査は単回答のため参考として掲載しているが同様の傾向がみられる。



【R1年佐賀県調査※単一回答】



性別・年齢別にみると、全体2位項目の「夫も家事・育児に参画すれば、妻も働くことは可能だと思うから」は、男性よりも女性の方が全世代で回答が多かった。



【全員がお答えください】

問4 あなたのご家庭では、日常の家事（炊事・掃除・洗濯など）は主にどなたが行っていますか。また、あなたはどのような仕事の分担が理想的だと考えますか。（○はそれぞれ1つ）

理想と考える仕事の分担は「夫婦とも同じくらい」が過半数を超えている。  
現実の日常家事は「主に妻」が6割以上負担。理想と現実の乖離は2倍以上。

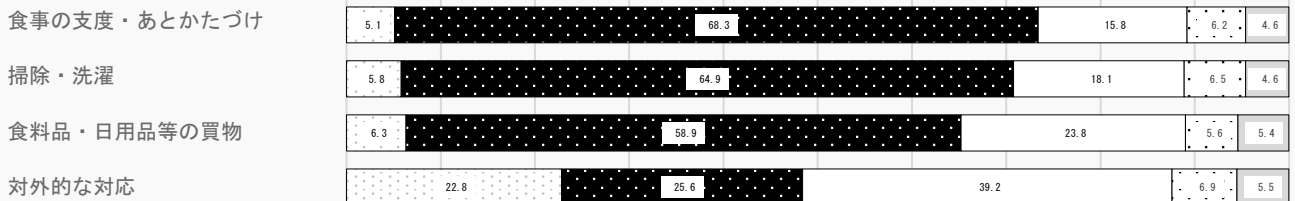
全ての項目において理想と考える仕事の分担は「夫婦とも同じくらい」が過半数を超えているものの、現在の仕事の分担で食事や掃除等の日常の家事は6割以上、子育てに関する項目は3割以上を「主に妻」が担っており、「夫婦とも同じくらい」とする理想の仕事の役割分担と現実の仕事の役割分担との乖離は2倍以上となっている。

【R7年佐賀県調査：n=1,713】

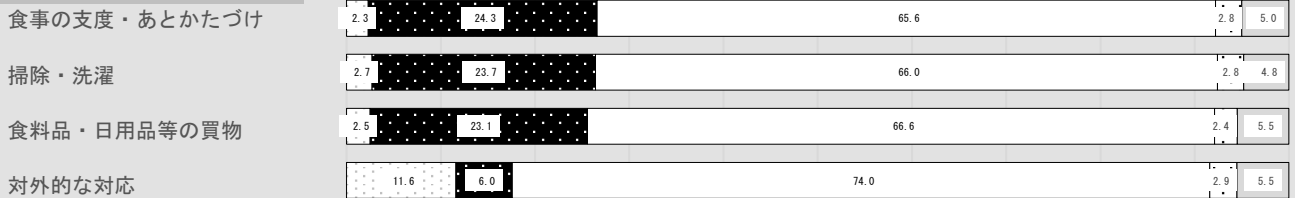
【食事や掃除等の日常の家事】

□主に夫 ■主に妻 □夫婦とも同じくらい □主に他の人 □無回答  
0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%

現在の仕事の分担



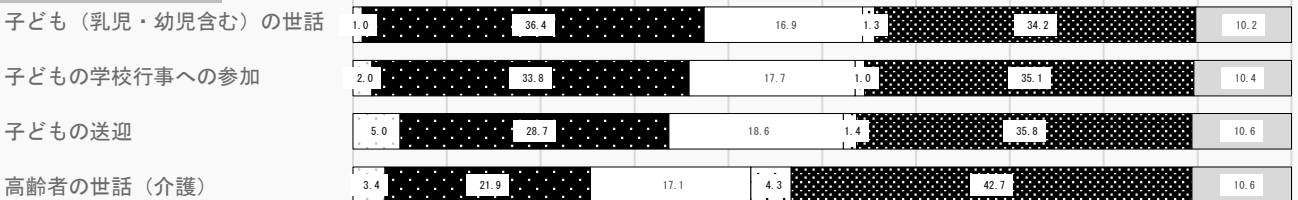
理想と考える仕事の分担



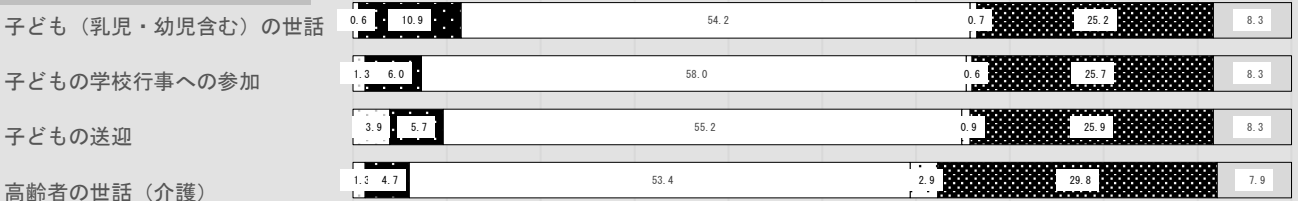
【子育てに関する項目】

□主に夫 ■主に妻 □夫婦とも同じくらい □主に他の人 ■子どもや高齢者はいない □無回答  
0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%

現在の仕事の分担



理想と考える仕事の分担



【現在の仕事の分担】

問4① 食事の支度・あとかたづけ

男女ともに「主に妻」が1位項目、「夫婦とも同じくらい」が2位項目となっており、食事の支度・あとかたづけは68.3%と女性の分担が多くなっている。

性別で見ると、半数以上が男女双方とも「妻」が主に行っていると回答する一方で、男性は女性よりも「主に夫」「夫婦とも同じくらい」と答えた割合が多かった。

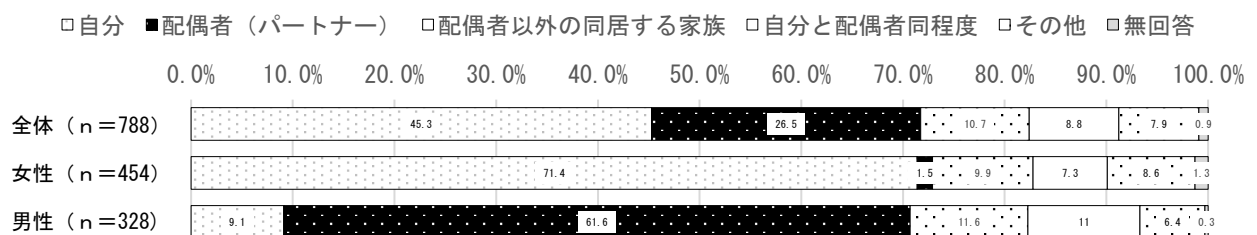
年齢別では、40代以下は40代以上と比べて、「夫婦とも同じくらい」と答えた割合が多い傾向にある。

※経年比較は選択項目が相違するため参考として掲載している。

【R7年佐賀県調査：n=1,713】



R1年佐賀県調査【日常の家事担当】



※H26年調査は選択項目が相違しており、図表での比較は行っていない。①～⑦同様

問4②掃除・洗濯

男女ともに「主に妻」が1位項目、「夫婦とも同じくらい」が2位項目となっており、掃除・洗濯は64.9%と女性の分担が多くなっている。

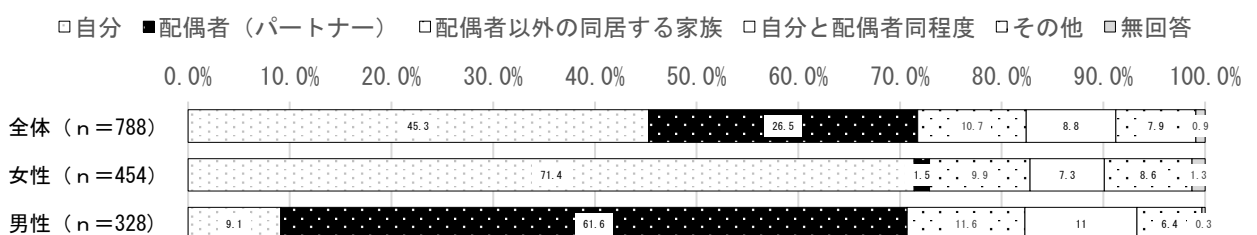
性別・年齢別で見ると男性は「主に夫」の認識が20・30歳代を除き女性よりも2.0～12.9ポイント高く、逆に女性は「主に妻」が全世代で男性より3.1～29.0ポイント高くなっている。また、「夫婦とも同じくらい」は全世代で男性が女性よりも高くなっている。

※経年比較は選択項目が相違するため参考として掲載している。

【R7年佐賀県調査：n=1,713】



R1年佐賀県調査【日常の家事担当】



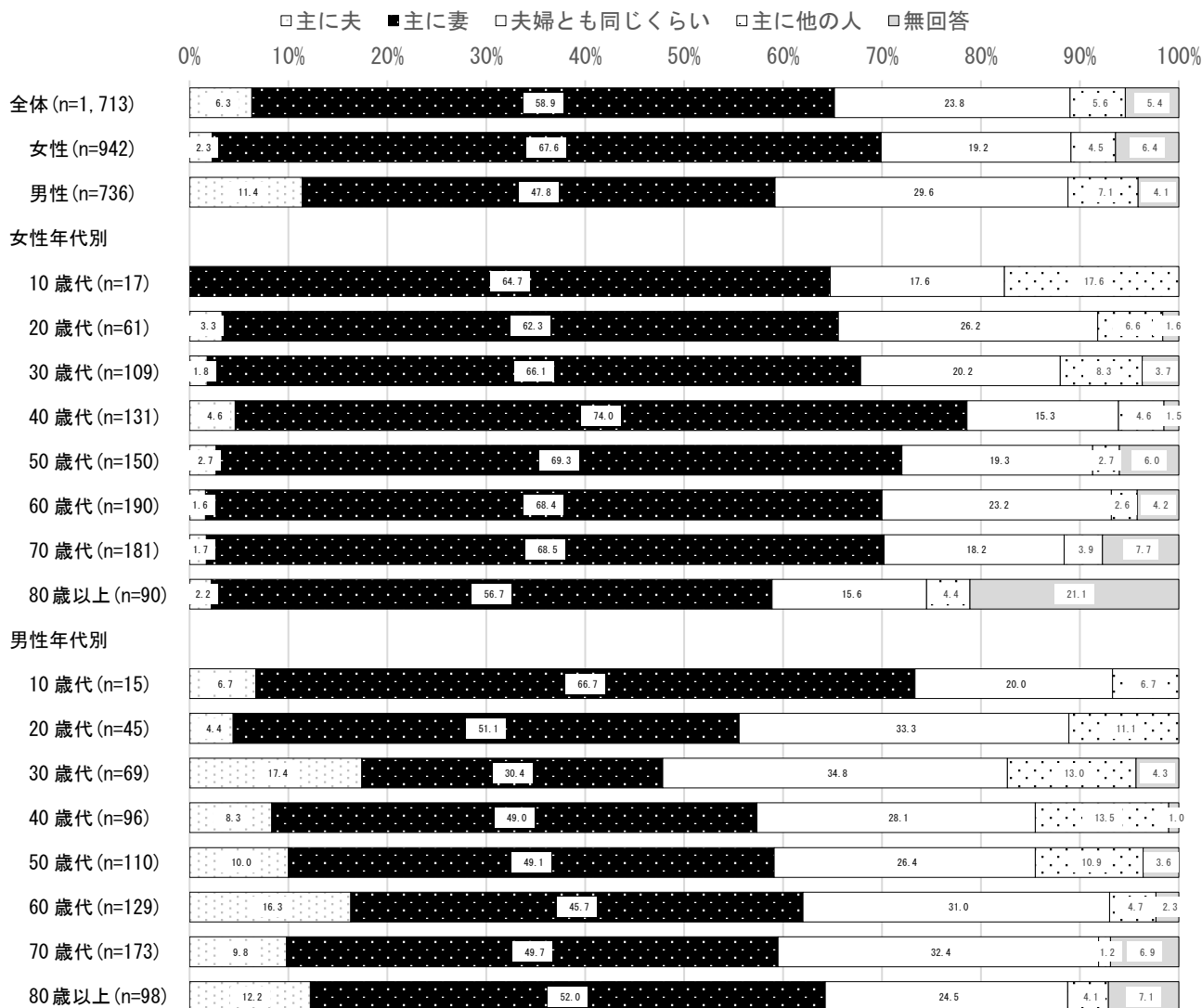
問4③食料品・日用品等の買物

男女ともに「主に妻」が1位項目、「夫婦とも同じくらい」が2位項目となっており、食料品・日用品等の買物は58.9%と女性の分担が多くなっている。

性別・年齢別でみると男性は「主に夫」の認識が全世代で女性よりも1.1~15.6ポイント高く、逆に女性は「主に妻」が10歳代を除きで男性より4.7~35.7ポイント高くなっている。また、「夫婦とも同じくらい」は全世代で男性が女性よりも高くなっている。

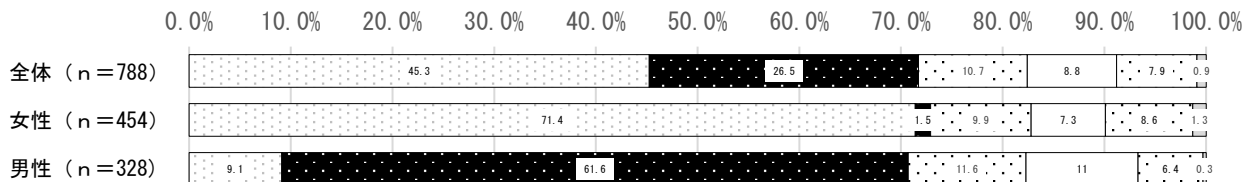
※経年比較は選択項目が相違するため参考として掲載している。

【R7年佐賀県調査：n=1,713】



R1年佐賀県調査【日常の家事担当】

□自分 ■配偶者（パートナー） □配偶者以外の同居する家族 □自分と配偶者同程度 □その他 □無回答



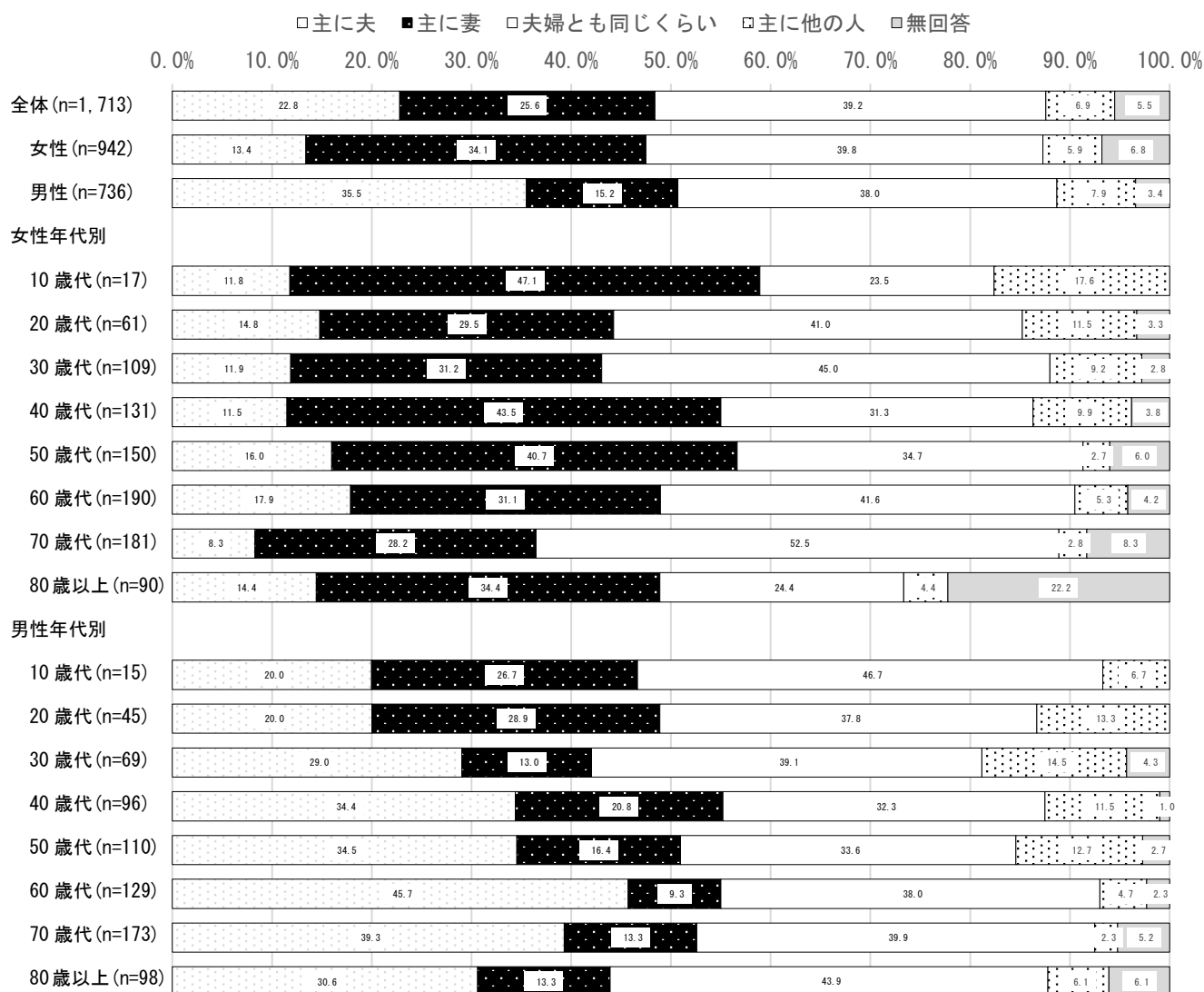
問4④対外的な対応（町内会等のご近所付き合い、親戚付き合いなど）

男女ともに「夫婦とも同じくらい」が1位項目、女性は「主に妻」、男性は「主に夫」が2位項目となっており、対外的な対応（町内会等のご近所付き合い、親戚付き合いなど）は役4割が「夫婦とも同じくらい」となっている。

性別・年齢別で見ると男性は「主に夫」の認識が全世代で女性よりも5.2～31.0ポイント高く、逆に女性は「主に妻」が全ての年代で男性より0.6～24.3ポイント高くなっている。また、「夫婦とも同じくらい」は20・30歳代、50～70歳代で女性が男性よりも高くなっている。

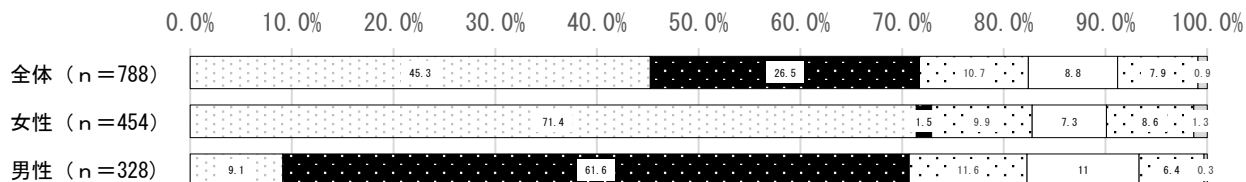
※経年比較は選択項目が相違するため参考として掲載している。

【R7年佐賀県調査：n=1,713】



R1年佐賀県調査【日常の家事担当】

□自分 ■配偶者（パートナー） □配偶者以外の同居する家族 □自分と配偶者同程度 □その他 □無回答



問4⑤子ども（乳児・幼児含む）の世話

全体で「子どもや高齢者はいない」を除き「主に妻」が36.4%で最も高く、次いで「夫婦とも同じくらい」が16.9%、「主に他の人」が1.3%と続いている。

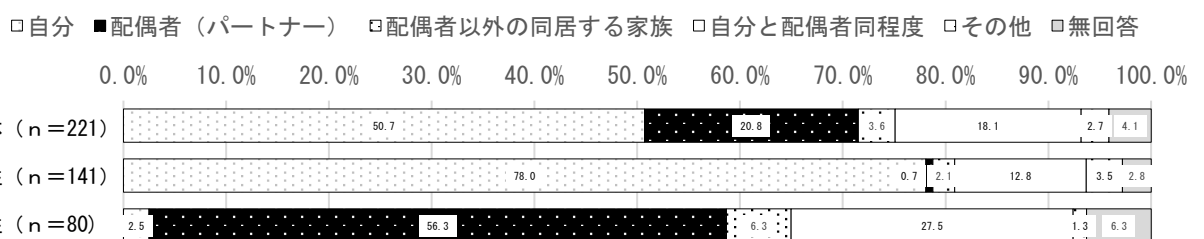
性別・年齢別でみると、男性30歳代で「夫婦とも同じくらい」が「主に妻」をやや上回ったものの、男女ともに他世代は「主に妻」が「夫婦とも同じくらい」上回っており、育児は女性の役割が高くなっている。

※経年比較は選択項目が相違するため参考として掲載している。

【R7 年佐賀県調査：n=1,713】



R1 年佐賀県調査【日常の子どもの世話：18歳未満の子供がいる方】



#### 問4⑥子どもの学校行事への参加

全体で「子どもや高齢者はいない」を除き「主に妻」が33.8%で最も高く、次いで「夫婦とも同じくらい」が17.7%、「主に夫」が2.0%と続いている。

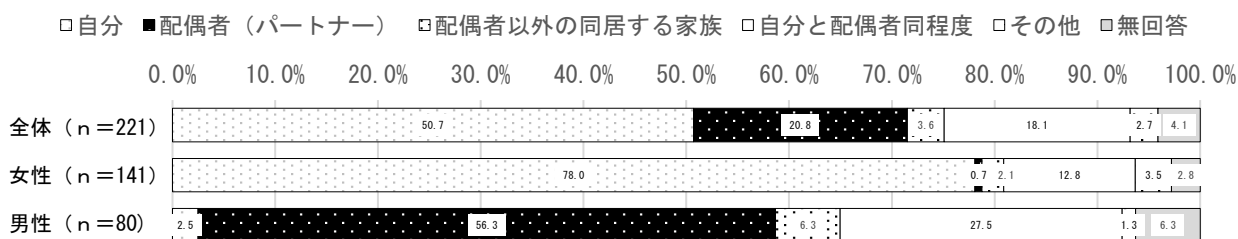
性別・年齢別でみると、男性30・40歳代で「夫婦とも同じくらい」が「主に妻」を上回ったものの、男女ともに他世代は「主に妻」が「夫婦とも同じくらい」上回っており、育児は女性の役割が高くなっている。

※経年比較は選択項目が相違するため参考として掲載している。

【R7年佐賀県調査：n=1,713】



R1年佐賀県調査【日常の子どもの世話：18歳未満の子供がいる方】



#### 問4⑦子どもの送迎

全体で「子どもや高齢者はいない」を除き「主に妻」が28.7%で最も高く、次いで「夫婦とも同じくらい」が18.6%、「主に夫」が5.0%と続いている。

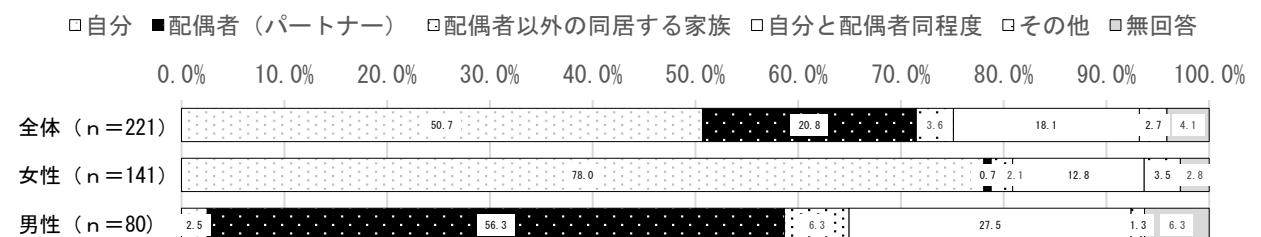
性別・年齢別でみると、男性20・40歳代で「主に妻」が「夫婦とも同じくらい」を上回ったものの、他世代は「夫婦とも同じくらい」が「主に妻」とイコール又は上回っている。女性は「主に妻」が「夫婦とも同じくらい」を上回っている。

※経年比較は選択項目が相違するため参考として掲載している。

【R7年佐賀県調査：n=1,713】



R1年佐賀県調査【日常の子どもの世話：18歳未満の子供がいる方】



#### 問4⑧高齢者の世話（介護）

全体で「子どもや高齢者はいない」を除き「主に妻」が21.9%で最も高く、次いで「夫婦とも同じくらい」が17.1%、「主に他の人」が4.3%と続いている。

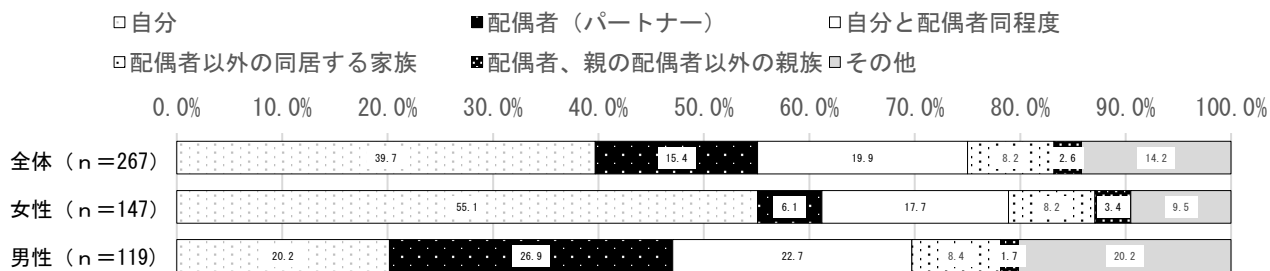
性別・年齢別でみると、男性70歳代以上を除き「主に妻」が「夫婦とも同じくらい」を上回っており、女性は全ての世代で「主に妻」が「夫婦とも同じくらい」を上回っている。

※経年比較は選択項目が相違するため参考として掲載している。

【R7年佐賀県調査：n=1,713】



R1年佐賀県調査【親の世話や介護の担当：世話や介護が必要な親がいる方】



【理想と考える仕事の分担】

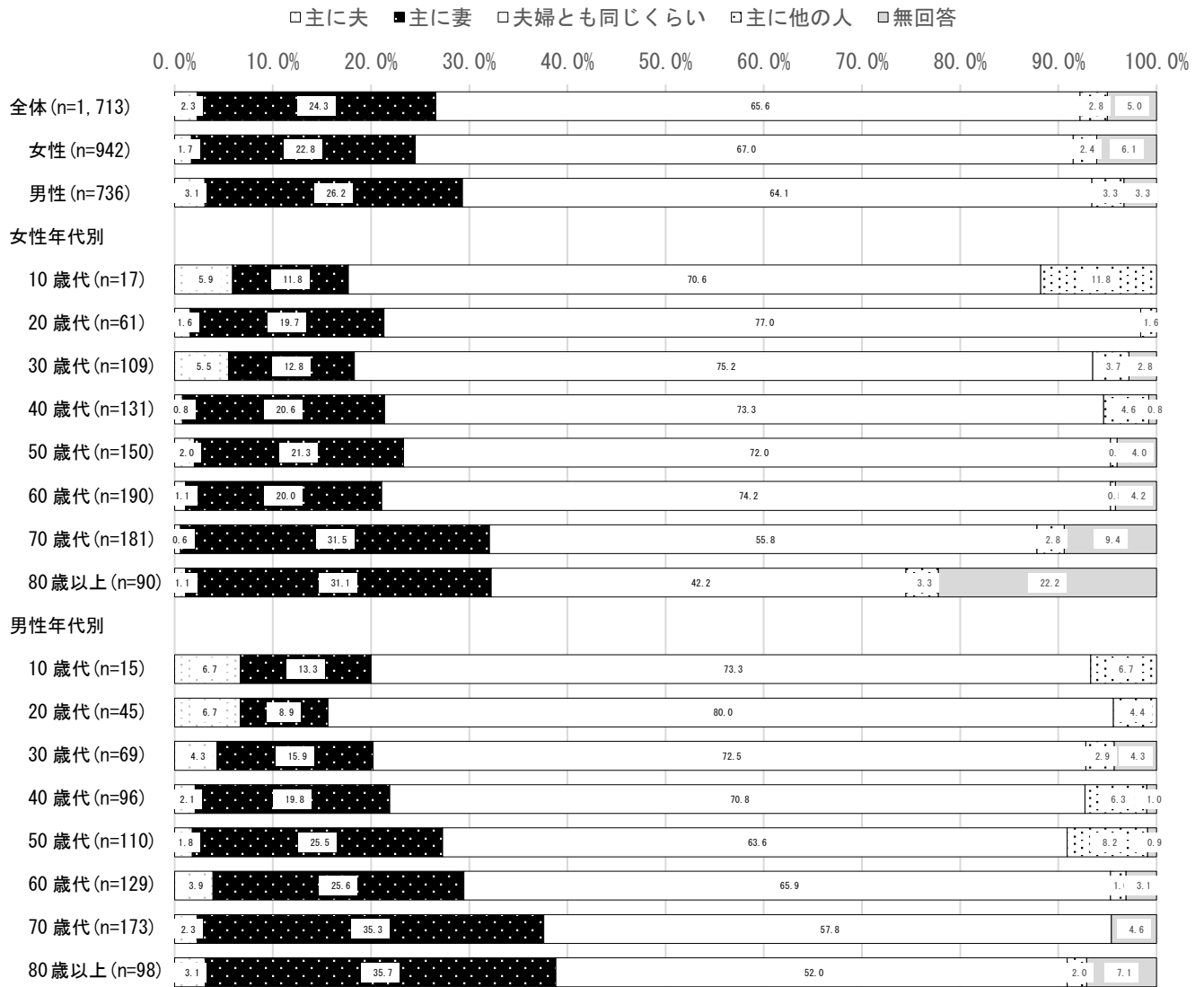
問4㊟食事の支度・あとかたづけ

全体で「夫婦とも同じくらい」が65.6%で最も高く、次いで「主に妻」が24.3%、「主に他の人」が2.8%と続いている。

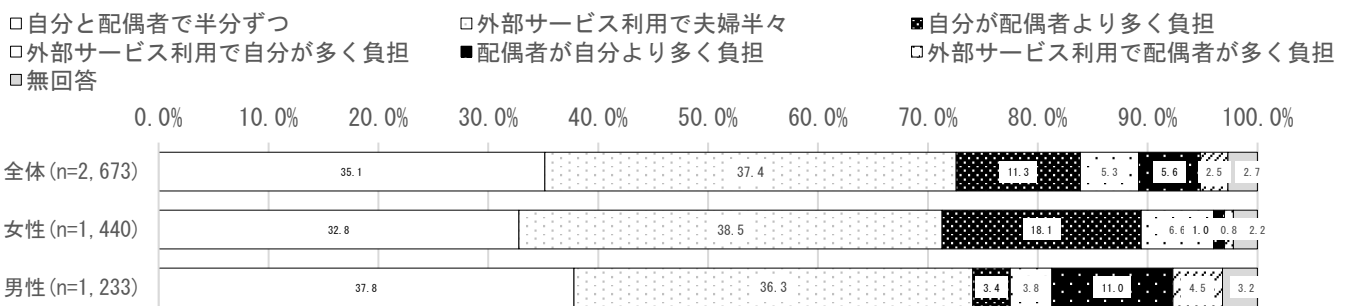
性別・年齢別でも男女とも全体と同様の傾向がみられ「夫婦とも同じくらい」の回答が多く、食事の支度・あとかたづけは「主に妻」が2位項目となっている。

※内閣府調査比較は選択項目が相違するため参考として掲載しているが、同様の傾向がみられ、男女ともに半々の分担が出来ない場合女性に家事分担を求める割合が高い。

【R7年佐賀県調査：n=1,713】



R6年内閣府調査【育児・介護以外の家事に対する配偶者との役割分担】



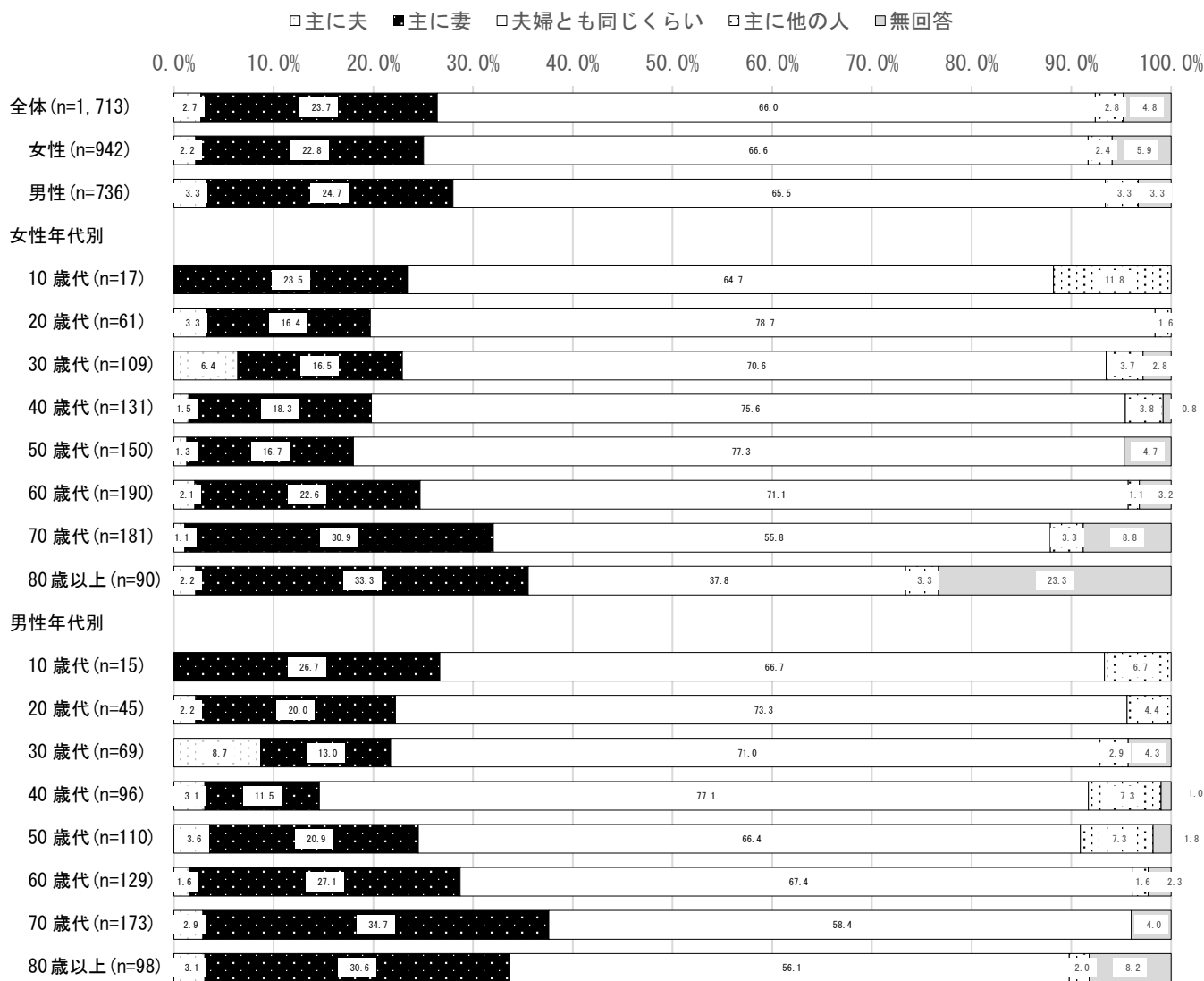
問4⑩掃除・洗濯

全体で「夫婦とも同じくらい」が66.0%で最も高く、次いで「主に妻」が23.7%、「主に他の人」が2.8%と続いている。

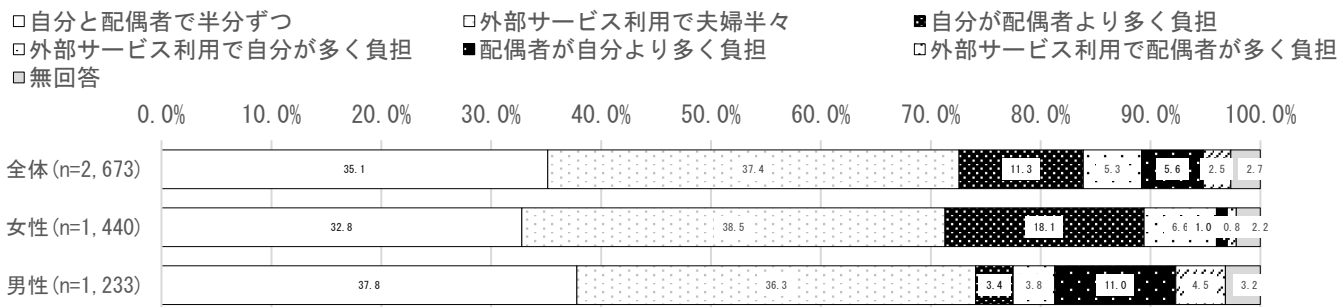
性別・年齢別でも男女とも全体と同様の傾向がみられ「夫婦とも同じくらい」の回答が多く、掃除・洗濯は「主に妻」が2位項目となっている。

※内閣府調査比較は選択項目が相違するため参考として掲載しているが、同様の傾向がみられ、男女ともに半々の分担が出来ない場合女性に家事分担を求める割合が高い。

【R7年佐賀県調査：n=1,713】



R6年内閣府調査【育児・介護以外の家事に対する配偶者との役割分担】



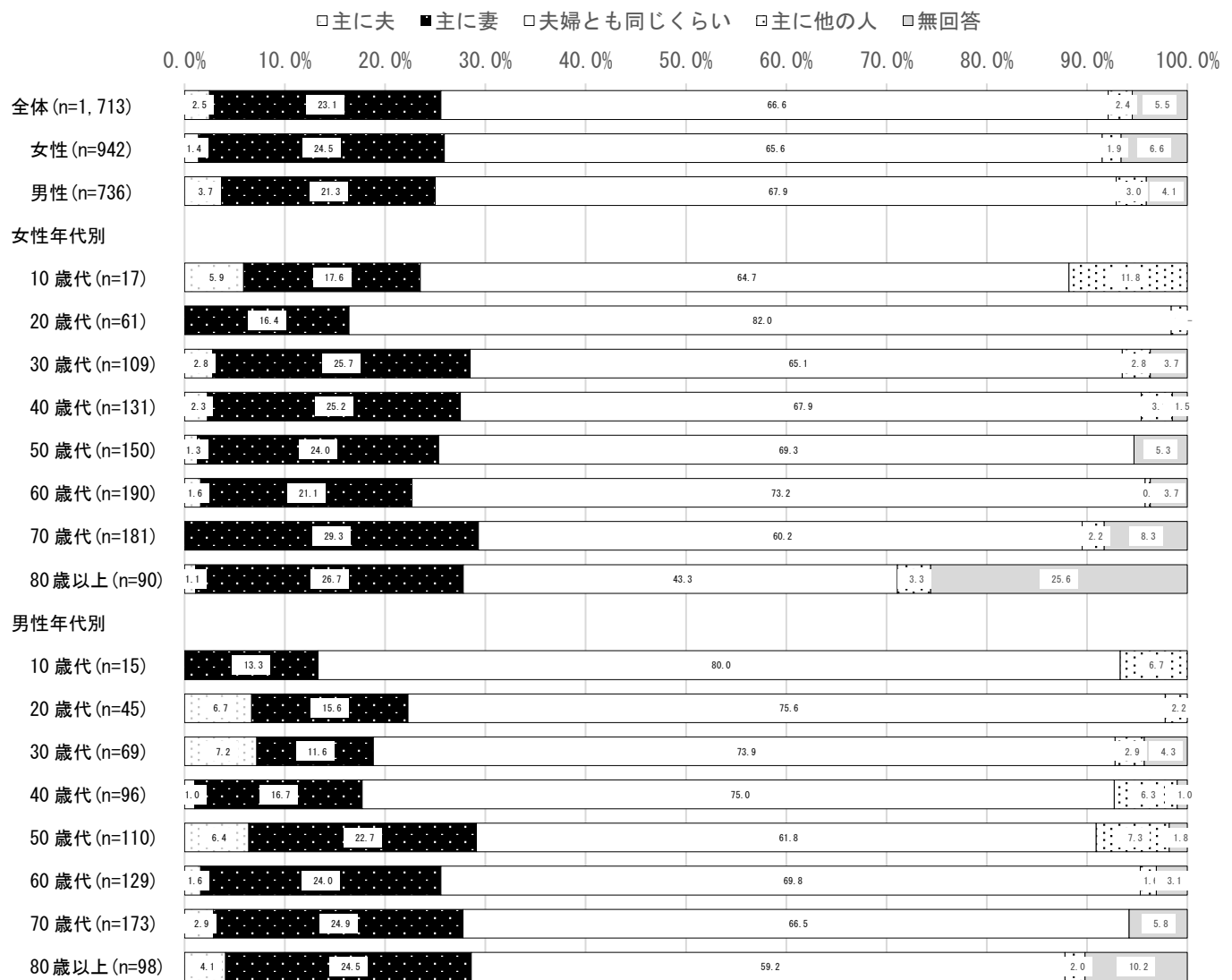
問4⑪食料品・日用品等の買物

全体で「夫婦とも同じくらい」が66.6%で最も高く、次いで「主に妻」が23.1%、「主に夫」が2.5%と続いている。

性別・年齢別でみても男女とも全体と同様の傾向がみられ「夫婦とも同じくらい」の回答が多く、買い物は「主に妻」が2位項目となっている。

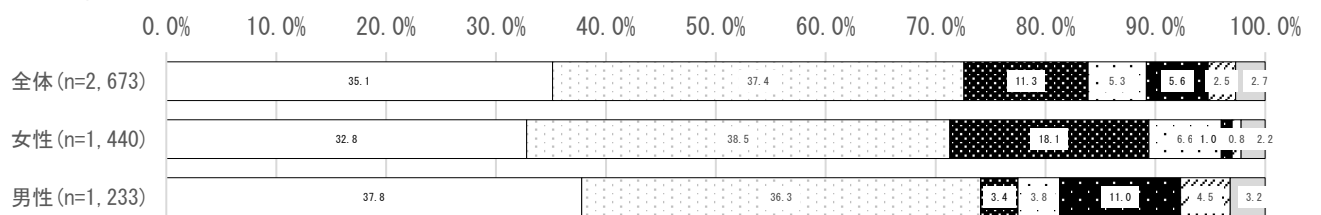
※内閣府調査比較は選択項目が相違するため参考として掲載しているが、同様の傾向がみられ、男女ともに半々の分担が出来ない場合女性に家事分担を求める割合が高い。

【R7年佐賀県調査：n=1,713】



R6年内閣府調査【育児・介護以外の家事に対する配偶者との役割分担】

- 自分と配偶者で半分ずつ
- 外部サービス利用で夫婦半々
- 自分が配偶者より多く負担
- 外部サービス利用で自分が多く負担
- 配偶者が自分より多く負担
- 外部サービス利用で配偶者が多く負担
- 無回答



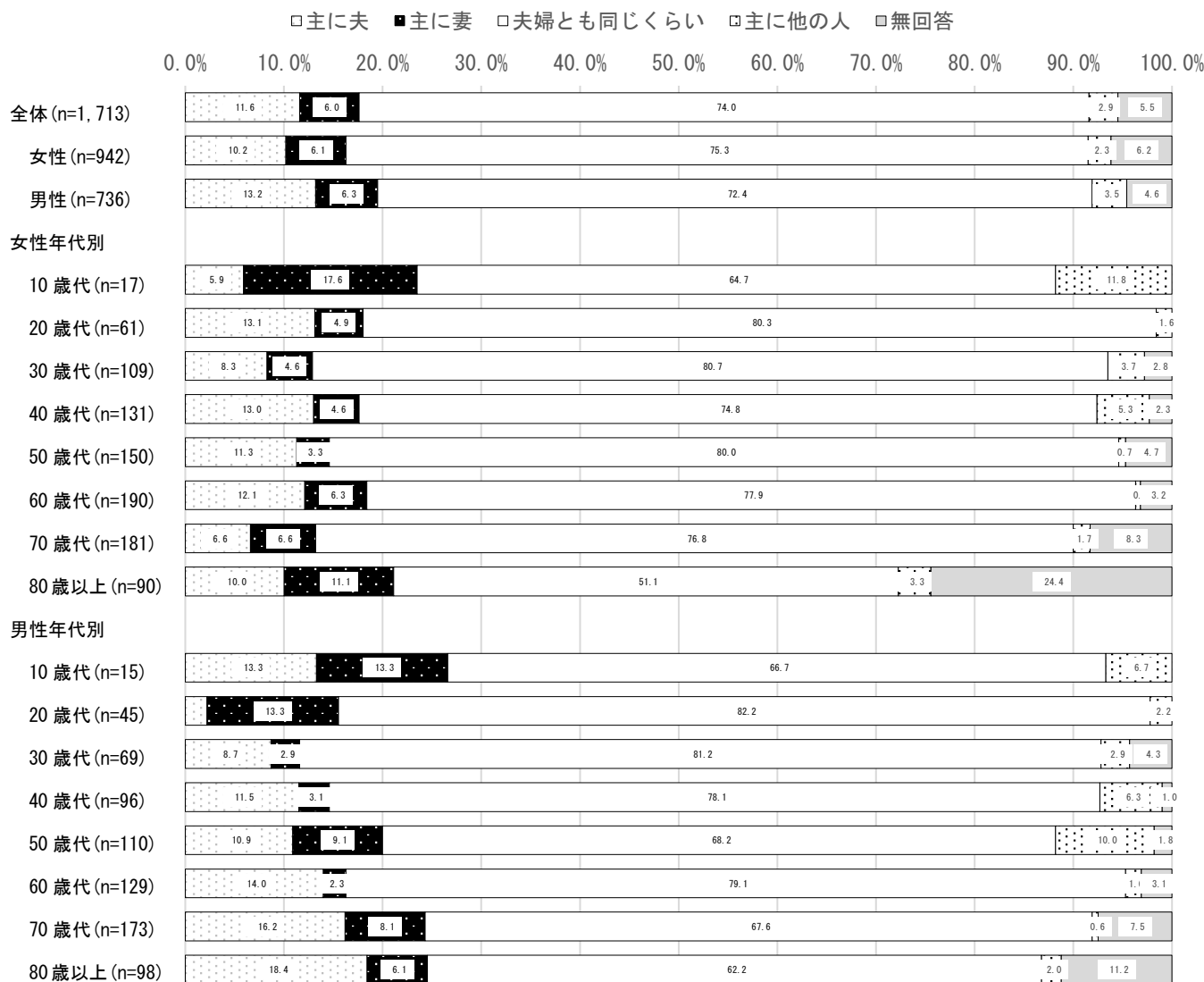
問4⑫対外的な対応（町内会等のご近所付き合い、親戚付き合いなど）

全体で「夫婦とも同じくらい」が74.0%で最も高く、次いで「主に夫」が11.6%、「主に妻」が6.0%と続いている。

性別・年齢別でみると10歳代女性、20歳代男性で「主に妻」が2位項目となった以外、男女とも全体と同様の傾向がみられ「夫婦とも同じくらい」の回答が多く、対外的対応は「主に夫」が2位項目となっている。

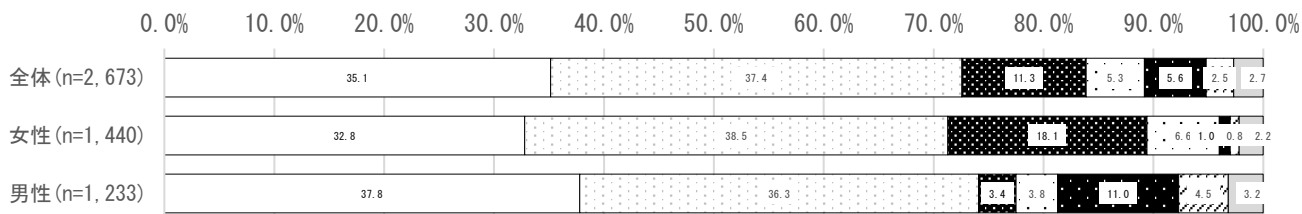
※内閣府調査比較は選択項目が相違するため参考として掲載しているが、同様の傾向がみられ、男女ともに半々の分担が出来ない場合男性に分担を求める割合が高い。

【R7 年佐賀県調査：n=1,713】



R6 年内閣府調査【育児・介護以外の家事に対する配偶者との役割分担】

- 自分と配偶者で半分ずつ
- 外部サービス利用で夫婦半々
- 自分が配偶者より多く負担
- 外部サービス利用で自分が多く負担
- 配偶者が自分より多く負担
- ▨外部サービス利用で配偶者が多く負担
- 無回答



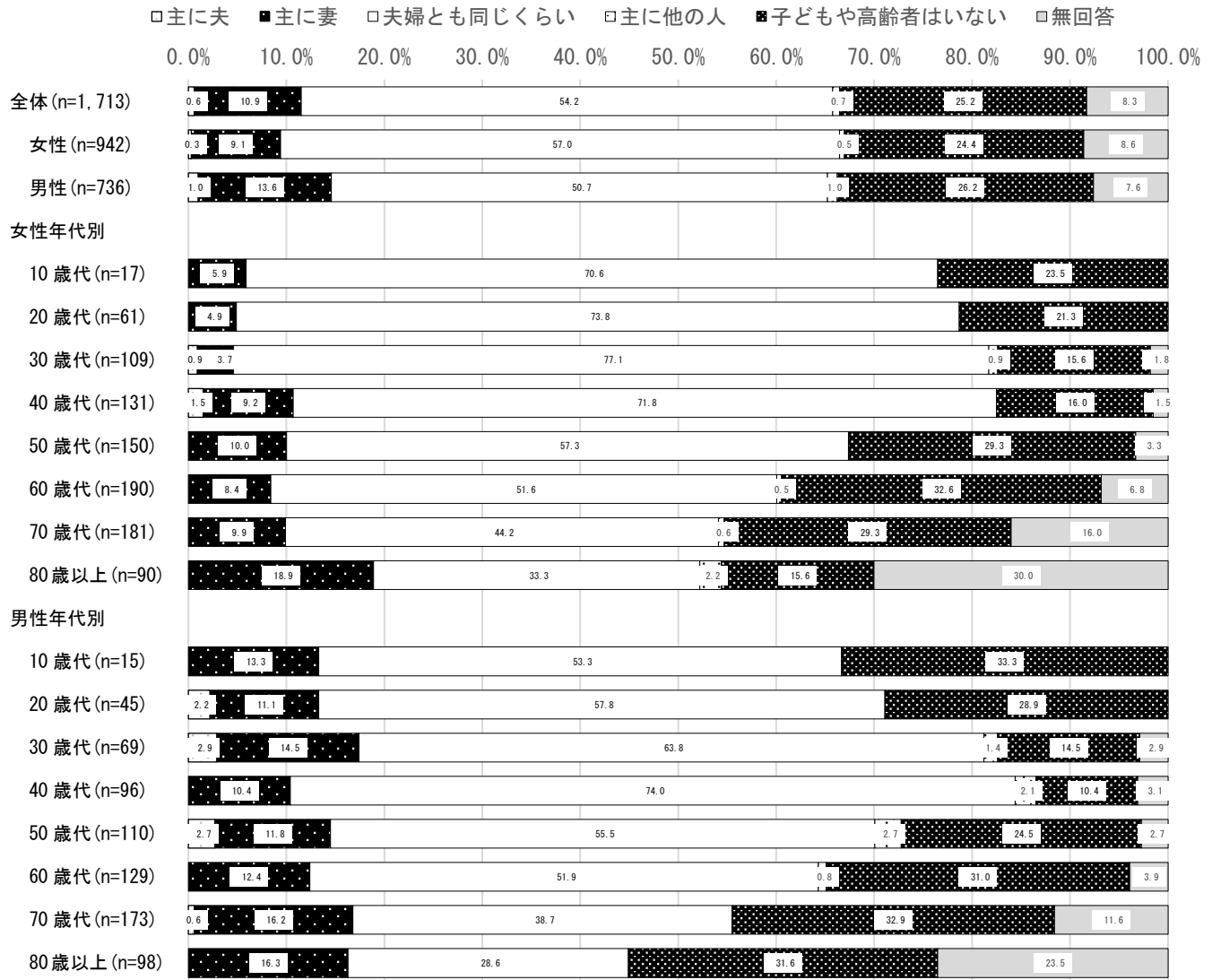
問4⑬子ども（乳児・幼児含む）の世話

全体で「子どもや高齢者はいない」を除き「夫婦とも同じくらい」が54.2%で最も高く、次いで「主に妻」が10.9%、「主に他の人」が0.7%と続いている。

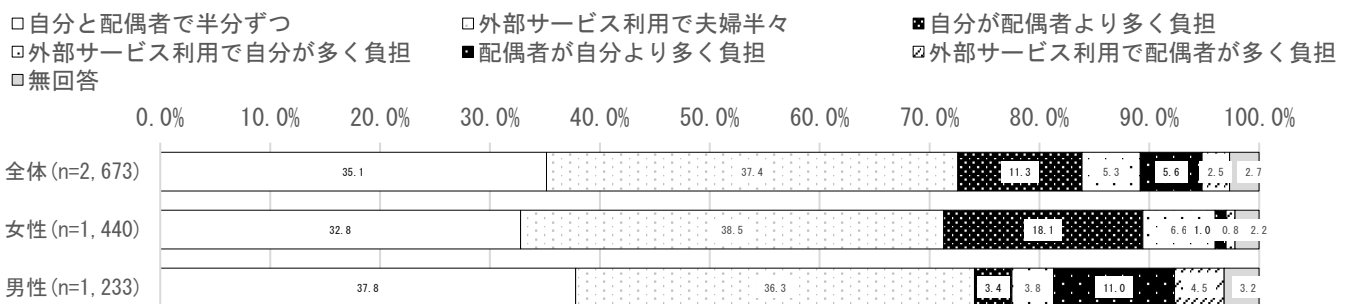
性別・年齢別でみると、男女とも全体と同様の傾向がみられ「夫婦とも同じくらい」の回答が多く、育児は「主に妻」が2位項目となっている。

※内閣府調査比較は選択項目が相違するため参考として掲載しているが、同様の傾向がみられ、男女ともに半々の分担が出来ない場合女性に育児分担を求める割合が高い。

【R7 年佐賀県調査：n=1,713】



R6 年内閣府調査【育児・介護以外の家事に対する配偶者との役割分担】



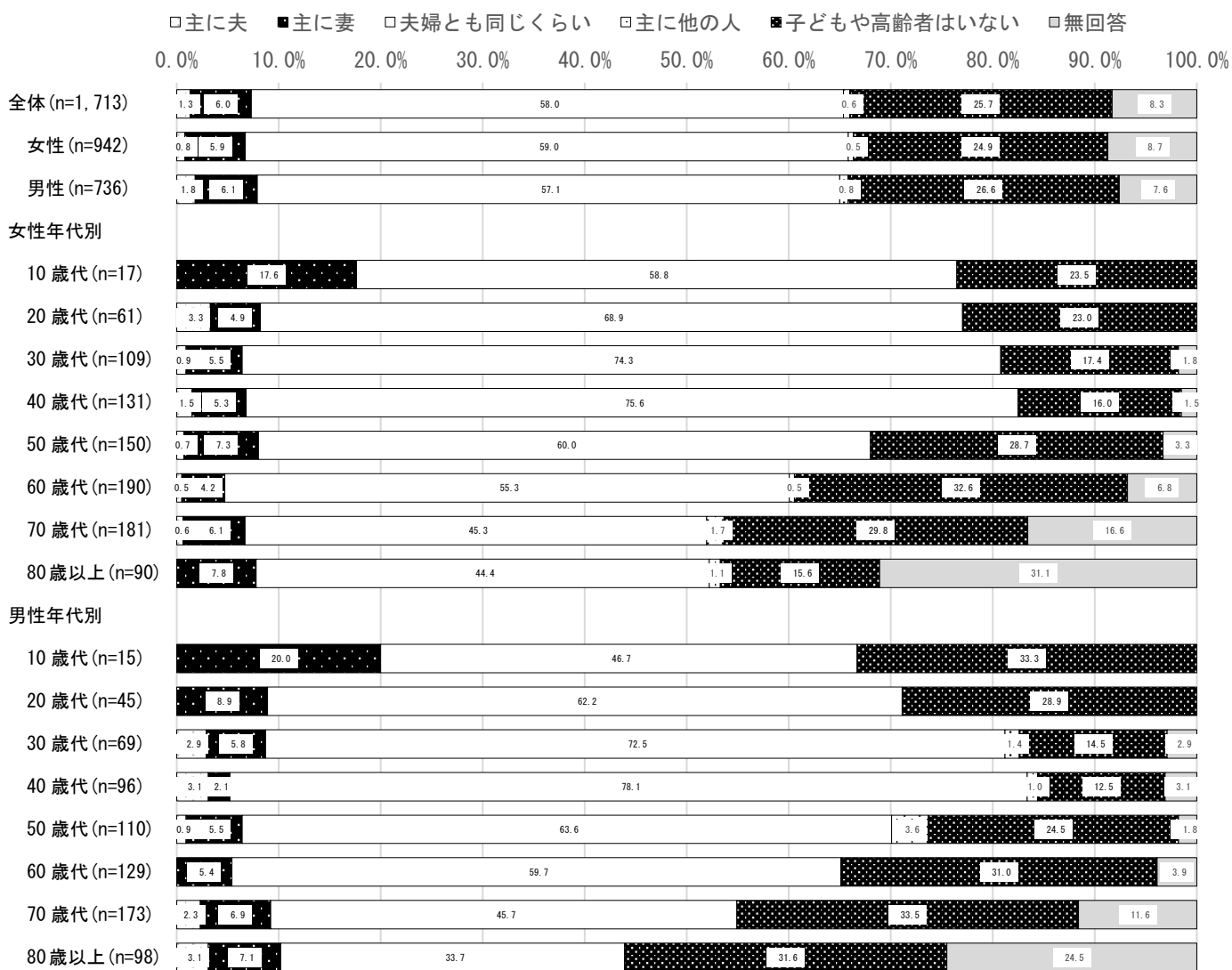
#### 問4⑭子どもの学校行事への参加

全体で「子どもや高齢者はいない」を除き「夫婦とも同じくらい」が58.0%で最も高く、次いで「主に妻」が6.0%、「主に夫」が1.3%と続いている。

性別・年齢別で見ると、男女とも全体と同様の傾向がみられ「夫婦とも同じくらい」の回答が多く、学校行事の参加は「主に妻」が2位項目となっている。

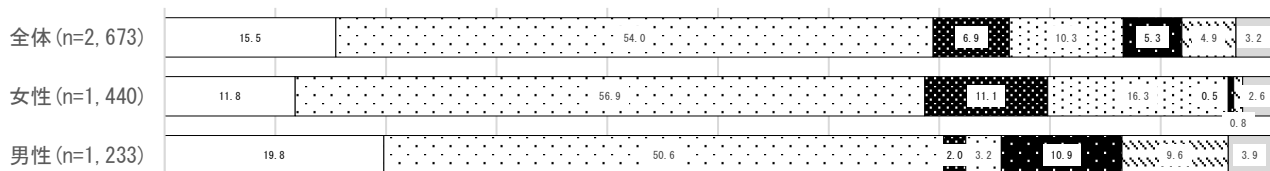
※内閣府調査比較は選択項目が相違するため参考として掲載しているが、同様の傾向がみられ、男女ともに半々の分担が出来ない場合女性に育児分担を求める割合が高い。

【R7 年佐賀県調査：n=1,713】



R6 年内閣府調査【育児などに対する配偶者との役割分担】

□自分と配偶者で半分ずつ □外部サービス利用で夫婦半々 ■自分が配偶者より多く負担 □配偶者が自分より多く負担 □外部サービス利用で配偶者が多く負担 □無回答



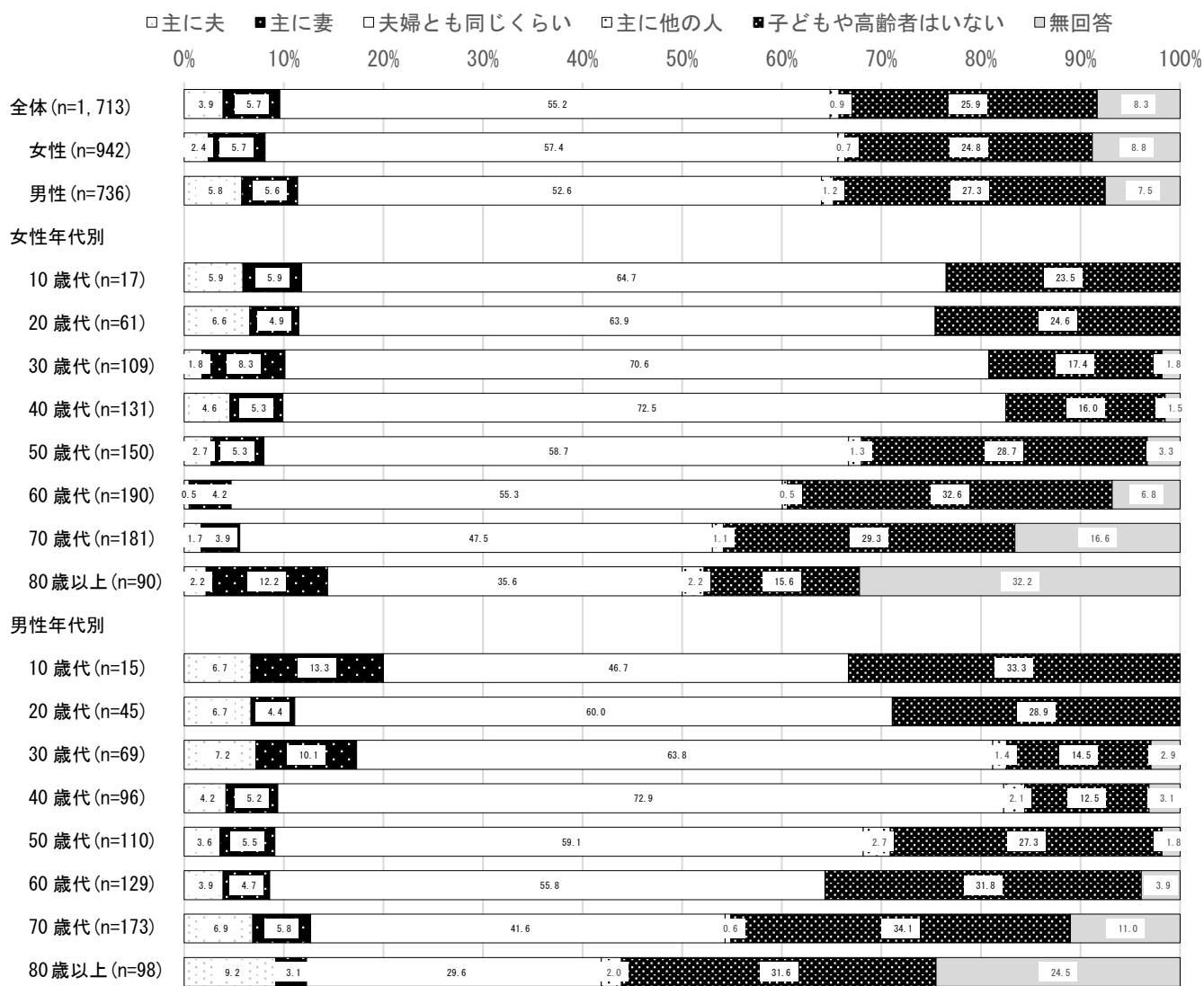
#### 問4⑮子どもの送迎

全体で「子どもや高齢者はいない」を除き「夫婦とも同じくらい」が55.2%で最も高く、次いで「主に妻」が5.7%、「主に夫」が3.9%と続いている。

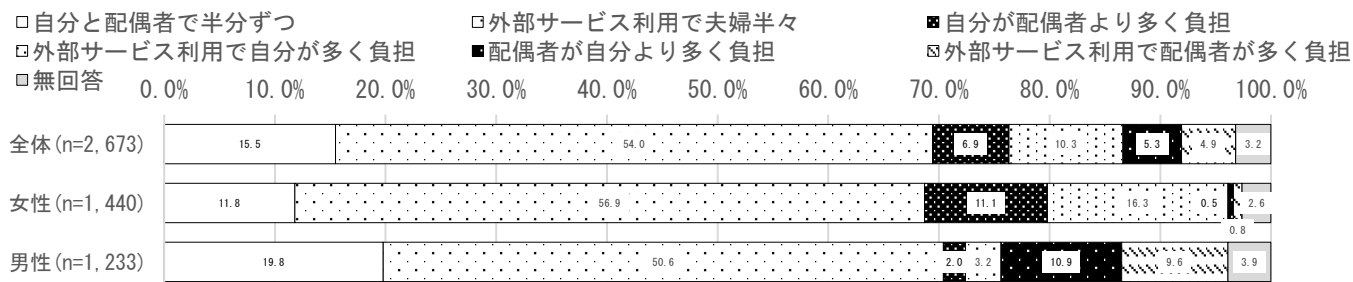
性別・年齢別でみると、20歳代は男女とも「主に夫」が2位項目となり、他世代は全体と同様の傾向がみられ「夫婦とも同じくらい」の対応が出来ない場合の子どもの送迎は「主に妻」との回答が多いものの、他の項目よりも「主に妻」・「主に夫」との乖離は低い。

※内閣府調査比較は選択項目が相違するため参考として掲載しているが、同様の傾向がみられ、男女ともに半々の分担が出来ない場合女性に育児分担を求める割合が高い。

【R7年佐賀県調査：n=1,713】



R6年内閣府調査【育児などに対する配偶者との役割分担】



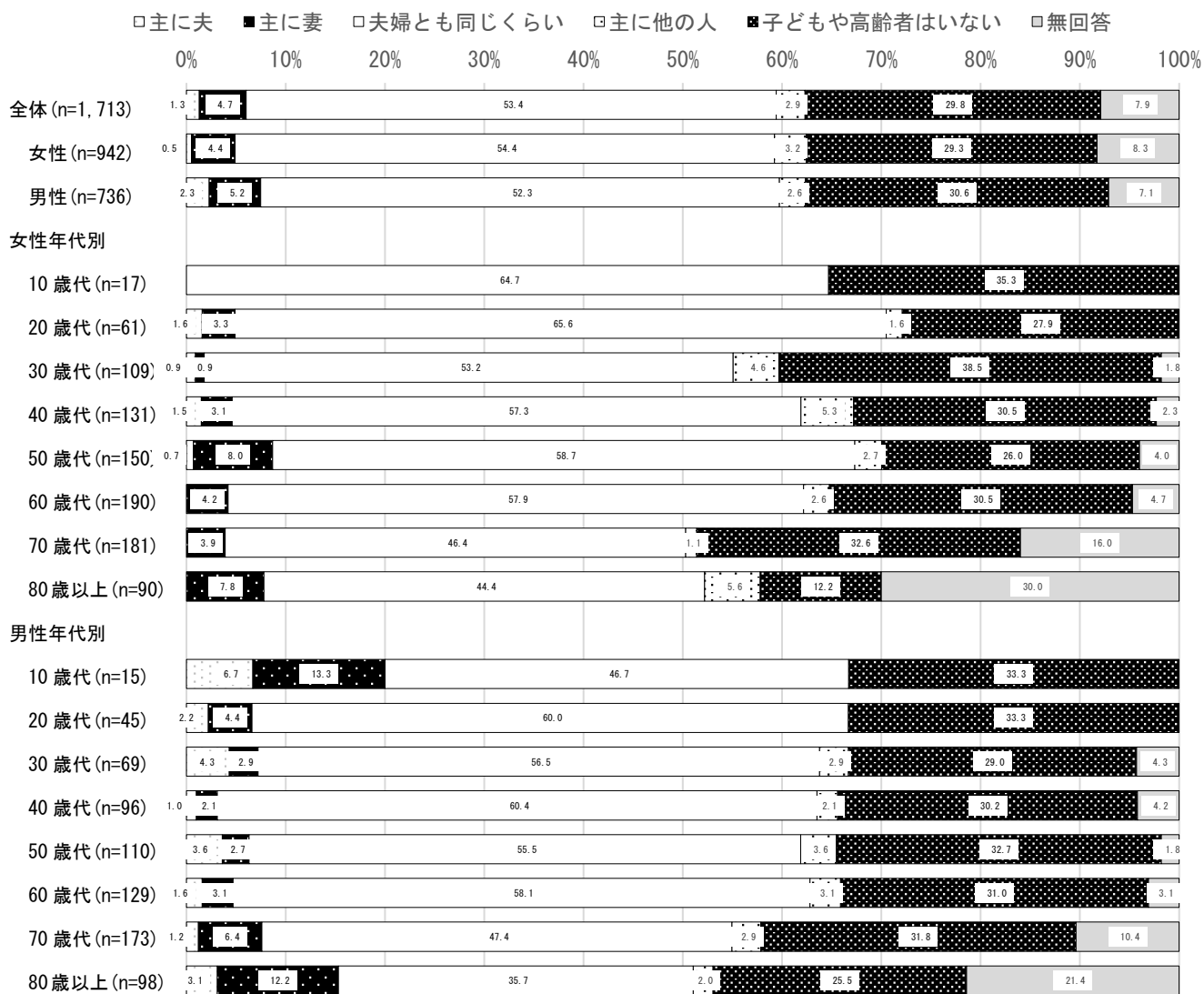
#### 問4⑩高齢者の世話（介護）

全体で「子どもや高齢者はいない」を除き「夫婦とも同じくらい」が53.4%で最も高く、次いで「主に妻」が4.3%、「主に他の人」が2.9%と続いている。

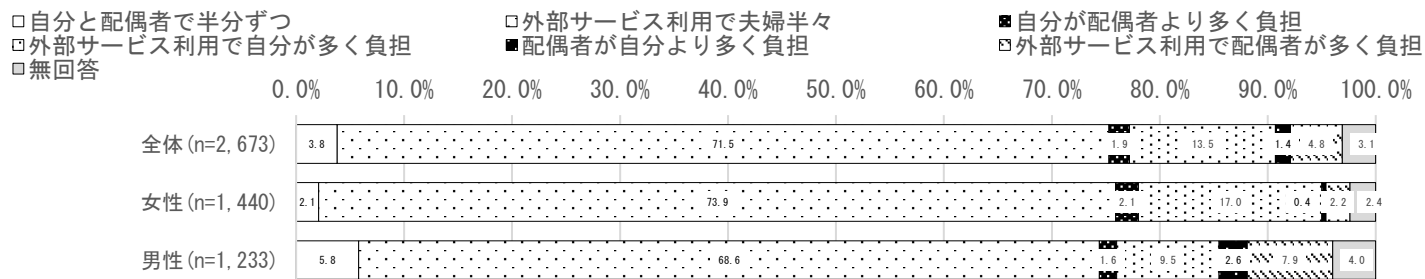
性別・年齢別でみると、男女とも全体と同様の傾向がみられ「夫婦とも同じくらい」の対応が出来ない場合の高齢者の世話は「主に妻」との回答が多い。

※内閣府調査比較は選択項目が相違するため参考として掲載しているが、同様の傾向がみられ、男女ともに半々の分担が出来ない場合女性に介護分担を求める割合が高い。

【R7年佐賀県調査：n=1,713】



R6年内閣府調査【介護に対する配偶者との役割分担】



【全員がお答えください】

問5 次の①～⑦について、あなたの考えに近いものは何ですか。(〇はそれぞれ1つ)

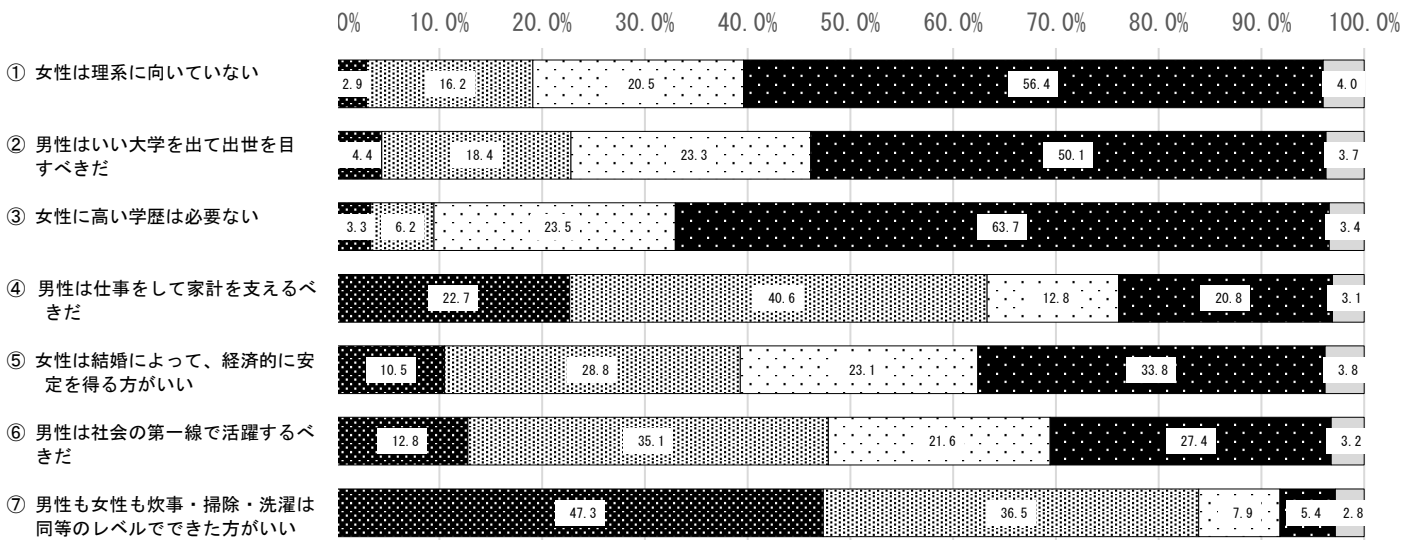
①～⑥の中では④が最も肯定が多く、③で最も否定が多かった。

男女共同参画の意識をみる設問として「⑦男性も女性も炊事・掃除・洗濯は同等のレベルでできた方がいい」は「思う(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)」が83.8%、「思わない(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)」が13.3%となっている。

その他①～⑥の項目で「思う」最も高いのは「④男性は仕事をして家計を支えるべきだ」で63.3%、次いで「⑥男性は社会の第一線で活躍するべきだ」が47.9%、「⑤女性結婚によって、経済的に安定を得る方がいい」が39.3%と続いており、「思わない」が最も高いのは「③女性に高い学歴は必要ない」で87.2%、次いで「①女性は理系に向いていない」が76.9%、「②男性はいい大学を出て出世を目指すべきだ」が73.4%、「⑤女性結婚によって、経済的に安定を得る方がいい」が56.9%と3項目全てで過半数以上を占め続けている。

【R7年佐賀県調査：n=1,713】

■ そう思う  
□ どちらかといえばそう思わない  
□ 無回答  
▨ どちらかといえばそう思う  
■ そう思わない



	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	思う	思わない
① 女性は理系に向いていない	2.9	16.2	20.5	56.4	4.0	19.1	76.9
② 男性はいい大学を出て出世を目指すべきだ	4.4	18.4	23.3	50.1	3.7	22.8	73.4
③ 女性に高い学歴は必要ない	3.3	6.2	23.5	63.7	3.4	9.5	87.2
④ 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	22.7	40.6	12.8	20.8	3.1	63.3	33.6
⑤ 女性は結婚によって、経済的に安定を得る方がいい	10.5	28.8	23.1	33.8	3.8	39.3	56.9
⑥ 男性は社会の第一線で活躍するべきだ	12.8	35.1	21.6	27.4	3.2	47.9	49.0
⑦ 男性も女性も炊事・掃除・洗濯は同等のレベルでできた方がいい	47.3	36.5	7.9	5.4	2.8	83.8	13.3

問5 ①女性は理系に向いていない

全体で「そう思わない」が56.4%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が20.5%、「どちらかといえばそう思う」が16.2%と続いており、「思う（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）」が19.1%、「思わない（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）」が76.9%となっている。

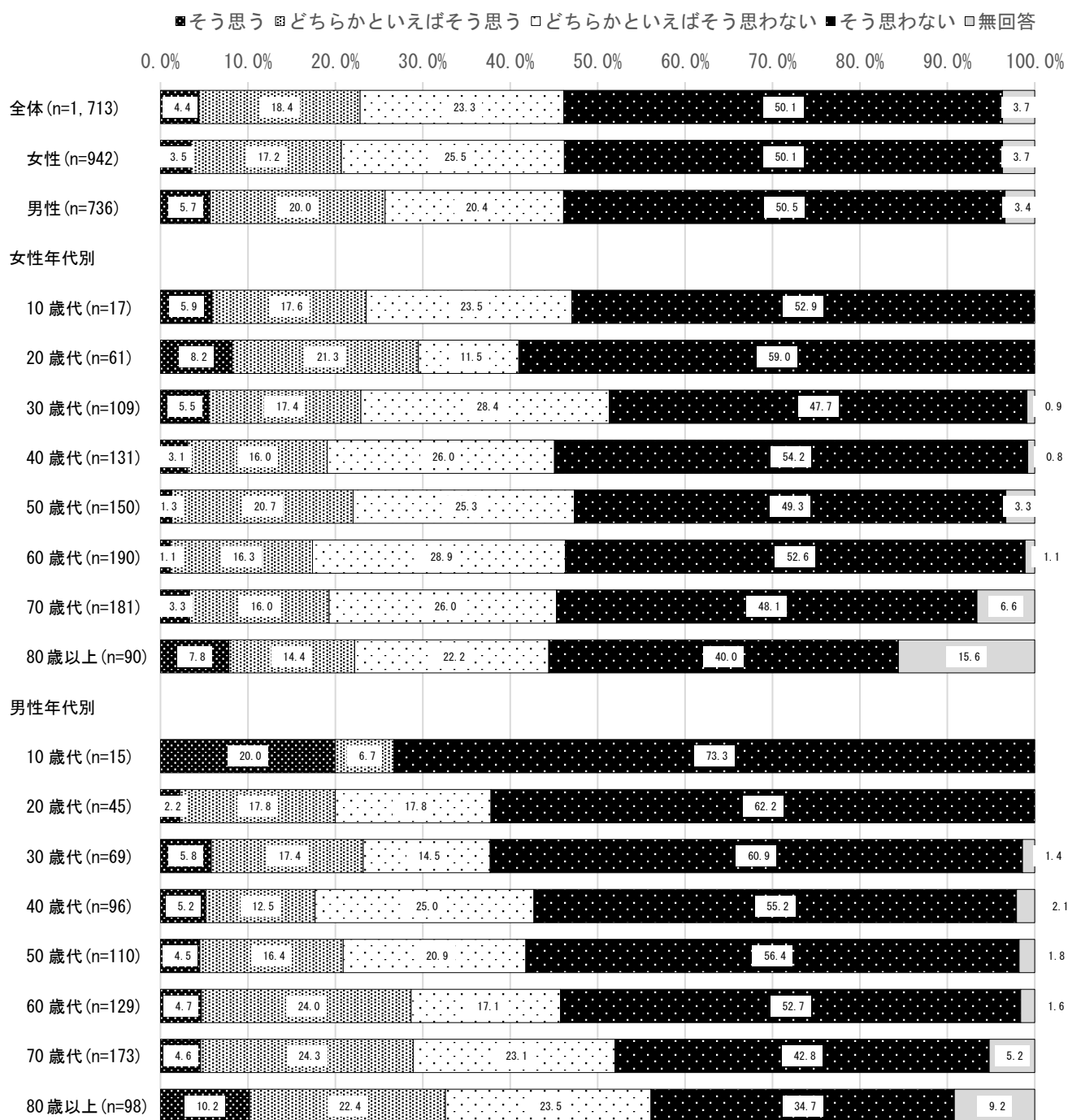
性別の傾向の相違はみられず「思わない」は女性が0.2ポイント高くなっており、性別・年齢別でも傾向の相違はみられないものの、男女とも50歳代以上で年代の上昇とともに「思う」が増加している。



## 問5 ②男性はいい大学を出て出世を目指すべきだ

全体で「そう思わない」が50.1%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が23.3%、「どちらかといえばそう思う」が18.4%と続いており、「思う」が22.8%、「思わない」が73.4%となっている。

性別の傾向の相違はみられず「思わない」は女性が4.7ポイント高くなっており、性別・年齢別でも傾向の相違はみられないものの、男性は40歳以上で年代の上昇とともに「思う」が増加している。



### 問5 ③女性に高い学歴は必要ない

全体で「そう思わない」が63.7%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が23.5%、「どちらかといえばそう思う」が6.2%と続いており、「思う」が9.5%、「思わない」が87.2%となっている。

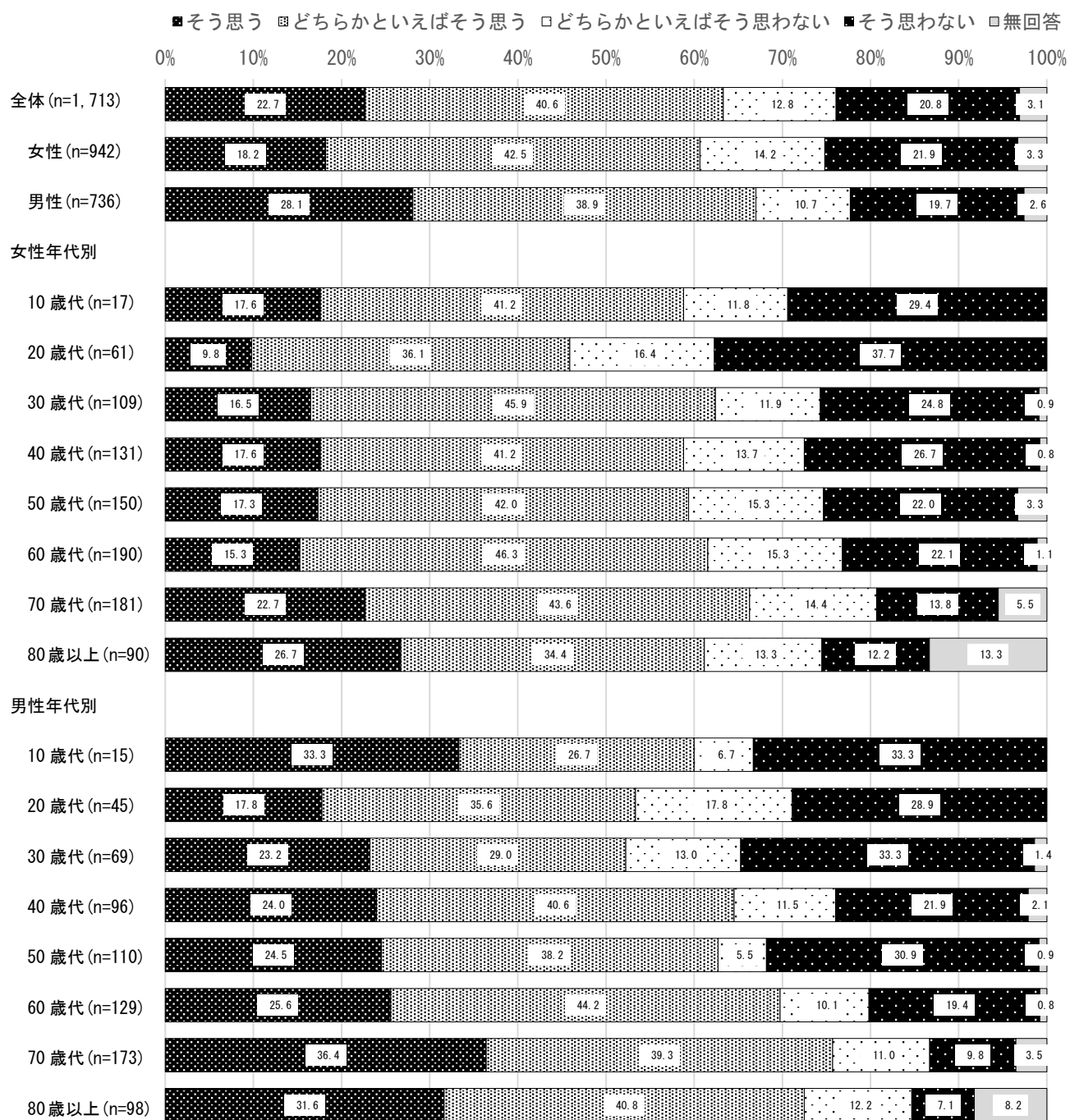
性別の傾向の相違はみられず「思わない」は男性が1.1ポイント高くなっており、性別・年齢別でも傾向の相違はみられないものの、男女ともに「思う」は30歳代が最も高くなっている。



## 問5 ④男性は仕事をして家計を支えるべきだ

全体で「どちらかといえばそう思う」が40.6%で最も高く、次いで「そう思う」が22.7%、「そう思わない」が20.8%と続いており、「思う」が63.3%、「思わない」が33.6%となっている。

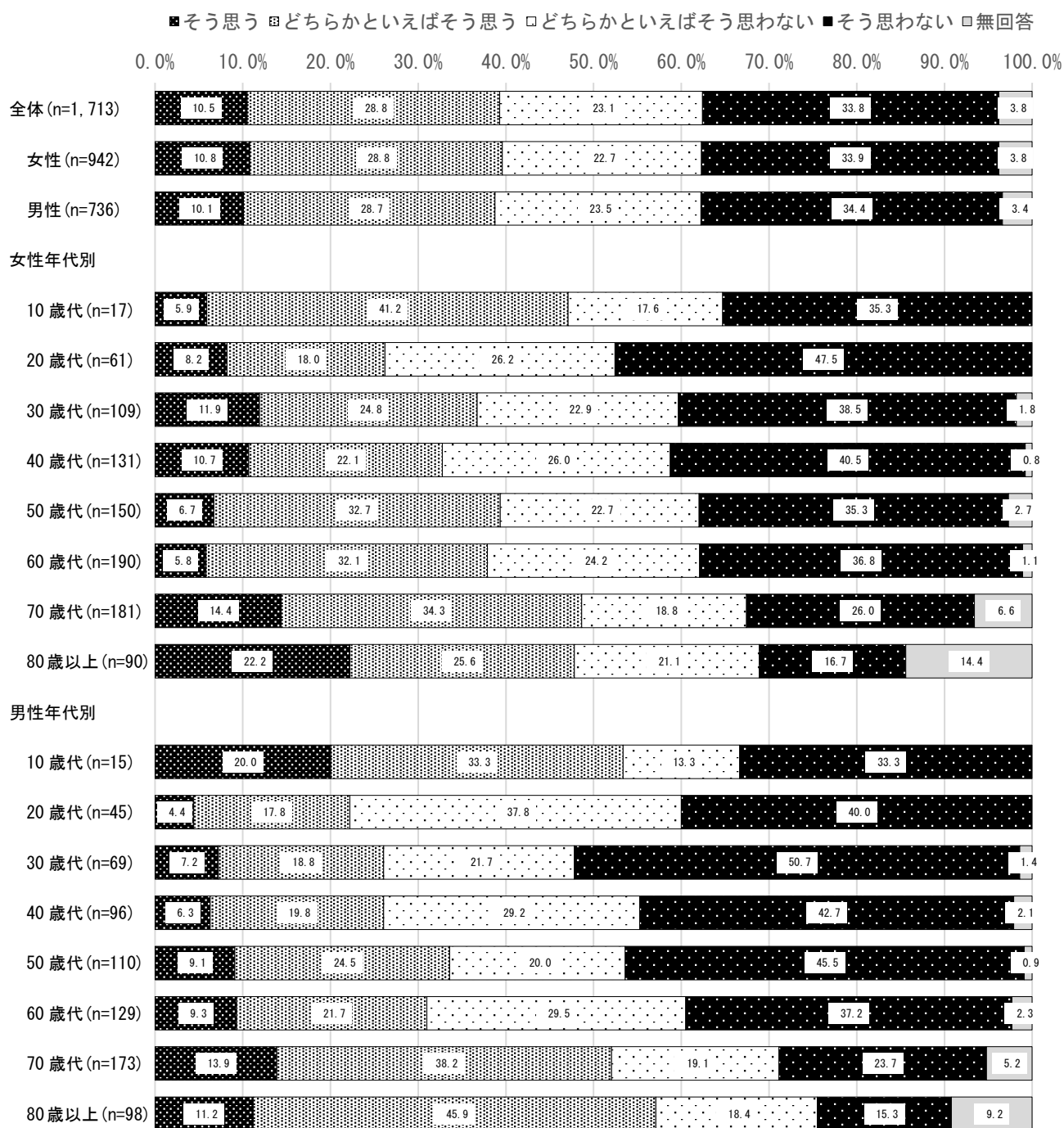
性別の傾向の相違はみられず「思う」は男性が6.3ポイント高くなっており、性別・年齢別での傾向の相違は20歳代女性で「思わない」が8.2ポイント高くなっている。他世代では女性は40歳代以上、男性は50歳代以上で年代の上昇に伴い「思う」が高くなっている。



問5 ⑤女性は結婚によって、経済的に安定を得る方がいい

全体で「そう思わない」が33.8%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が28.8%、「どちらかといえばそう思わない」が23.1%と続いており、「思う」が39.3%、「思わない」が56.9%となっている。

性別の傾向の相違はみられず「思わない」は男性が1.3ポイント高くなっており、性別・年齢別での傾向の相違は男女ともに70歳以上で「思う」が「思わない」よりも高くなっている。



## 問5 ⑥男性は社会の第一線で活躍すべきだ

全体で「どちらかといえばそう思う」が35.1%で最も高く、次いで「そう思わない」が27.4%、「どちらかといえばそう思わない」が21.6%と続いており、「思う」が47.9%、「思わない」が49.0%となっている。

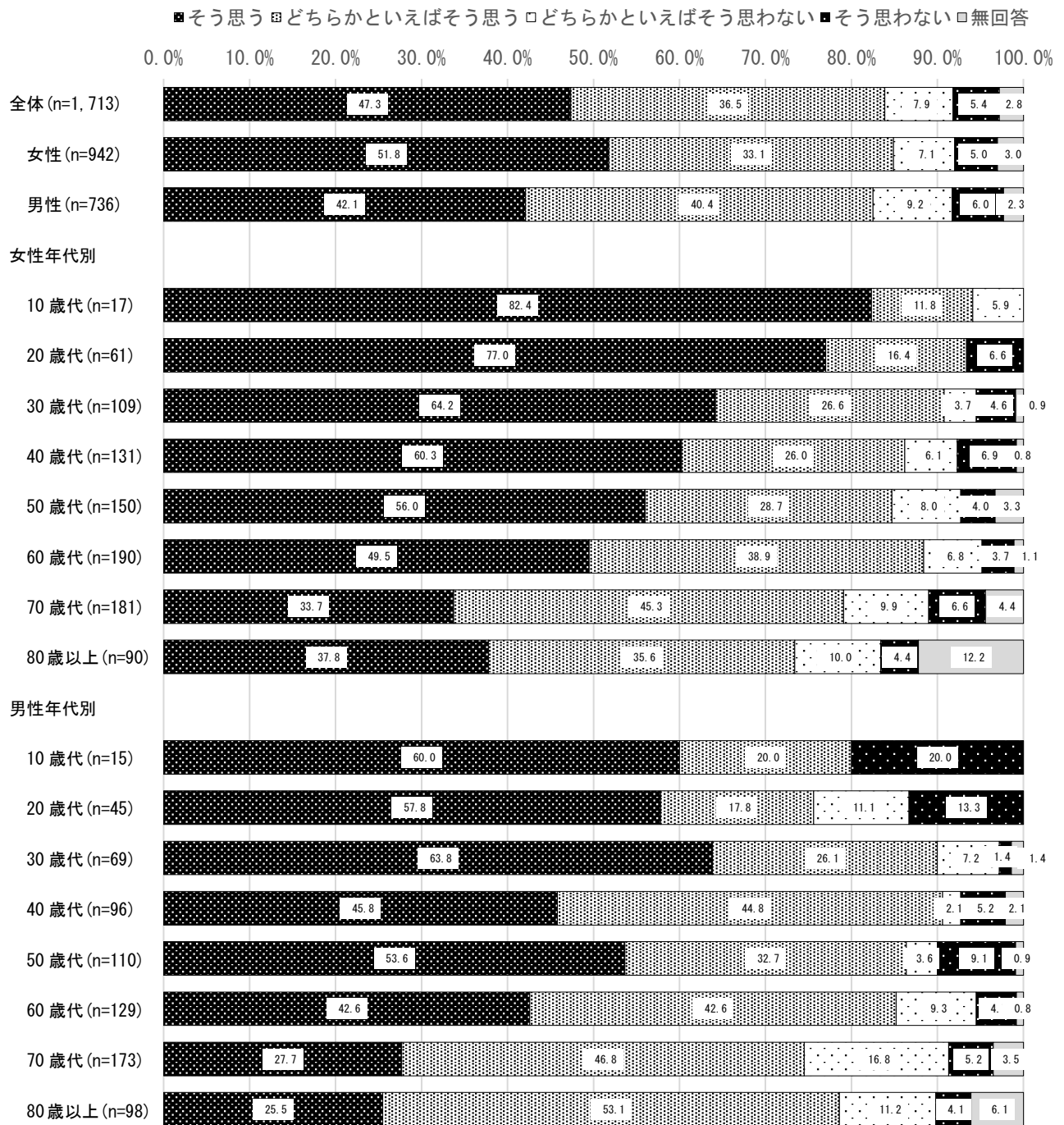
性別の傾向の相違は男性が「思う」の方が6.4ポイント高くなっており、性別・年齢別での傾向の相違は男性が60歳以上で「思う」が「思わない」よりも高くなっている。



問5 ⑦男性も女性も炊事・掃除・洗濯は同等のレベルでできた方がいい

全体で「そう思う」が47.3%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が36.5%、「どちらかといえばそう思わない」が7.9%と続いており、「思う」が83.8%、「思わない」が13.3%となっている。

性別の傾向の相違はみられず「思う」は女性が2.4ポイント高くなっており、性別・年齢別での傾向として男女ともに年代の上昇に伴い「思う」が減少の傾向にあり、女性は80歳以上が73.4%、男性は70歳代で74.5%と最も低くなっている。



【職業について】

【全員がお答えください】

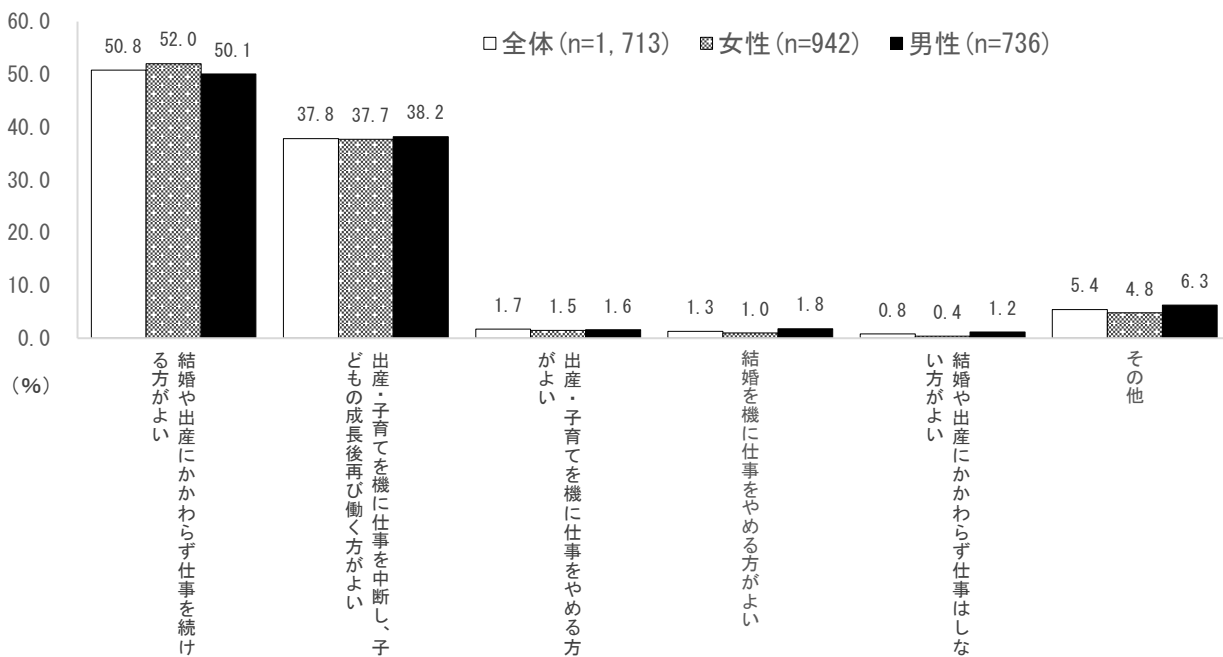
問6 あなたは、女性が働くことについてどう思いますか。(〇は1つ)

「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が50.8%でトップ。

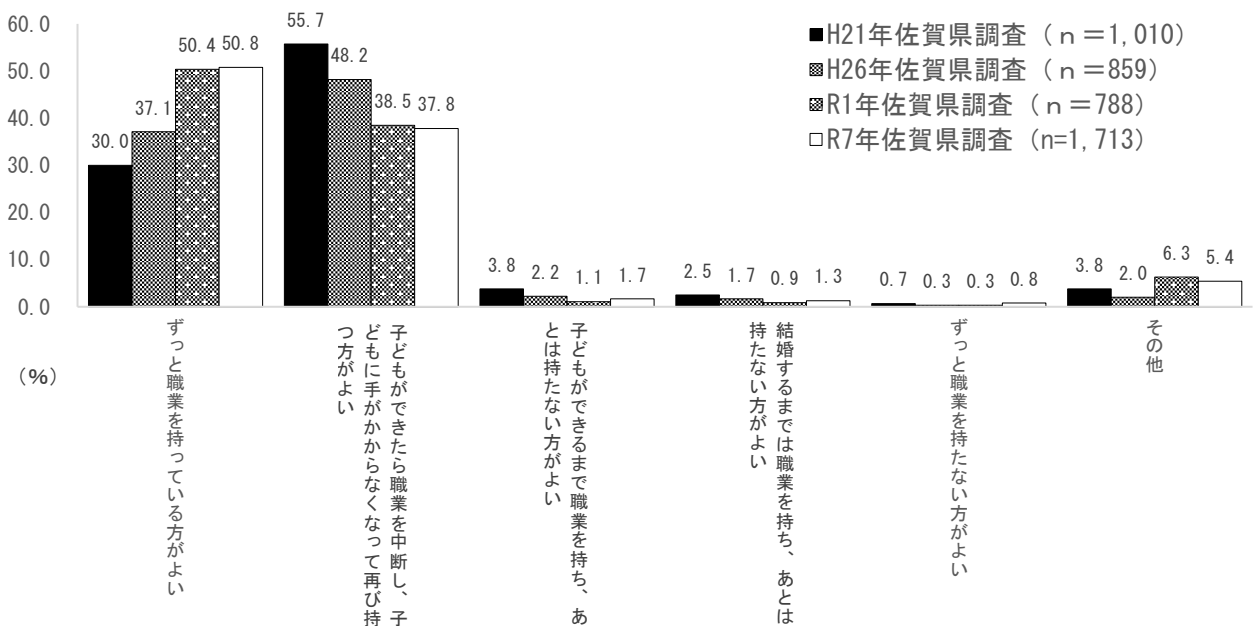
全体で「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が50.8%で最も高く、次いで「出産・子育てを機に仕事を中断し、子どもの成長後再び働く方がよい」が37.8%、「出産・子育てを機に仕事をやめる方がよい」が1.7%と続いている。

性別での傾向の相違はみられず、経年比較で「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」は増加の傾向にあり、「出産・子育てを機に仕事を中断し、子どもの成長後再び働く方がよい」は減少の傾向にある。

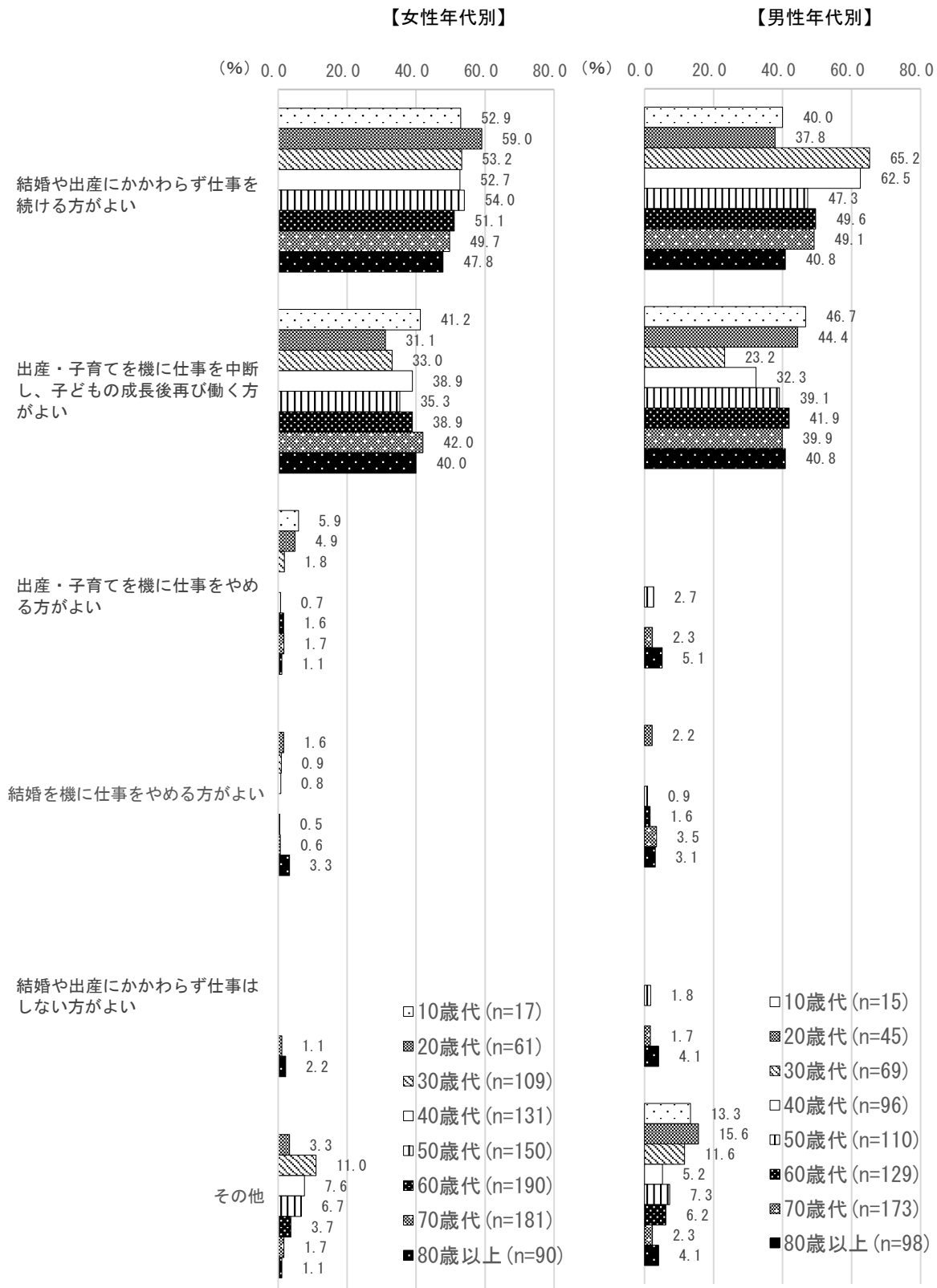
【R7年佐賀県調査】



【経年比較】



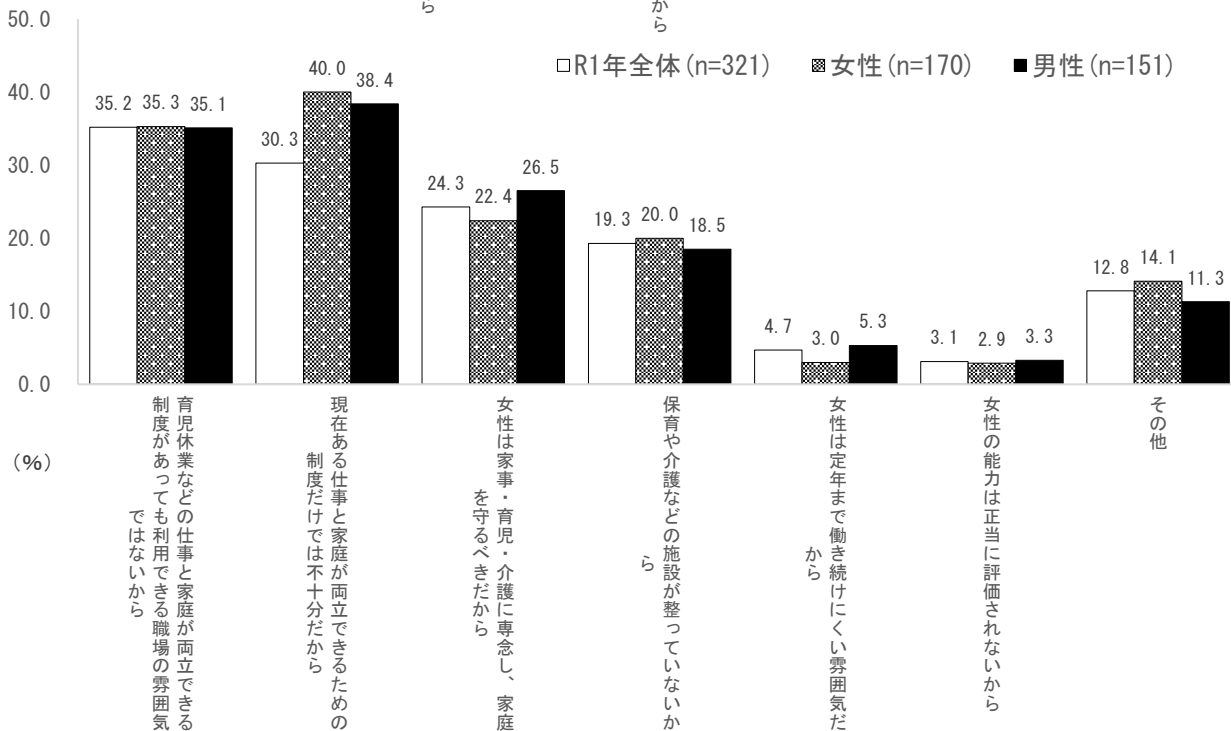
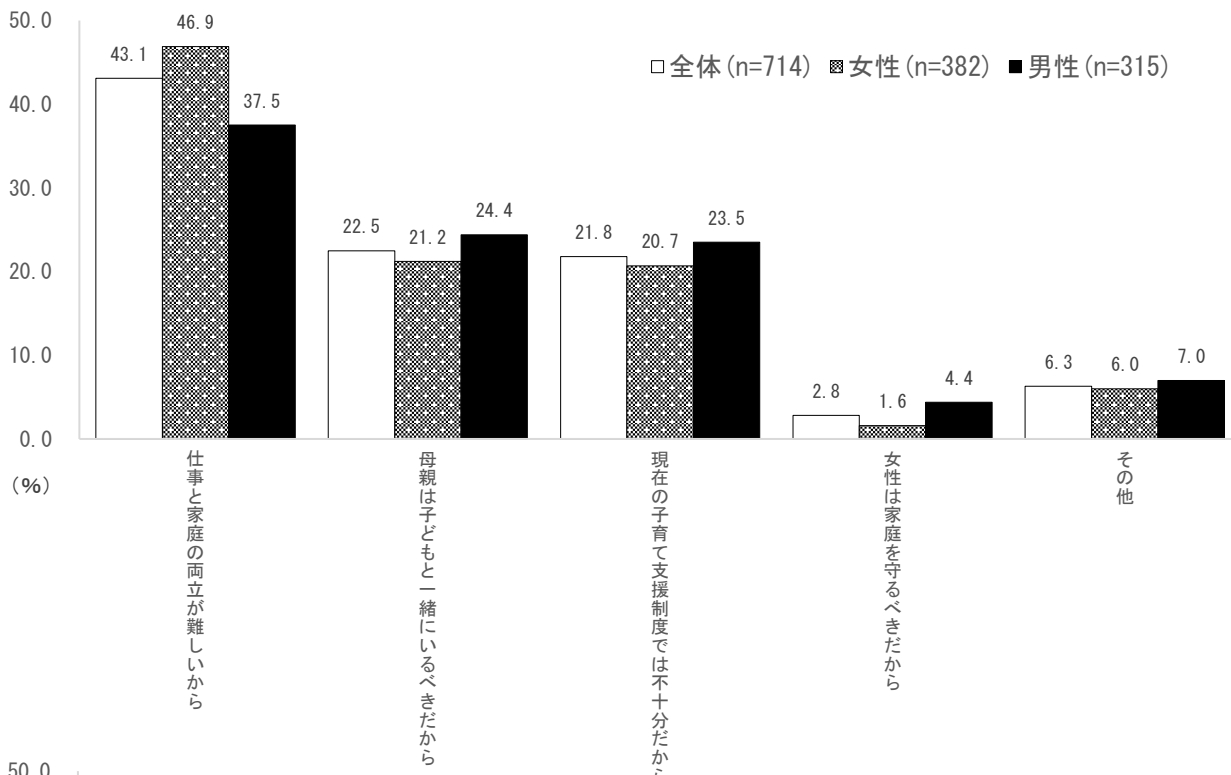
性別・年齢別にみると全体1位項目の「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」は年齢が若いほど「男性」よりも「女性」、男性では子育て世代（30・40歳代）が多く回答する傾向がみられ、全体2位項目の「出産・子育てを機に仕事を中断し、子どもの成長後再び働く方がよい」は男性女性共に40歳以上が多く回答する傾向がみられる。



【問6で2~5のいずれかを選んだ方がお答えください】  
 問6-1 選んだ理由は何ですか。(〇は1つ)

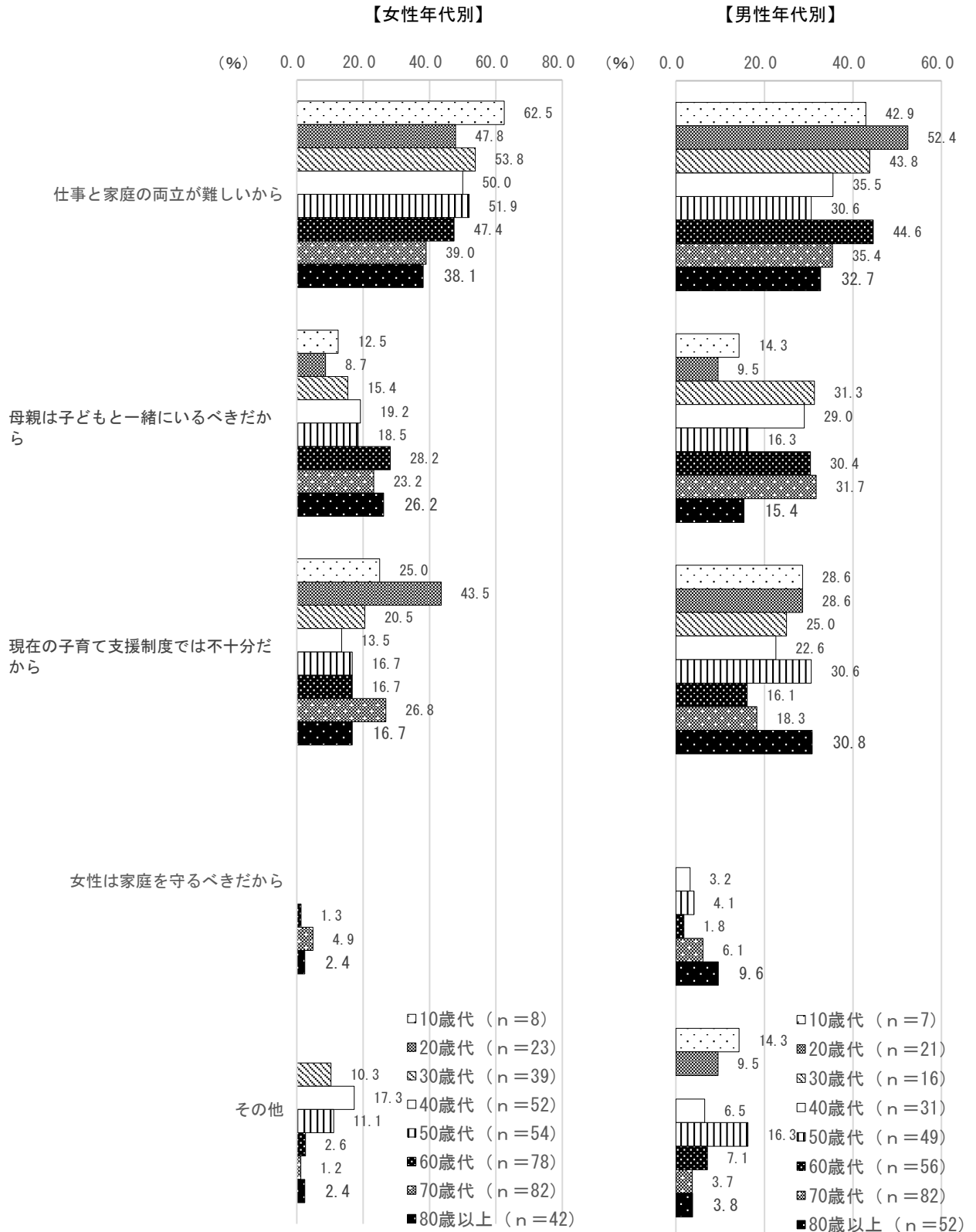
「仕事と家庭の両立が難しいから」が43.1%でトップ。

全体で「仕事と家庭の両立が難しいから」が43.1%で最も高く、次いで「母親は子どもと一緒にいるべきだから」が22.5%、「現在の子育て支援制度では不十分だから」が21.8%と続いている。性別での上位項目の傾向の相違はみられない。



※R1年調査は複数回答（2つ選んで）であり、回答項目が相違のため参考掲載

性別・年齢別には、各区分の母数が極端に少ない年代が多いため、参考掲載とする。



【全員がお答えください】

問7 あなたは、女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は1つ)

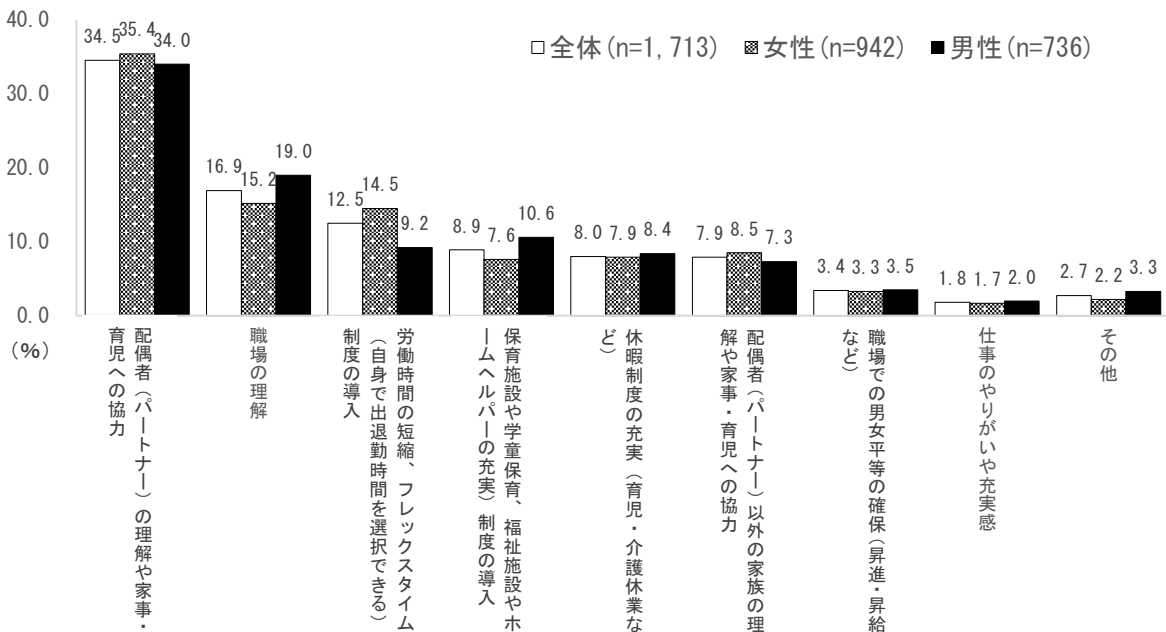
「配偶者（パートナー）の理解や家事・育児への協力」が34.5%でトップ。

全体で「配偶者（パートナー）の理解や家事・育児への協力」が34.5%で最も高く、次いで「職場の理解」が16.9%、「労働時間の短縮、フレックスタイム（自身で出退勤時間を選択できる）制度の導入」が12.5%と続いている。

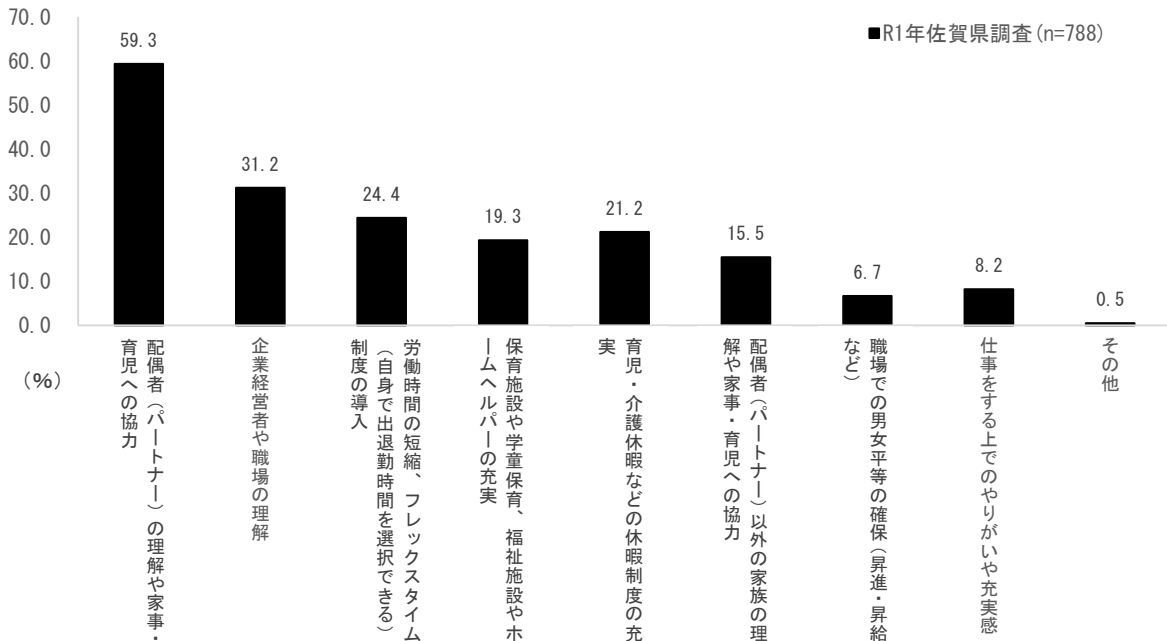
上位3項目の性別での傾向の相違は女性ではみられないものの、男性は「保育施設や学童保育、福祉施設やホームヘルパーの充実」が3位項目になっている。

経年比較では選択数の相違があるものの上位3項目の変化はみられない。

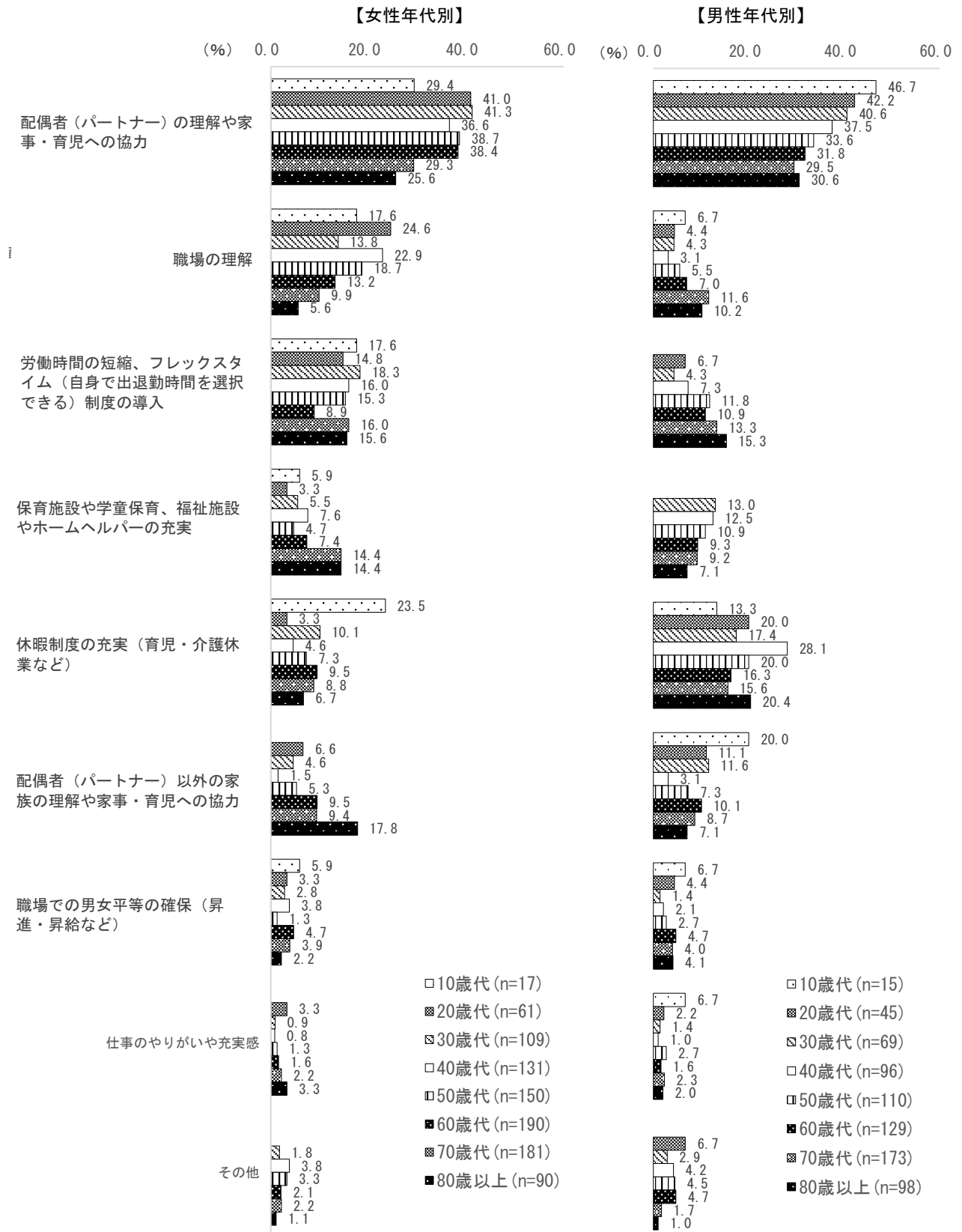
【R7年佐賀県調査】



【R1年佐賀県調査※（複数回答:2つまで）】



性別・年齢別にみると全体1位項目の「配偶者（パートナー）の理解や家事・育児への協力」は男女ともに年齢が若いほど多く回答する傾向がみられ、全体2位項目の「職場の理解」は男女とも20・40・50歳代が多く回答しており、全体3位項目の「労働時間の短縮、フレックスタイム（自身で出退勤時間を選択できる）制度の導入」は女性が多く回答する傾向がみられる。



【全員がお答えください】

問8 職場の男性が育児休業を取得するとしたら、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

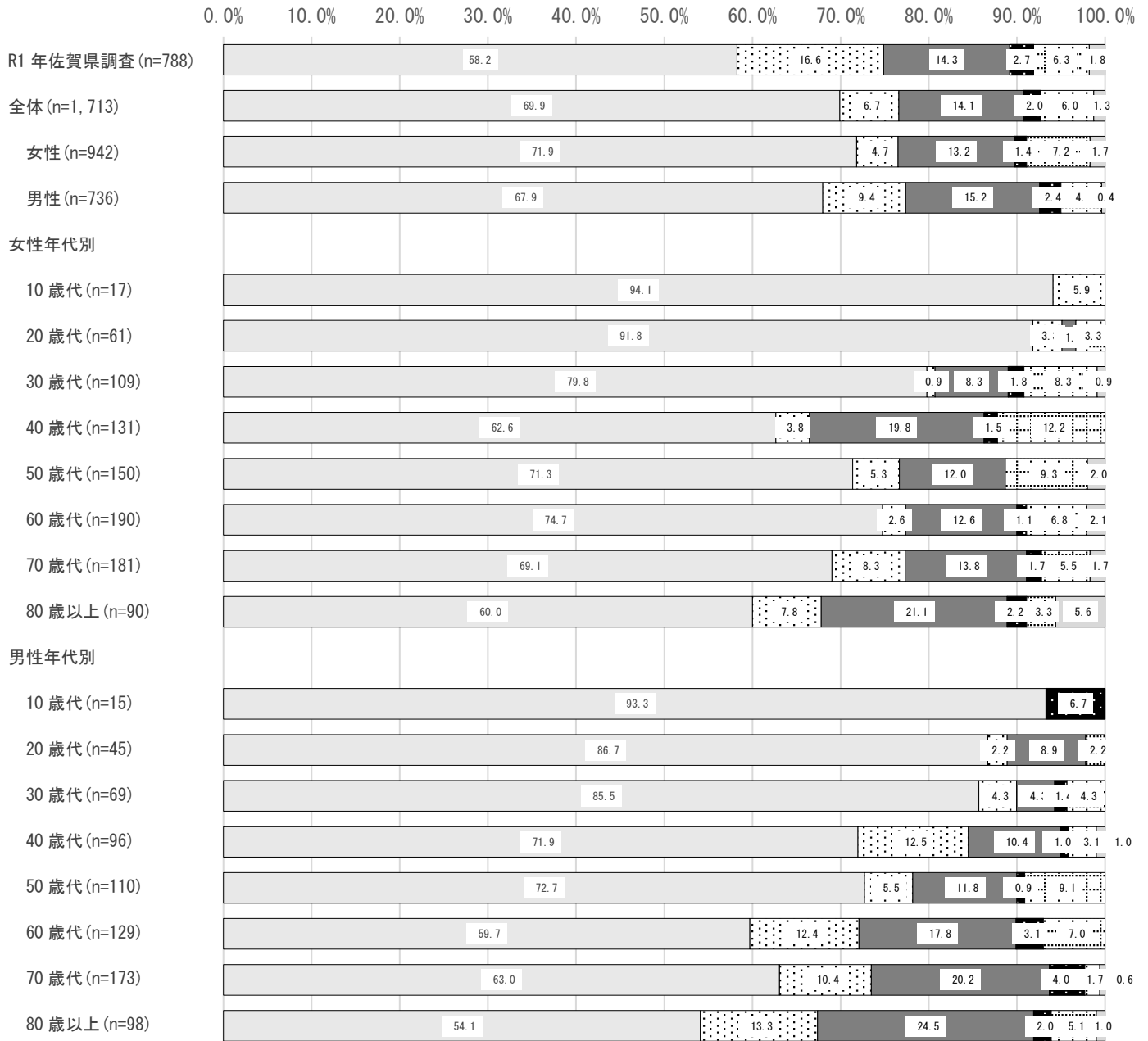
「男性の育児休業所得」を69.9%が肯定。

全体では「男性も取得すべき」が69.9%で最も高く、次いで「2、3日ならいいが、長期取得はすべきではない」が14.1%、「男性が取得することには違和感がある」が6.7%と続いている。

性別での傾向の相違はみられず「男性も取得すべき」は女性が4.0ポイント高くなっている。性別・年齢別での傾向の相違はみられないが、男女ともに年代の上昇とともに「男性も取得すべき」は減少の傾向がみられる。

経年比較で「男性も取得すべき」は11.7ポイント増加しているものの男性の育児休業取得に否定的な意見（「男性が取得することには違和感がある（令和1年調査時文言：女性は取得した方がよいが、男性が取得することには違和感がある）」+「2、3日ならいいが、長期取得はすべきではない」+「業務への影響などを考えると、取得すべきではない」）は10.8ポイント減少している。

- 男性も取得すべき
- 2、3日ならいいが、長期取得はすべきではない
- その他
- 男性が取得することには違和感がある
- 業務への影響などを考えると、取得すべきではない
- 無回答



【全員がお答えください】

問9 男性が育休を取得する上で、何がハードルになるとお考えですか。(〇はいくつでも)

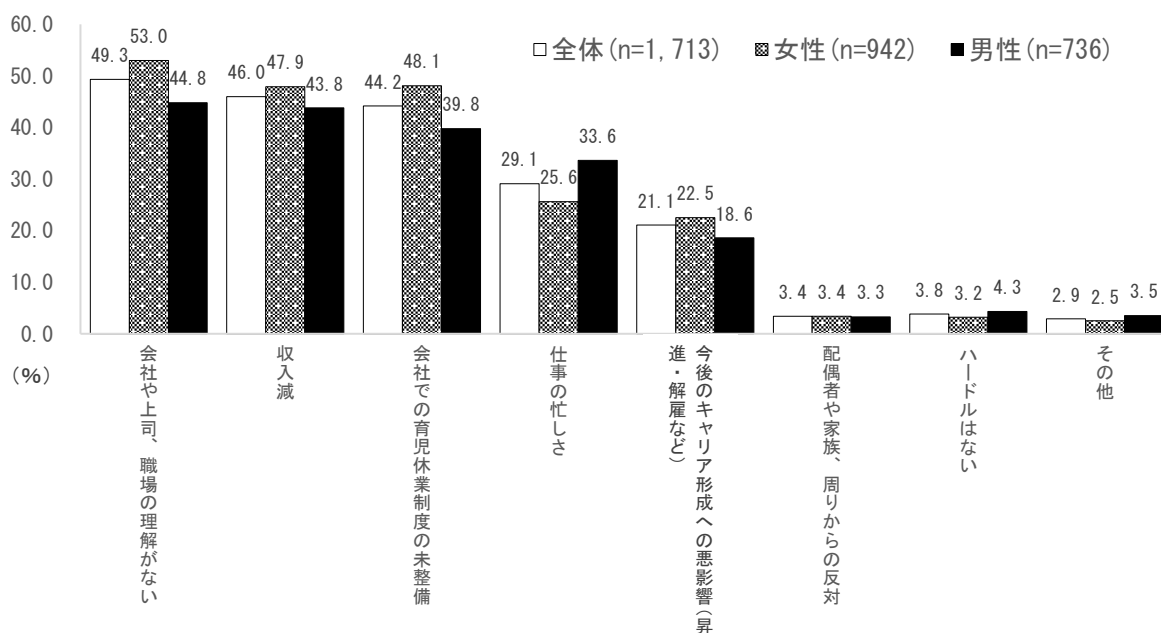
男性が育児休業取得のハードルは「会社や上司、職場の理解がない」が49.3%でトップ。

全体では「会社や上司、職場の理解がない」が49.3%で最も高く、次いで「収入減」が46.0%、「会社での育児休業制度の未整備」が44.2%と続いている。

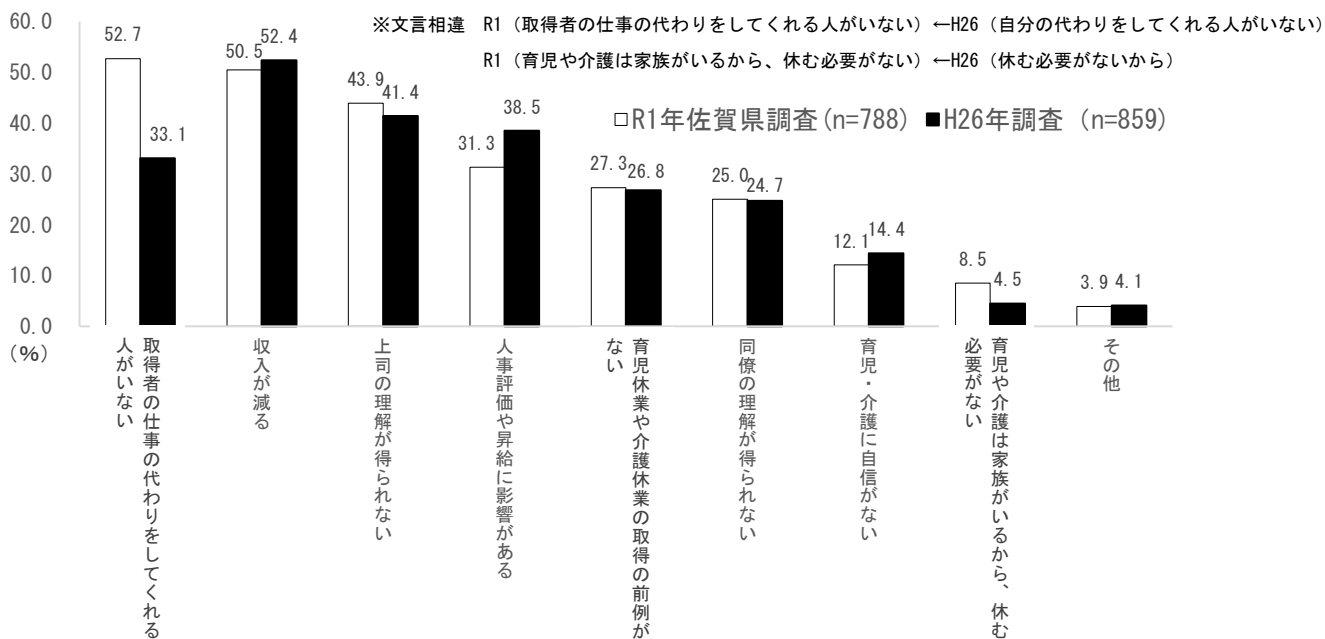
性別での傾向の相違はみられず「会社や上司、職場の理解がない」は女性が8.2ポイント高くなっている。

経年比較は選択数の制限があったため参考掲載している。

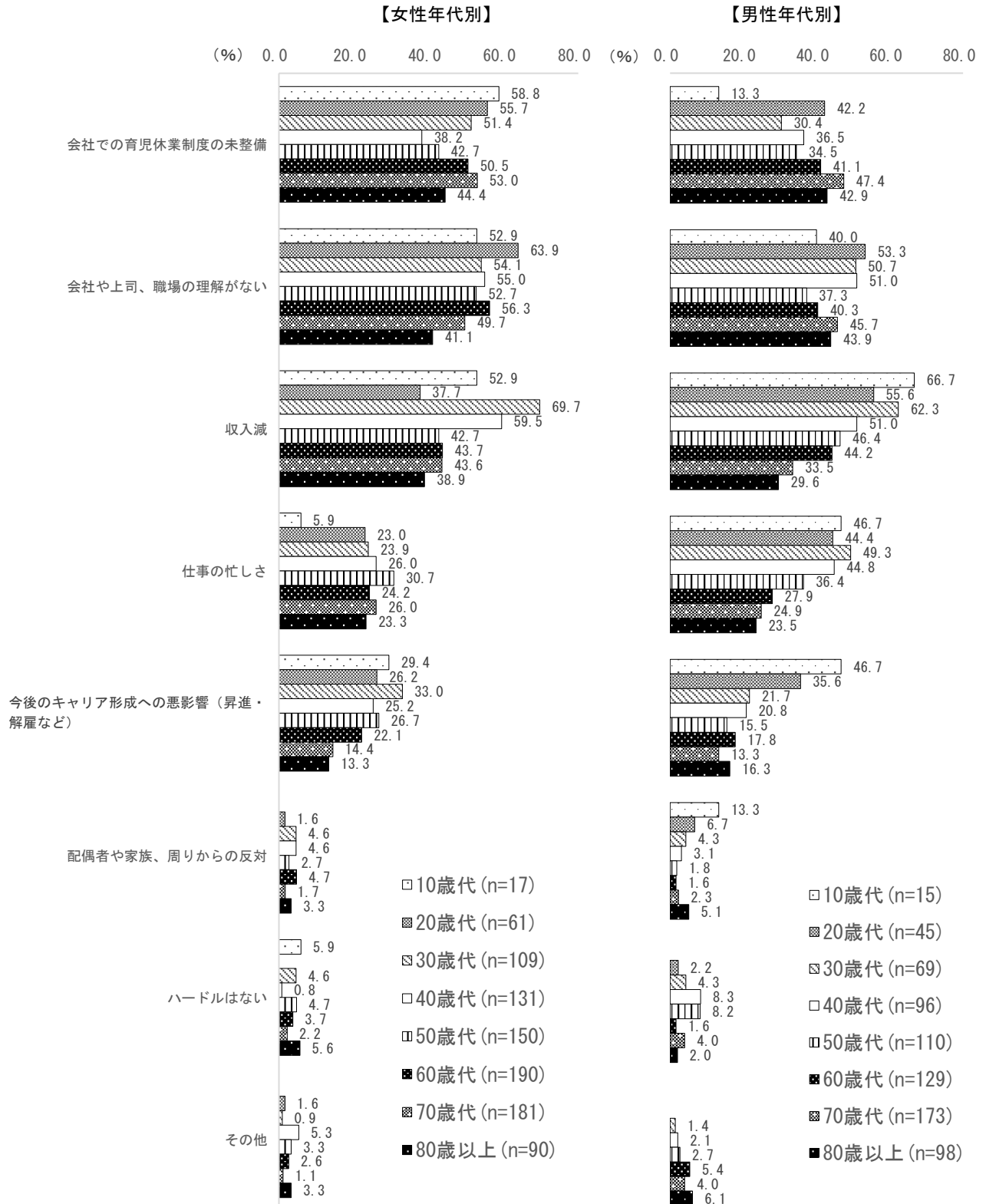
【R7年佐賀県調査】



【R1年調査、H26年調査（複数回答:3つまで）】



性別・年齢別にみると全体 1 位項目の「会社や上司、職場の理解がない」及び3 位項目の「会社での育児休業制度の未整備」は女性が男性よりも高く、全体 4 位項目の「仕事の忙しさ」は男性が女性よりも高い傾向がみられる。全体 2 位項目の「収入減」は男性で年齢が低い世代ほど高い。



【現在働いている方がお答えください】

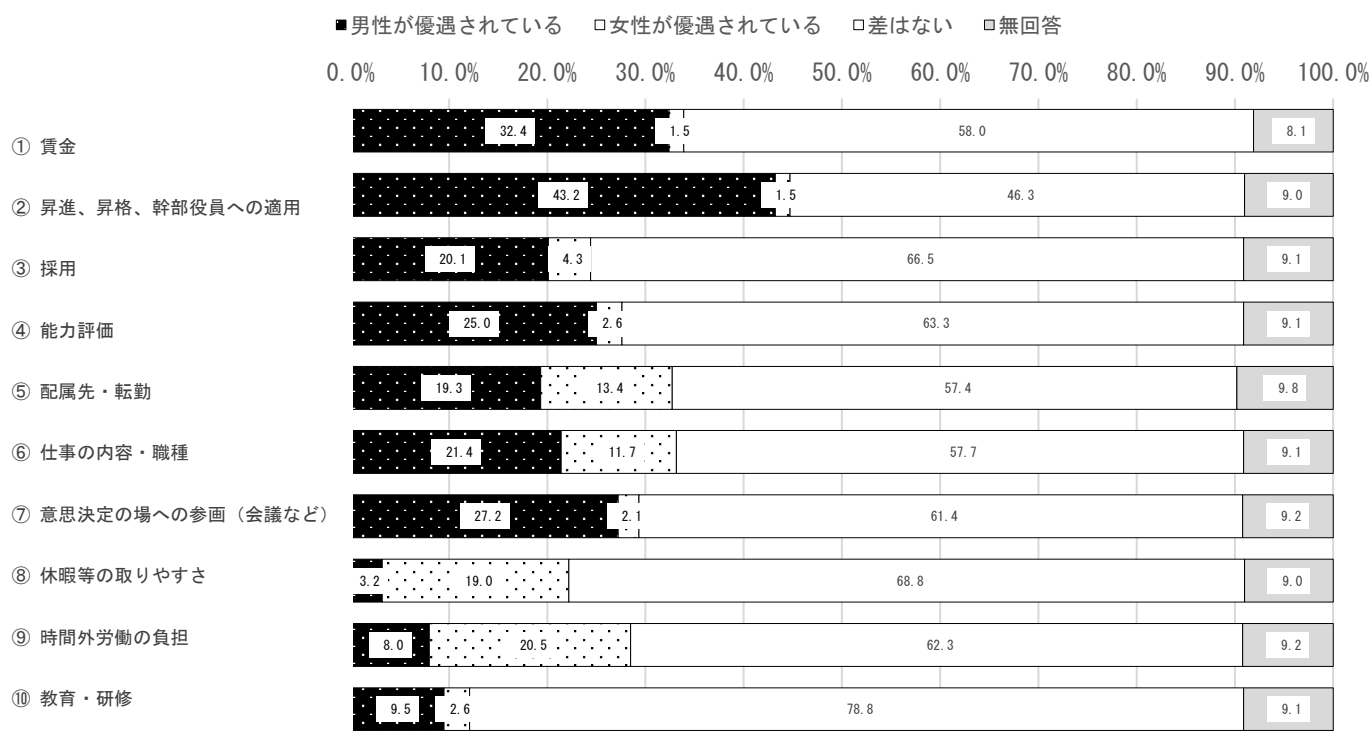
問10 あなたの今の職場では、①～⑩について男性・女性どちらの方が優遇されていると思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

全ての項目で「差はない」が最も高い。「差はない」で「⑩教育・研修」が78.8%でトップ。

全ての項目で「差はない」が最も高くなっている。そのうち「⑩教育・研修」が78.8%で最も高く、次いで「⑧休暇等の取りやすさ」が68.8%、「③採用」が66.5%と続いており、「男性が優遇されている」が最も高いのは、「②昇進、昇格、幹部役員への適用」の43.2%、次いで「①賃金」が32.4%、「⑦意思決定の場への参画（会議など）」が27.2%と続いている。

また、「女性が優遇されている」が最も高いのは、「⑨時間外労働の負担」の20.5%、次いで「⑧休暇等の取りやすさ」が19.0%、「⑤配属先・転勤」が13.4%と続いている。

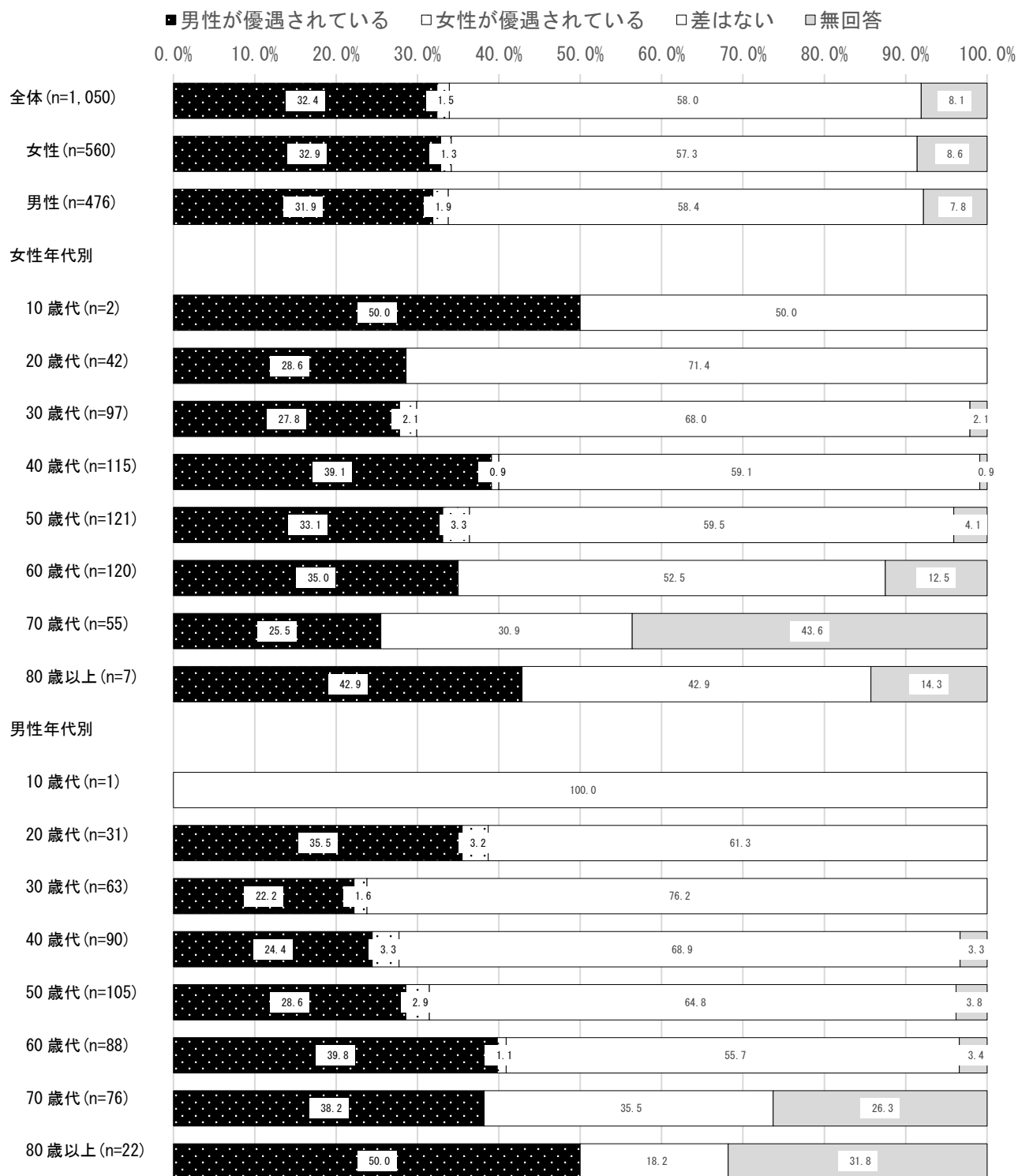
【R7年佐賀県調査：n=1,050】



## 問10 ① 賃金

全体で「差はない」が58.0%で最も高く、次いで「男性が優遇されている」が32.4%、「女性が優遇されている」が1.5%の順となっている。

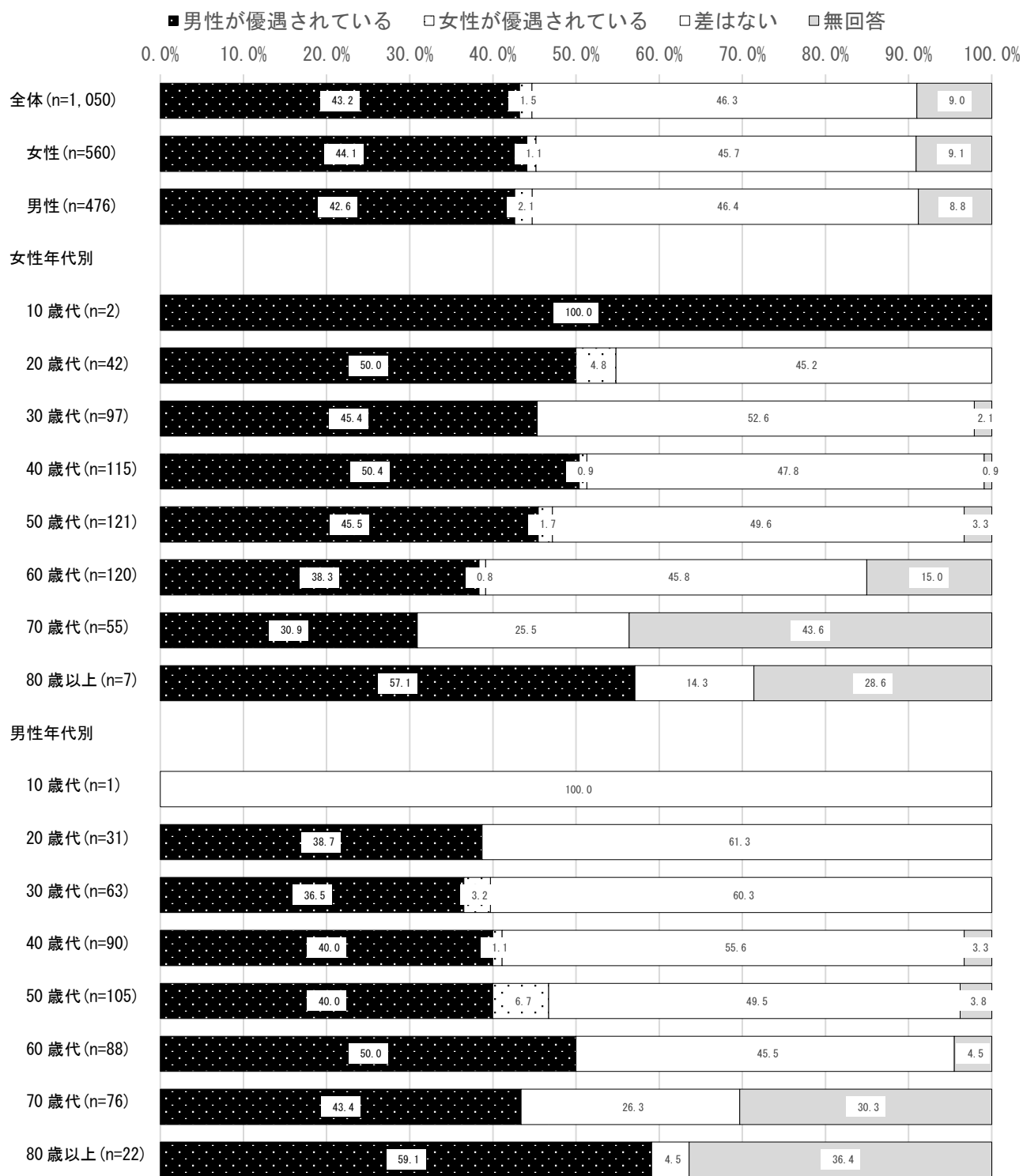
性別での傾向の相違はみられないが、「差はない」は男性が1.1ポイント高くなっており、性別・年齢別では男女ともに年代の上昇とともに「差はない」は減少している。また、男性は年代の上昇とともに「男性が優遇されている」の増加の傾向がみられる。



問10 ② 昇進、昇格、幹部役員への適用

全体で「差はない」が46.3%で最も高く、次いで「男性が優遇されている」が43.2%、「女性が優遇されている」が1.5%の順となっている。

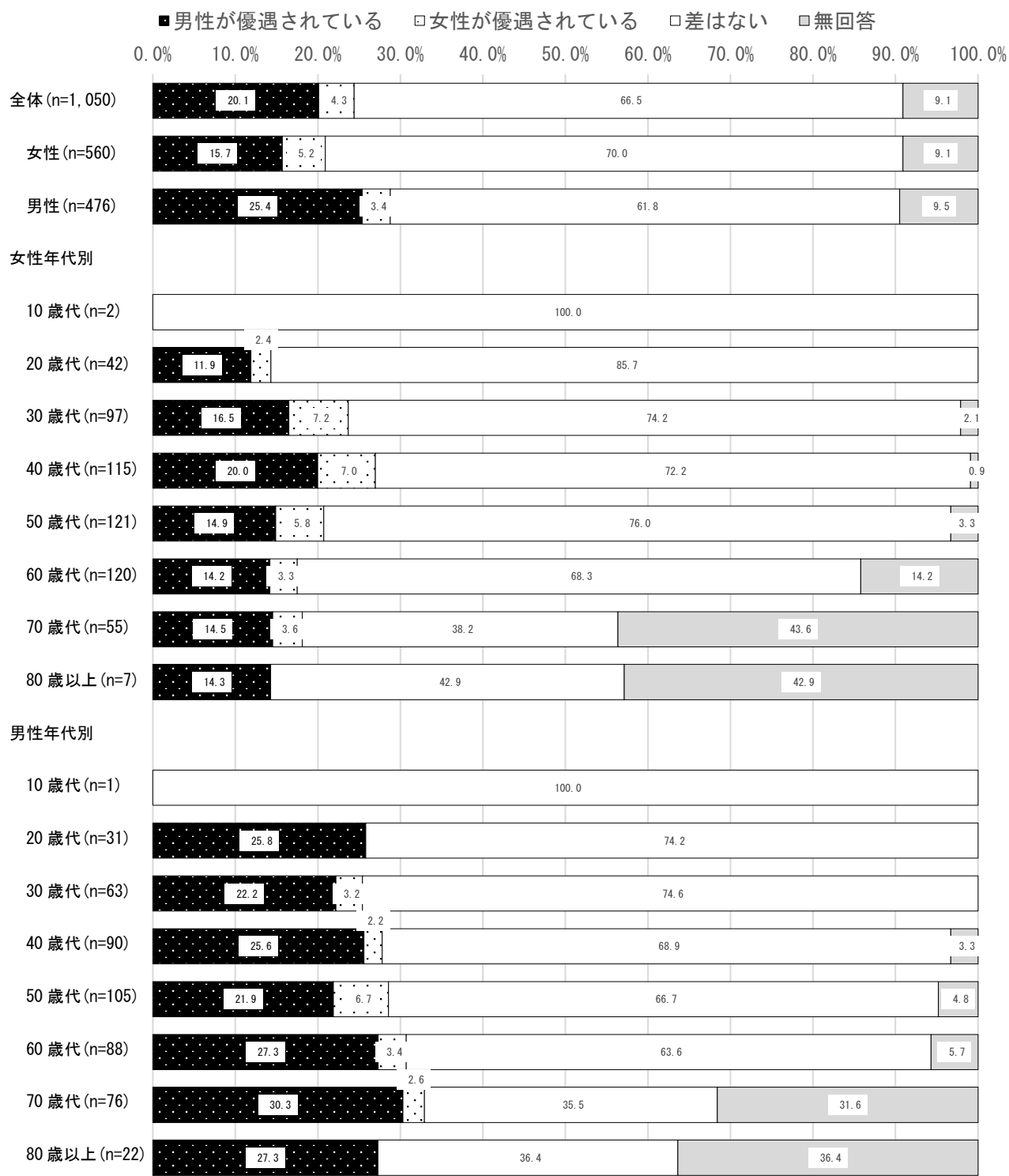
性別での傾向の相違はみられないが、「差はない」は男性が0.7ポイント高くなっている。



問10 ③ 採用

全体で「差はない」が66.5%で最も高く、次いで「男性が優遇されている」が20.1%、「女性が優遇されている」が4.3%の順となっている。

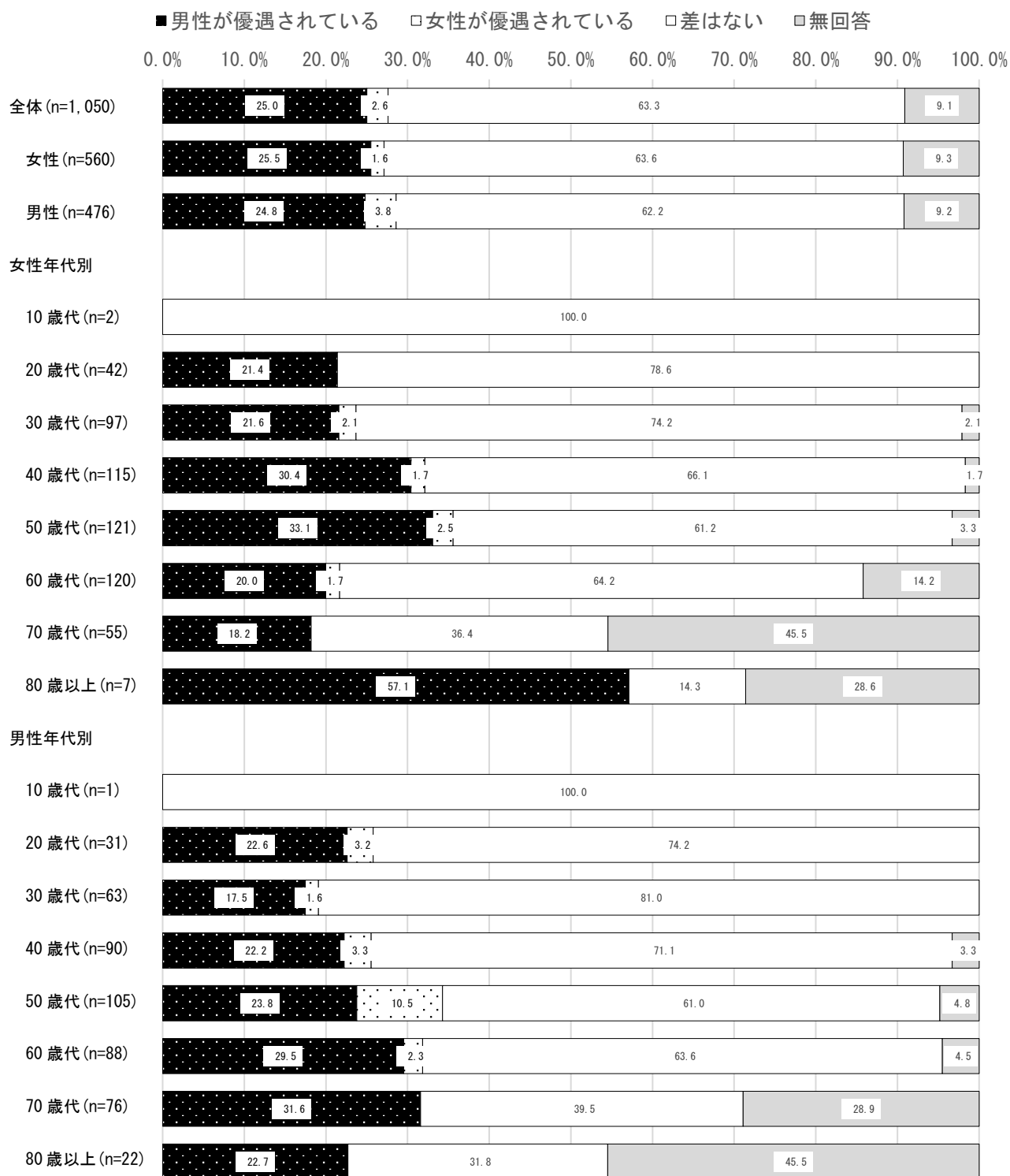
性別での傾向の相違はみられないが、「差はない」は女性が8.2ポイント高くなっている。



問10 ④ 能力評価

全体で「差はない」が63.3%で最も高く、次いで「男性が優遇されている」が25.0%、「女性が優遇されている」が2.6%の順となっている。

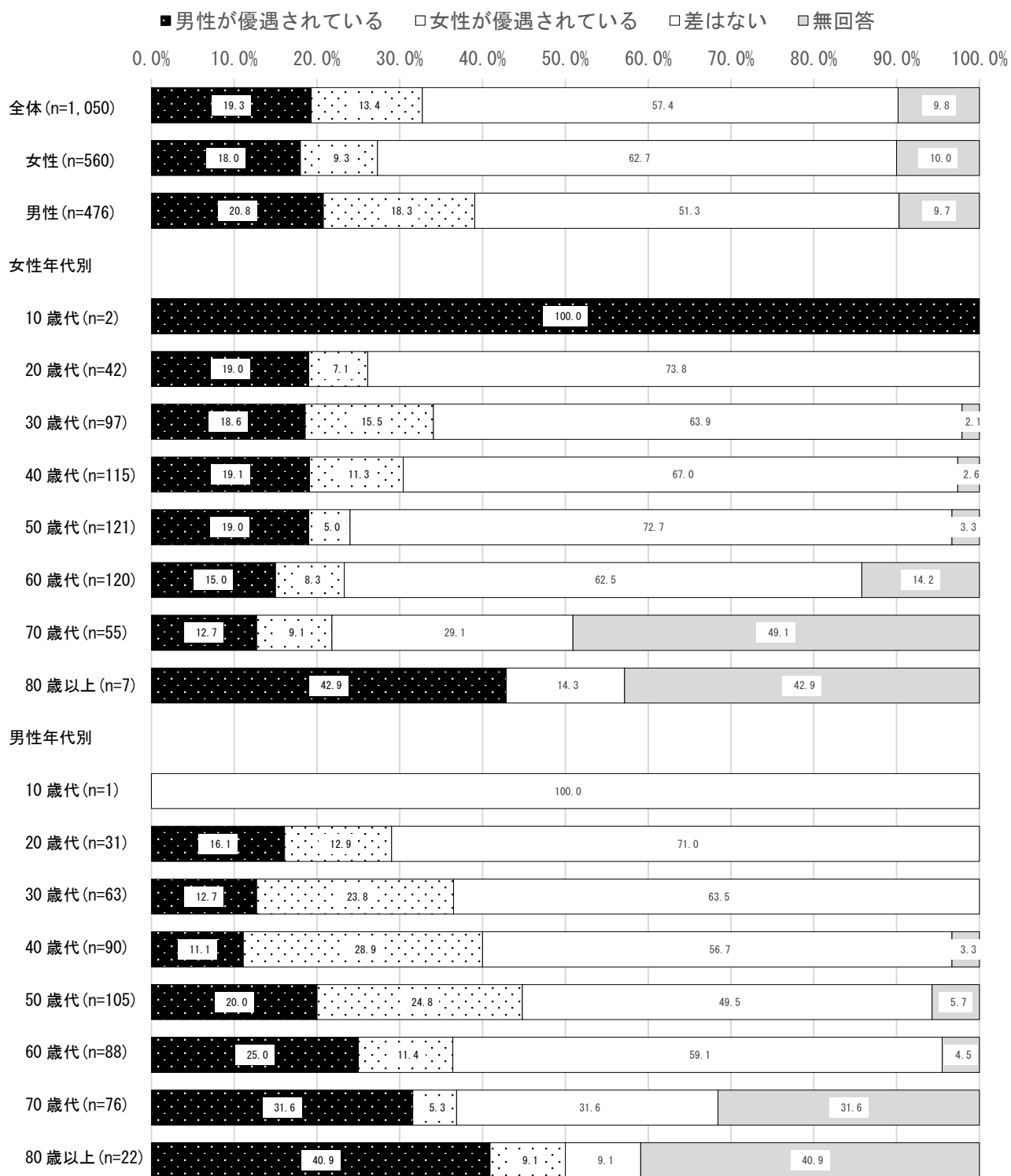
性別での傾向の相違はみられないが、「差はない」は女性が1.4ポイント高くなっている。



問10 ⑤ 配属先・転勤

全体で「差はない」が57.4%で最も高く、次いで「男性が優遇されている」が19.3%、「女性が優遇されている」が13.4%の順となっている。

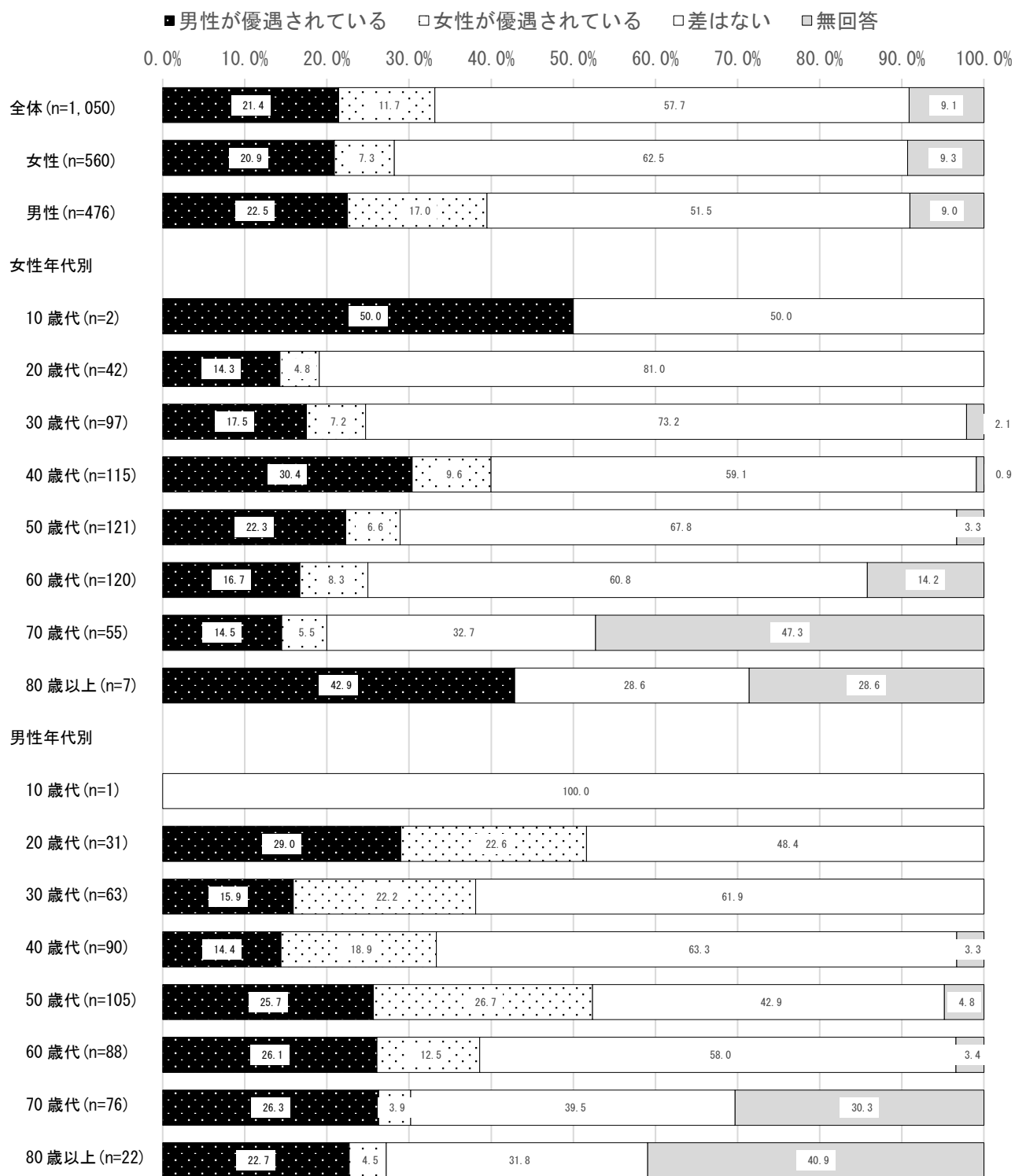
性別での傾向の相違はみられないが、「差はない」は女性が11.4ポイント高くなっている。



問10 ⑥ 仕事の内容・職種

全体で「差はない」が57.7%で最も高く、次いで「男性が優遇されている」が21.4%、「女性が優遇されている」が11.7%の順となっている。

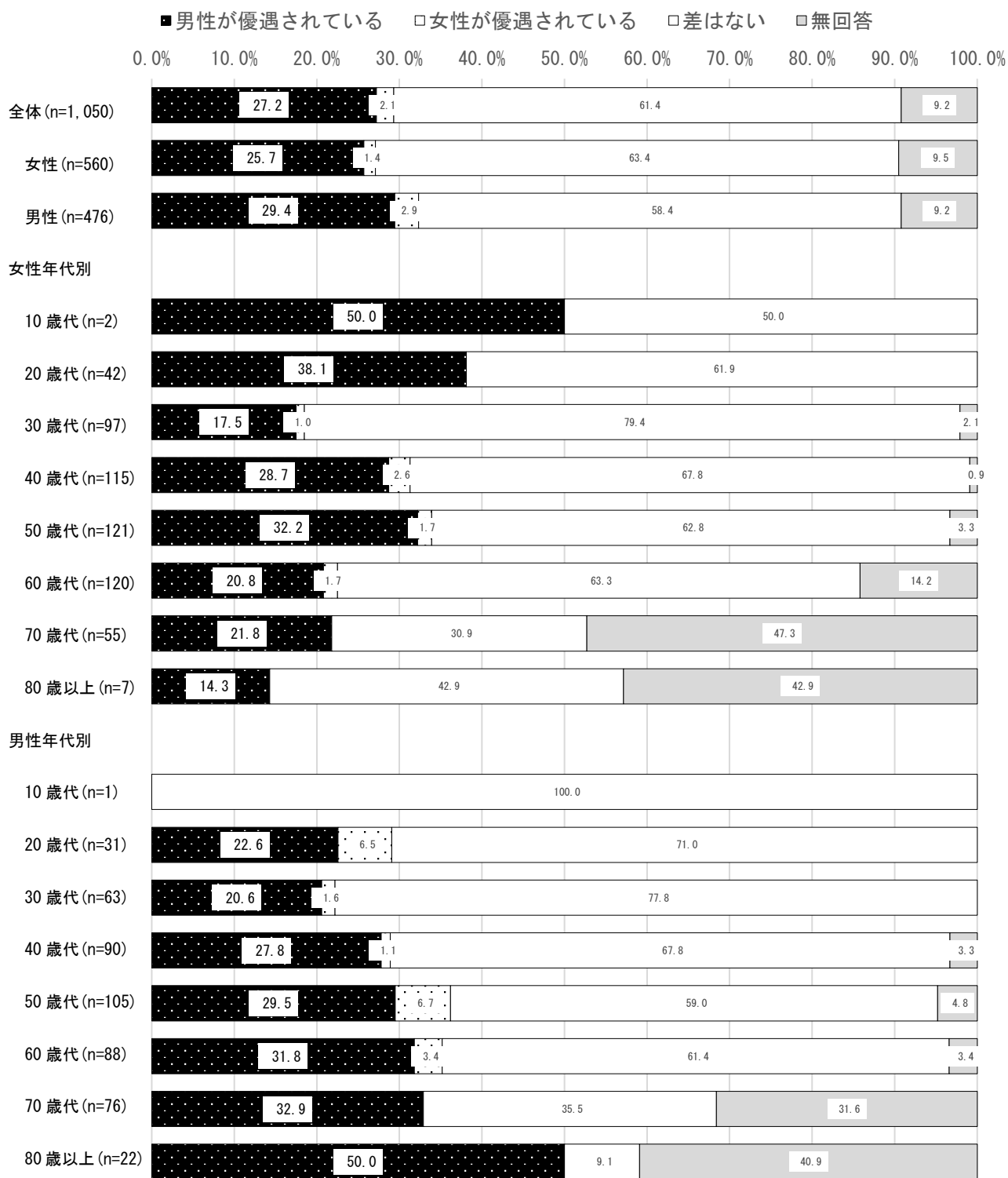
性別での傾向の相違はみられないが、「差はない」は女性が11.0ポイント高くなっている。



問10 ⑦ 意思決定の場への参画（会議など）

全体で「差はない」が61.4%で最も高く、次いで「男性が優遇されている」が27.2%、「女性が優遇されている」が2.1%の順となっている。

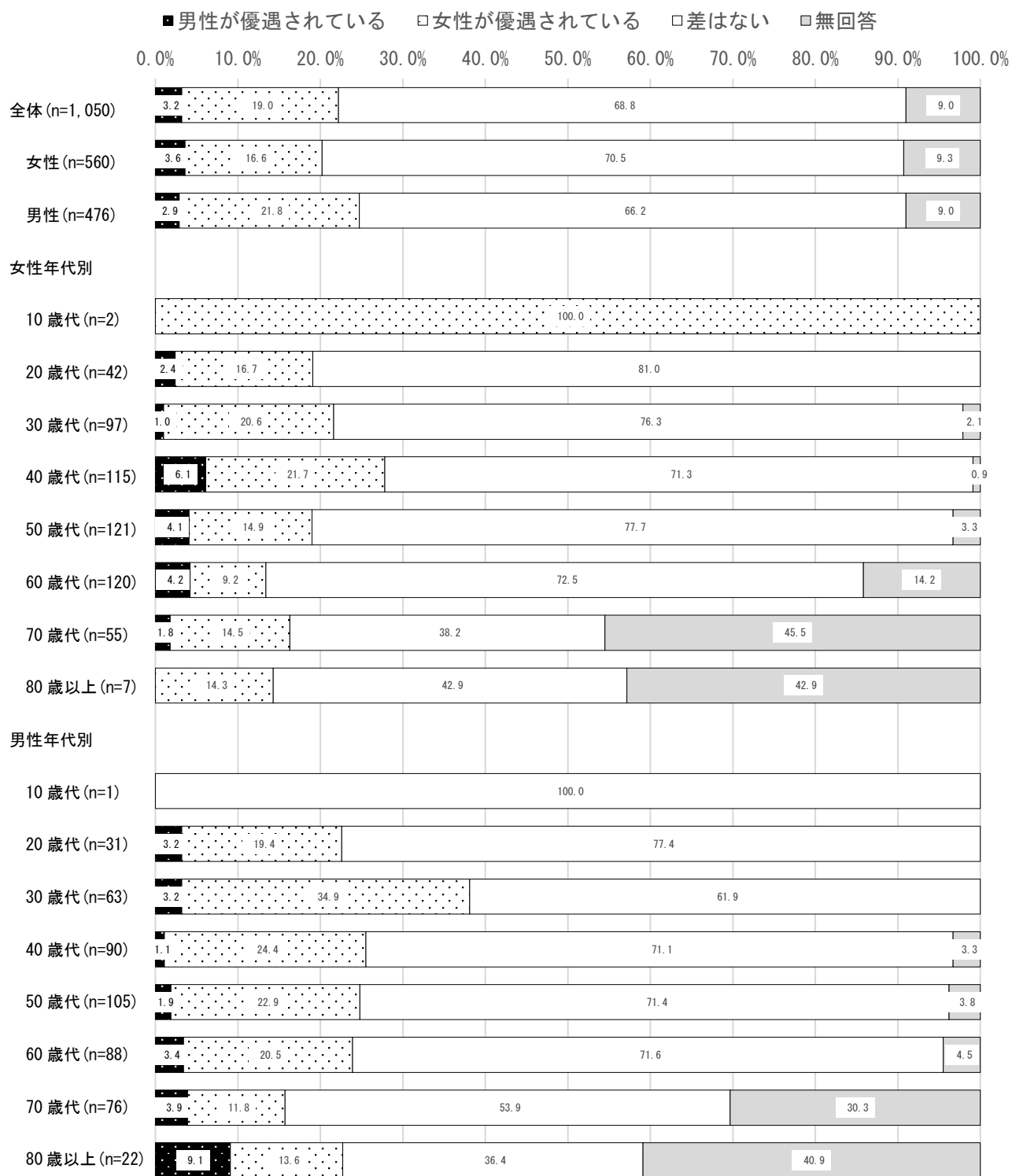
性別での傾向の相違はみられないが、「差はない」は女性が5.0ポイント高くなっている。



問10 ⑧ 休暇等の取りやすさ

全体で「差はない」が68.8%で最も高く、次いで「女性が優遇されている」が19.0%、「男性が優遇されている」が3.2%の順となっている。

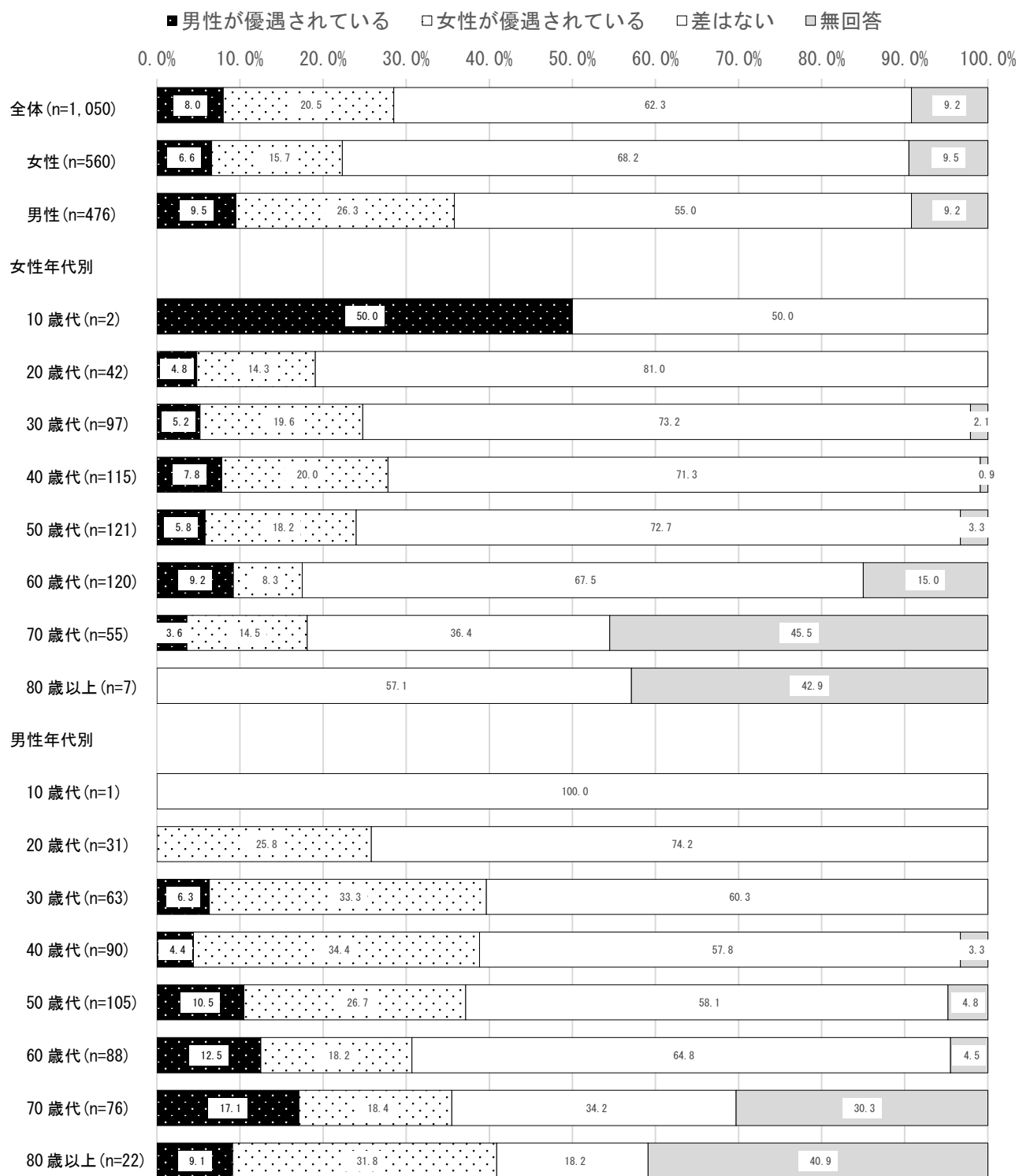
性別での傾向の相違はみられないが、「差はない」は女性が4.3ポイント高くなっている。



問10 ◎ 時間外労働の負担

全体で「差はない」が62.3%で最も高く、次いで「女性が優遇されている」が20.5%、「男性が優遇されている」が8.0%の順となっている。

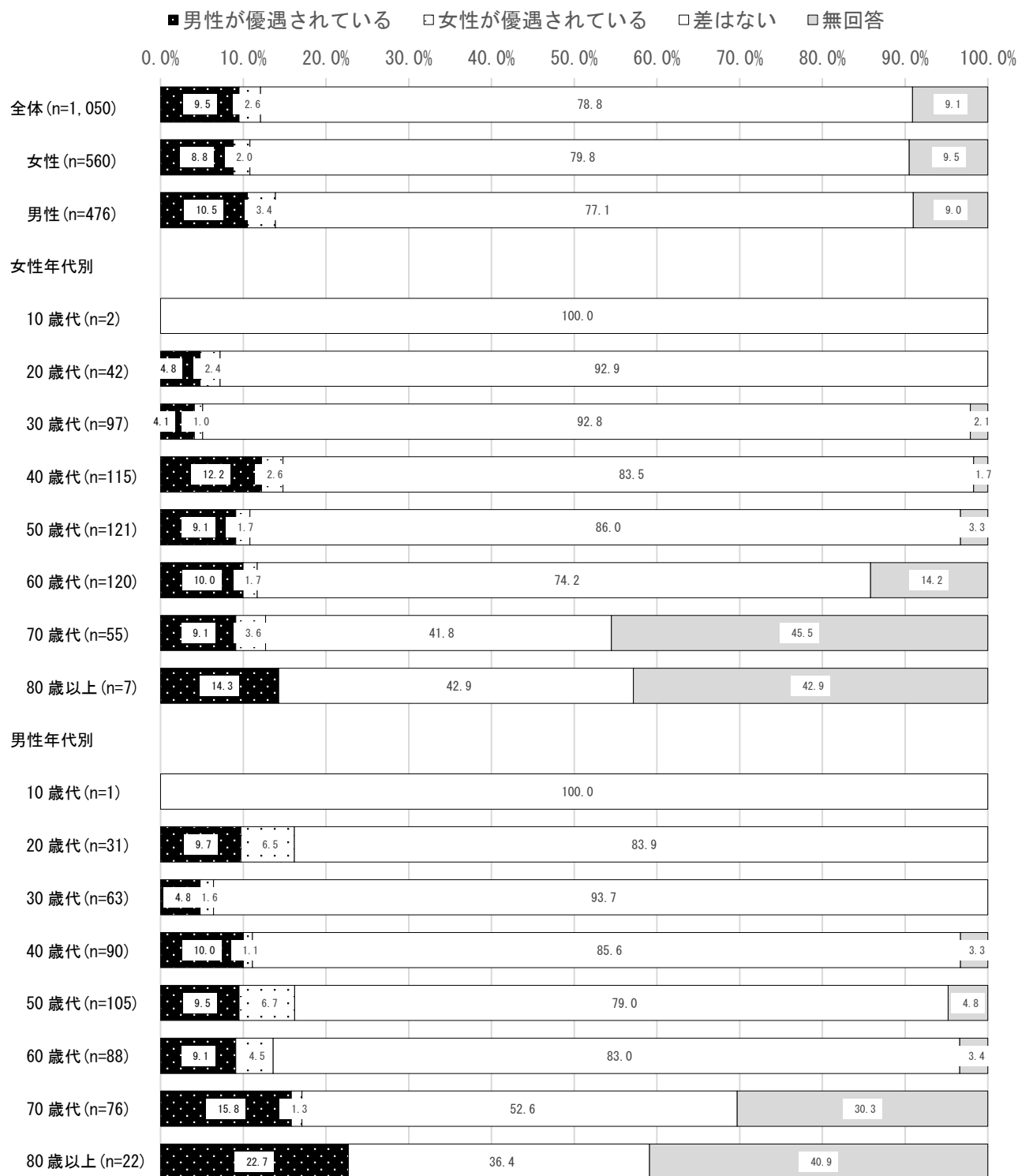
性別での傾向の相違はみられないが、「差はない」は女性が13.2ポイント高くなっている。



問10 ⑩ 教育・研修

全体で「差はない」が78.8%で最も高く、次いで「男性が優遇されている」が9.5%、「女性が優遇されている」が2.6%の順となっている。

性別での傾向の相違はみられないが、「差はない」は女性が2.7ポイント高くなっている。



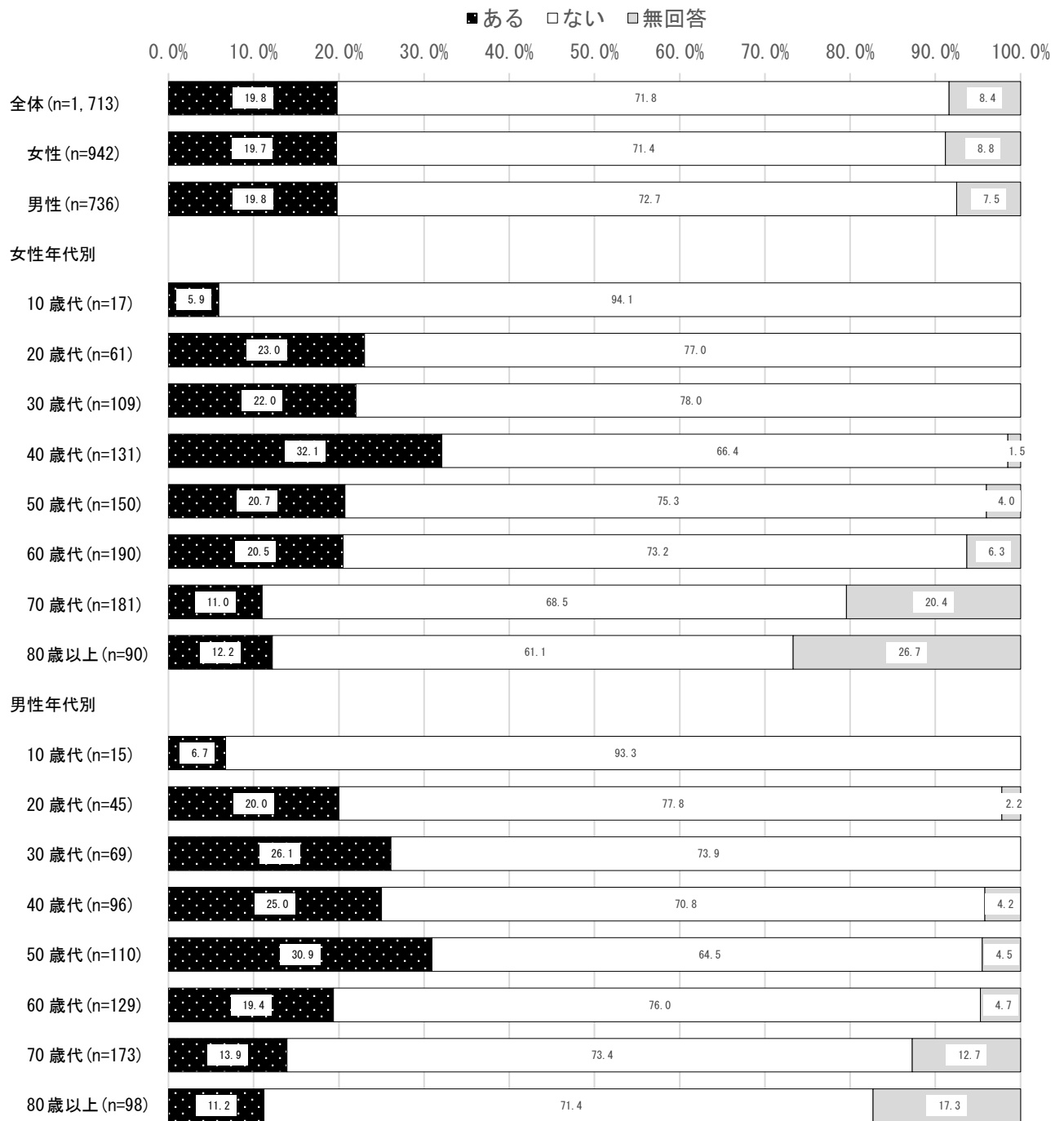
【全員がお答えください】

問11 あなたは、過去5年間の間に、職場においてセクシュアルハラスメントやパワーハラスメント等のハラスメントにあったことがありますか。

ハラスメントの経験は「ある」が19.8%、「ない」が71.8%。

全体で「ある」が19.8%、「ない」が71.8%となっている。性別での傾向の相違はみられず、「ある」で男性が0.1ポイント高く、「ない」も男性が1.3ポイント高くなっている。

「ある」を性別・年齢別でみると、女性は40歳代の32.1%が最も高く、男性は50歳代の30.9%が最も高くなっている。



※「ある」と回答した方は、①～④からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

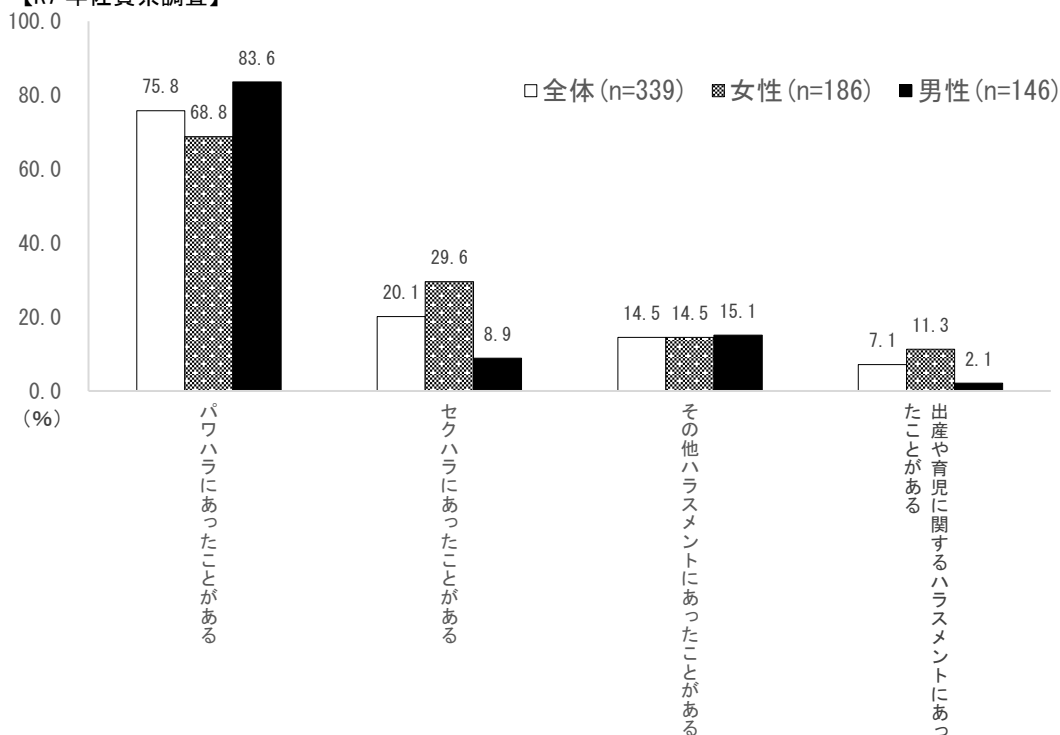
ハラスメント経験者の75.8%が「パワハラ」、20.1%が「セクハラ」。

全体では「パワハラにあったことがある」が75.8%で最も高く、次いで「セクハラにあったことがある」が20.1%、「その他ハラスメントにあったことがある」が14.5%、「出産や育児に関するハラスメントにあったことがある」が7.1%の順となっている。

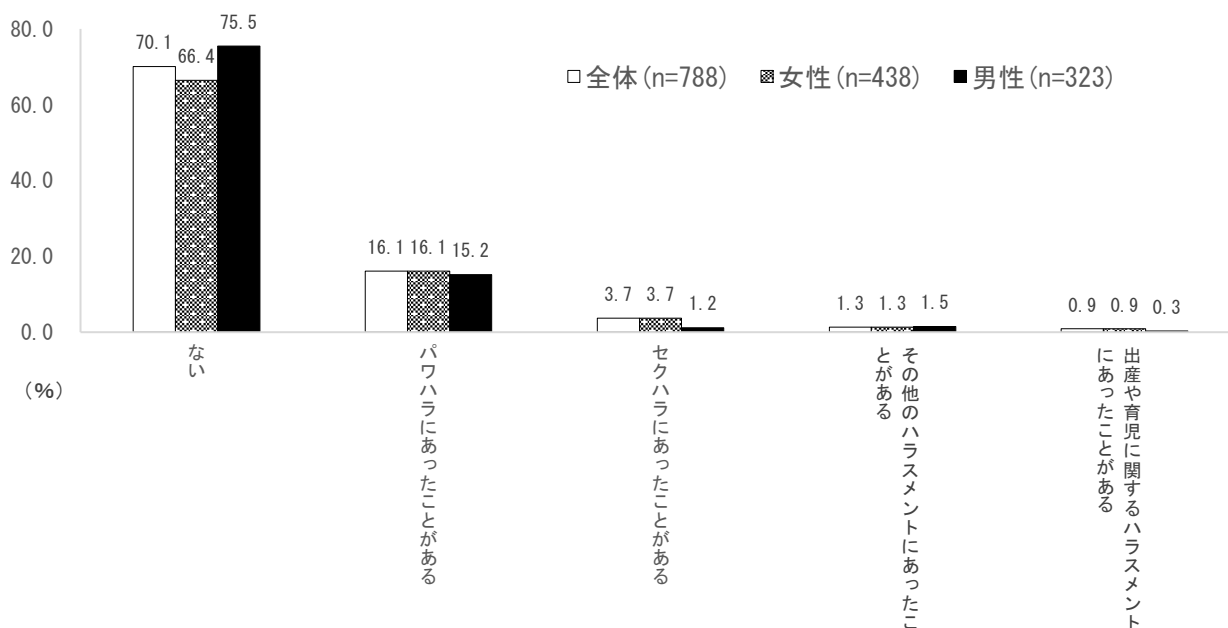
性別で見ると女性に傾向の相違はみられないが、男性は「セクハラにあったことがある」、「その他ハラスメントにあったことがある」の順位が入れ替わっている。

経年比較では「ない」が1.7ポイント増加しており、ハラスメントの項目の順位は変わっていない。

【R7 年佐賀県調査】



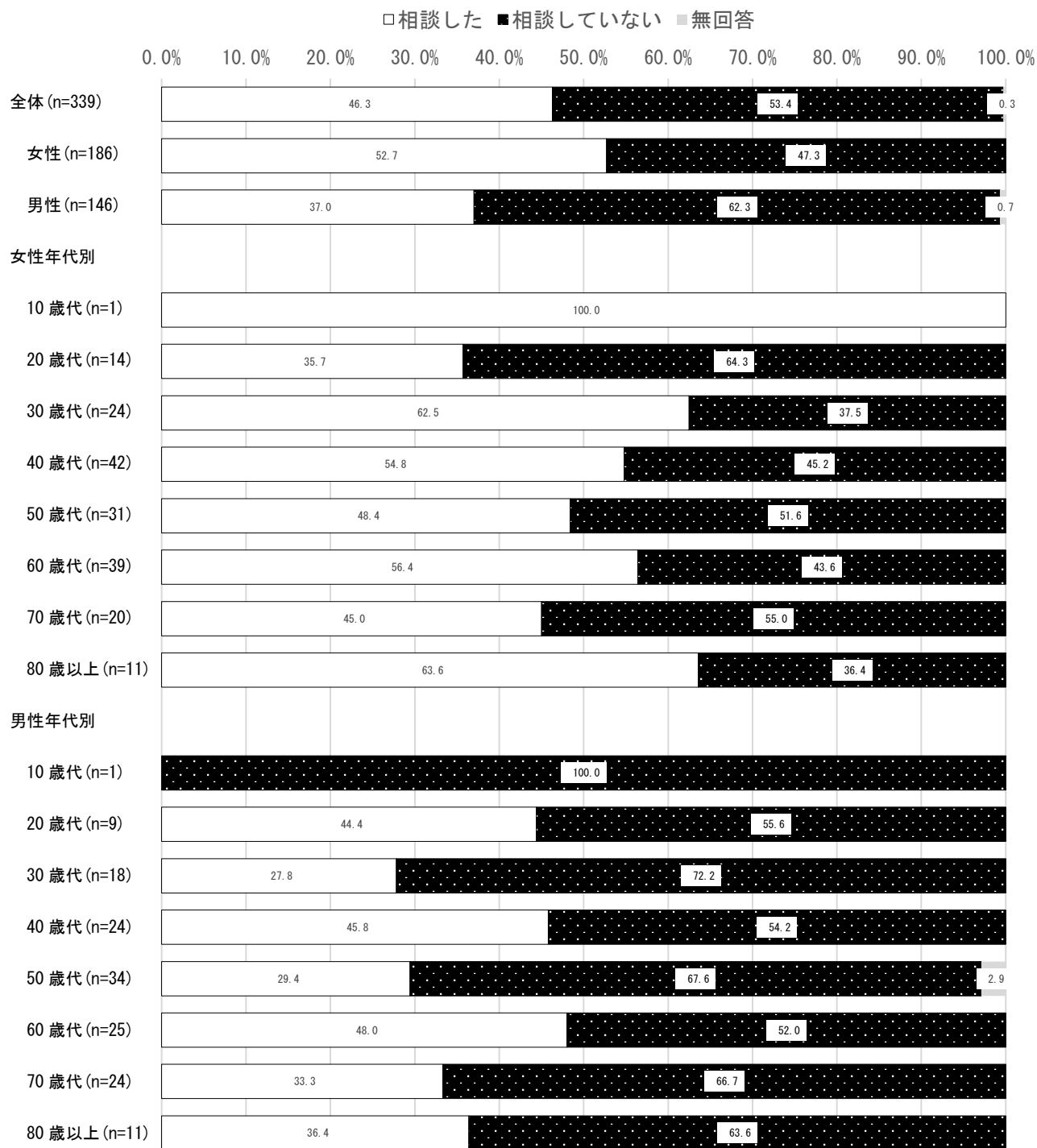
【R1 年佐賀県調査】



【ハラスメントにあったことがある方（問 11 で①～④を選んだ方）がお答えください】  
 問 11-1 あなたは職場において、ハラスメントにあった際にどこかに相談したり、被害を訴えたりしましたか。

ハラスメントの経験者の46.3%が「相談した」、53.4%が「相談していない」。

全体では「相談した」が46.3%、「相談していない」が53.4%となっており、性別での傾向の相違は、女性で「相談した」が「相談していない」を5.4ポイント上回っている。



※「相談した」と回答した方は、①～⑥から相談先をすべて選んで○をつけてください。

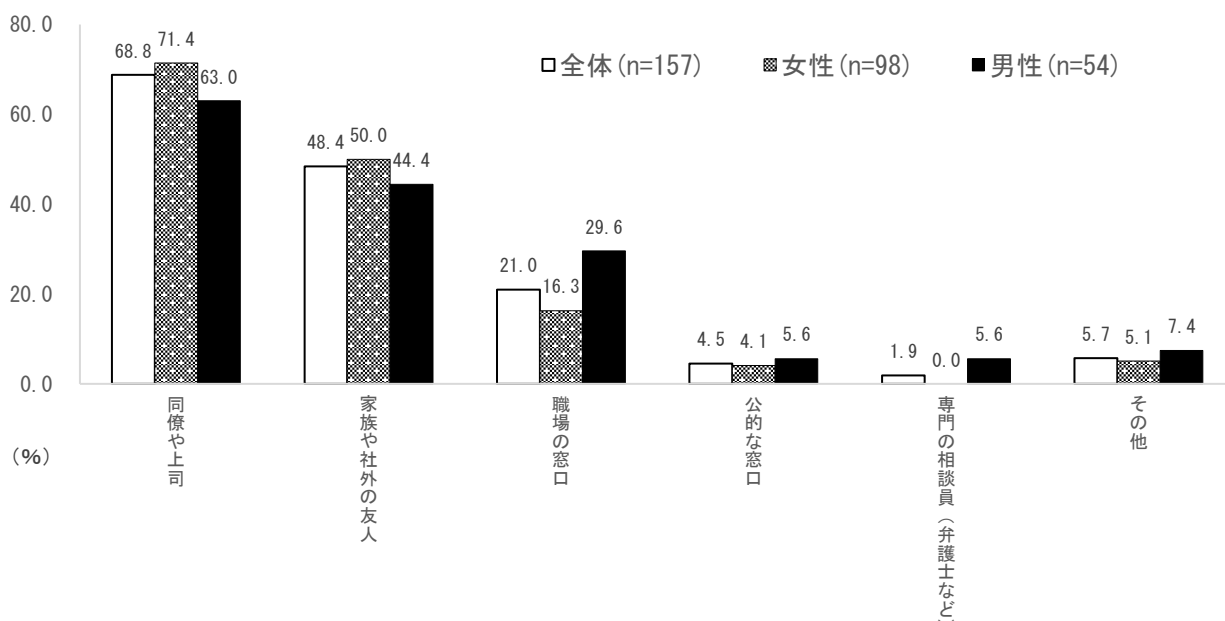
相談先は「同僚や上司」が68.8%でトップ。

全体では「同僚や上司」が68.8%で最も高く、次いで「家族や社外の友人」が48.4%、「職場の窓口」が21.0%と続いている。

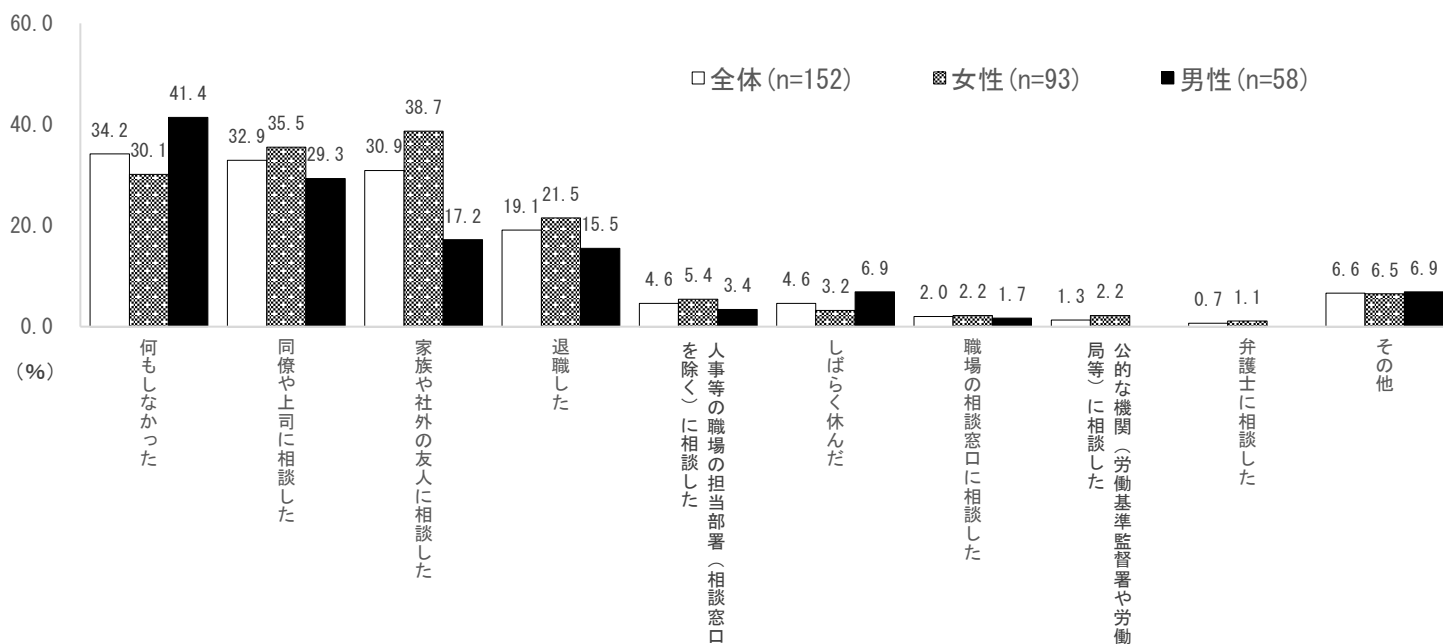
経年比較では選択肢が相違するため単純比較はできないものの、1位が「同僚や上司」、2位が「家族や社外の友人」と変化はみられない。

※性別・年齢別は母数が小さくなりすぎるため掲載していない。

【R7 年佐賀県調査】



【R1 年佐賀県調査】



【社会について】

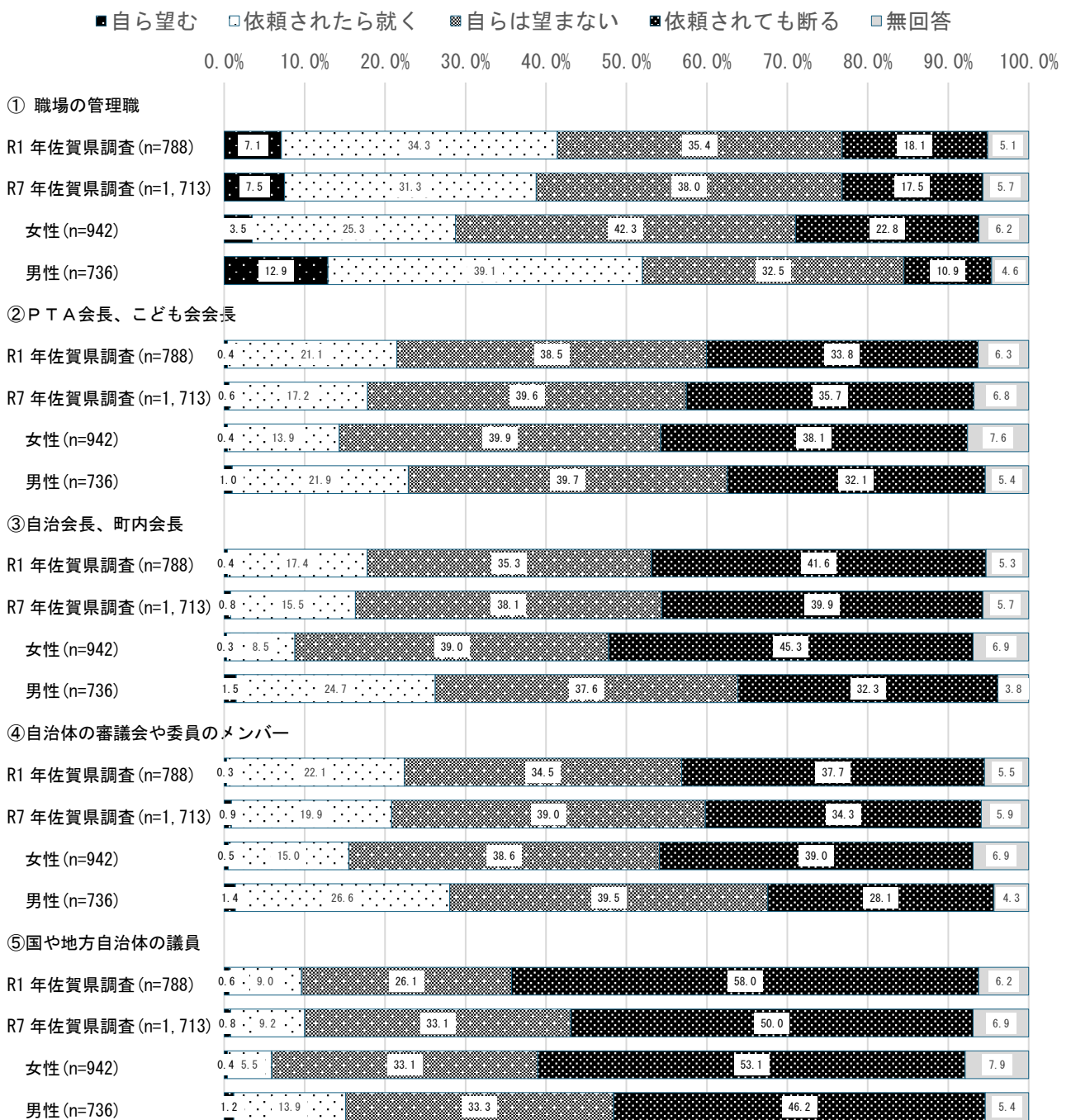
【全員がお答えください】

問12 あなたは、自分自身が管理職等への登用や企画・方針決定の場に参画することを望みますか。(〇は1~4の中からそれぞれ1つ)

自分自身が「望む」管理職等は「①職場の管理職」が38.8%でトップ。

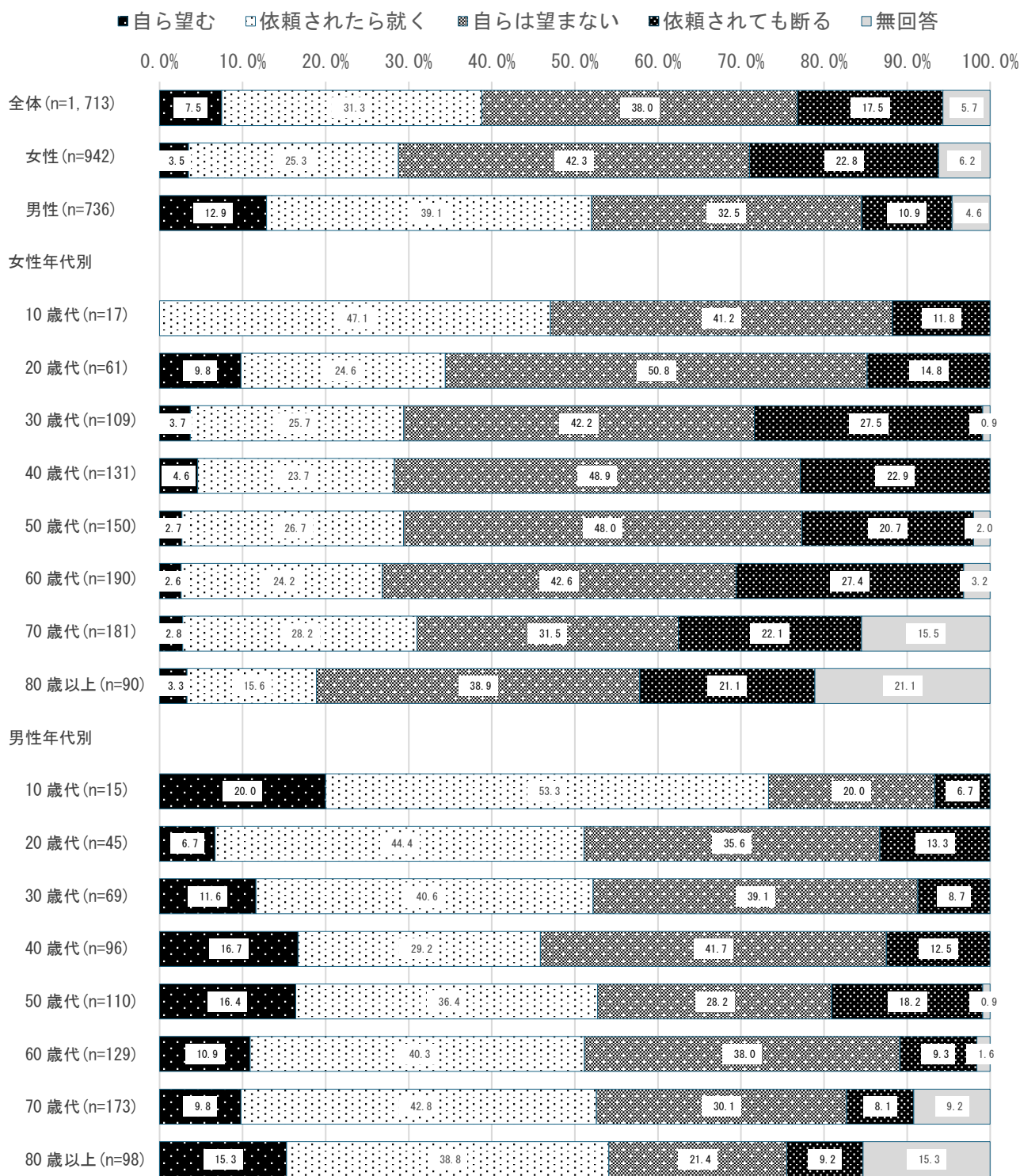
全体で「望む(「自ら望む」+「依頼されたら就く)」と「望まない(「自らは望まない」+「依頼されても断る)」を見ると、「①職場の管理職」は「望む」が38.8%、「望まない」が55.5%、「②PTA会長、こども会会長」は「望む」が17.8%、「望まない」が75.3%、「③自治会長、町内会長」は「望む」が16.3%、「望まない」が78.0%、「④自治体の審議会や委員のメンバー」は「望む」が20.8%、「望まない」が73.3%、「⑤国や地方自治体の議員」は「望む」が10.0%、「望まない」が83.1%となっている。

経年比較で「望む」が増加したのは「⑤国や地方自治体の議員」の0.4ポイント増加のみで他項目は全て減少となっている。



## 問12 ①職場の管理職

全体で「自らは望まない」が38.0%で最も高く、次いで「依頼されたら就く」が31.3%、「依頼されても断る」が17.5%と続いており、「望む」が38.8%、「望まない」が55.5%となっている。  
 性別での傾向の相違はみられないが、「望む」は女性よりも男性が23.2ポイント高くなっている。  
 性別・年齢別でみると、女性は「望む」が年代の上昇とともに減少の傾向がみられ、男性は「望む」が年代の上昇とともに増加の傾向がみられる。

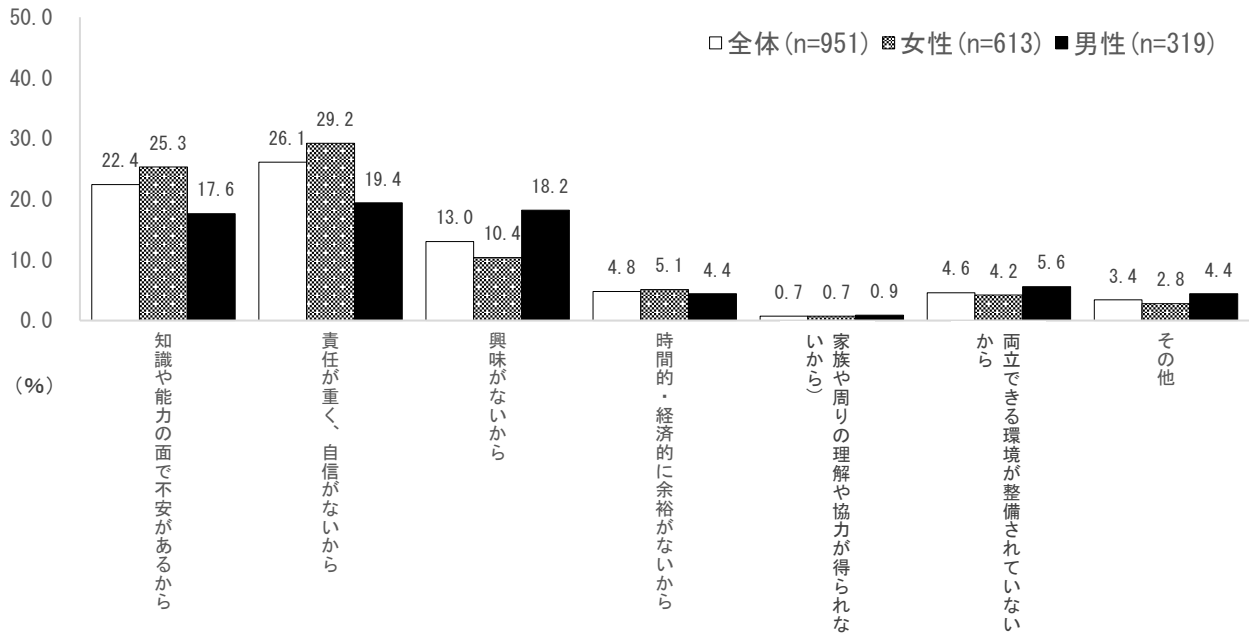


【自らは望まない、依頼されても断る理由】

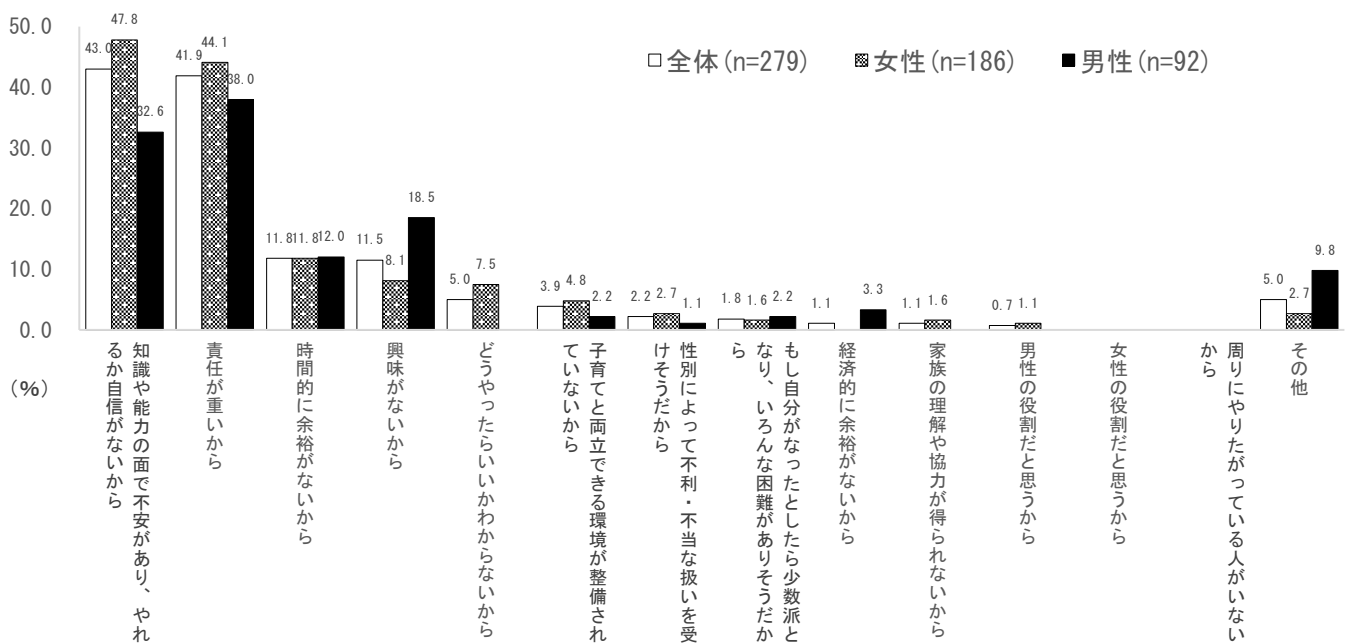
自らは望まない、依頼されても断る理由は「責任が重く、自信がないから」が26.1%で最も高く、次いで「知識や能力の面で不安があるから」が22.4%、「興味がないから」が13.0%と続いており、性別での相違は、男性は「知識や能力の面で不安があるから」と「興味がないから」の順位が入れ替わっている。

経年比較は選択方法が相違するため参考掲示しているが、概ね上位項目の変更はみられない。

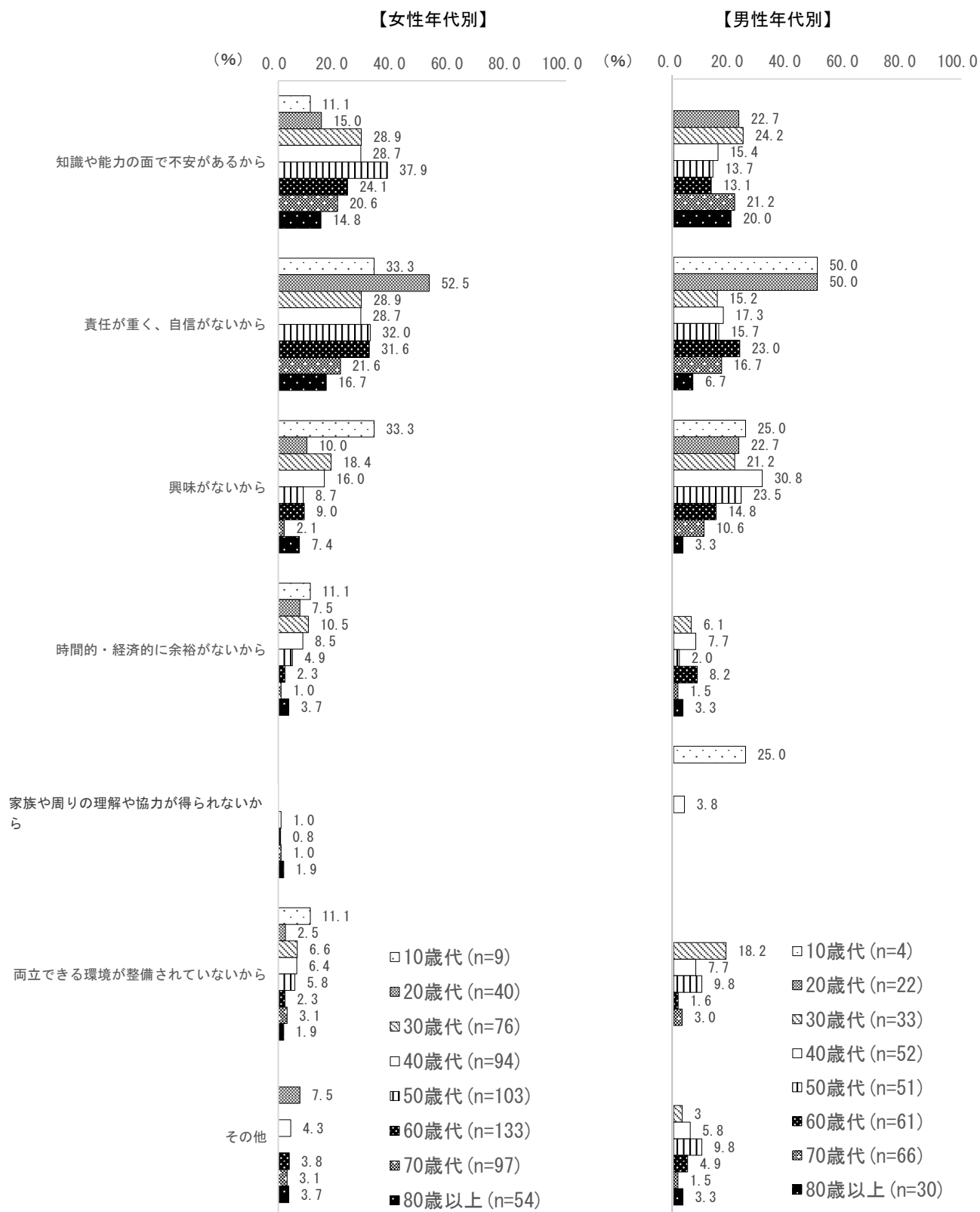
【R7 年佐賀県調査】



【R1 年佐賀県調査】

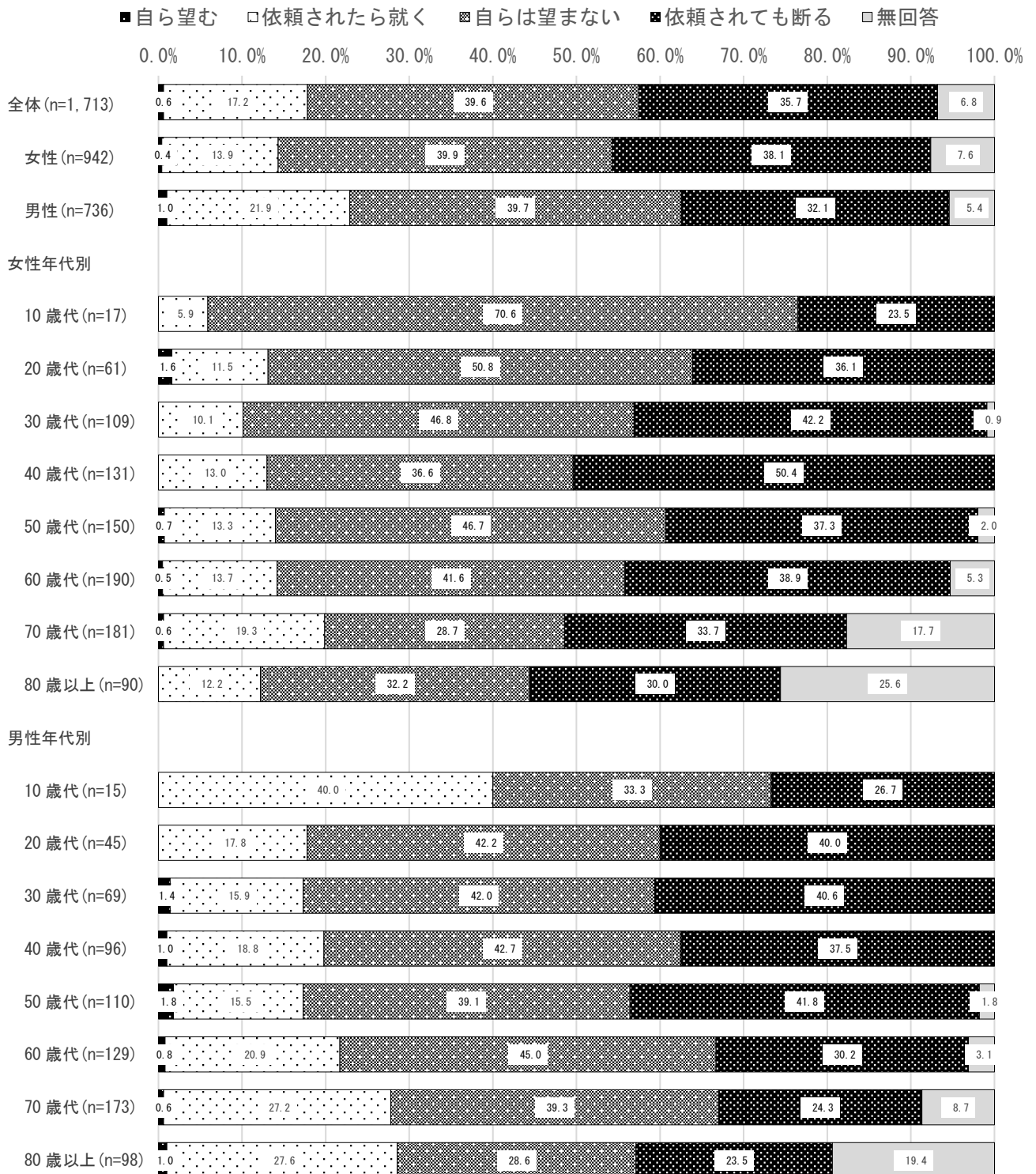


性別・年齢別にみると男性は母数の少ないものも多く参考程度にとどめておく必要があり、女性で一定母数のあるもの（30～70歳代）でみると、全体1位項目の「責任が重く、自信がないから」、2位項目の「知識や能力の面で不安があるから」はともに50歳代の回答が多く、全体3位項目の「興味がないから」は年代の上昇とともに減少している。



問12 ②PTA会長、こども会会長

全体で「自らは望まない」が39.6%で最も高く、次いで「依頼されても断る」が35.7%、「依頼されたら就く」が17.2%と続いており、「望む」が17.8%、「望まない」が75.3%となっている。  
 性別での傾向の相違はみられないが、「望む」は女性よりも男性が8.6ポイント高くなっている。  
 性別・年齢別でみると、男女ともに「望む」が年代の上昇とともに増加の傾向がみられ、「望まない」が年代の上昇とともに減少している。

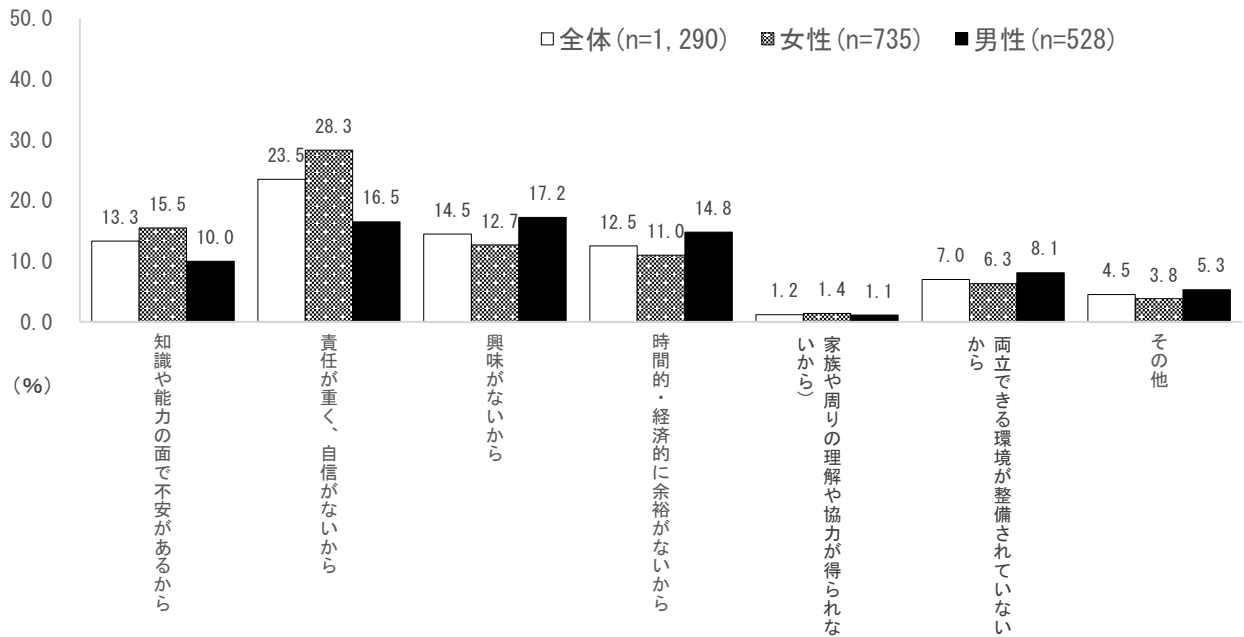


【自らは望まない、依頼されても断る理由】

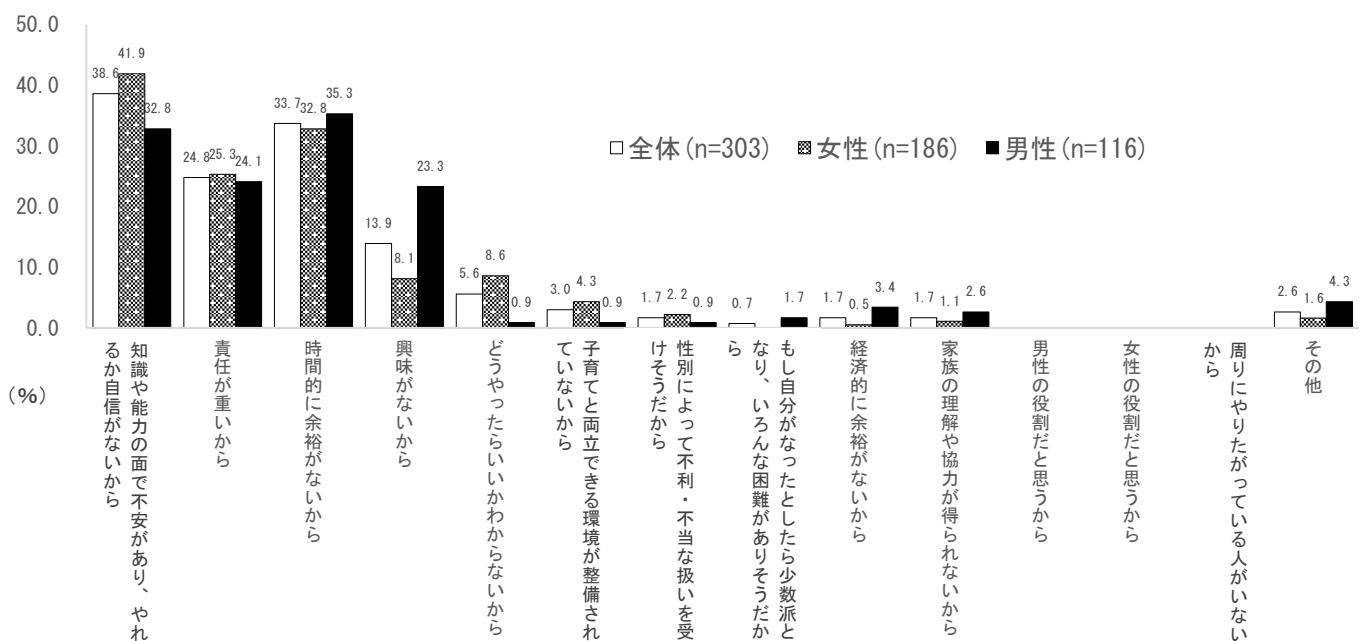
自らは望まない、依頼されても断る理由は「責任が重く、自信がないから」が23.5%で最も高く、次いで「興味がないから」が14.5%、「知識や能力の面で不安があるから」が13.3%と続いており、性別での相違は、女性は「興味がないから」と「知識や能力の面で不安があるから」の順位が入れ替わり、男性は「興味がないから」が1位項目、「責任が重く、自信がないから」が2位項目、「時間的・経済的に余裕がないから」が3位項目と順位が入れ替わっている。

経年比較は選択方法が相違するため参考掲示しているが、概ね上位項目の変更はみられない。

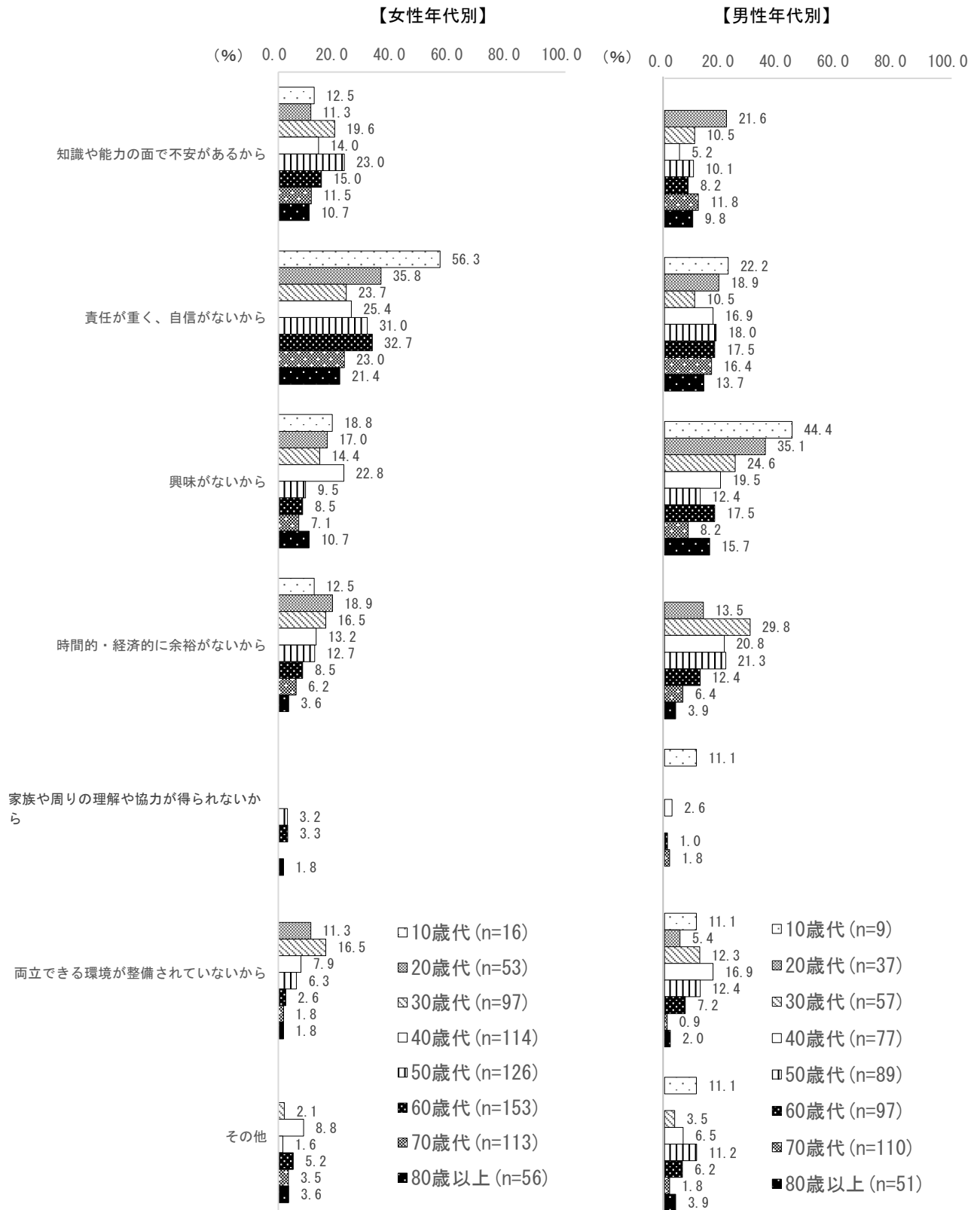
【R7年佐賀県調査】



【R1年佐賀県調査】



性別・年齢別（母数の少ないものも多く参考程度にとどめておく必要があり、女性は30～70歳代、男性は40～70歳代）でみると全体1位項目の「責任が重く、自信がないから」は女性が60歳代、男性は50歳代の回答が多く、2位項目の「興味がないから」は男女ともに40歳代の回答が多くなっている。全体3位項目の「知識や能力の面で不安があるから」は女性が50歳代、男性が70歳代の回答が多くなっている。

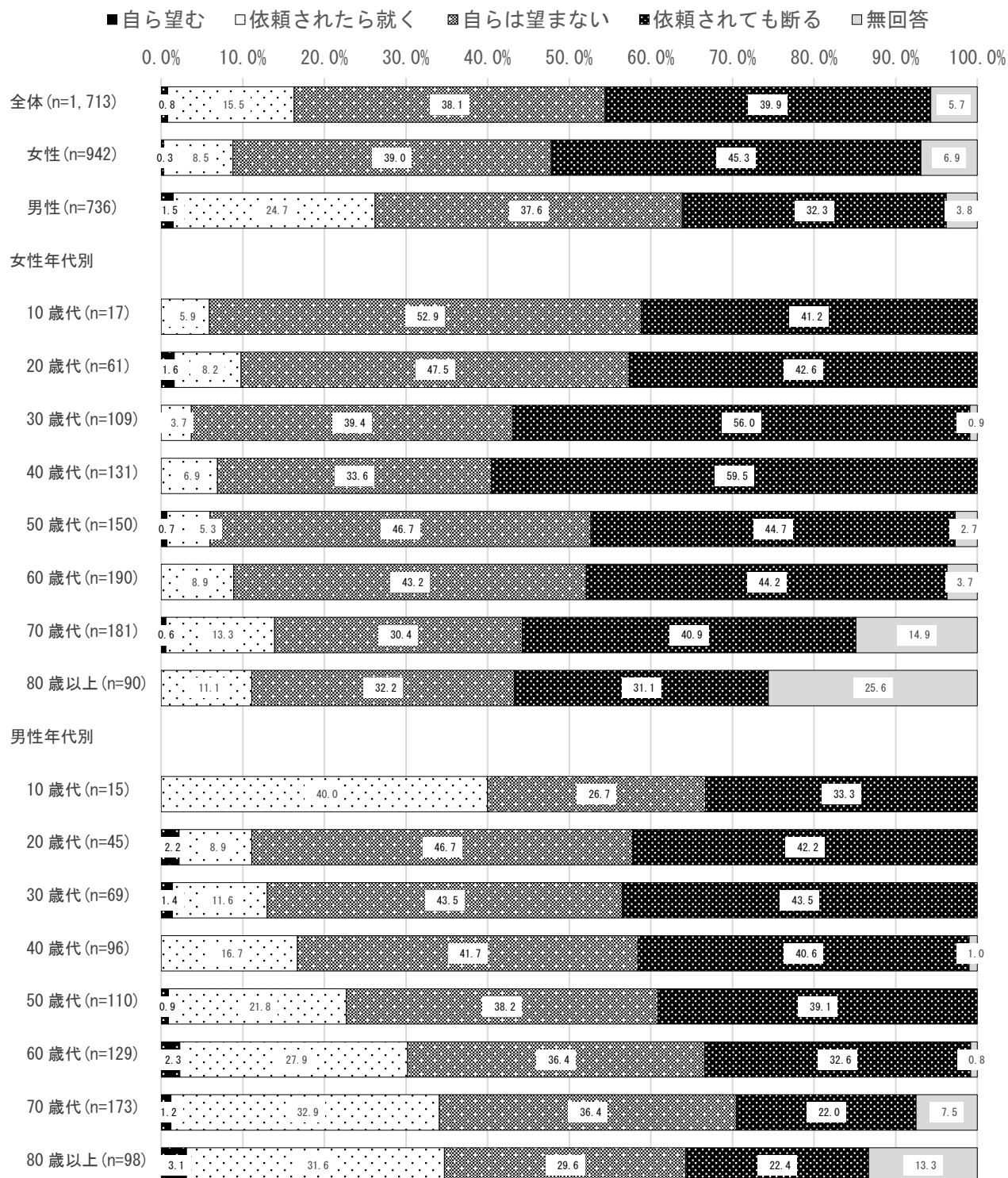


### 問12 ③自治会長、町内会長

全体で「依頼されても断る」が39.9%で最も高く、次いで「自らは望まない」が38.1%、「依頼されたら就く」が15.5%と続いており、「望む」が16.3%、「望まない」が78.0%となっている。

性別での傾向の相違は男性で「依頼されても断る」と「自らは望まない」の順位が入れ替わったものの「望まない」が高い。また、「望む」は女性よりも男性が17.4ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、男女ともに「望む」が年代の上昇とともに増加の傾向がみられ、「望まない」が年代の上昇とともに減少の傾向がみられる。

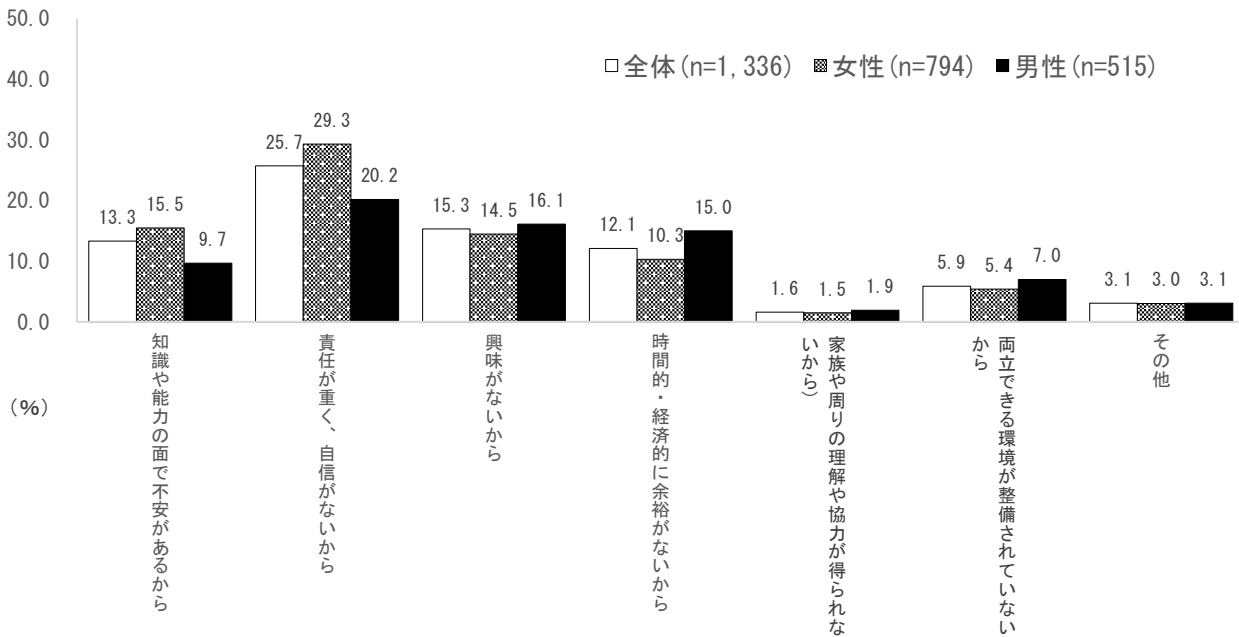


【自らは望まない、依頼されても断る理由】

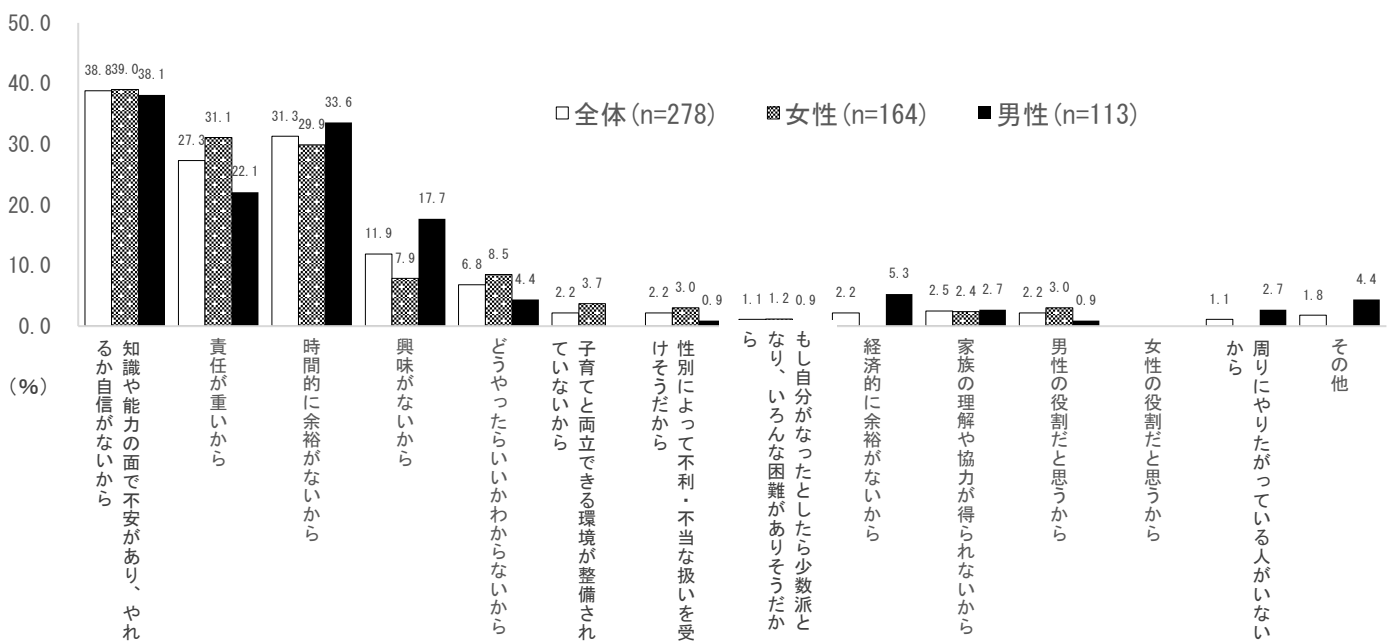
自らは望まない、依頼されても断る理由は「責任が重く、自信がないから」が25.7%で最も高く、次いで「興味がないから」が15.3%、「知識や能力の面で不安があるから」が13.3%と続いており、性別での相違は、女性は「興味がないから」と「知識や能力の面で不安があるから」の順位が入れ替わり、男性は「時間的・経済的に余裕がないから」と「知識や能力の面で不安があるから」が3位項目の順位が入れ替わっている。

経年比較は選択方法が相違するため参考掲示しているが、概ね上位項目の変更はみられない。

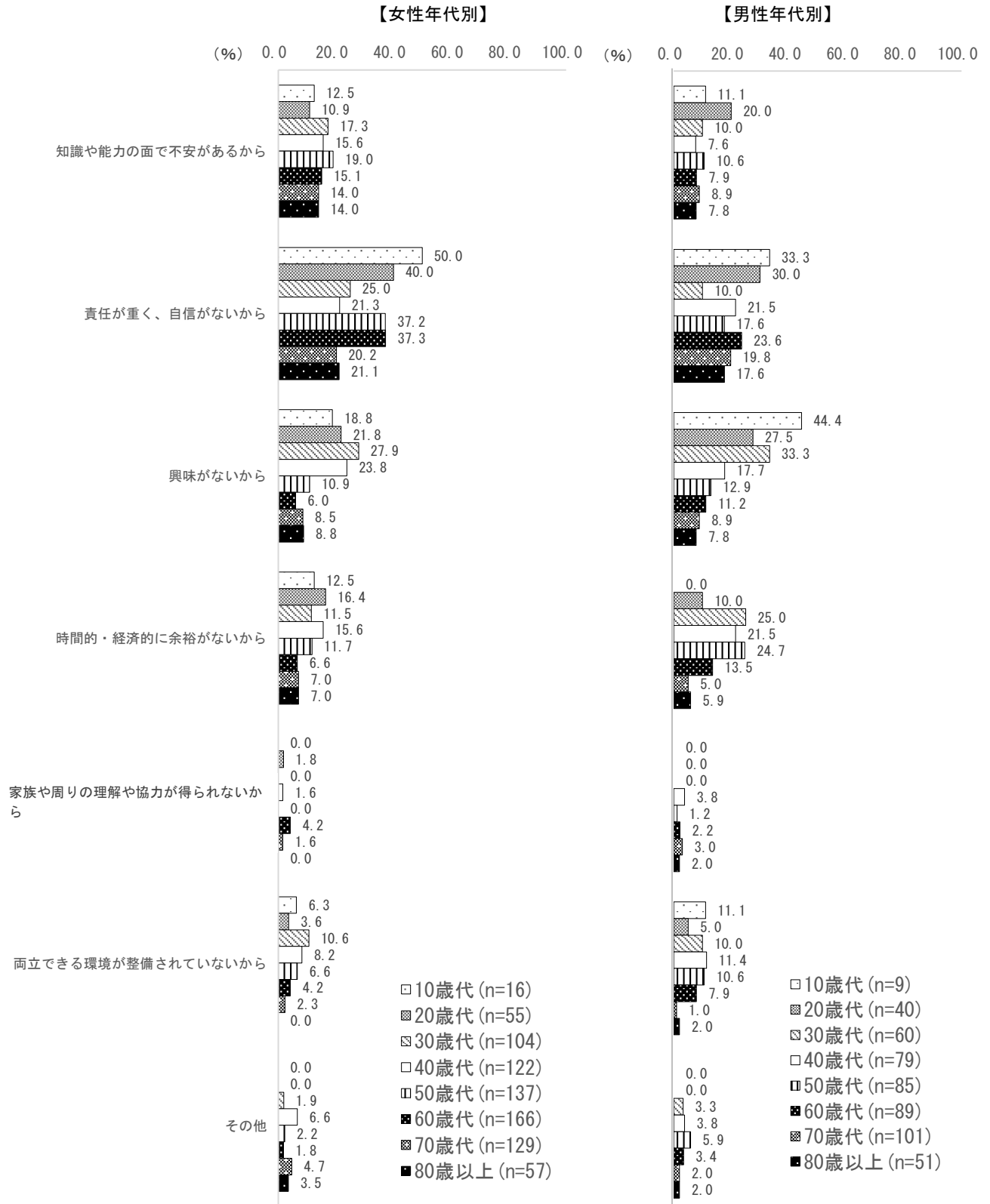
【R7 年佐賀県調査】



【R1 年佐賀県調査】



性別・年齢別（母数の少ないものも多く参考程度にとどめておく必要があり、女性は30～70歳代、男性は40～70歳代）でみると全体1位項目の「責任が重く、自信がないから」は男女ともに60歳代の回答が多く、2位項目の「興味がないから」は男女ともに減少の傾向がみられる。全体3位項目の「知識や能力の面で不安があるから」は男女ともに50歳代の回答が多い。

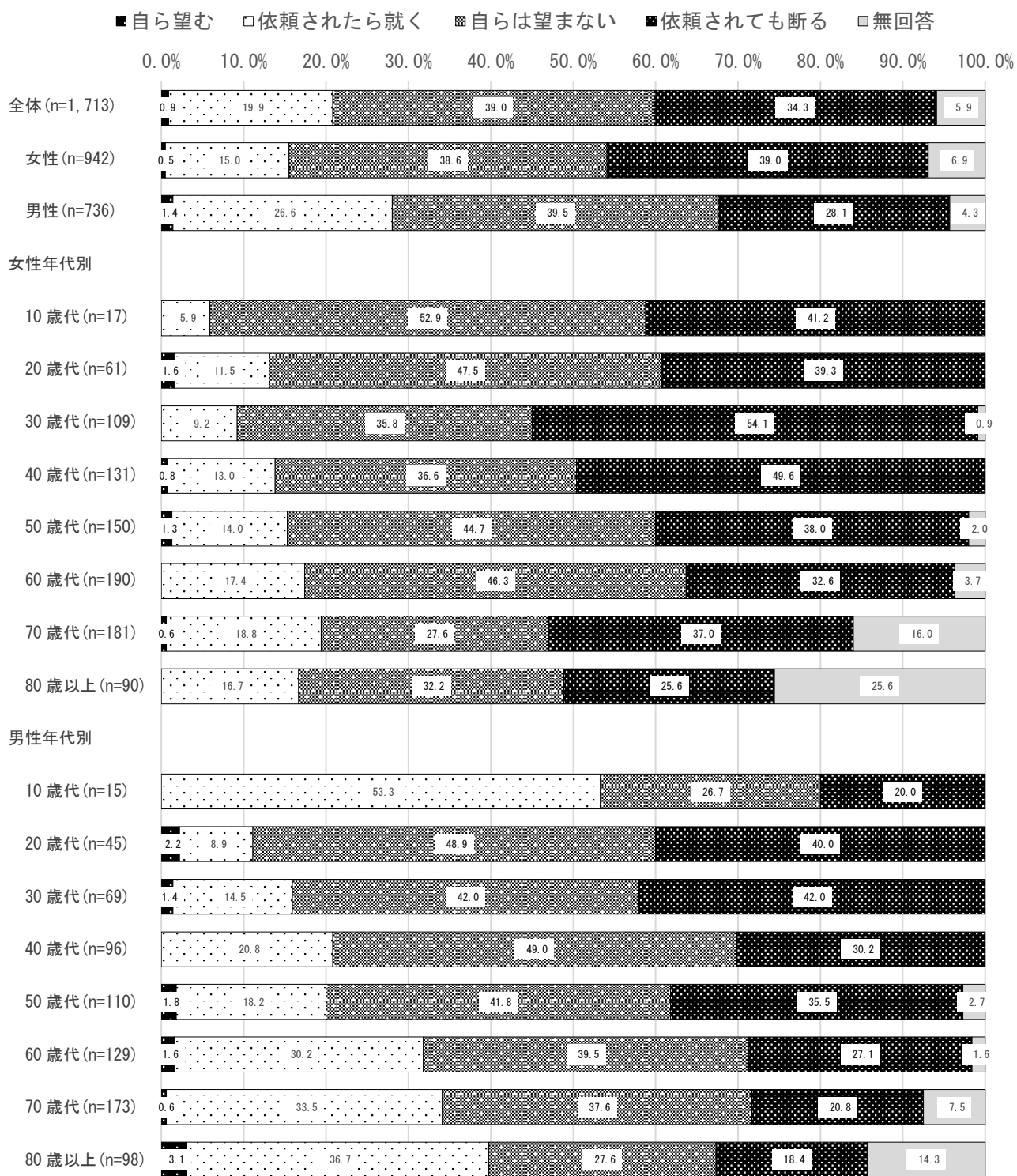


## 問12 ④自治体の審議会や委員のメンバー

全体で「自らは望まない」が39.0%で最も高く、次いで「依頼されても断る」が34.3%、「依頼されたら就く」が19.9%と続いており、「望む」が20.8%、「望まない」が73.3%となっている。

性別での傾向の相違は女性で「依頼されても断る」と「自らは望まない」の順位が入れ替わったものの「望まない」が高い。また、「望む」は女性よりも男性が12.5ポイント高くなっている。

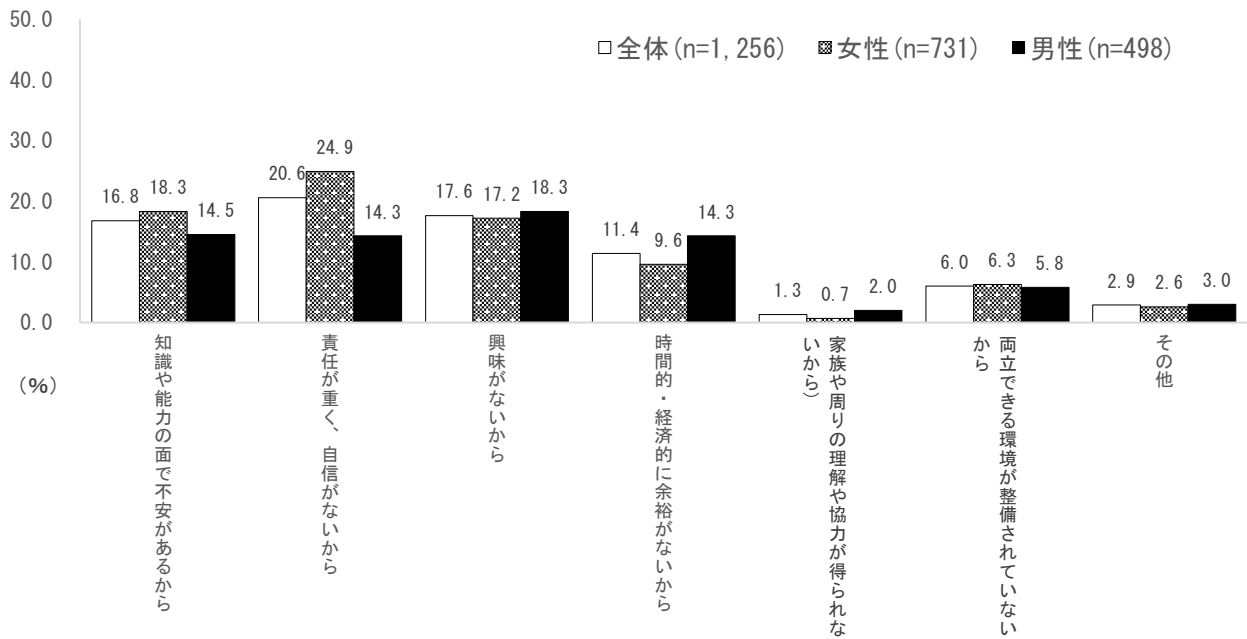
性別・年齢別でみると、男女ともに「望む」が年代の上昇とともに増加の傾向がみられ、「望まない」が年代の上昇とともに減少の傾向がみられる。



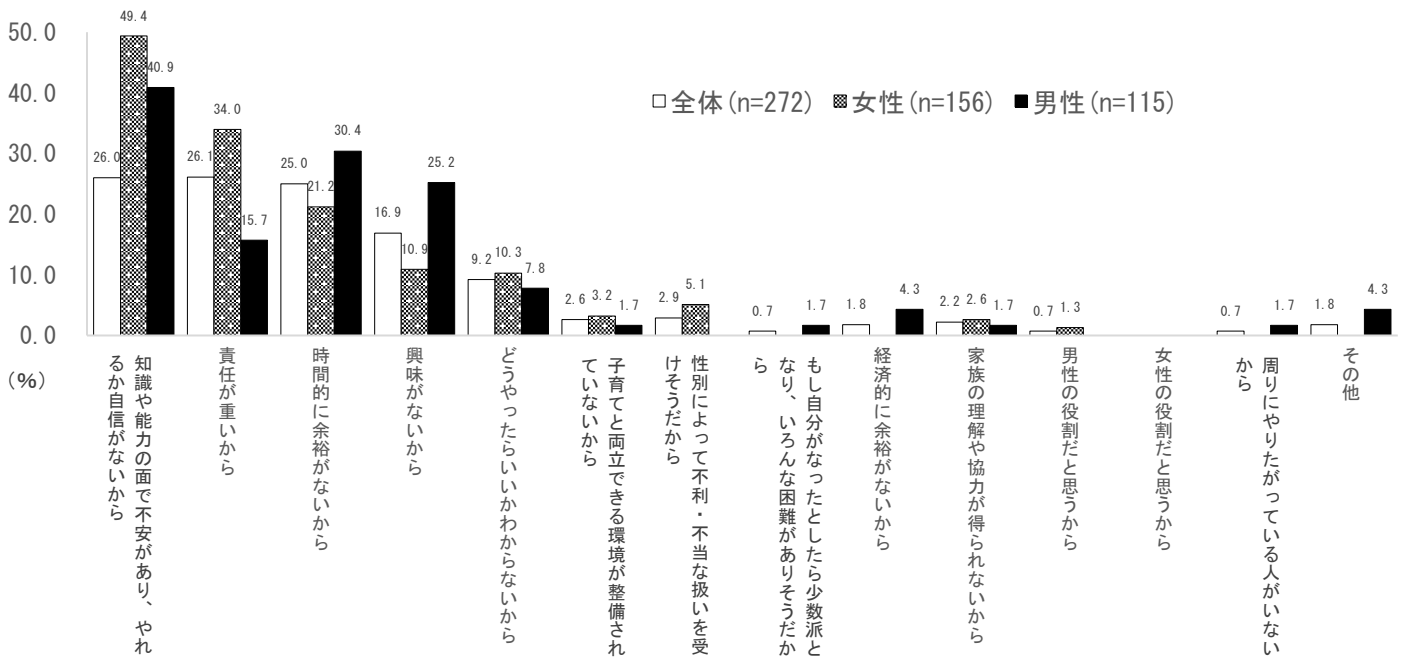
【自らは望まない、依頼されても断る理由】

自らは望まない、依頼されても断る理由は「責任が重く、自信がないから」が20.6%で最も高く、次いで「興味がないから」が17.6%、「知識や能力の面で不安があるから」が16.8%と続いており、性別での相違は、女性は「興味がないから」と「知識や能力の面で不安があるから」の順位が入れ替わり、男性は「興味がないから」が1位項目、「知識や能力の面で不安があるから」が2位項目、「責任が重く、自信がないから」と「時間的・経済的に余裕がないから」が3位項目に並んで入っている。

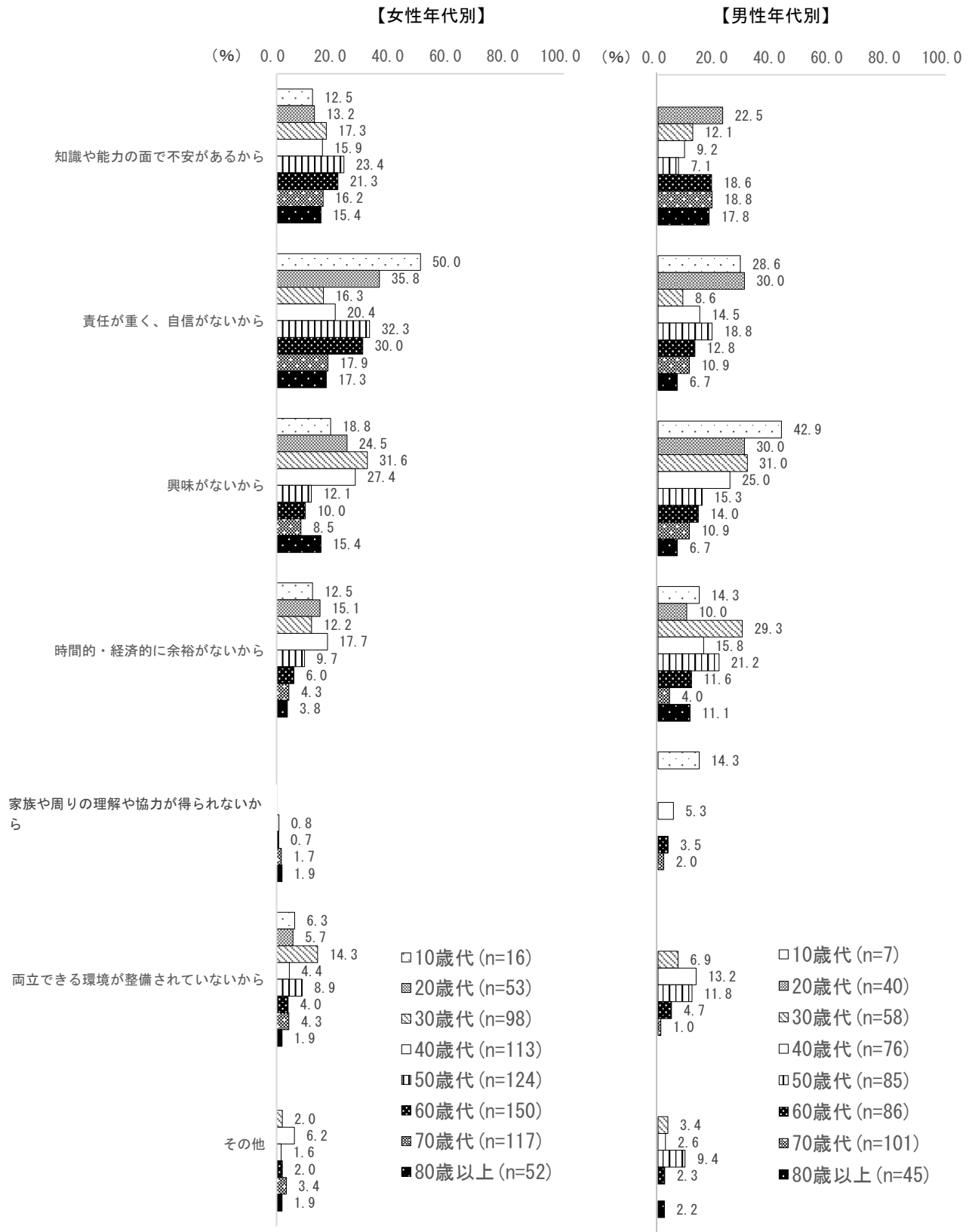
【R7年佐賀県調査】



【R1年佐賀県調査】

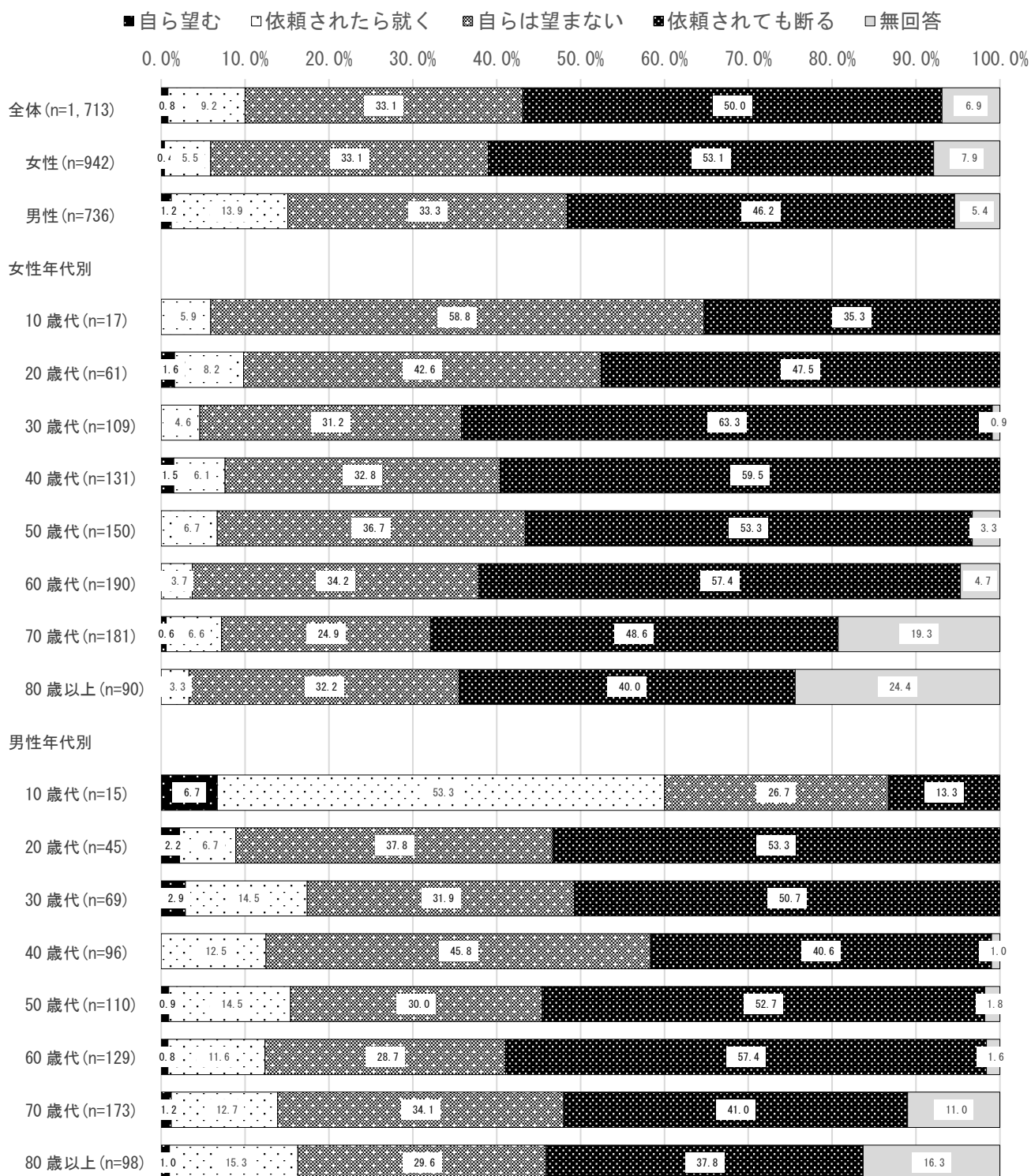


性別・年齢別（母数の少ないものも多く参考程度にとどめておく必要があり、女性は30～70歳代、男性は40～70歳代）でみると全体1位項目の「責任が重く、自信がないから」は男女ともに50歳代の回答が多く、2位項目の「興味がないから」は男女ともに年代の上昇とともに減少傾向にある。全体3位項目の「知識や能力の面で不安があるから」は女性が50歳代、男性が70歳代の回答が多い。



問12 ⑤国や地方自治体の議員

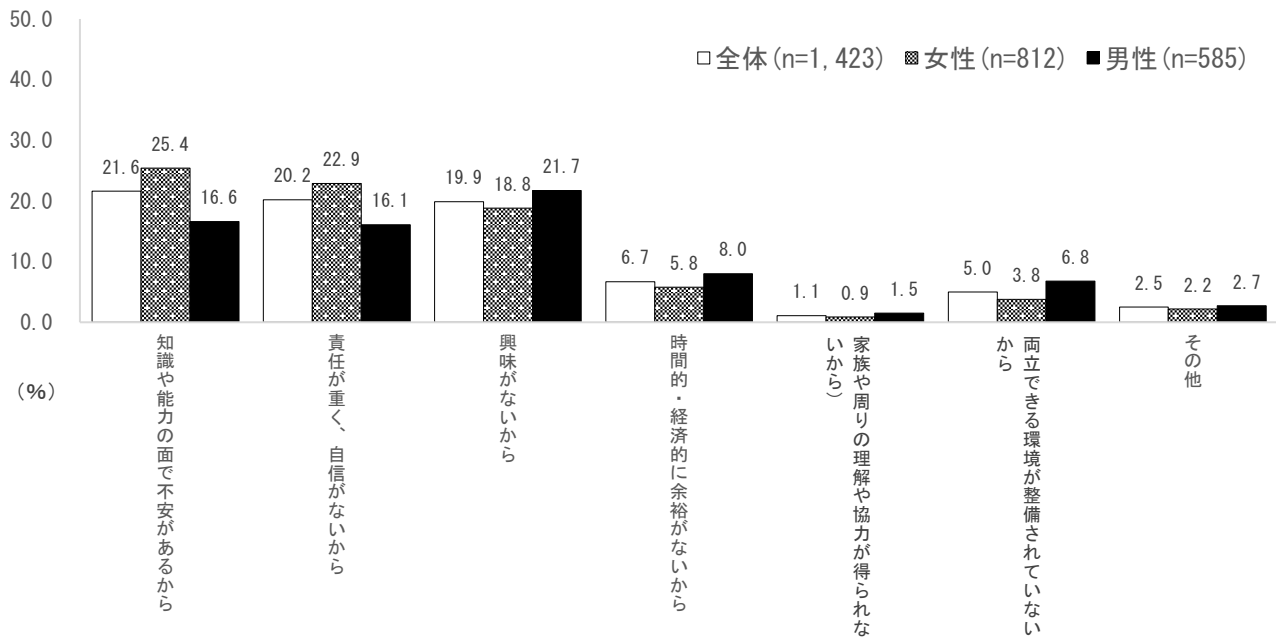
全体で「依頼されても断る」が50.0%で最も高く、次いで「自らは望まない」が33.1%、「依頼されたら就く」が9.2%と続いており、「望む」が10.0%、「望まない」が83.1%となっている。  
性別での傾向の相違はみられず、「望む」は女性よりも男性が9.2ポイント高くなっている。  
性別・年齢別でみると、男女ともに「望まない」が年代の上昇とともに減少の傾向がみられる。



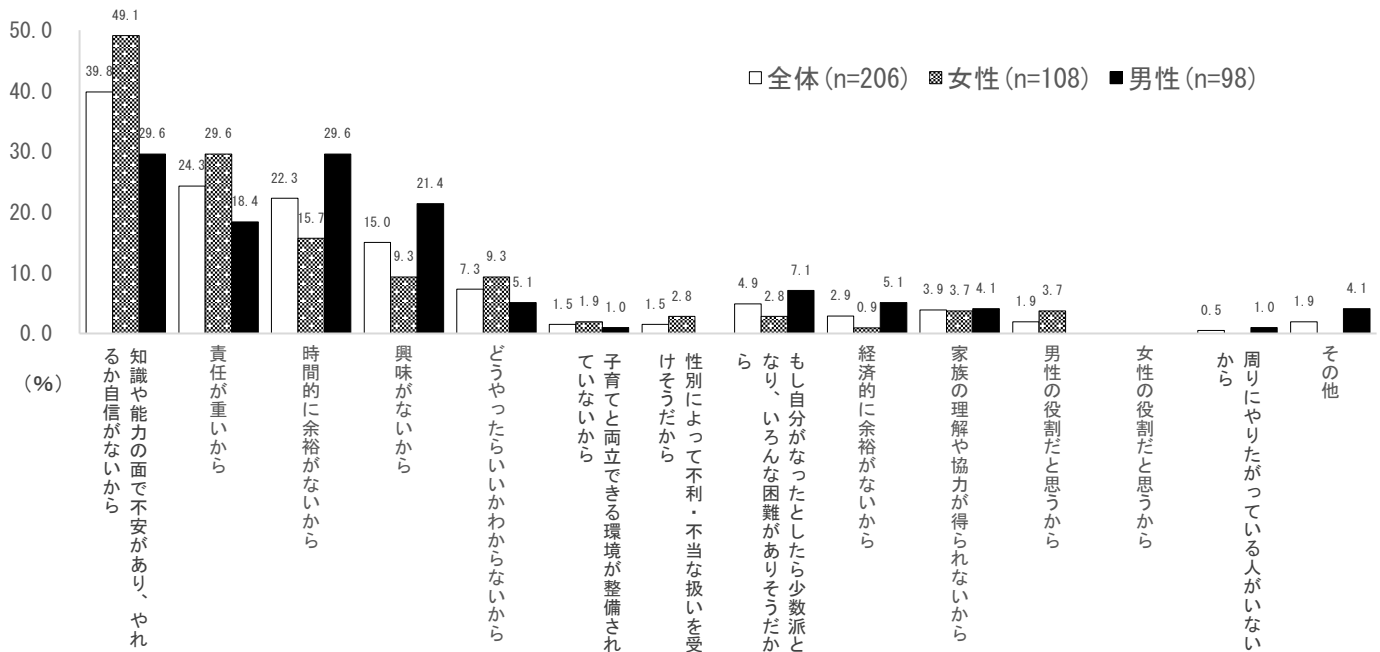
【自らは望まない、依頼されても断る理由】

自らは望まない、依頼されても断る理由は「知識や能力の面で不安があるから」が21.6%で最も高く、次いで「責任が重く、自信がないから」が20.2%、「興味がないから」が19.9%と続いており、性別での相違は、女性は傾向の相違はみられず、男性は「興味がないから」が1位項目、「知識や能力の面で不安があるから」が2位項目、「責任が重く、自信がないから」が3位項目となっている。

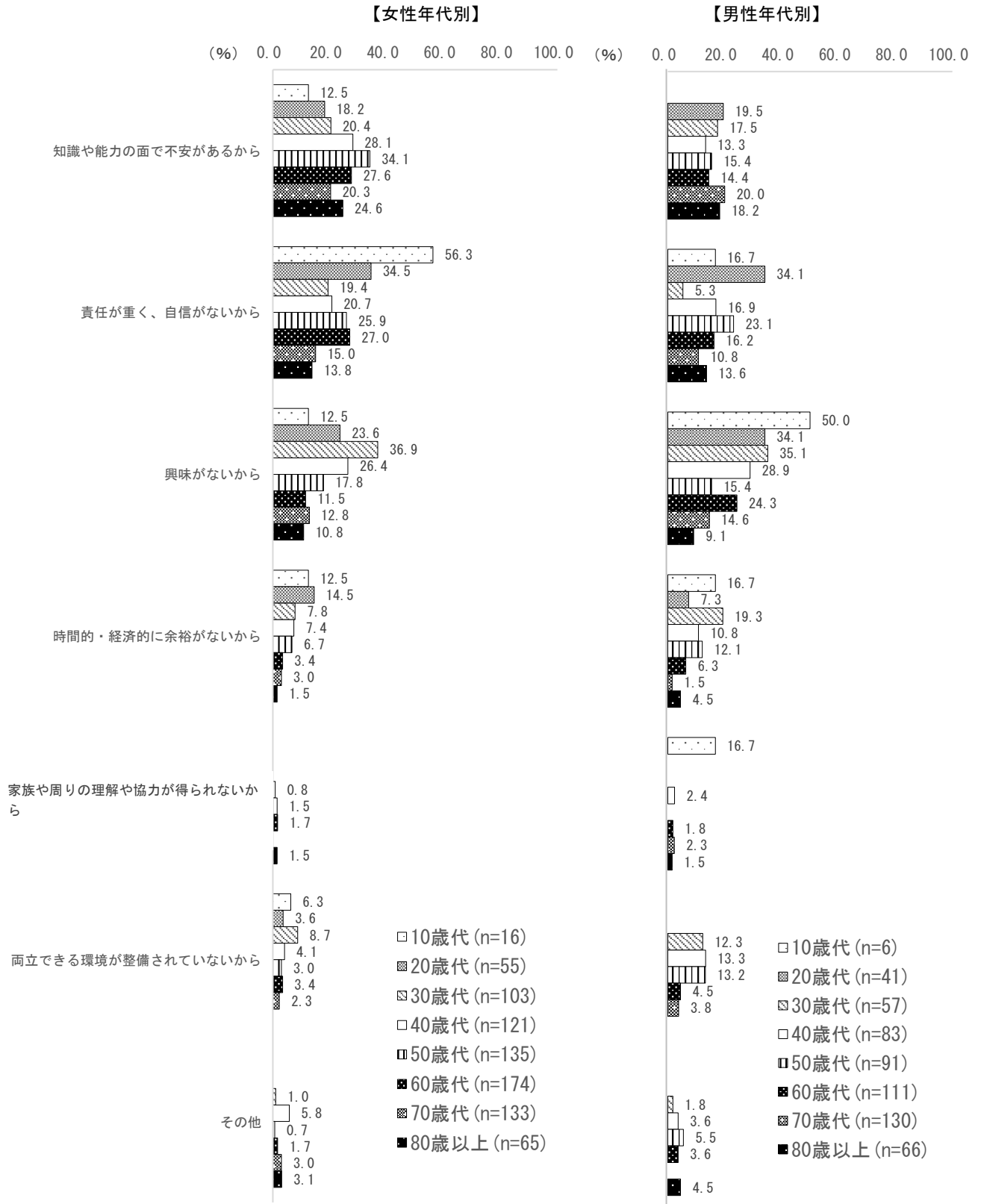
【R7 年佐賀県調査】



【R1 年佐賀県調査】



性別・年齢別（母数の少ないものも多く参考程度にとどめておく必要があり、女性は30～70歳代、男性は40～70歳代）でみると全体1位項目の「知識や能力の面で不安があるから」で女性は50歳代、男性は70歳代の回答が多く、2位項目の「責任が重く、自信がないから」は女性が60歳代、男性が50歳代の回答が多くなっている。全体3位項目の「興味がないから」は女性が30歳代、男性が40歳代の回答が多い。

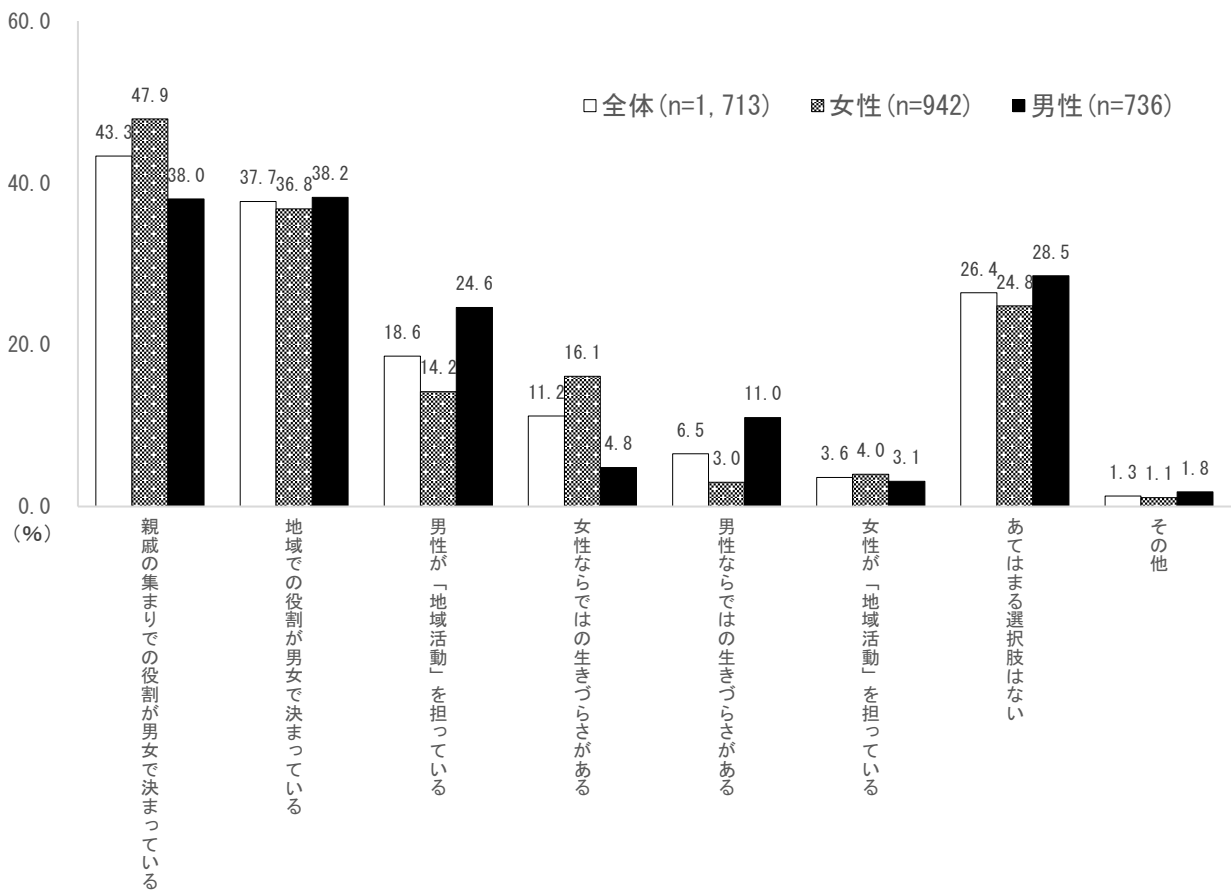


【全員がお答えください】

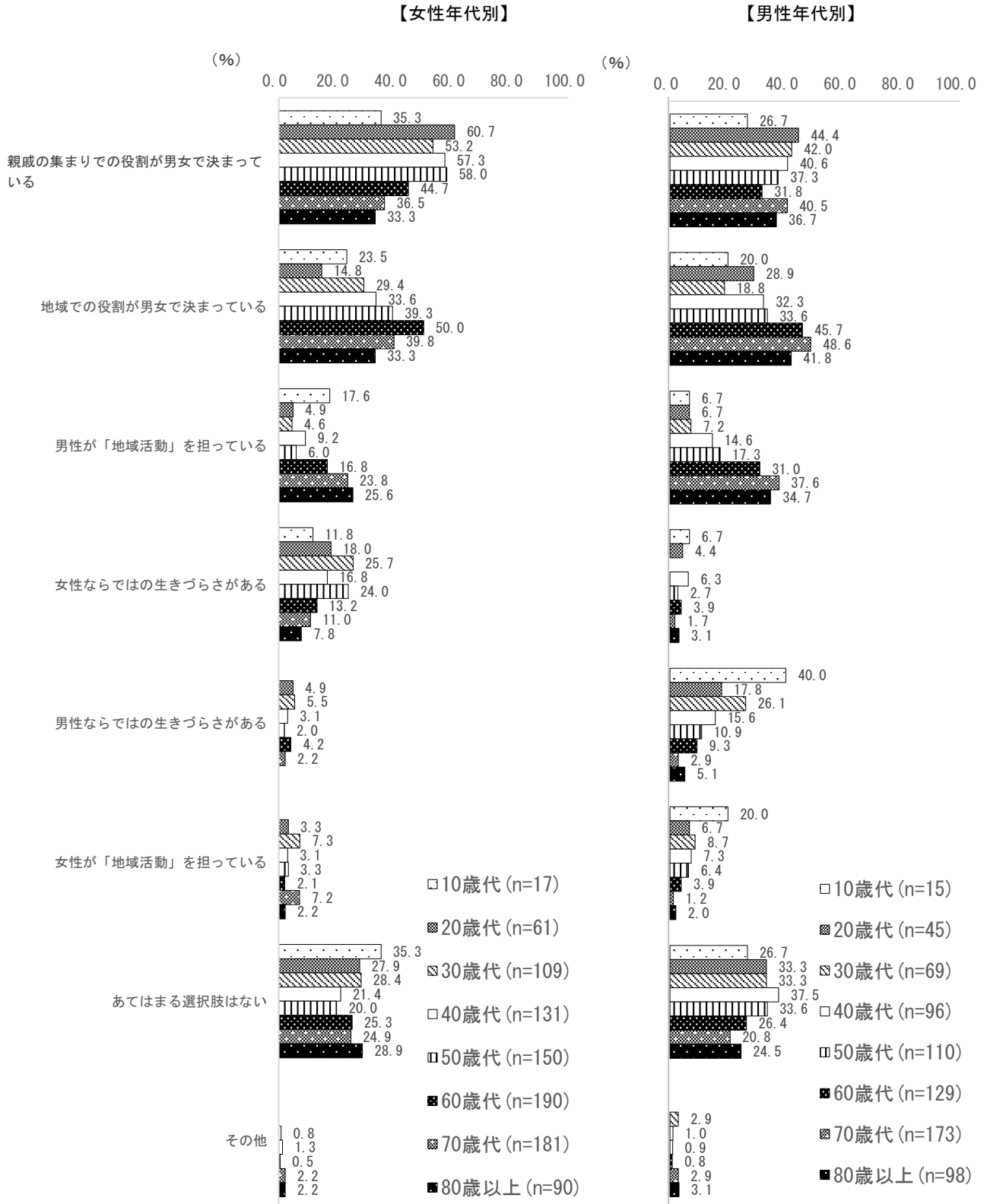
問13 地域や社会生活で「男女差」を感じたことのある場面は次のうちどれですか。  
(〇はいくつでも)

「親戚の集まりでの役割が男女で決まっている」が43.3%でトップ。

全体で「親戚の集まりでの役割が男女で決まっている」が43.3%で最も高く、次いで「地域での役割が男女で決まっている」が37.7%、「男性が「地域活動」を担っている」が18.6%続いている。一方で「あてはまる選択肢はない」が26.4%となっている。性別での傾向の大きな相違はみられない。



性別・年齢別（母数の少ないものも多く参考程度にとどめておく必要があり、女性は30歳代以上、男性は40歳代以上）でみると全体1位項目の「親戚の集まりでの役割が男女で決まっている」は女性が50歳代、男性が40歳代の回答が多く、全体2位項目の「地域での役割が男女で決まっている」で女性は60歳代、男性は70歳代の回答が多くなっている。全体3位項目の「男性が「地域活動」を担っている」は女性は80歳以上、男性は70歳代の回答が多い。



【全員がお答えください】

問14 あなたは「男性だから、女性だからこうあるべき」という固定的な意識をなくす必要があると思いますか。(〇は1つ)

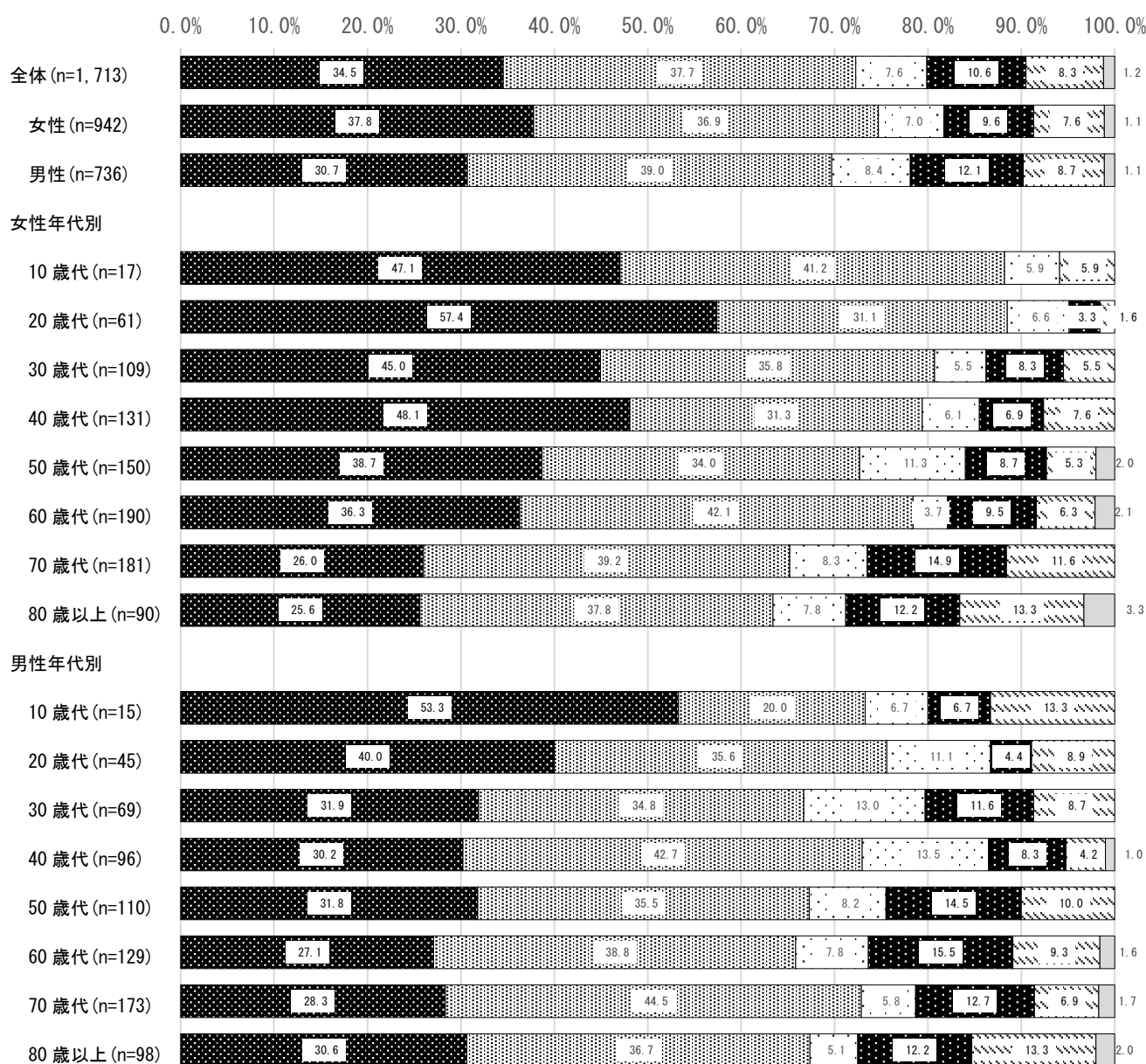
固定的な意識をなくす必要が「あると思う」が72.2%、「あると思わない」が18.2%

全体で「ややそう思う」が37.7%で最も高く、次いで「そう思う」が34.5%、「そう思わない」が10.6%と続いており、「あると思う(「そう思う」+「ややそう思う」)」が72.2%、「あると思わない(「そう思わない」+「ややそう思わない」)」が18.2%となっている。

性別での相違は、女性は「そう思う」と「ややそう思う」との順位が入れ替わり「思う」は男性よりも5.0ポイント高くなっている。

性別・年齢別では「思う」は男女ともに年代の上昇とともに減少傾向がみられる。

■ そう思う □ ややそう思う □ ややそう思わない ■ そう思わない □ わからない・考えたことがない □ 無回答



【全員がお答えください】

問15 あなたは、次の①～⑬の役職について、今後女性が増えたほうがいいと思いますか。  
(〇はそれぞれ1つ)

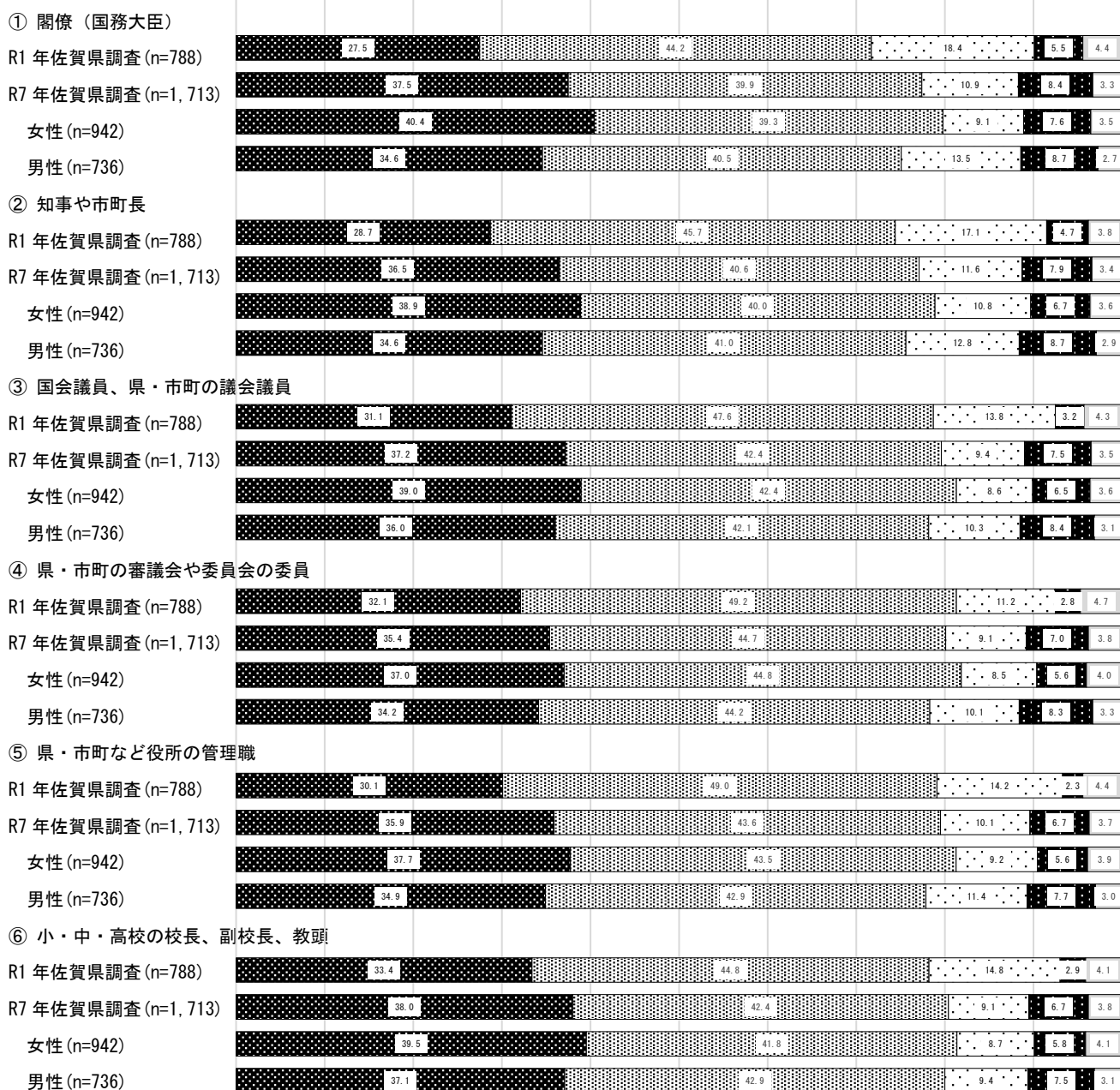
今後女性が増えたほうがいい役職は「⑨医師、歯科医師」が82.2%でトップ。

全体でみると全項目で「思う(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)」が「思わない(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)」を大きく上回っており、「思う」が最も高かったのは「⑨医師、歯科医師」の82.2%、次いで「⑫経営者・起業家」が81.5%、「⑥小・中・高校の校長、副校長、教頭」が80.4%、「⑪会社の管理職」が80.2%、「④県・市町の審議会や委員会の委員」が80.1%と8割を超えている。

経年比較で「思う」が減少したのは、「⑨医師、歯科医師」が▲2.4ポイント、「④県・市町の審議会や委員会の委員」が▲1.2ポイント、「⑧裁判官・検察官・弁護士」が▲0.4ポイント、「⑫経営者・起業家」が▲0.3ポイントとなり、増加が最も高いのは「①閣僚(国務大臣)」の5.7ポイントとなっている。

■ そう思う    ▨ どちらかといえばそう思う    □ どちらかといえばそう思わない    ■ そう思わない    □ 無回答

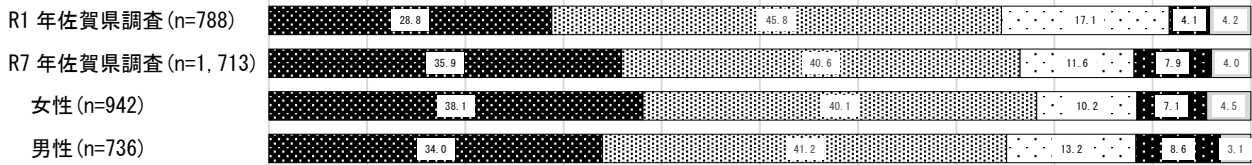
0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%



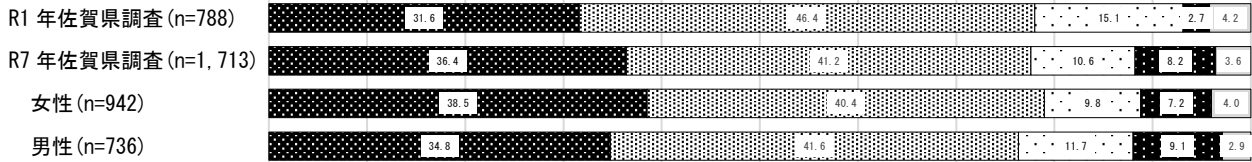
■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%

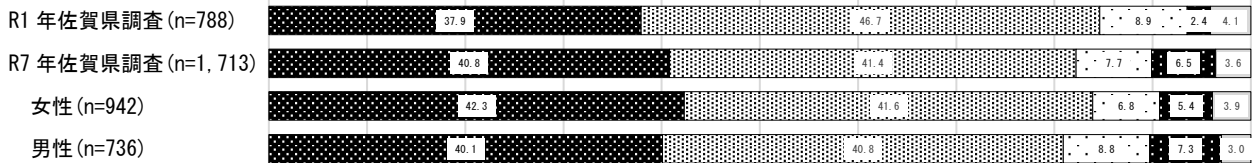
⑦ 大学教授・学長



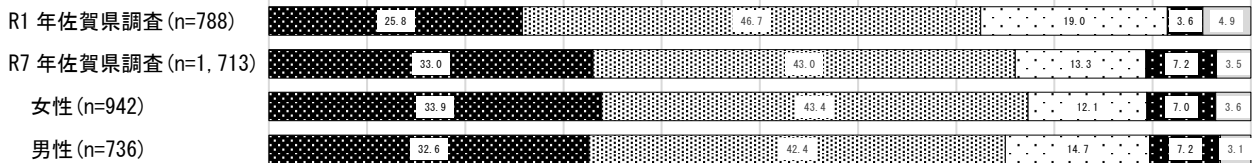
⑧ 裁判官・検察官・弁護士



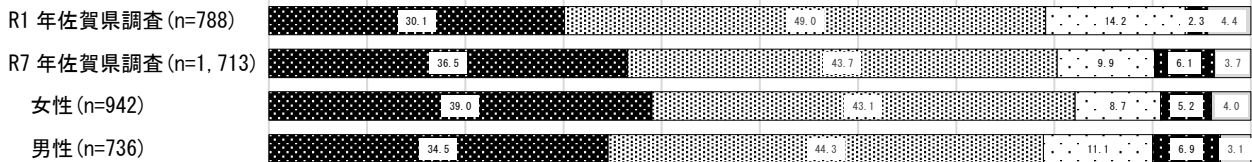
⑨ 医師、歯科医師



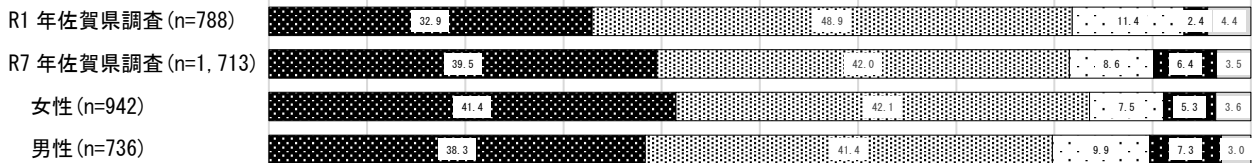
⑩ 農協など団体の役員



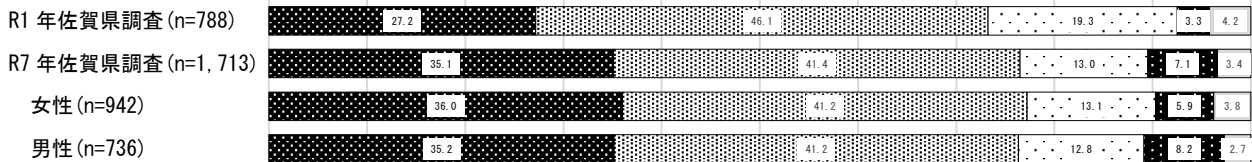
⑪ 会社の管理職



⑫ 経営者・起業家



⑬ 自治会長・PTA会長



問15 ①閣僚（国務大臣）

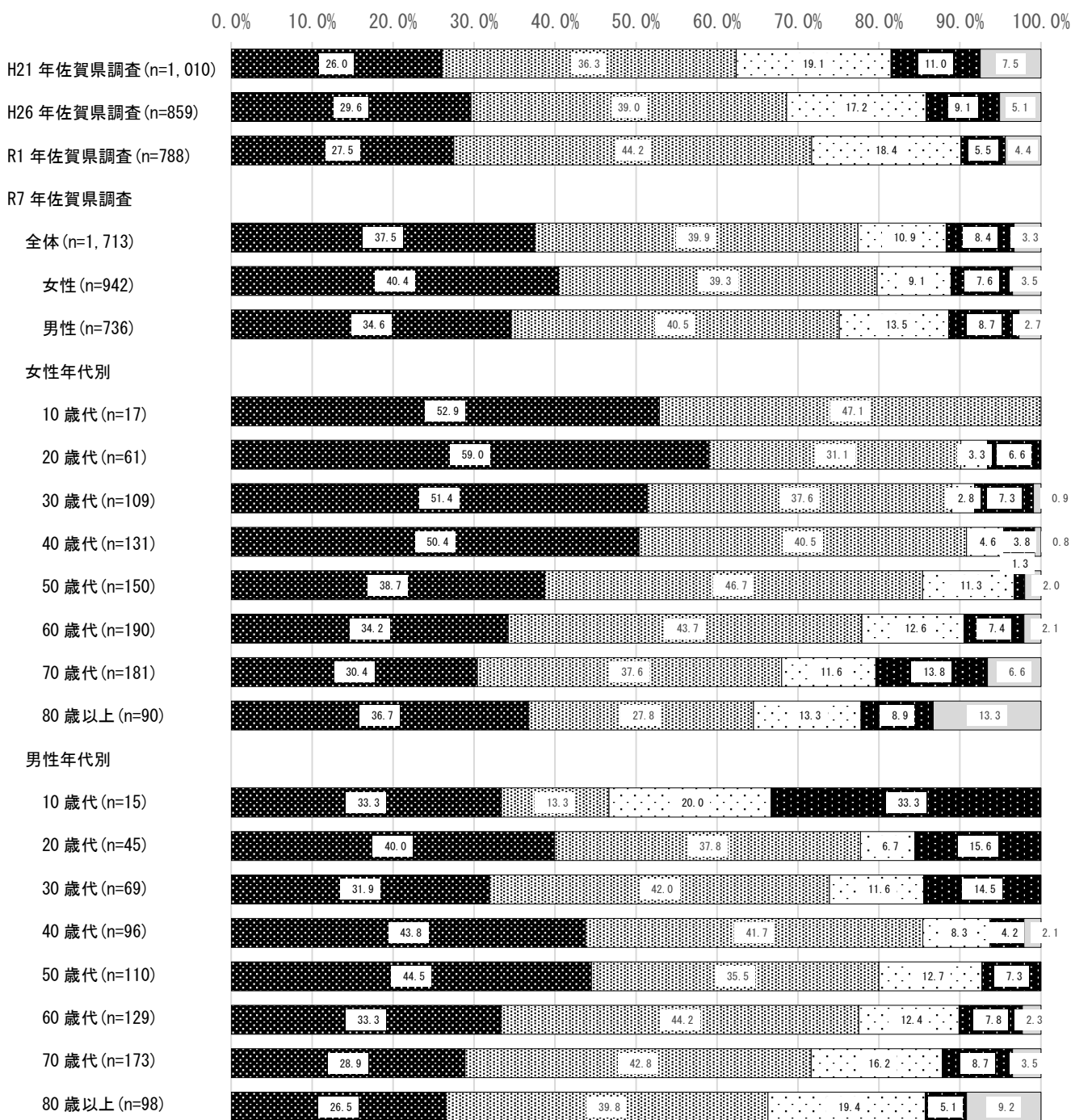
全体で「どちらかといえばそう思う」が39.9%で最も高く、次いで「そう思う」が37.5%、「どちらかといえばそう思わない」が10.9%と続いており、「思う」は77.4%、「思わない」が19.3%となっている。

性別での傾向の相違はみられず、「思う」は女性の方が4.6ポイント高くなっている。

性別・年代別で「思う」の傾向をみると、女性は年代の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は50歳代以上で年齢の上昇に伴い減少傾向がみられる。（※母数の少ないものを除き、女性は30歳代以上、男性は40歳代以上で評価している：以降同様）

経年比較で「思う」は調査年度毎に増加しており、平成21年調査と比べ15.1ポイントの増加となっている。

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答



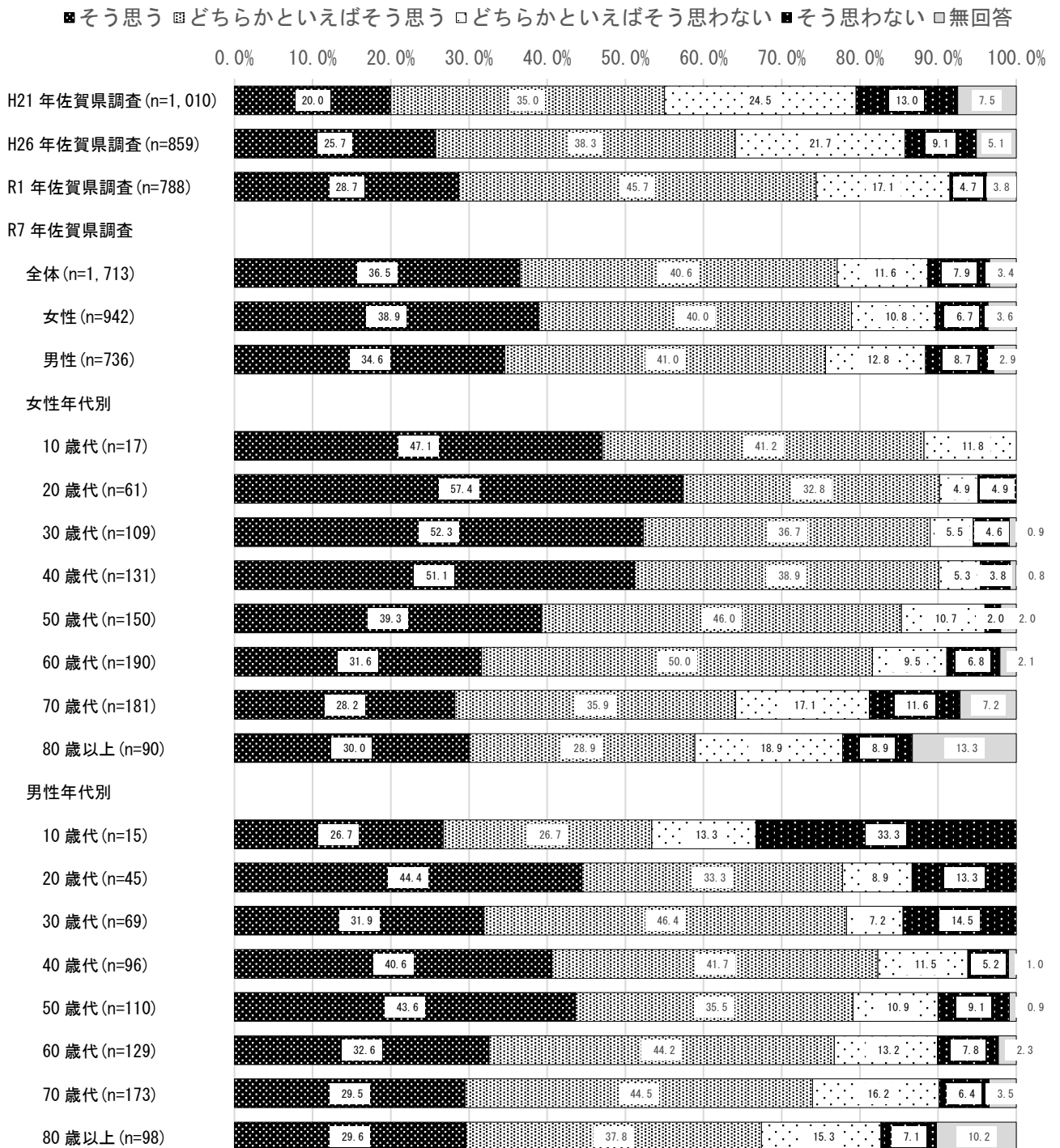
問15 ②知事や市町長

全体で「どちらかといえばそう思う」が40.6%で最も高く、次いで「そう思う」が36.5%、「どちらかといえばそう思わない」が11.6%と続いており、「思う」は77.1%、「思わない」が19.5%となっている。

性別での傾向の相違はみられず、「思う」は女性の方が3.3ポイント高くなっている。

性別・年代別で「思う」の傾向をみると、女性は年代の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は50歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられる。

経年比較で「思う」は調査年度毎に増加しており、平成21年調査と比べ22.1ポイントの増加となっている。



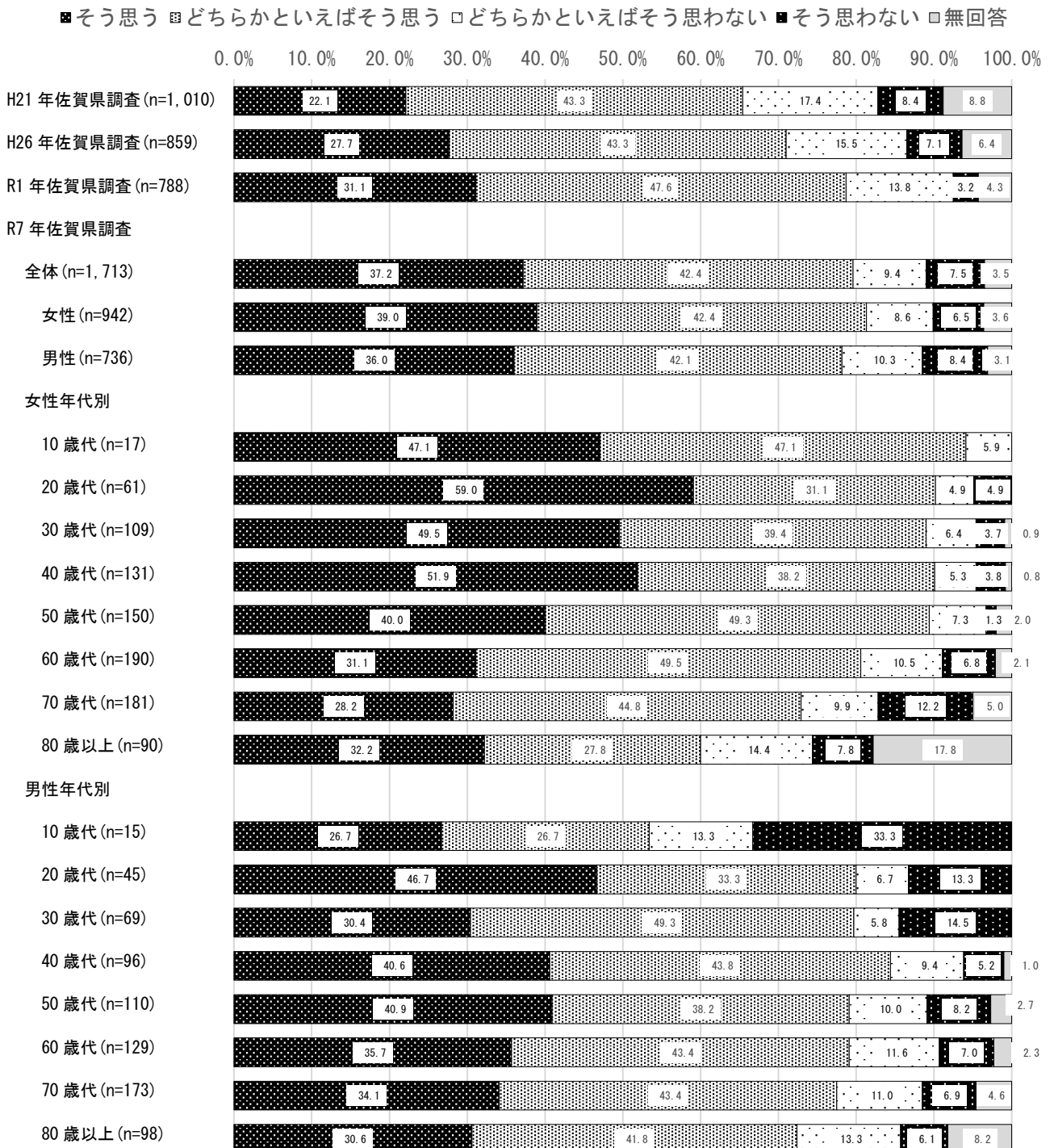
問15 ③国会議員、県・市町の議会議員

全体で「どちらかといえばそう思う」が42.4%で最も高く、次いで「そう思う」が37.2%、「どちらかといえばそう思わない」が9.4%と続いており、「思う」は79.6%、「思わない」が16.9%となっている。

性別での傾向の相違はみられず、「思う」は女性の方が3.3ポイント高くなっている。

性別・年代別で「思う」の傾向をみると、女性は年代の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は50歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられる。

経年比較で「思う」は調査年度毎に増加しており、平成21年調査と比べ14.2ポイントの増加となっている。



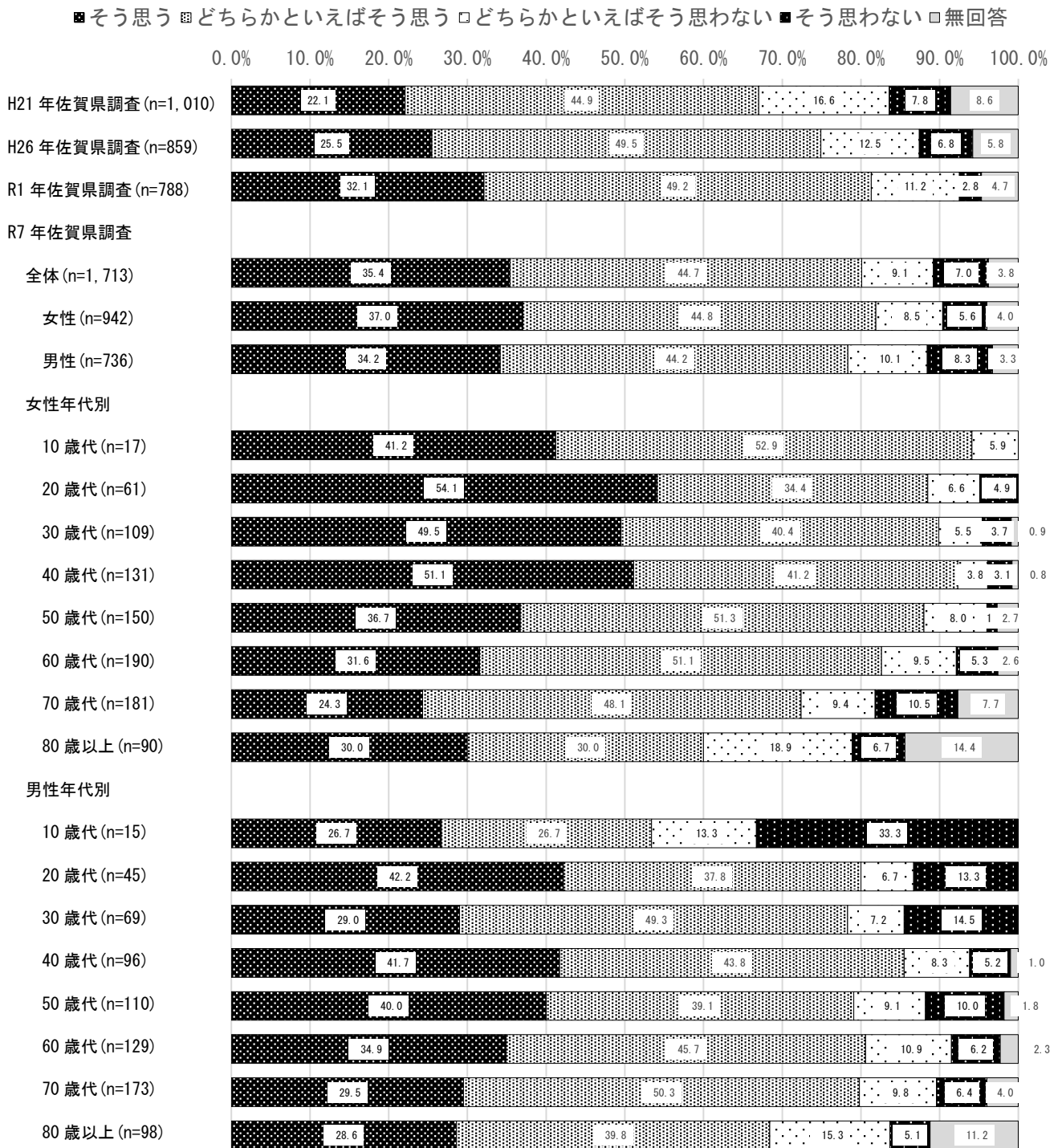
問15 ④県・市町の審議会や委員会の委員

全体で「どちらかといえばそう思う」が44.7%で最も高く、次いで「そう思う」が35.4%、「どちらかといえばそう思わない」が9.1%と続いており、「思う」は80.1%、「思わない」が16.1%となっている。

性別での傾向の相違はみられず、「思う」は女性の方が3.4ポイント高くなっている。

性別・年代別で「思う」の傾向をみると、女男ともに40歳代以上で減少の傾向がみられる。

経年比較で「思う」は調査年度毎に増加の傾向にある。令和1年調査と比べ1.2ポイント減少したものの、平成21年調査と比べ13.1ポイントの増加となっている。



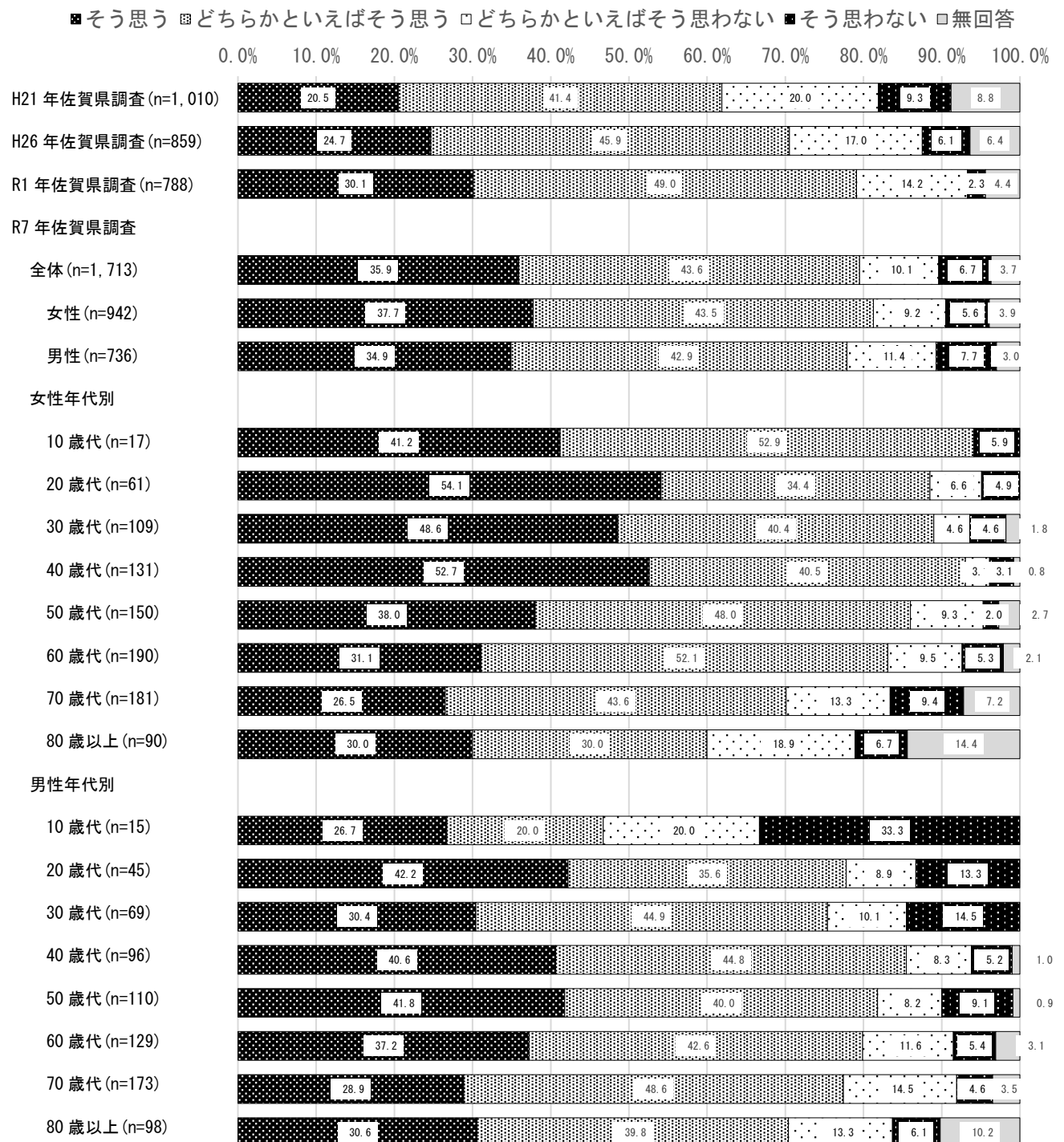
問15 ⑤県・市町など役所の管理職

全体で「どちらかといえばそう思う」が43.6%で最も高く、次いで「そう思う」が35.9%、「どちらかといえばそう思わない」が10.1%と続いており、「思う」は79.5%、「思わない」が16.8%となっている。

性別での傾向の相違はみられず、「女性の方が3.4ポイント高くなっている」。

性別・年代別で「思う」の傾向をみると、女性は40歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は50歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられる。

経年比較で「思う」は調査年度毎に増加しており、平成21年調査と比べ17.6ポイントの増加となっている。



問15 ⑥小・中・高校の校長、副校長、教頭

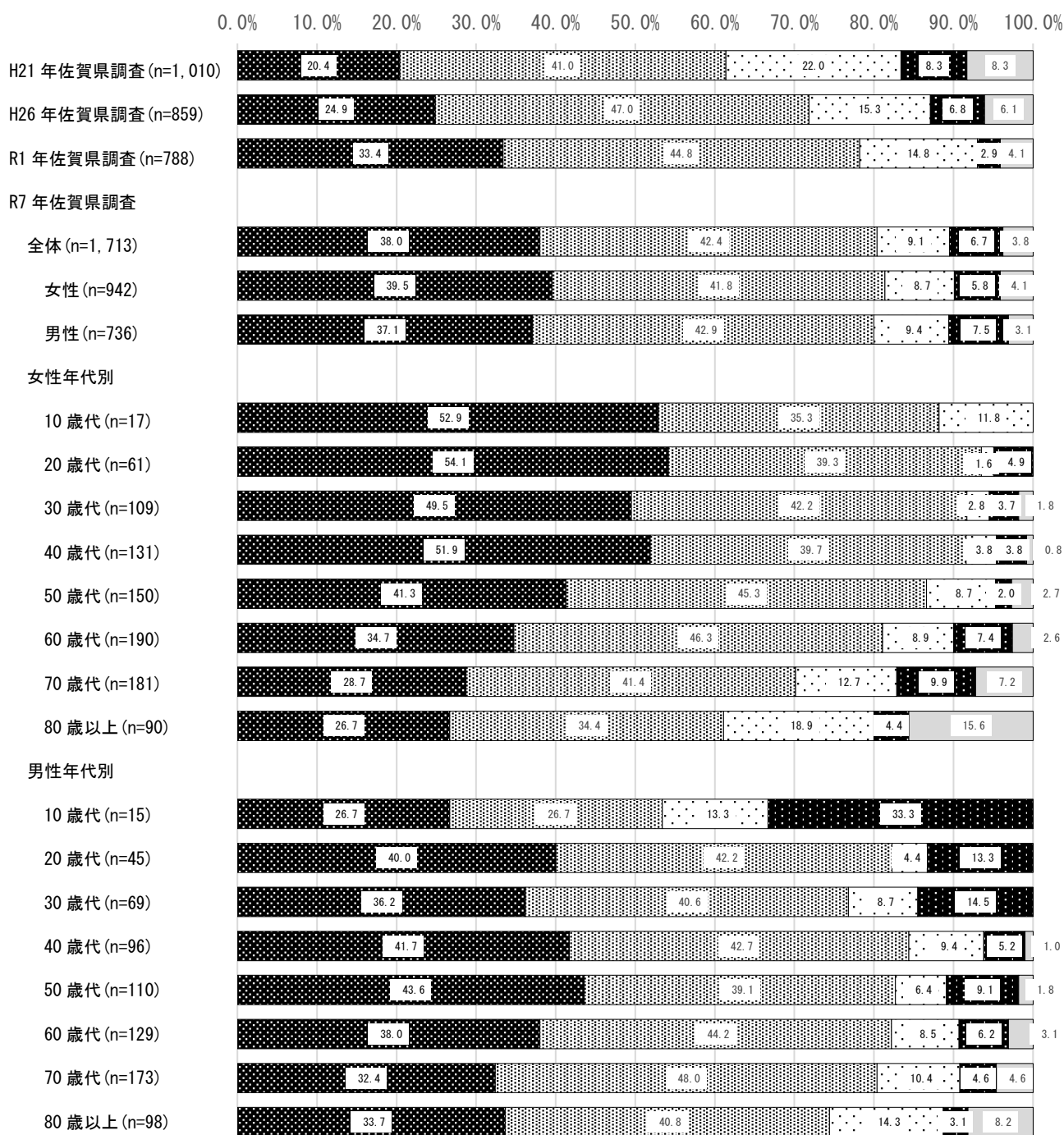
全体で「どちらかといえばそう思う」が42.4%で最も高く、次いで「そう思う」が38.0%、「どちらかといえばそう思わない」が9.1%と続いており、「思う」は80.4%、「思わない」が15.8%となっている。

性別での傾向の相違はみられず、「思う」は女性の方が1.3ポイント高くなっている。

性別・年代別で「思う」の傾向をみると、女性は40歳代以上で年代の上昇に伴い減少しており、男性は50歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられる。

経年比較で「思う」は調査年度毎に増加しており、平成21年調査と比べ19.0ポイントの増加となっている。

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答



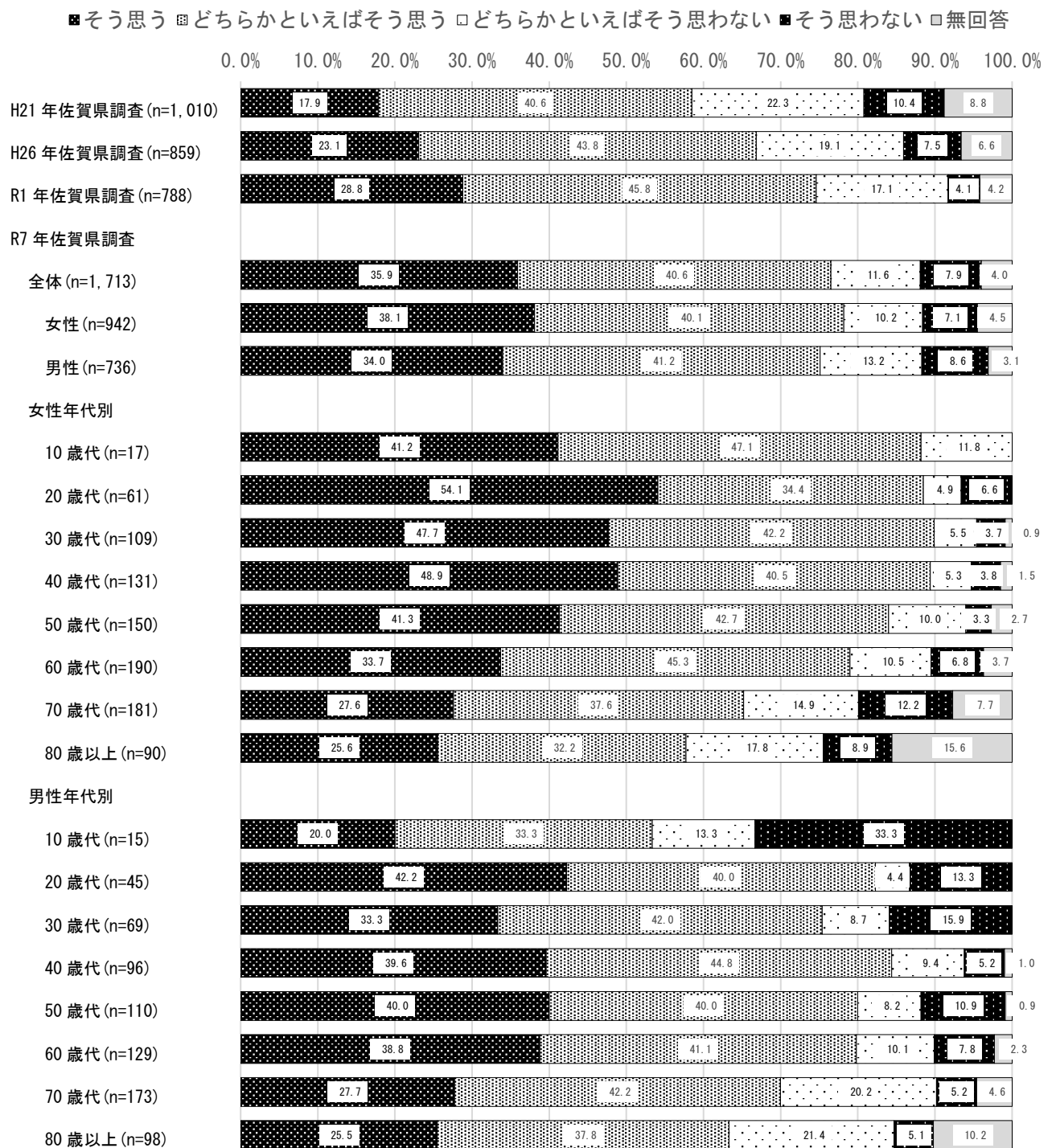
問15 ⑦大学教授・学長

全体で「どちらかといえばそう思う」が40.6%で最も高く、次いで「そう思う」が35.9%、「どちらかといえばそう思わない」が11.6%と続いており、「思う」は76.5%、「思わない」が19.5%となっている。

性別での傾向の相違はみられず、「思う」は女性の方が3.0ポイント高くなっている。

性別・年代別で「思う」の傾向をみると、女性は40歳代以上で年代の上昇に伴い減少しており、男性は50歳代以上で年代の上昇に伴い減少している。

経年比較で「思う」は調査年度毎に増加しており、平成21年調査と比べ18.0ポイントの増加となっている。



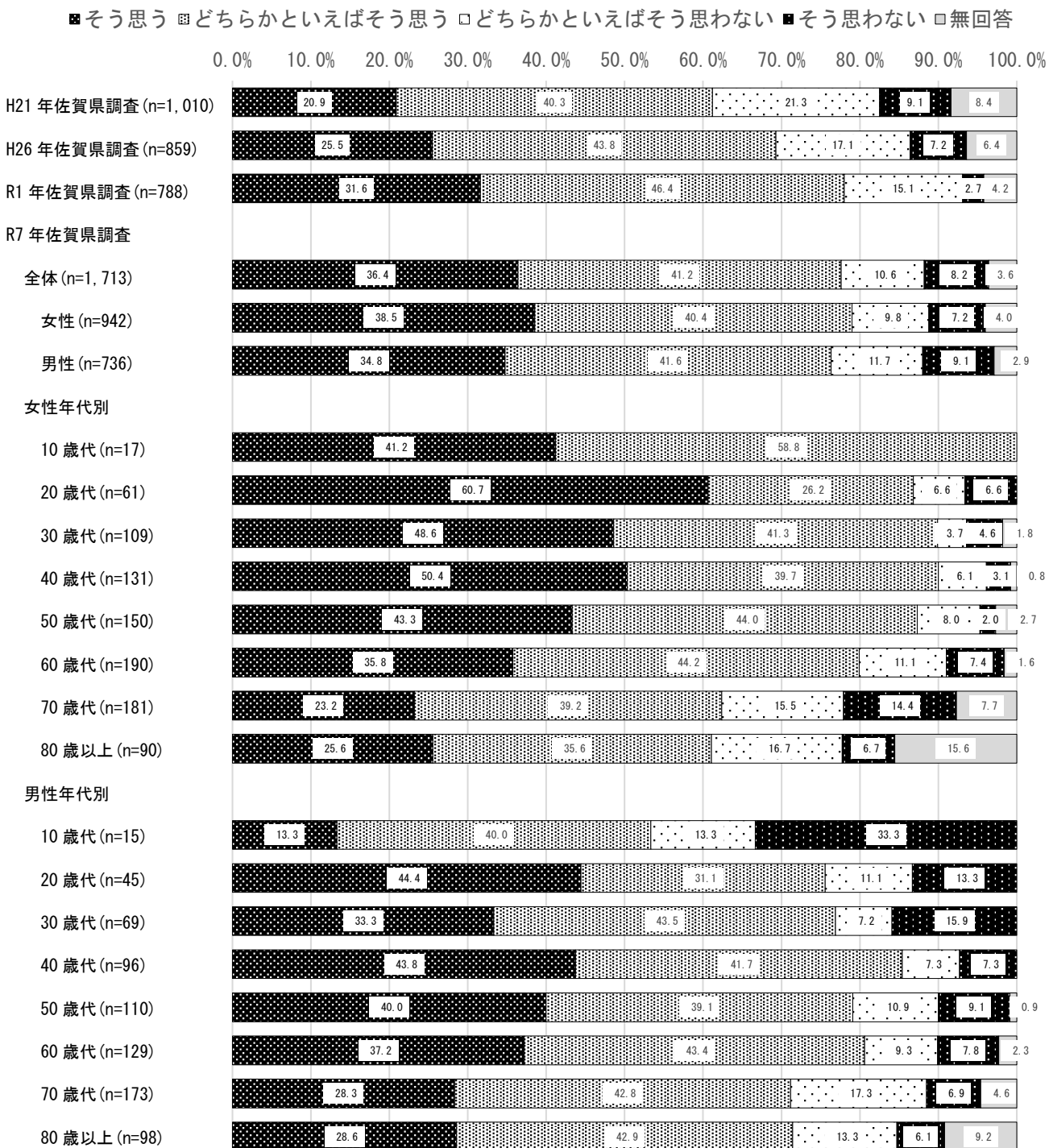
問15 ㊸裁判官・検察官・弁護士

全体で「どちらかといえばそう思う」が41.2%で最も高く、次いで「そう思う」が36.4%、「どちらかといえばそう思わない」が10.6%と続いており、「思う」は77.6%、「思わない」が18.8%となっている。

性別での傾向の相違はみられず、「思う」は女性の方が2.5ポイント高くなっている。

性別・年代別で「思う」の傾向をみると、女性は40歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は50歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられる。

経年比較で「思う」は調査年度毎に増加の傾向にある。令和1年調査と比べ0.4ポイント減少したものの、平成21年調査と比べ16.4ポイントの増加となっている。



問15 ◎医師、歯科医師

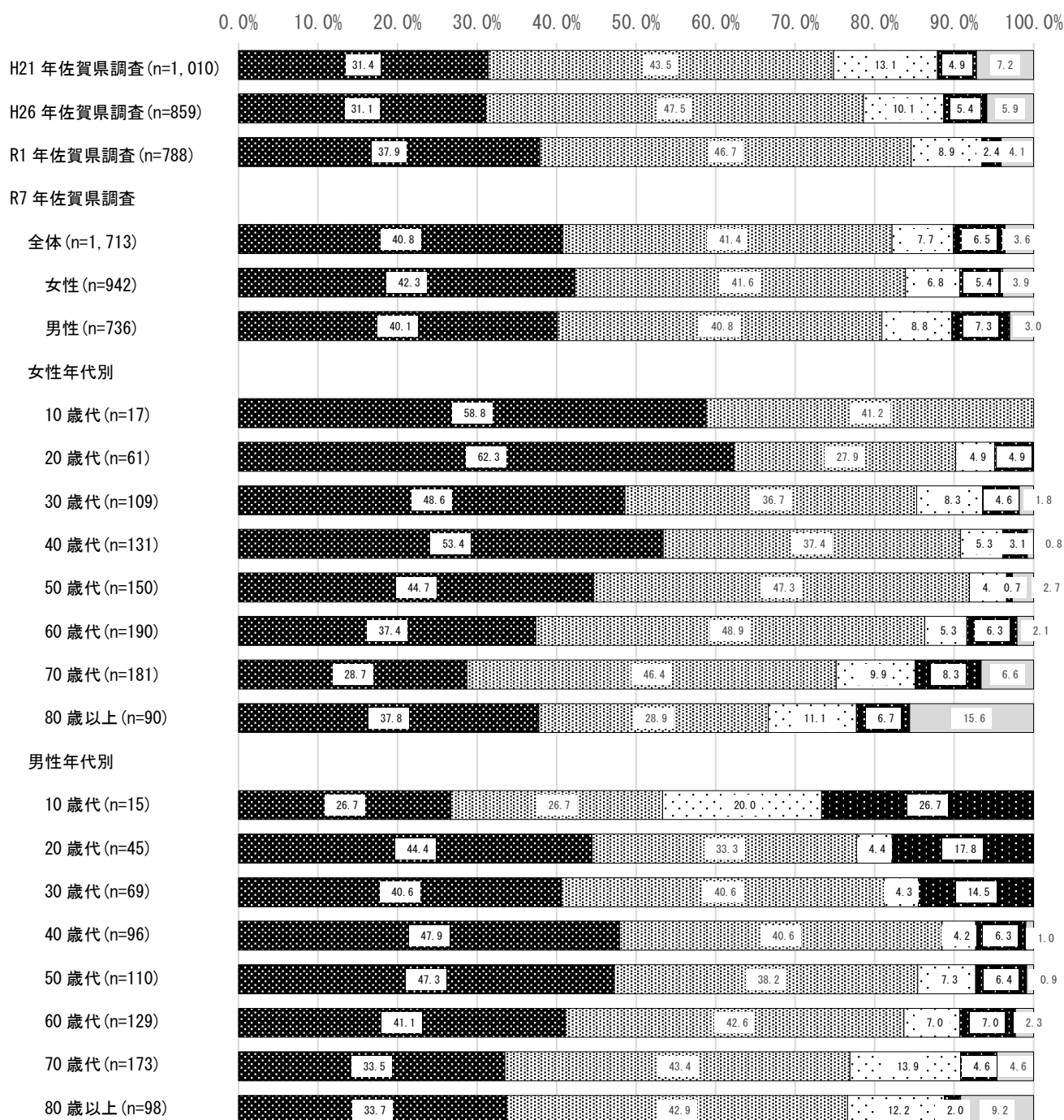
全体で「どちらかといえばそう思う」が41.4%で最も高く、次いで「そう思う」が40.8%、「どちらかといえばそう思わない」が7.7%と続いており、「思う」は82.2%、「思わない」が14.2%となっている。

性別での傾向の相違は、女性は「そう思う」が「どちらかといえばそう思う」と入れ替わり1位項目となり、「思う」は女性の方が3.0ポイント高くなっている。

性別・年代別で「思う」の傾向をみると、女性は40歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は年代の上昇に伴い減少の傾向がみられる。

経年比較で「思う」は調査年度毎に増加の傾向にある。令和1年調査と比べ2.4ポイント減少したものの、平成21年調査と比べ7.3ポイントの増加となっている。

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答



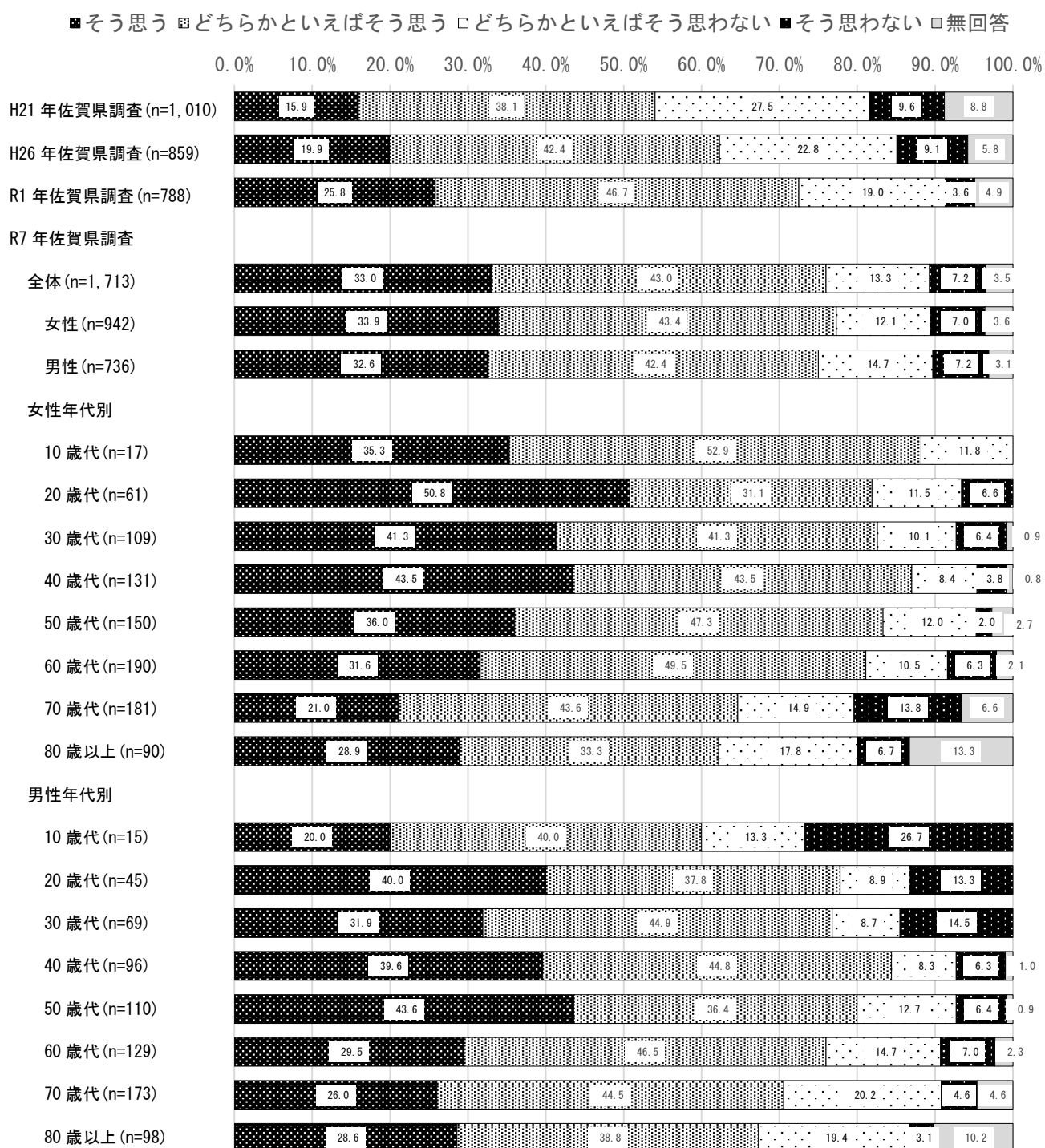
## 問15 ⑩農協など団体の役員

全体で「どちらかといえばそう思う」が43.0%で最も高く、次いで「そう思う」が33.0%、「どちらかといえばそう思わない」が13.3%と続いており、「思う」は76.0%、「思わない」が20.5%となっている。

性別での傾向の相違はみられず、「思う」は女性の方が2.3ポイント高くなっている。

性別・年代別で「思う」の傾向をみると、女性は40歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は50歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられる。

経年比較で「思う」は調査年度毎に増加しており、平成21年調査と比べ22.0ポイントの増加となっている。



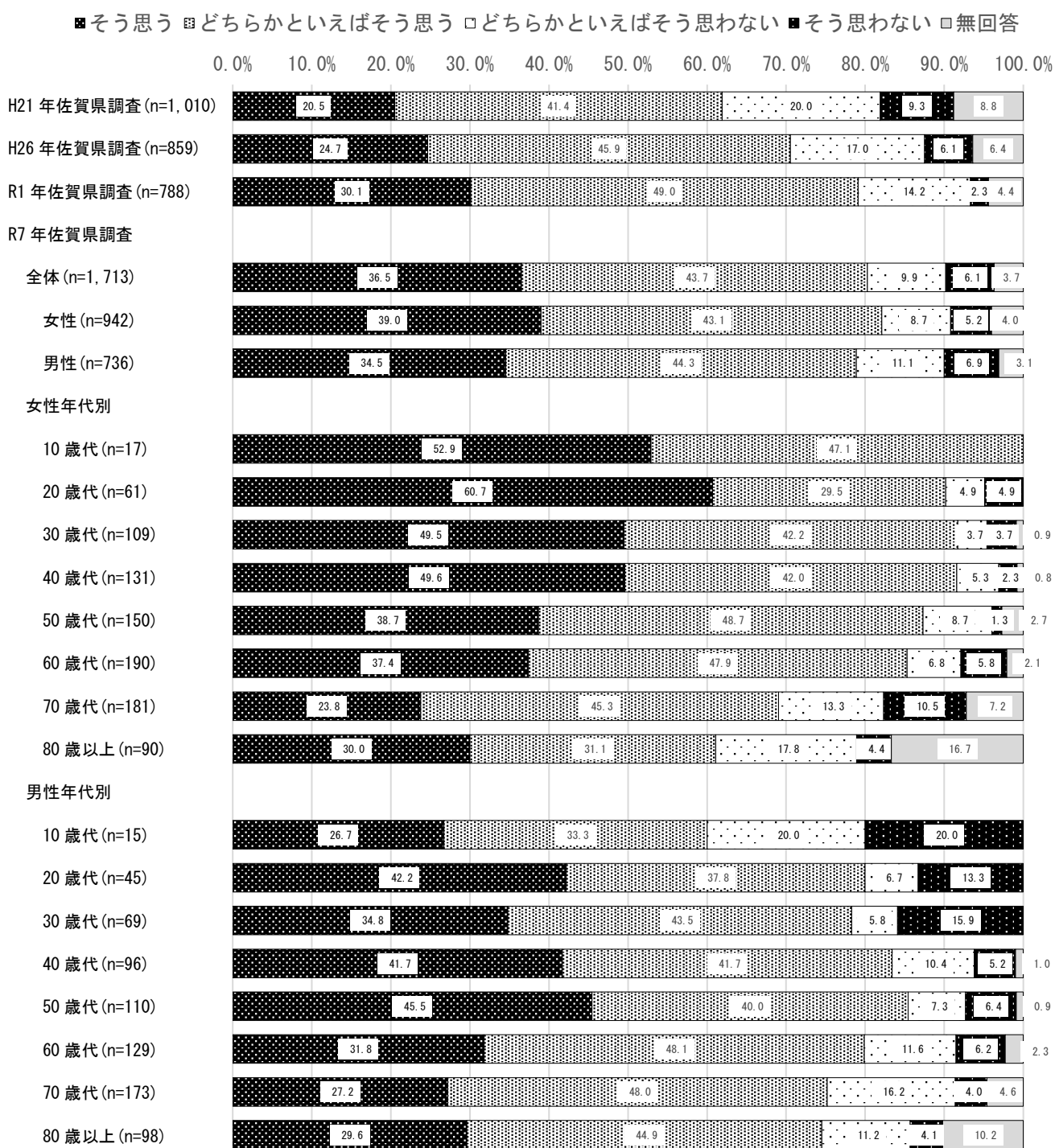
問15 ⑪会社の管理職

全体で「どちらかといえばそう思う」が43.7%で最も高く、次いで「そう思う」が36.5%、「どちらかといえばそう思わない」が9.9%と続いており、「思う」は80.2%、「思わない」が16.0%となっている。

性別での傾向の相違はみられず、「思う」は女性の方が3.3ポイント高くなっている。

性別・年代別で「思う」の傾向をみると、女性は年代の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は50歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられる。

経年比較で「思う」は調査年度毎に増加しており、平成21年調査と比べ18.3ポイントの増加となっている。



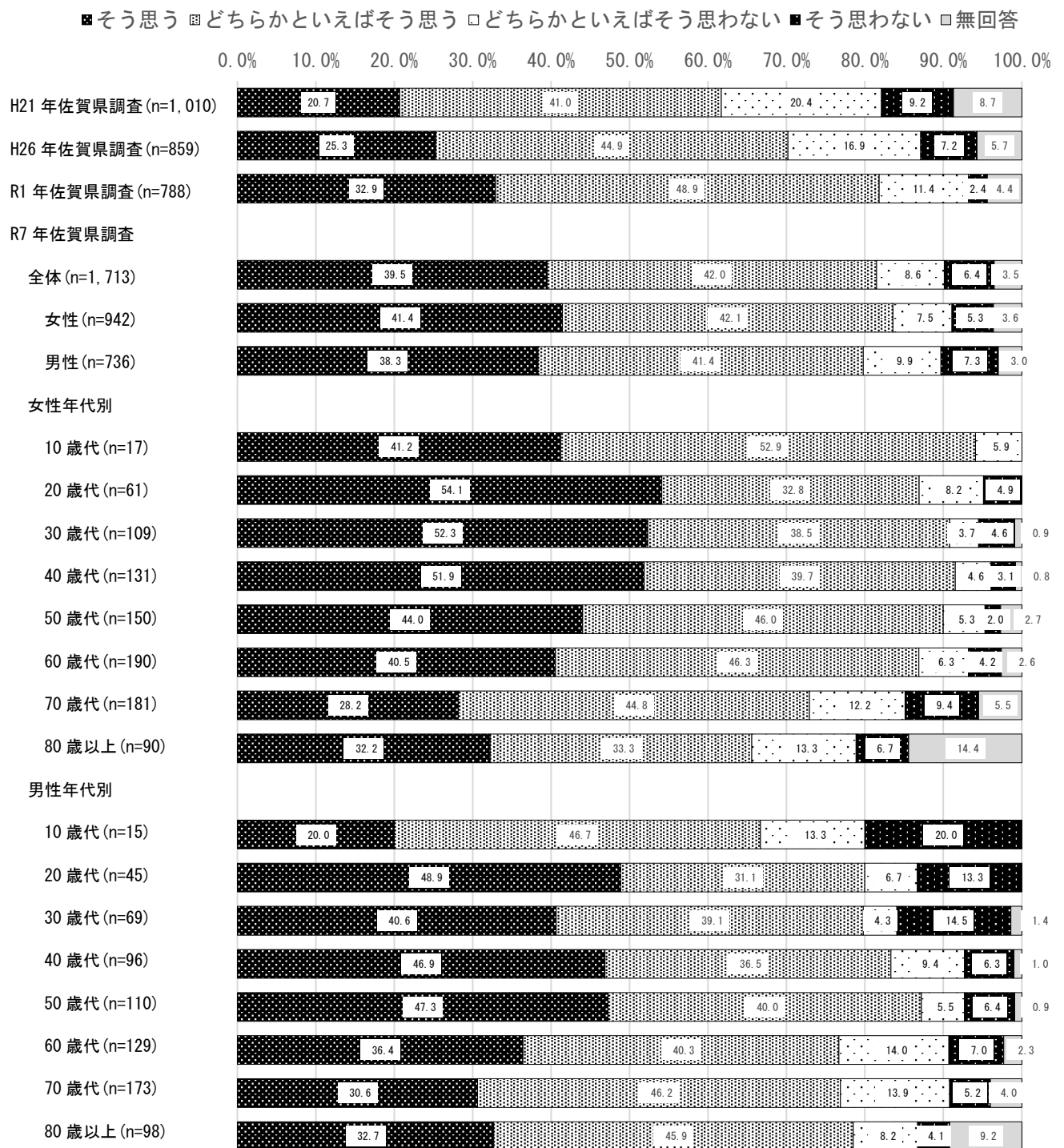
問15 ⑫経営者・起業家

全体で「どちらかといえばそう思う」が42.0%で最も高く、次いで「そう思う」が39.5%、「どちらかといえばそう思わない」が8.6%と続いており、「思う」は82.2%、「思わない」が14.2%となっている。

性別での傾向の相違はみられず、「思う」は女性の方が3.8ポイント高くなっている。

性別・年代別で「思う」の傾向をみると、女性は40歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は50歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられる。

経年比較で「思う」は調査年度毎に増加の傾向にある。令和1年調査と比べ0.3ポイント減少したものの、平成21年調査と比べ19.8ポイントの増加となっている。



問15 ⑬自治会長・PTA会長

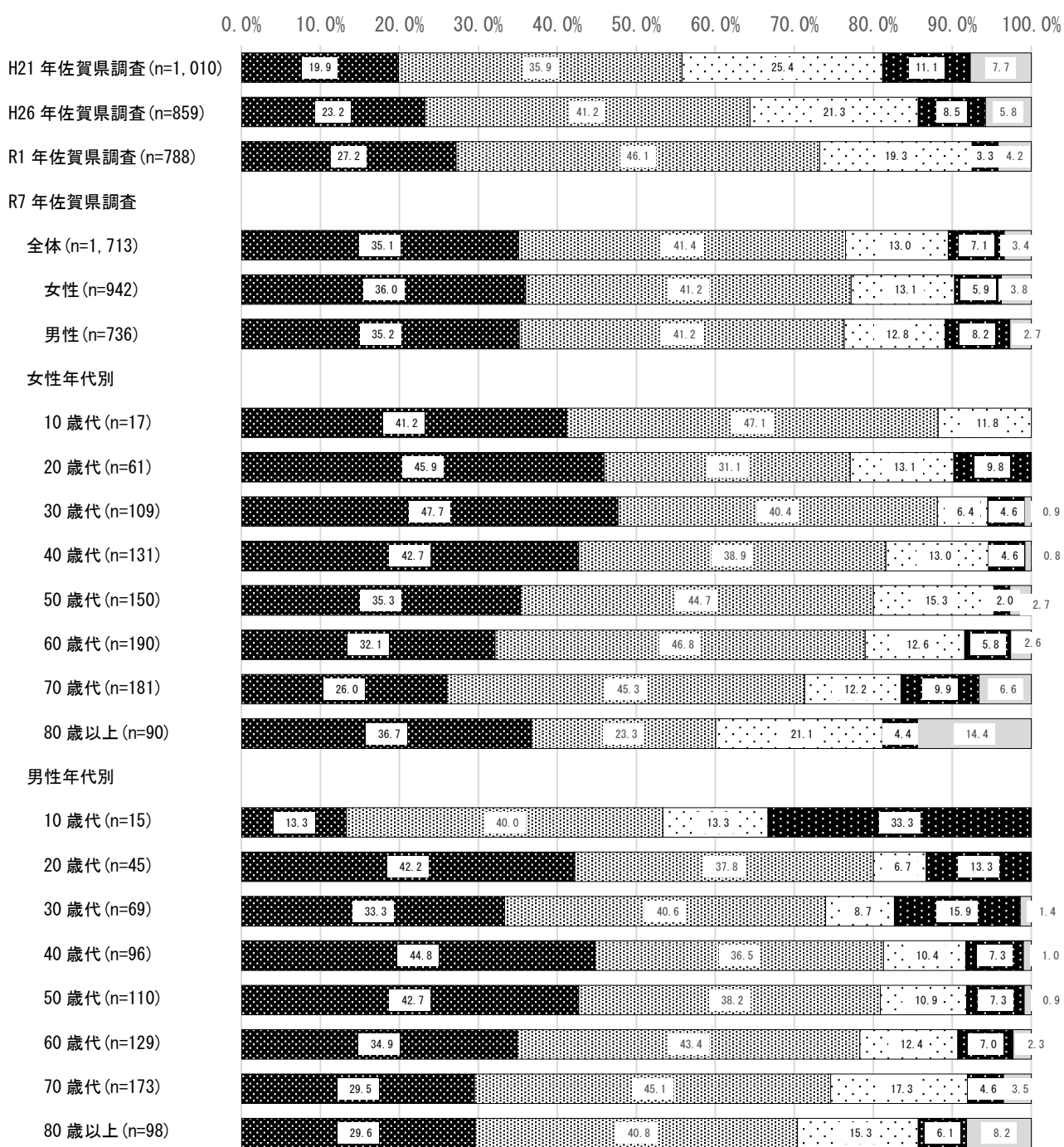
全体で「どちらかといえばそう思う」が51.4%で最も高く、次いで「そう思う」が35.1%、「どちらかといえばそう思わない」が13.0%と続いており、「思う」は76.5%、「思わない」が20.1%となっている。

性別での傾向の相違はみられず、「思う」は女性の方が0.8ポイント高くなっている。

性別・年代別で「思う」の傾向をみると、女性は40歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は年代の上昇に伴い減少の傾向がみられる。

経年比較で「思う」は調査年度毎に増加しており、平成21年調査と比べ20.7ポイントの増加となっている。

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答



## 【配偶者からの暴力について】

【配偶者・恋人・パートナーがいる人にお答えください】

問16 あなたはこれまでに、配偶者や恋人から、次の①～⑩のことをされた経験がありますか。「ある」もしくは「ない」どちらか1つに○をつけてください。

配偶者等からの暴力経験者は19.6%。

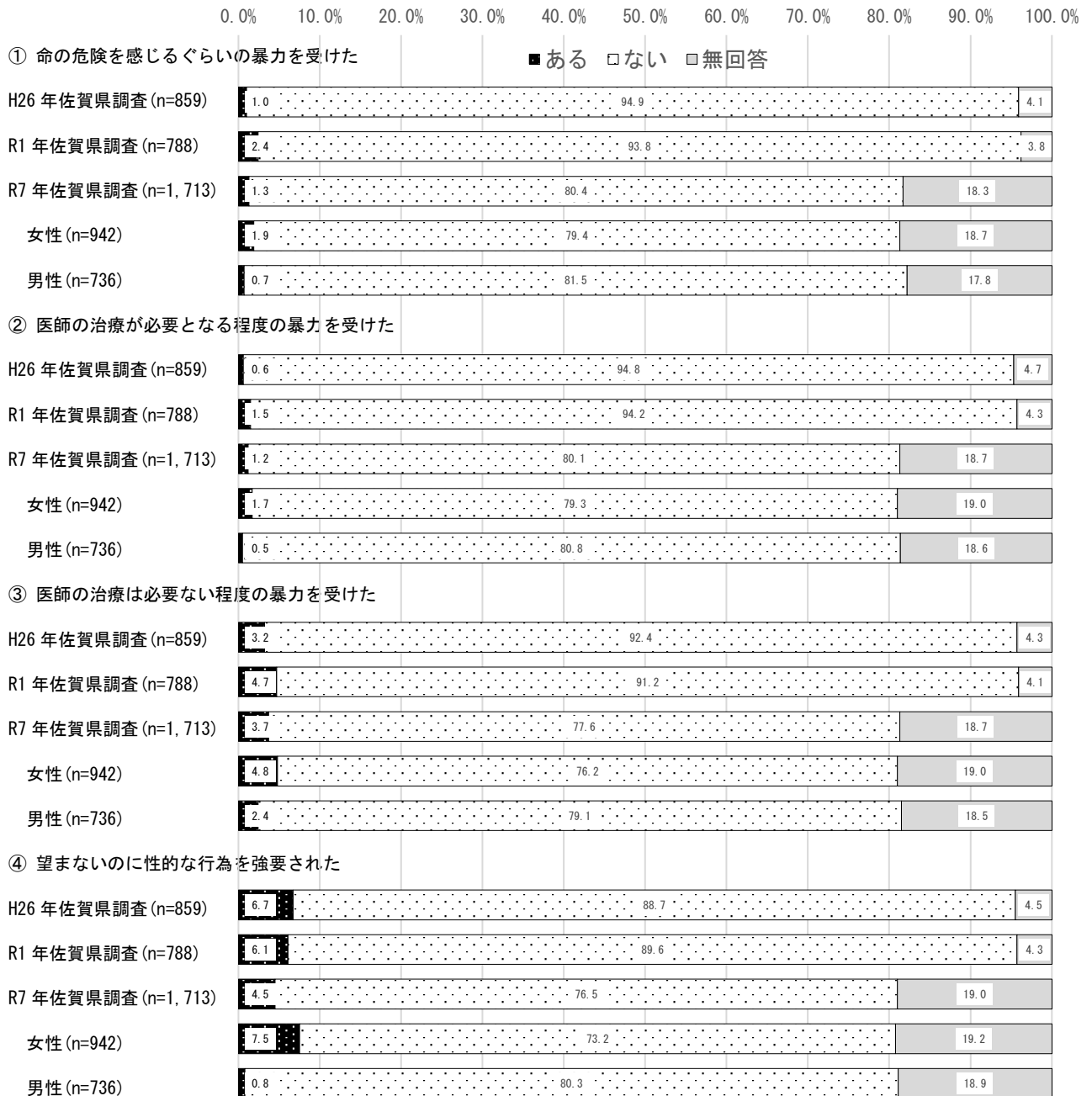
受けた被害は「⑧ 大声でどなられたり、威圧的な物言いをされた」が14.0%でトップ

配偶者からの暴力は全ての項目で「ない」が67.3%以上、「ある」が14.0%以下となっている。また、配偶者や恋人・パートナーがいると答えた859名のうち、何らかのDVを受けたことがあると答えたのは、336名（19.6%）であった。

「ある」が最も高かったのは「⑧ 大声でどなられたり、威圧的な物言いをされた」の14.0%、次いで「⑨ 馬鹿にされたり、暴言を吐かれた」が12.7%、「④ 望まないのに性的な行為を強要された」が4.5%と続いており、性別では全ての項目で「ある」は女性が男性を上回っている。

経年比較は、「ある」は全ての項目で令和1年調査より減少しており、最も減少したのは「⑧ 大声でどなられたり、威圧的な物言いをされた」の▲8.5ポイント、次いで「⑨ 馬鹿にされたり、暴言を吐かれた」が▲7.9ポイント、「⑥ 何を言っても長期間無視され続けた」が▲6.8ポイントであった。

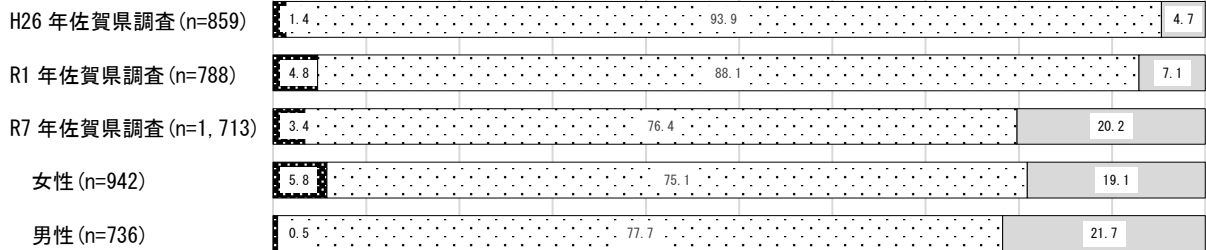
※R1年H26年：「週に1回以上」「月に数回程度」「年に数回程度」「過去数回ある」は「ある」に集約している。



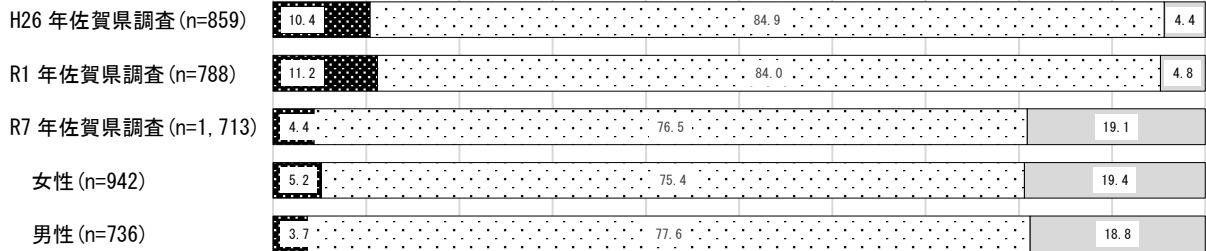
■ある □ない □無回答

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%

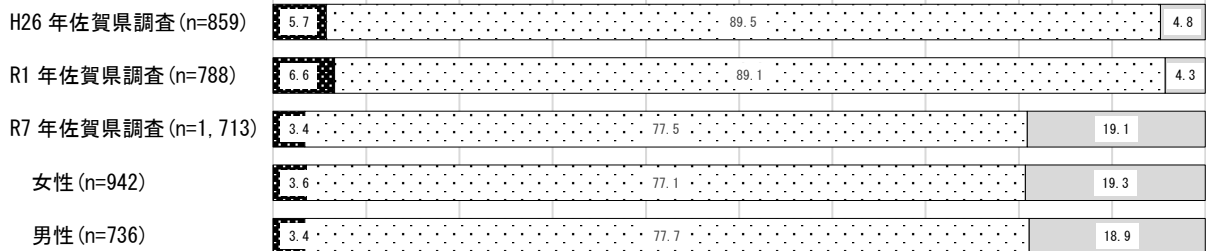
⑤ 妊娠を望まないのに、避妊してもらえなかった



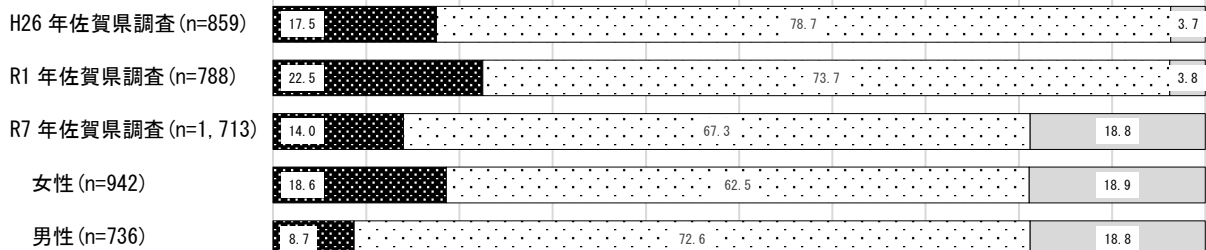
⑥ 何を言っても長期間無視され続けた



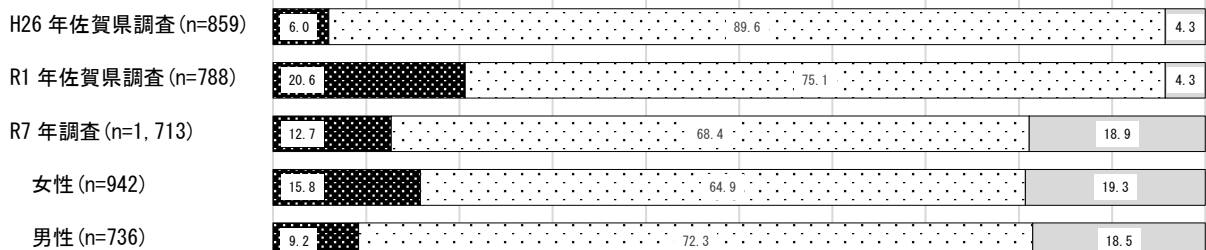
⑦ 交友関係や電話、メール等を細かく監視された



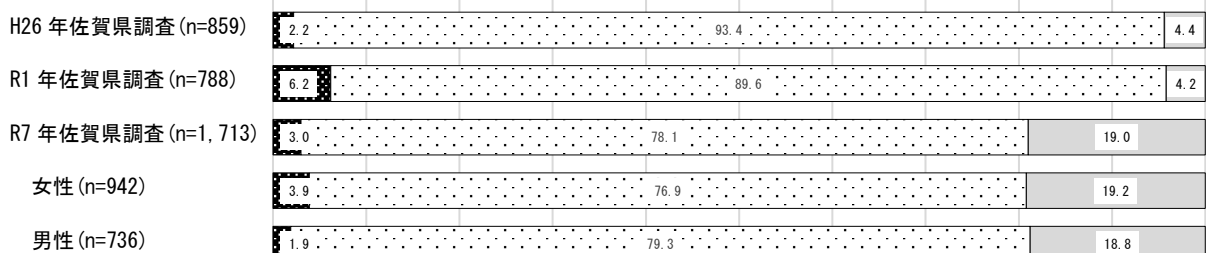
⑧ 大声でどなられたり、威圧的な物言いをした



⑨ 馬鹿にされたり、暴言を吐かれた

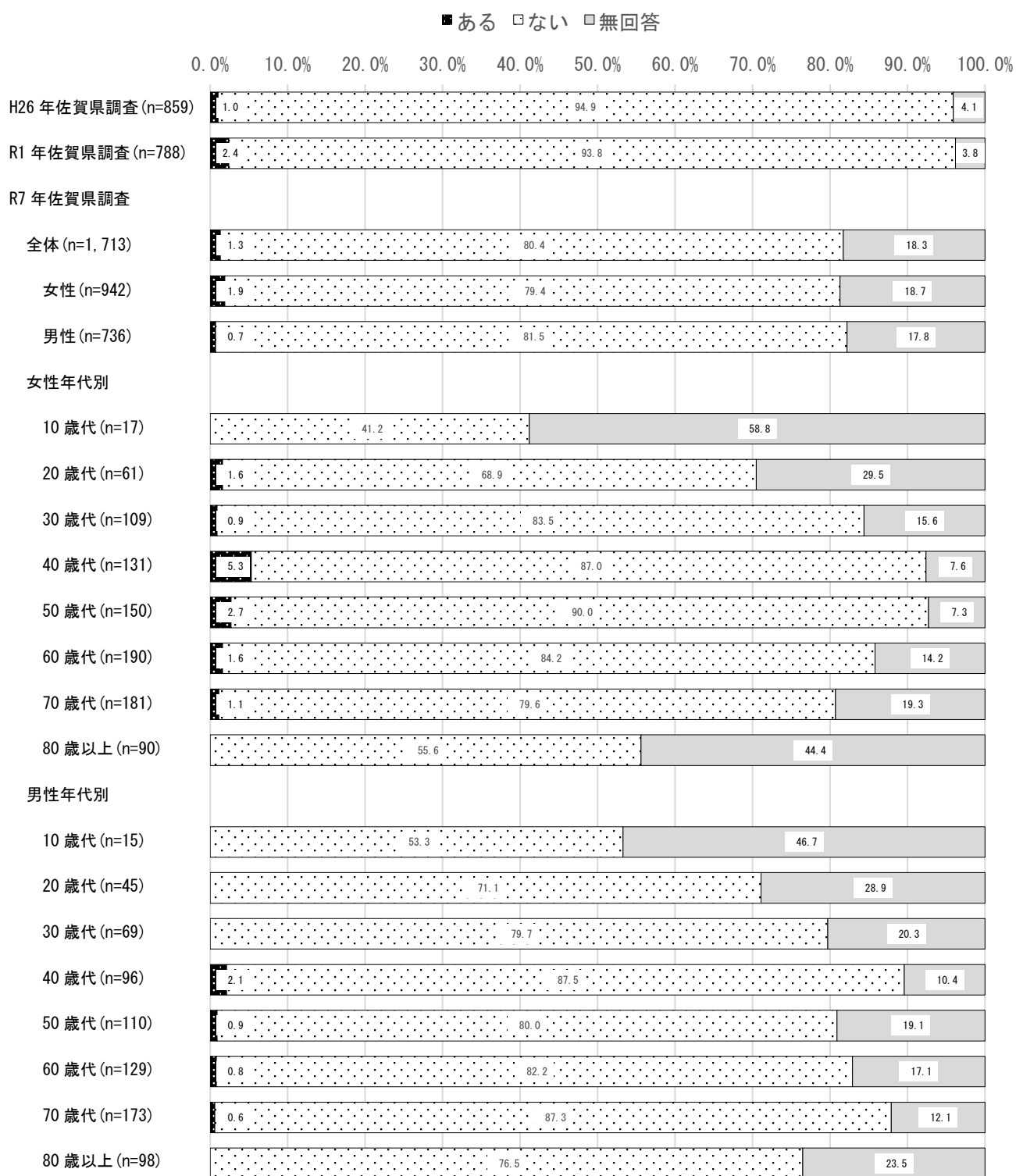


⑩ 経済的に押さえつけられた (生活費を渡さないなど)



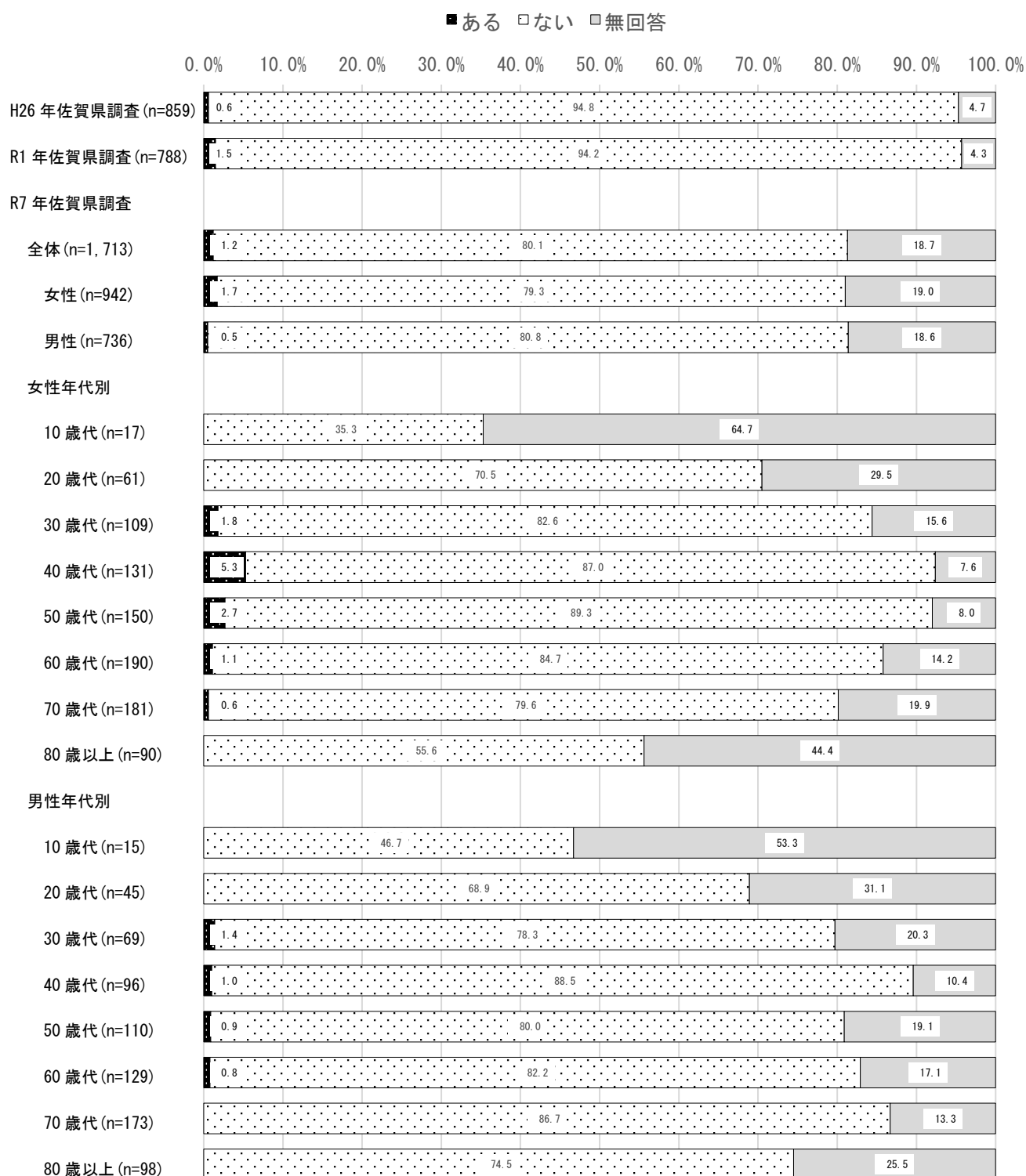
## 問16 ①命の危険を感じるぐらいの暴力を受けた

全体で「ある」が1.3%で、「ない」が80.4%となっている。  
 性別での傾向の相違はみられず、「ある」は女性の方が1.2ポイント高くなっている。  
 性別・年代別で「ある」の傾向をみると、女性は50歳代、男性は40歳代以上で年齢の上昇に伴い減少の傾向がみられる。  
 経年比較で「ある」は令和1年調査と比べ1.1ポイントの減少となっているが、平成26年と比べると0.3ポイント増加している。



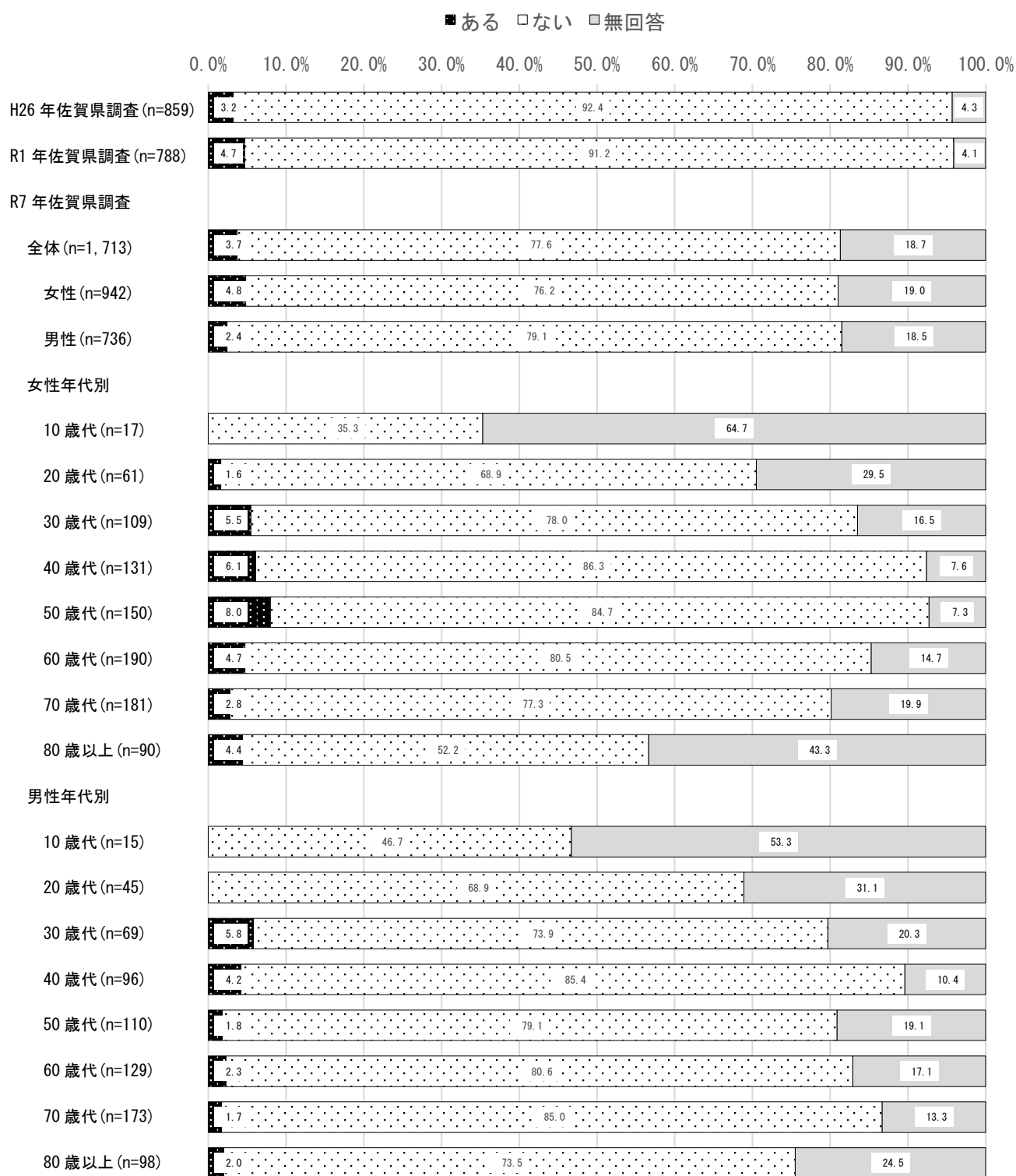
## 問16 ②医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた

全体で「ある」が1.2%で、「ない」が94.2%となっている。  
 性別での傾向の相違はみられず、「ある」は女性の方が1.2ポイント高くなっている。  
 性別・年代別で「ある」の傾向をみると、女性は40歳代以上で年齢の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は年代の上昇に伴い減少している。  
 経年比較で「ある」は令和1年調査と比べ0.3ポイントの減少となっているが、平成26年と比べると0.6ポイント増加している。



### 問16 ③医師の治療は必要ない程度の暴力を受けた

全体で「ある」が3.7%で、「ない」が77.6%となっている。  
 性別での傾向の相違はみられず、「ある」は女性の方が2.4ポイント高くなっている。  
 性別・年代別で「ある」の傾向をみると、女性は50歳代以上で年齢の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は年代の上昇に伴い減少の傾向がみられる。  
 経年比較で「ある」は令和1年調査と比べ1.0ポイントの減少となっているが、平成26年と比べると0.5ポイント増加している。



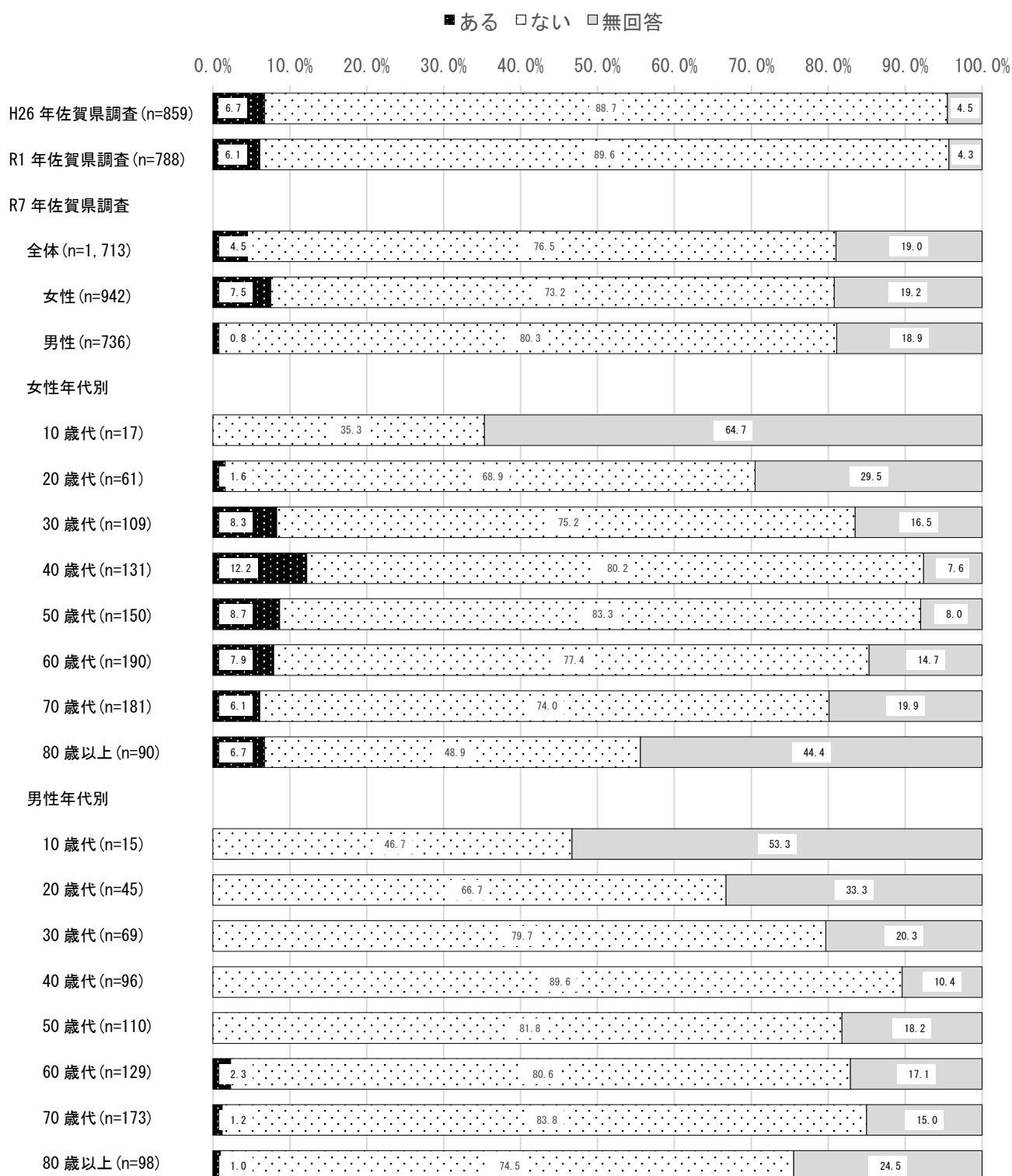
## 問16 ④望まないのに性的な行為を強要された

全体で「ある」が4.5%で、「ない」が76.5%となっている。

性別での傾向の相違はみられず、「ある」は女性の方が6.7ポイント高くなっている。

性別・年代別で「ある」の傾向をみると、女性は40歳代以上で年齢の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は60歳以上で発生し、年代の上昇に伴い減少している。

経年比較で「ある」は令和1年調査と比べ1.6ポイントの減少となっており、平成26年調査と比べても2.2ポイント減少している。



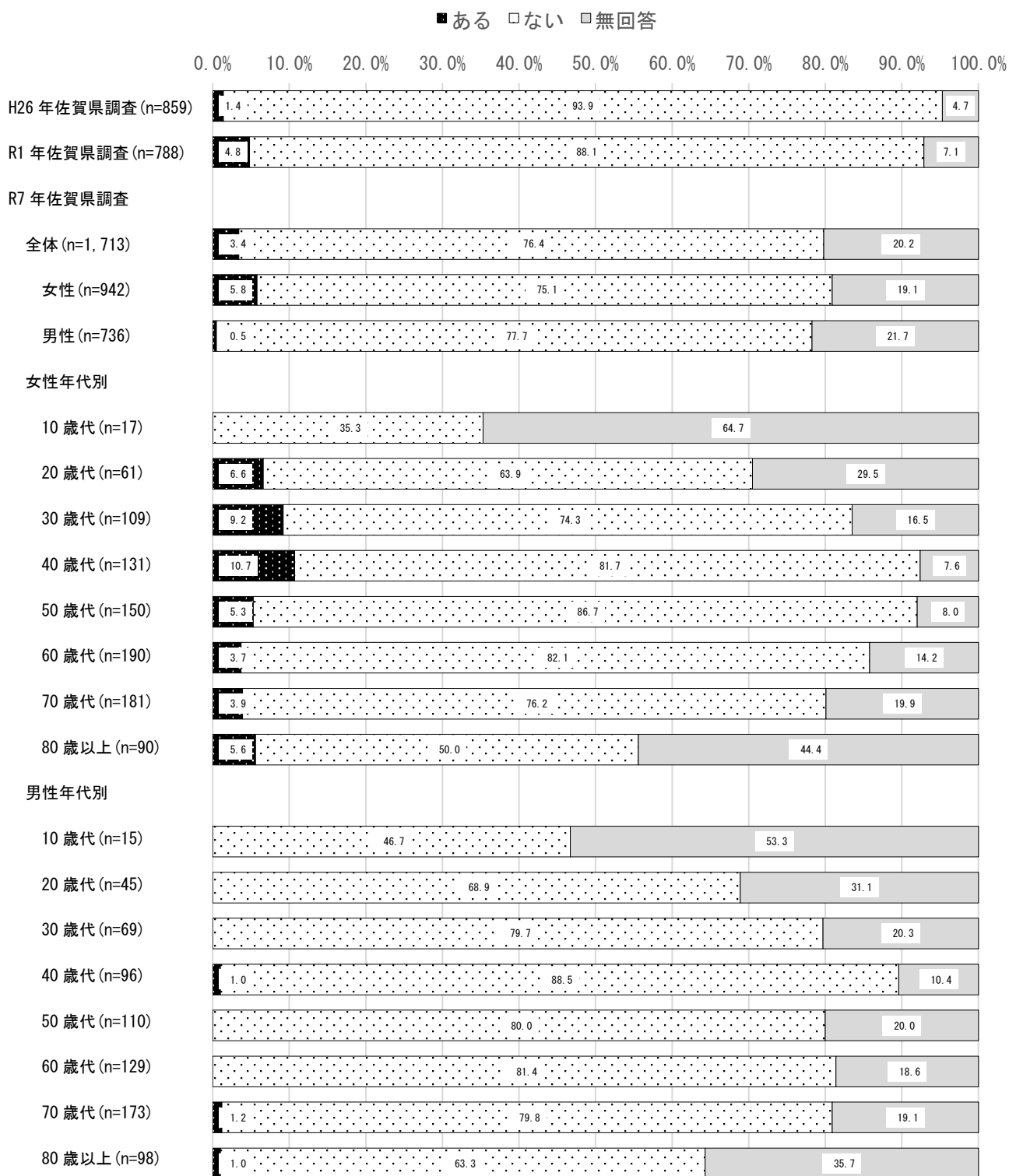
## 問16 ⑤妊娠を望まないのに、避妊してもらえなかった

全体で「ある」が1.3%で、「ない」が80.4%となっている。

性別での傾向の相違はみられず、「ある」は女性の方が5.3ポイント高くなっている。

性別・年代別で「ある」の傾向をみると、女性は40歳代以上で年齢の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は40歳代、60歳代、80歳以上で発生している。

経年比較で「ある」は令和1年調査と比べ1.4ポイントの減少となっているが、平成26年と比べると2.0ポイント増加している。



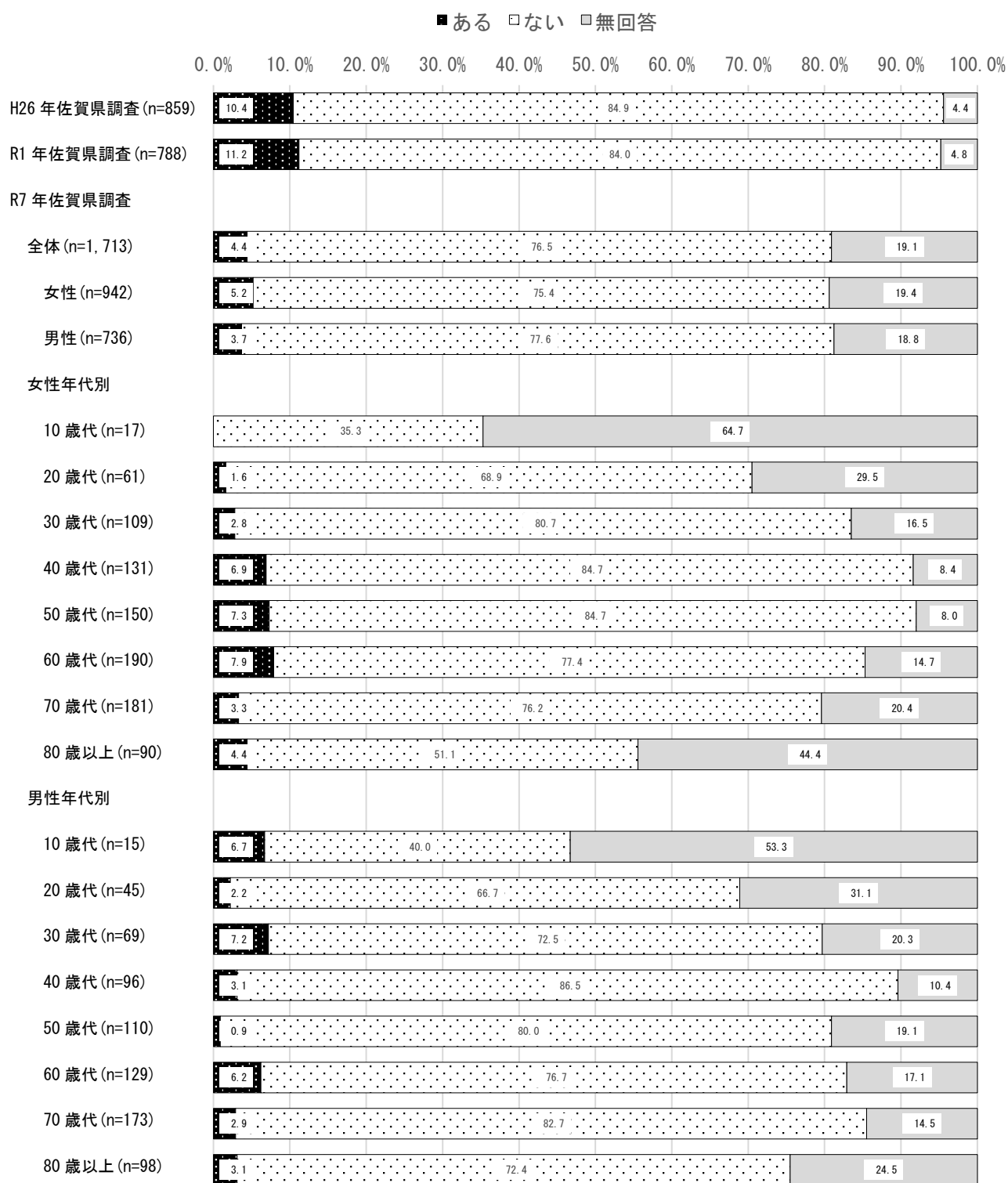
## 問16 ⑥何を言っても長期間無視され続けた

全体で「ある」が4.4%で、「ない」が76.5%となっている。

性別での傾向の相違はみられず、「ある」は女性の方が1.5ポイント高くなっている。

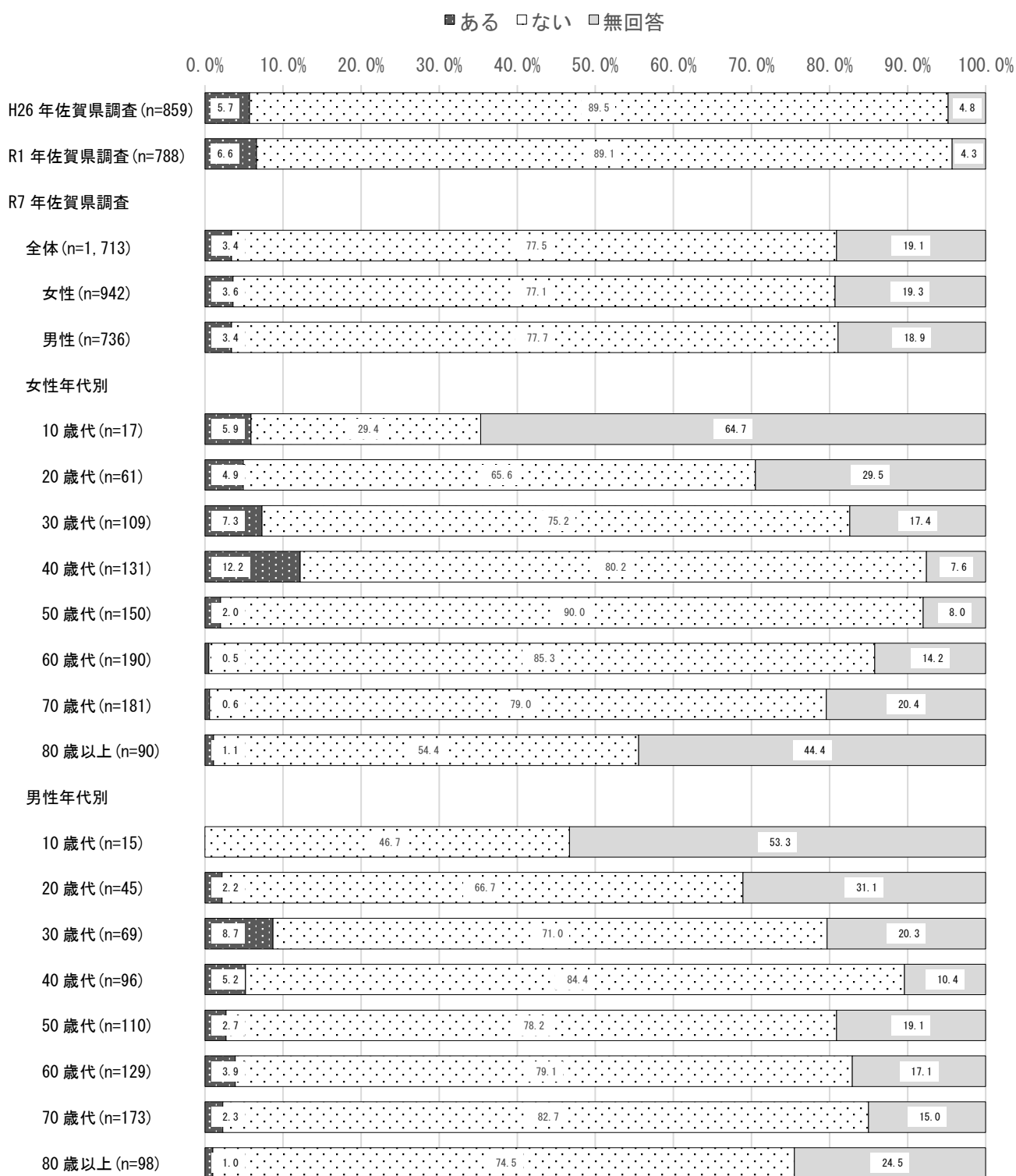
性別・年代別で「ある」の傾向をみると、女性は60歳代以上で年齢の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は30歳代・60歳代が高くなっている。

経年比較で「ある」は令和1年調査と比べ6.8ポイントの減少となっており、平成26年調査と比べても6.0ポイント減少している。



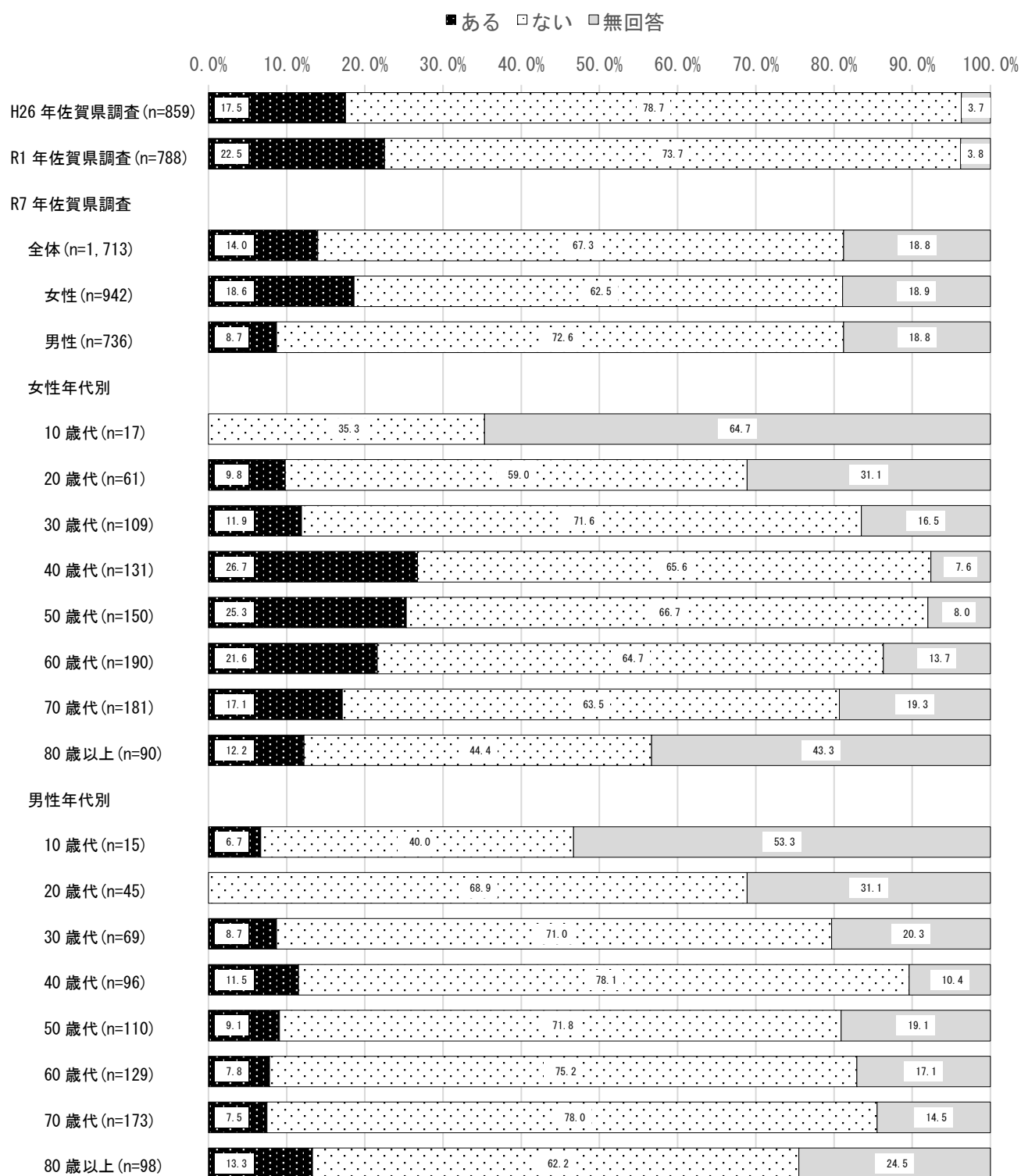
## 問16 ⑦交友関係や電話、メール等を細かく監視された

全体で「ある」が3.4%で、「ない」が77.5%となっている。  
 性別での傾向の相違はみられず、「ある」は女性の方が1.2ポイント高くなっている。  
 性別・年代別で「ある」の傾向をみると、女性は40歳代、男性は30歳代以上で年齢の上昇に伴い減少の傾向がみられる。  
 経年比較で「ある」は令和1年調査と比べ3.2ポイントの減少となっており、平成26年調査と比べても2.3ポイント減少している。



## 問16 ⑧大声でどなられたり、威圧的な物言いをされた

全体で「ある」が14.0%で、「ない」が67.3%となっている。  
 性別での傾向の相違はみられず、「ある」は女性の方が9.9ポイント高くなっている。  
 性別・年代別で「ある」の傾向をみると、男女ともに40歳代以上で年齢の上昇に伴い減少の傾向がみられる。  
 経年比較で「ある」は令和1年調査と比べ8.5ポイントの減少となっており、平成26年調査と比べても3.5ポイント減少している。



問16 ◎馬鹿にされたり、暴言を吐かれた

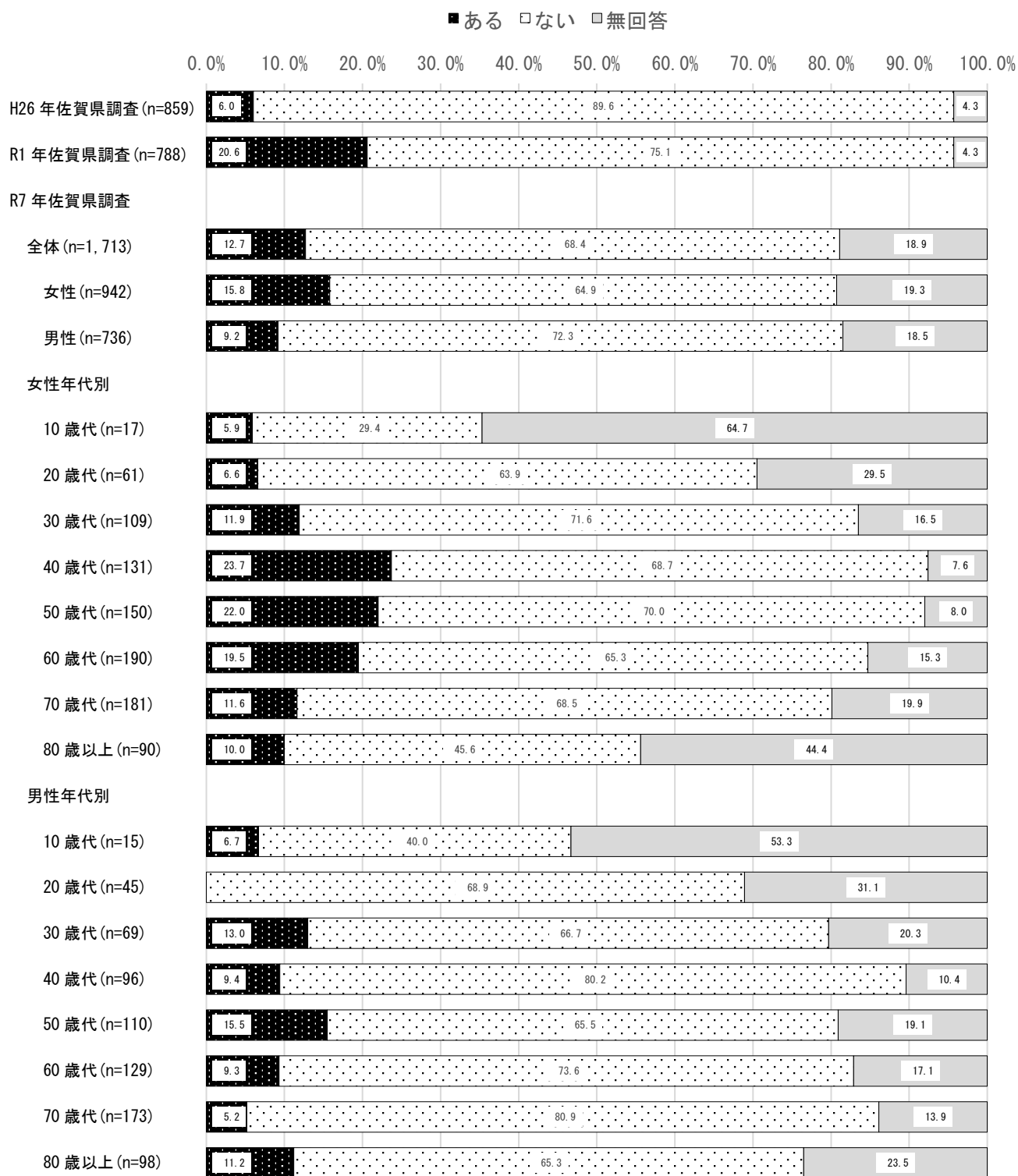
※H26年調査は文言が相違「誰のおかげで生活できるんだ」「甲斐性なし」と言われた

全体で「ある」が12.7%で、「ない」が68.4%となっている。

性別での傾向の相違はみられず、「ある」は女性の方が6.6ポイント高くなっている。

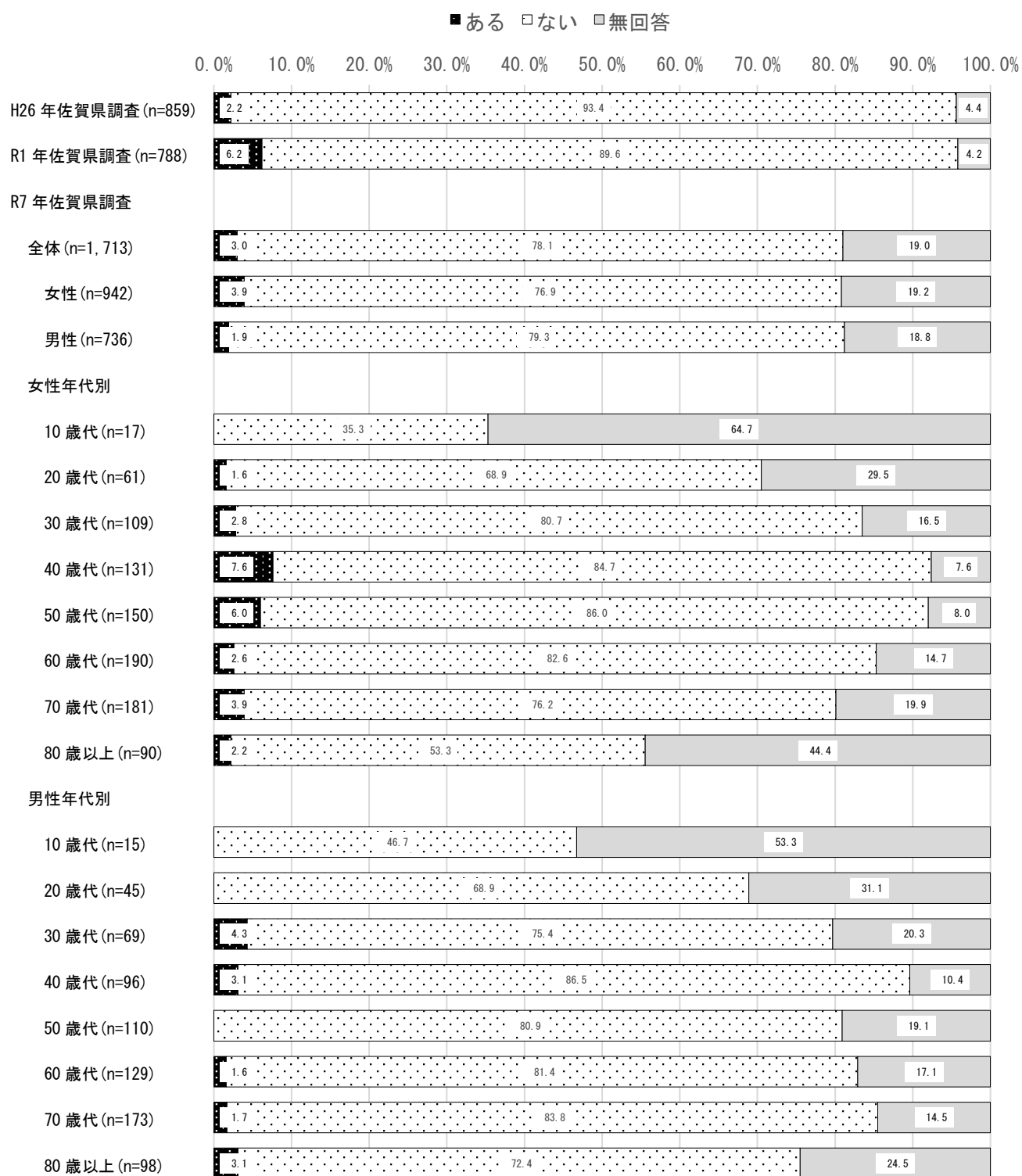
性別・年代別で「ある」の傾向をみると、女性は40歳代以上で年齢の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は30歳代・50歳代・80歳以上が高くなっている。

経年比較で「ある」は令和1年調査と比べ7.9ポイントの減少となっているが、平成26年と比べると6.7ポイント増加している。



## 問16 ⑩経済的に押さえつけられた（生活費を渡さないなど）

全体で「ある」が3.0%で、「ない」が78.1%となっている。  
 性別での傾向の相違はみられず、「ある」は女性の方が2.0ポイント高くなっている。  
 性別・年代別で「ある」の傾向をみると、女性は40歳代以上で年齢の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は30歳代・40歳代・80歳以上が高くなっている。  
 経年比較で「ある」は令和1年調査と比べ3.2ポイントの減少となっているが、平成26年と比べると0.8ポイント増加している。



【問 16 の①～⑩でひとつでも「ある」を選んだ方がお答えください】

問 16-1 配偶者からの暴力を経験した際、誰かに相談しましたか。あてはまるものを選んでください。

【問 16-1 で「2. 相談しなかった」と答えた方がお答えください】

問 16-2 相談しなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

DV 経験の 71.7% は「相談しなかった」、理由は「相談するほどのことではないから」が 55.2%。

全体で「相談した」は 21.4%、「相談しなかった」は 71.7% となっており、性別での傾向の相違はないが「相談した」は女性の方が 10.1 ポイント高くなっている。

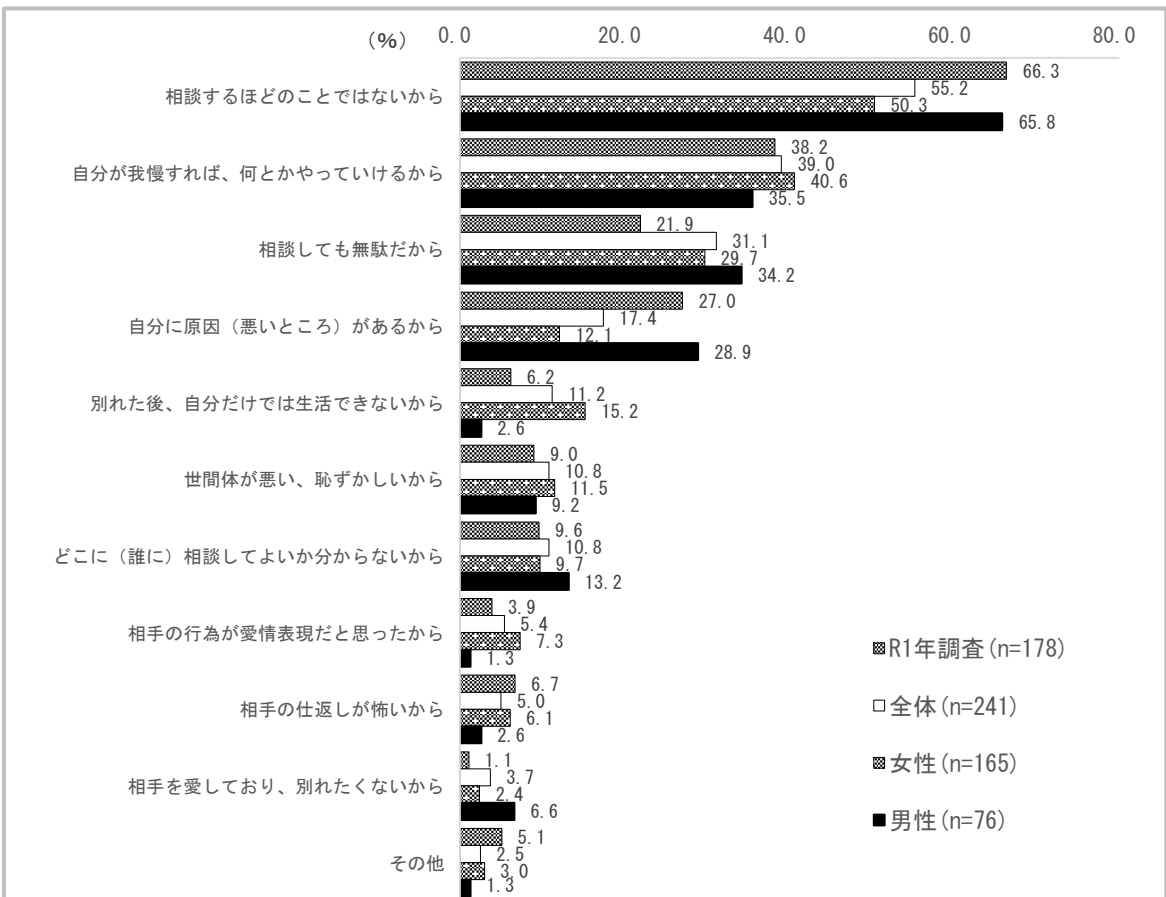
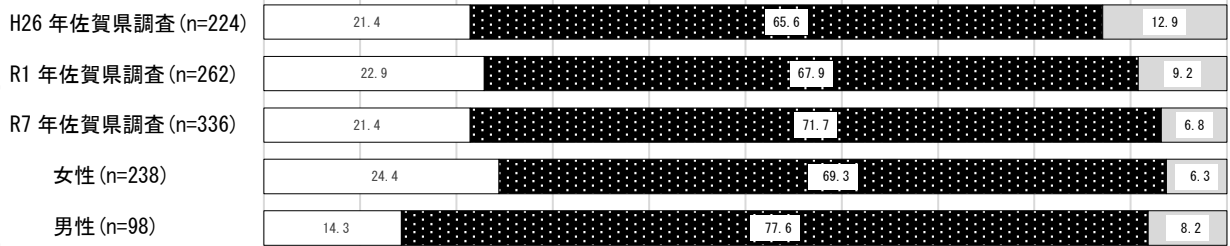
経年比較で「相談した」は令和 1 年調査と比べ 1.5 ポイント減少している。

「相談しなかった」理由は「相談するほどのことではないから」が 55.2% で最も高く、次いで「自分が我慢すれば、何とかやっていけるから」が 39.0%、「相談しても無駄だから」が 31.1% と続いており、性別での相違はみられないが、男女間の乖離が大きいのは「別れた後、自分だけでは生活できないから」で女性が 12.6 ポイント高く、「自分に原因 (悪いところ) があるから」で男性が 16.8 ポイント高くなっている。

経年比較で減少が最も大きいのは「相談しても無駄だから」が 11.1 ポイント減少であった。

□相談した ■相談しなかった □無回答

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%



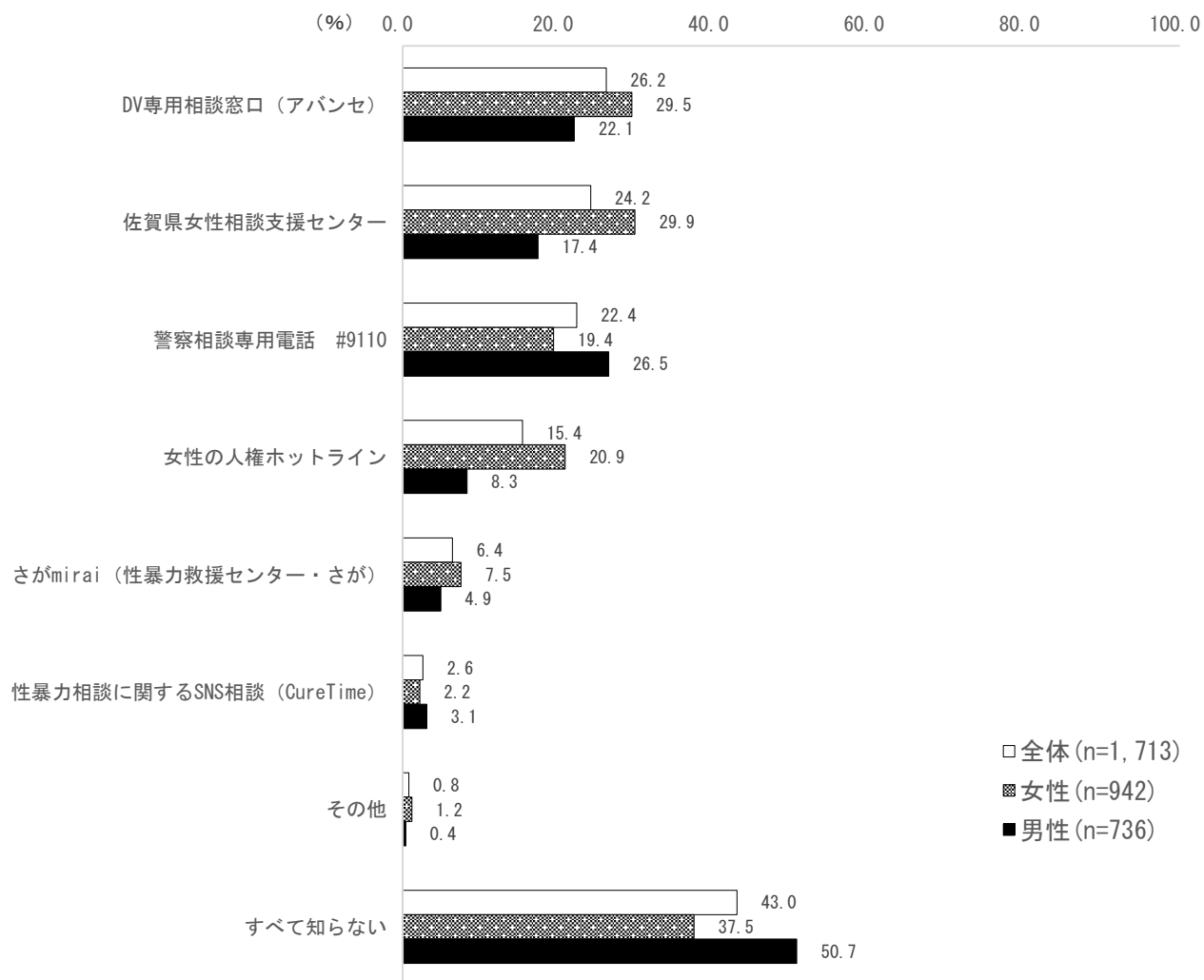
【全員がお答えください】

問17 DVや性暴力の悩みを相談できる窓口などであなたが知っているものは何ですか。  
(〇はいくつでも)

「DV専用相談窓口（アバンセ）」が26.2%でトップ、  
「すべて知らない」は43.0%と相談窓口の認知度は低い。

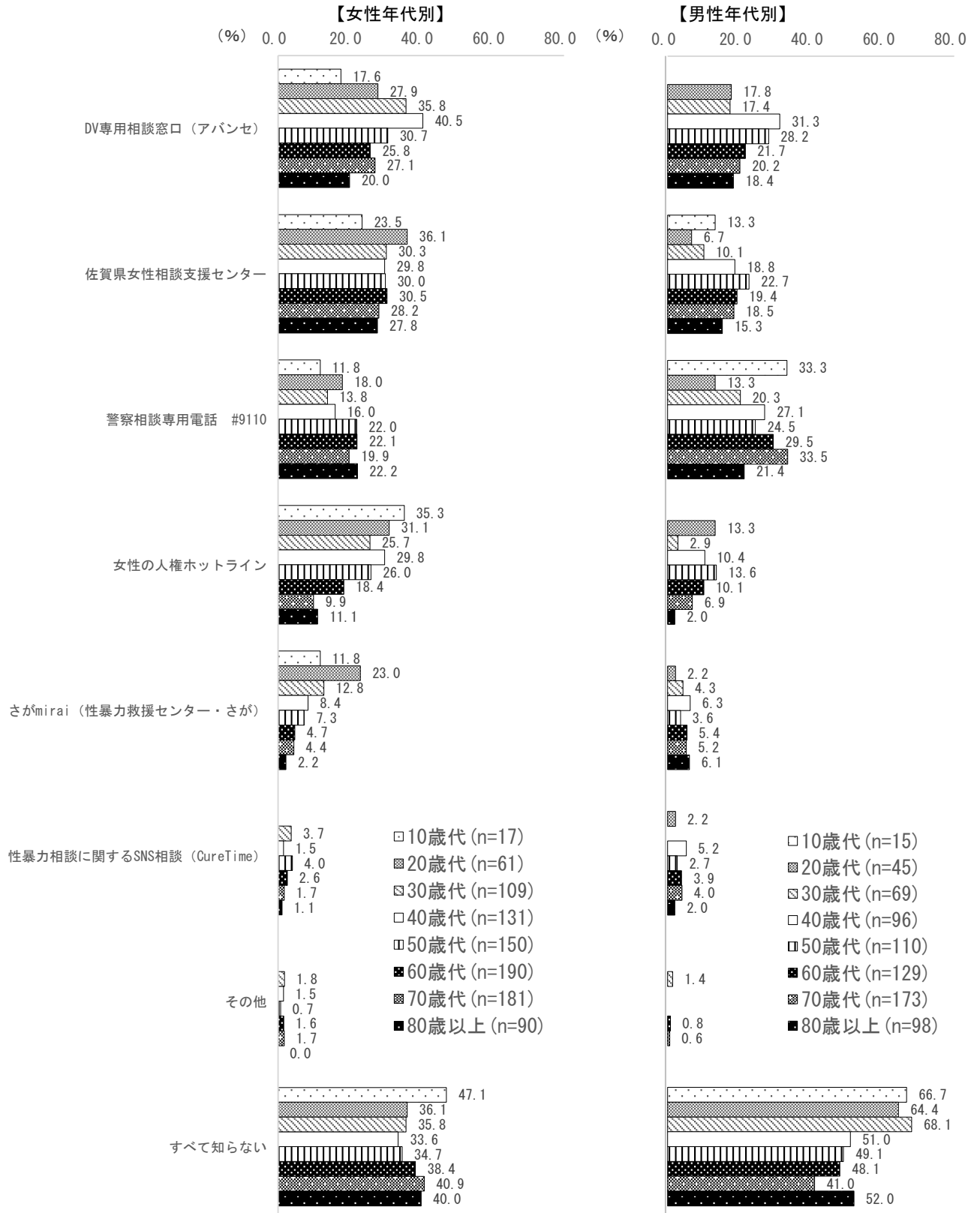
全体では「DV専用相談窓口（アバンセ）」が26.2%で最も高く、次いで「佐賀県女性相談支援センター」が24.2%、「警察相談専用電話 #9110」が22.4%と続いており、「すべて知らない」は43.0%となっている。

性別で見ると女性は「佐賀県女性相談支援センター」が29.9%で最も高く、次いで「DV専用相談窓口（アバンセ）」が29.5%、「女性の人権ホットライン」が20.9%と続き、「すべて知らない」は37.5%となっており、男性は「警察相談専用電話 #9110」が26.5%で最も高く、次いで「DV専用相談窓口（アバンセ）」が22.1%、「佐賀県女性相談支援センター」が17.4%と続き、「すべて知らない」は50.7%となっている。



全体で1位項目の「DV専用相談窓口（アバンセ）」は男性よりも女性の認知が高く、性別・年齢別では男女ともに40歳代をトップに山なりの傾向がみられる。2位項目の「佐賀県女性相談支援センター」も女性の認知が高く、女性は年代の上昇とともに減少傾向がみられ、男性は50歳代をトップに山なりの傾向がみえる。3位項目の「警察相談専用電話 #9110」で女性は60歳代、男性は70歳代をそれぞれトップに山なりの傾向がみられる。

「すべて知らない」で女性は30歳代以上で増加の傾向がみられ、男性は30歳代以上で年齢の上昇に伴い減少の傾向がみられる。



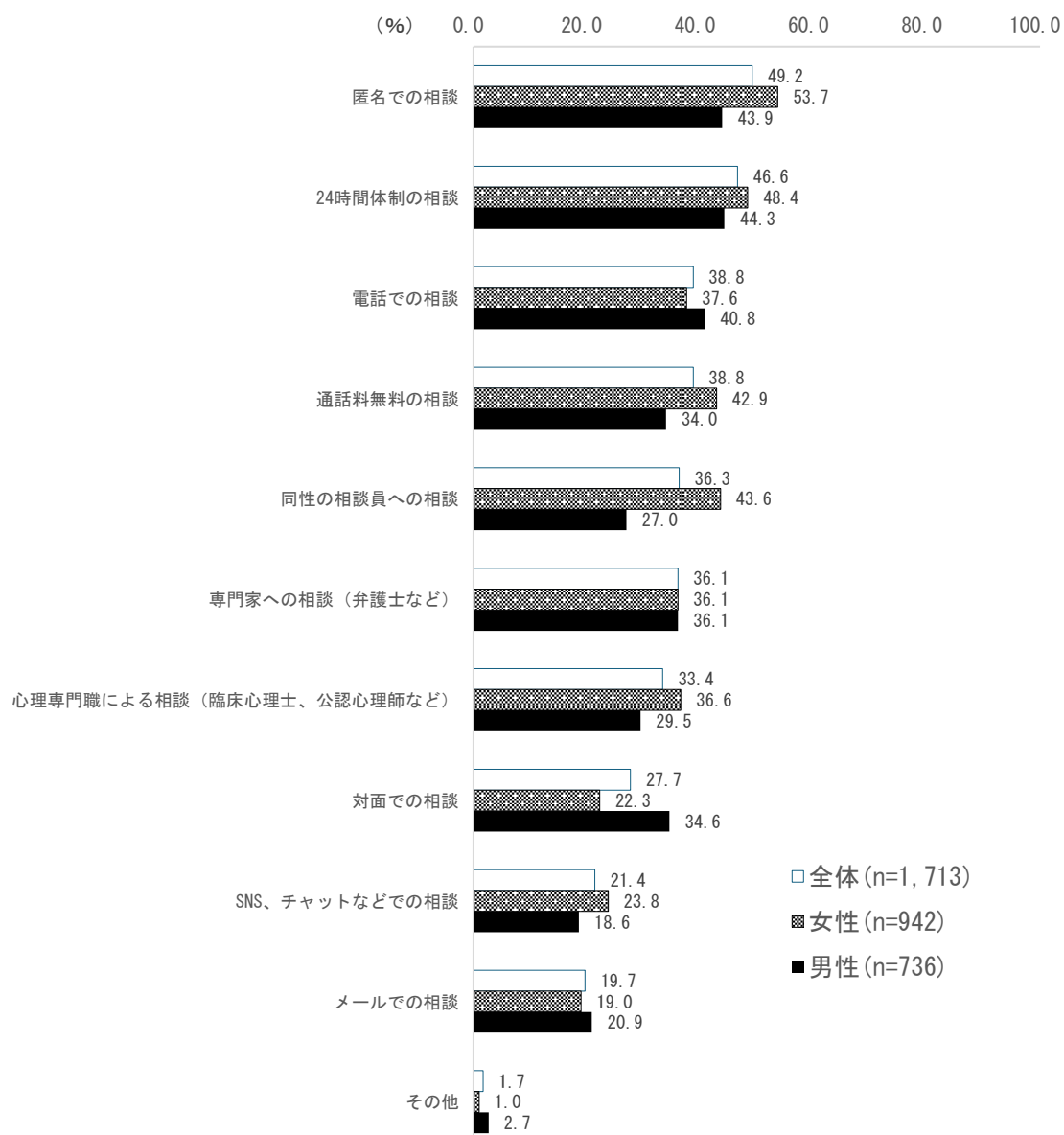
【全員がお答えください】

問18 DVや性暴力被害の相談窓口で対応してほしいことは何ですか。(〇はいくつでも)

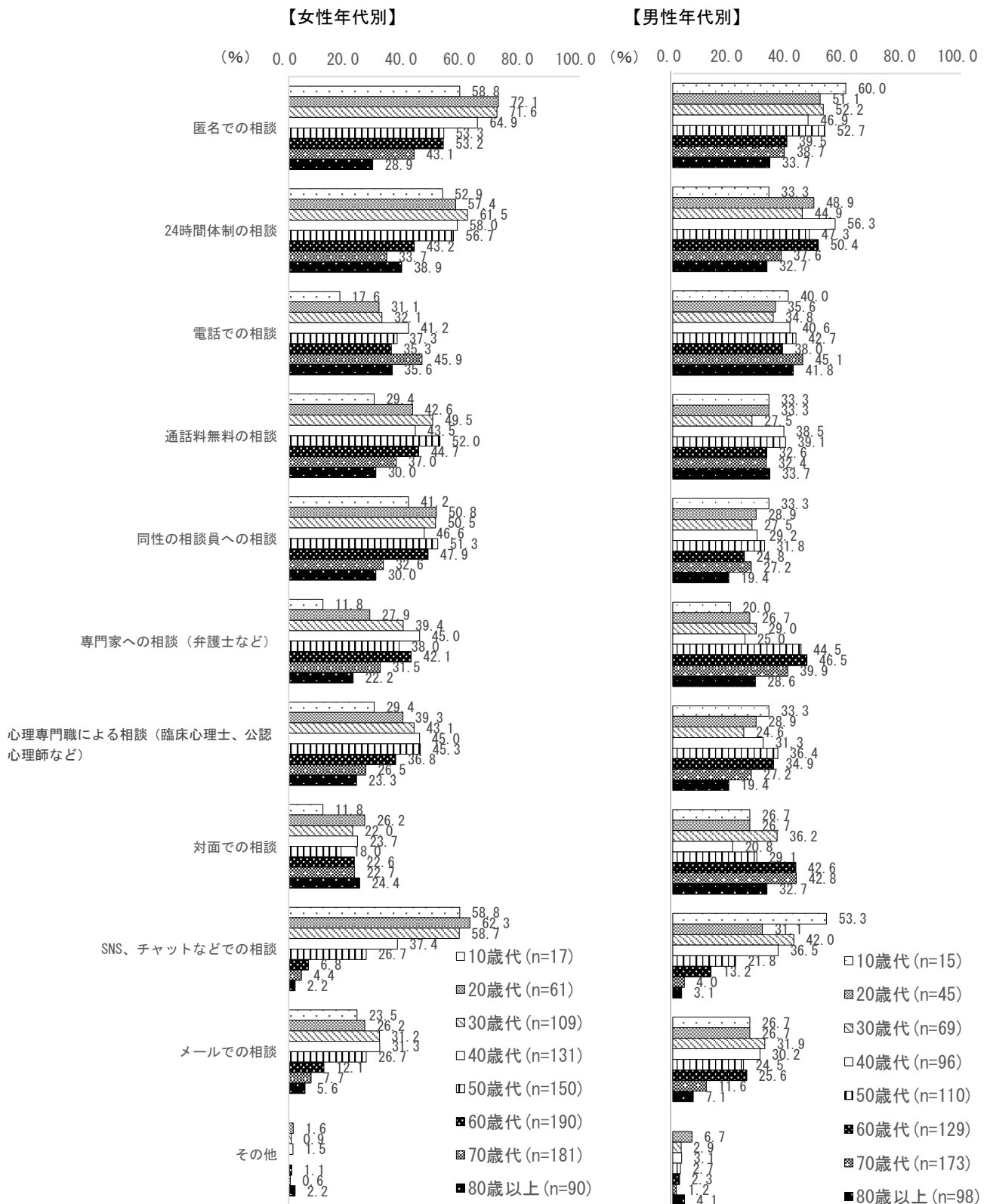
「匿名での相談」が49.2%でトップ。

全体では「匿名での相談」が49.2%で最も高く、次いで「24時間体制の相談」が46.6%、「電話での相談」・「通話料無料の相談」が38.8%と続いている。

性別で見ると男性は全体との傾向に相違はみられないが、女性は「同性の相談員への相談」が43.6%で3位項目に上がっている。



全体で1位項目の「匿名での相談」は男性よりも女性の要望が高く、男女とも年代の上昇に伴い減少の傾向がみられる。2位項目の「24時間体制の相談」も女性の要望が高く、女性は30歳代・男性は40歳代をトップに山なりの傾向がみえる。3位項目の「電話での相談」は男女とも年代に上昇に伴い減少の傾向がみられ、「通話料無料の相談」では男女ともに50歳代以上で年齢の上昇に伴い減少の傾向がみられる。



【男女共同参画社会の実現について】

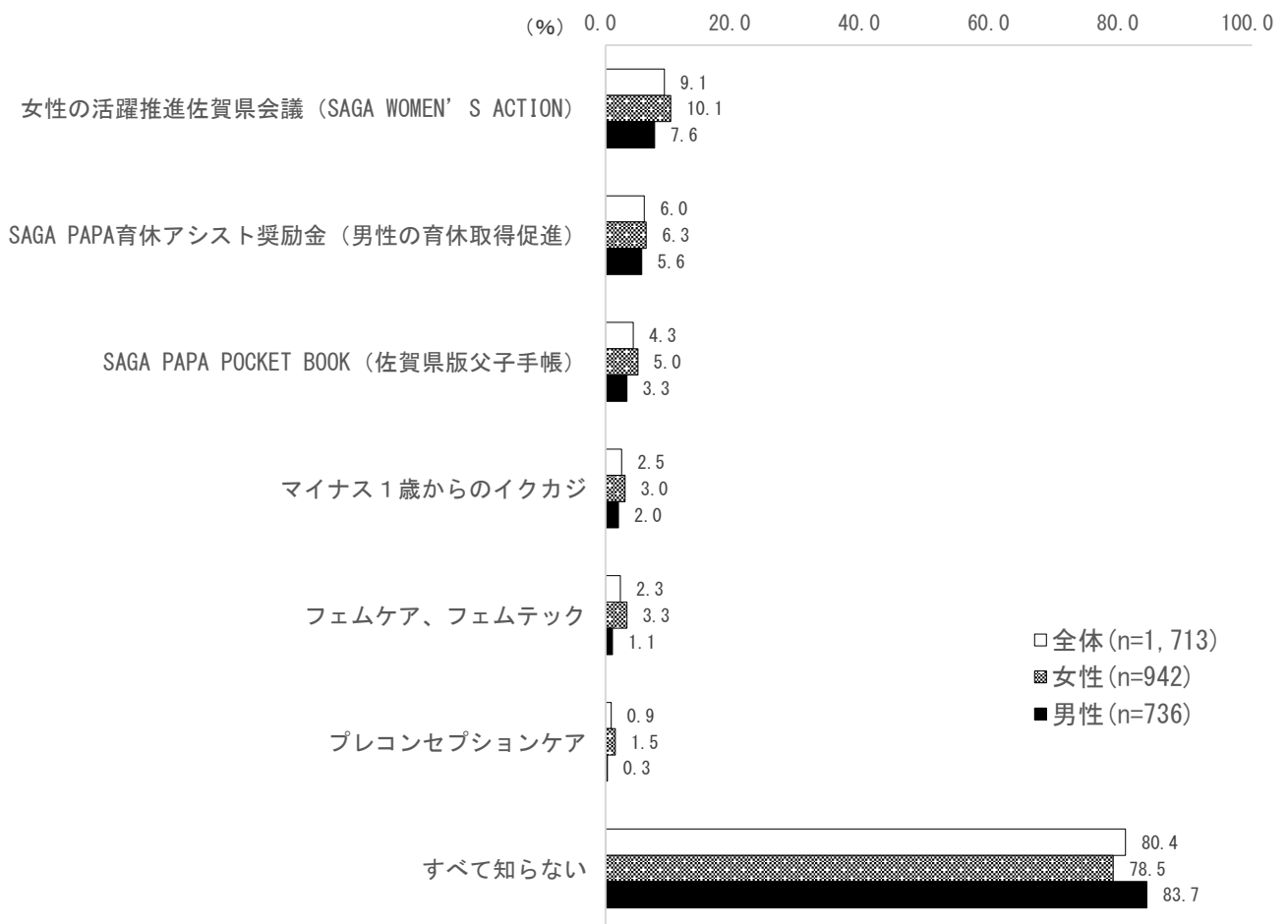
【全員がお答えください】

問 19 県では誰もが個性と能力を発揮できる社会の実現に向けて、様々な取組を行っています。あなたが知っているものはどれですか。(〇はいくつでも)

「女性の活躍推進佐賀県会議 (SAGA WOMEN' S ACTION)」が9.1%でトップ。  
「すべて知らない」が80.4%と県の取組の認知度は低い。

全体では「女性の活躍推進佐賀県会議 (SAGA WOMEN' S ACTION)」が9.1%で最も高くなっており、次いで「SAGA PAPA 育休アシスト奨励金 (男性の育休取得促進)」6.0%、「SAGA PAPA POCKET BOOK (佐賀県版父子手帳)」が4.3%で続いており、「すべて知らない」が80.4%となっており、県の取組への認知度は低い。

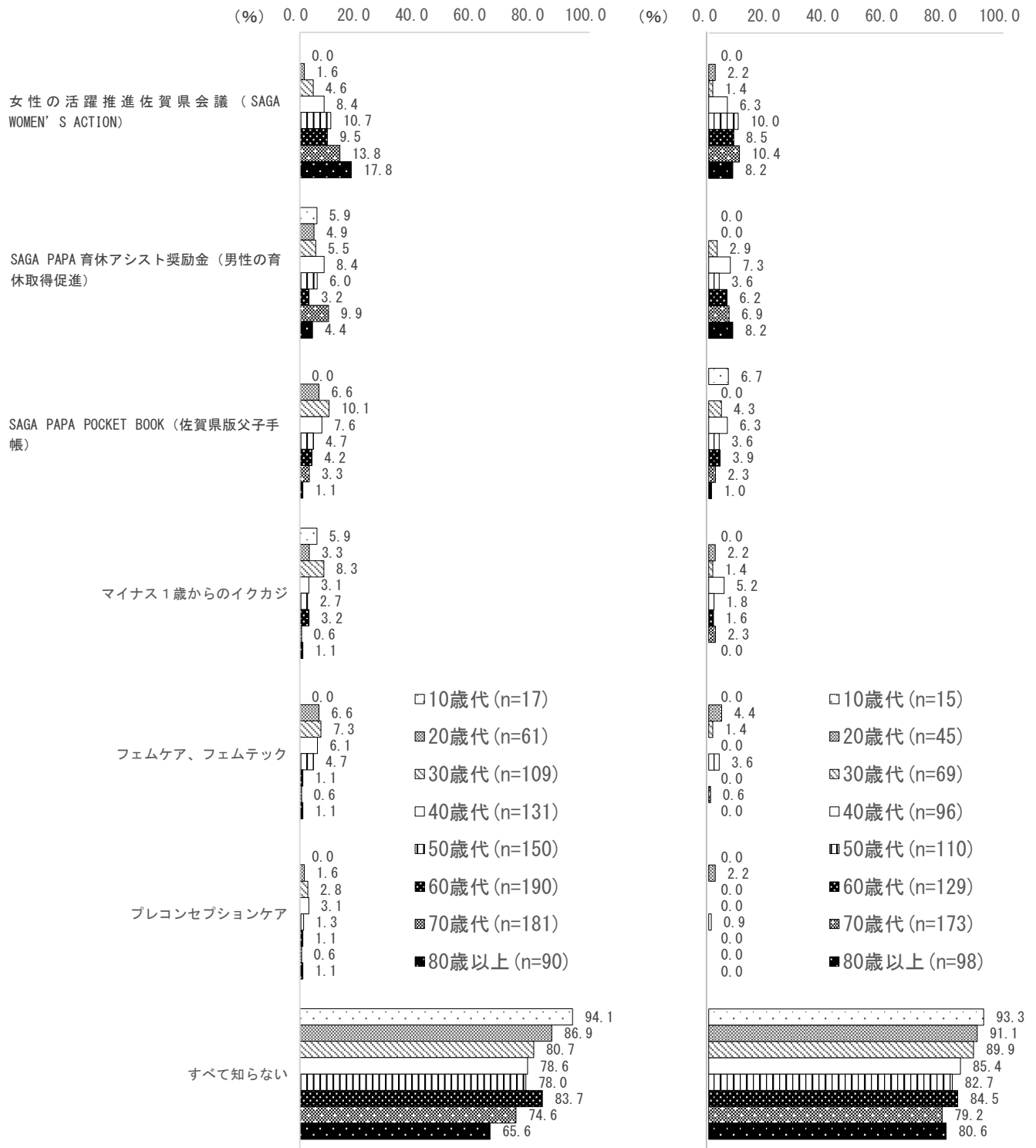
性別で男女の傾向の大きな相違はみられない。



性別・年齢別で見ると全体で認知度 1 位項目の「女性の活躍推進佐賀県会議（SAGA WOMEN'S ACTION）」は女性の方が認知は高く、年代の上昇に伴い認知度は高くなっており、男性は 50 歳代・70 歳代の認知が高くなっている。2 位項目の「SAGA PAPA 育休アシスト奨励金（男性の育休取得促進）」は女性で 40 歳代・70 歳代が高く、男性は 40 歳代・80 歳以上が高くなっている。3 位項目の「SAGA PAPA POCKET BOOK（佐賀県版父子手帳）」で女性は 30 歳代、男性は 40 歳代以上で年齢の上昇に伴い減少の傾向がみられる。また、「すべて知らない」は男女ともに年代の上昇に伴い認知度は減少傾向がみられる。

【女性年代別】

【男性年代別】



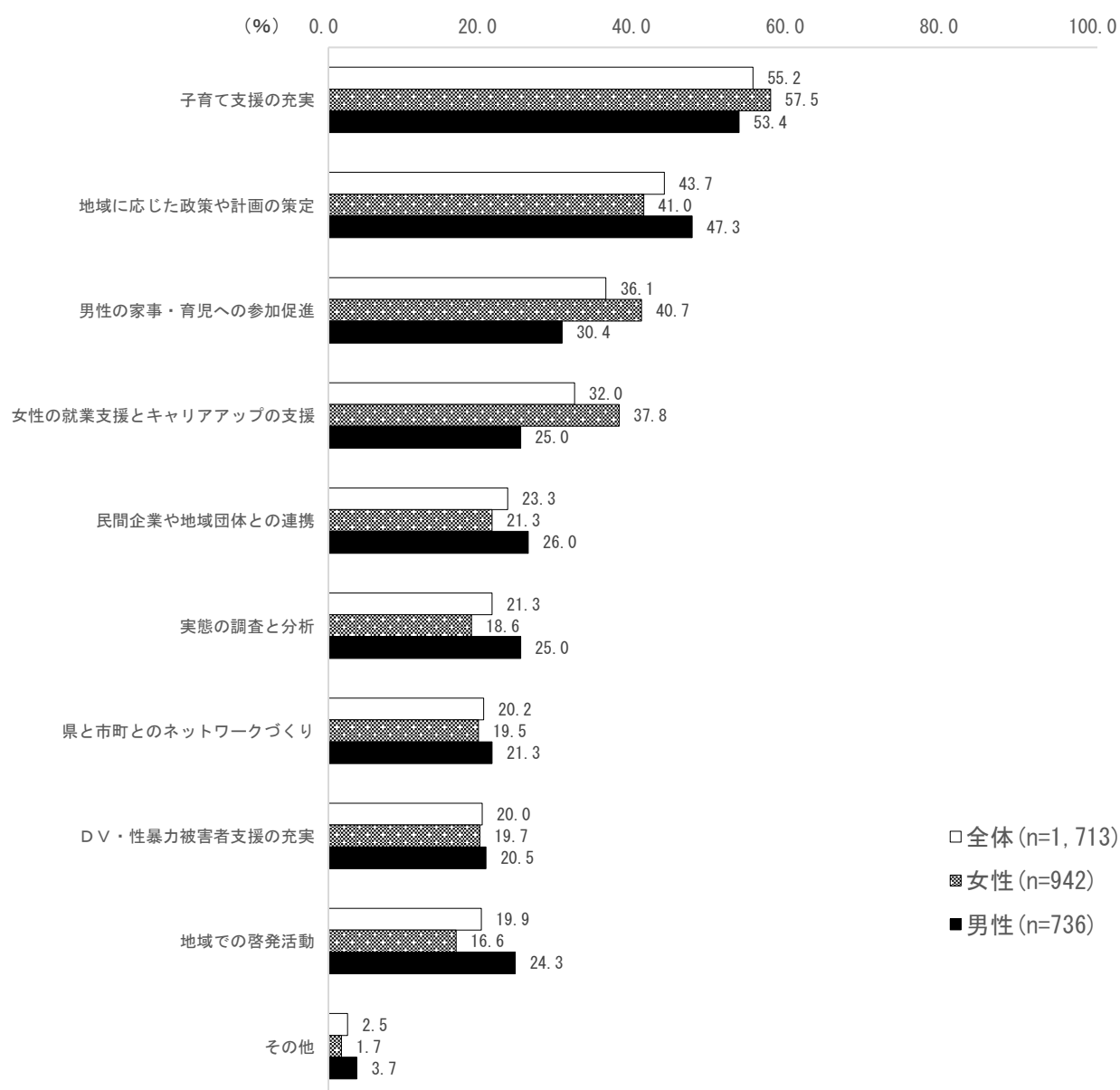
【全員がお答えください】

問20 あなたは、県や市町の行政機関は男女共同参画社会づくりのために何をすべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

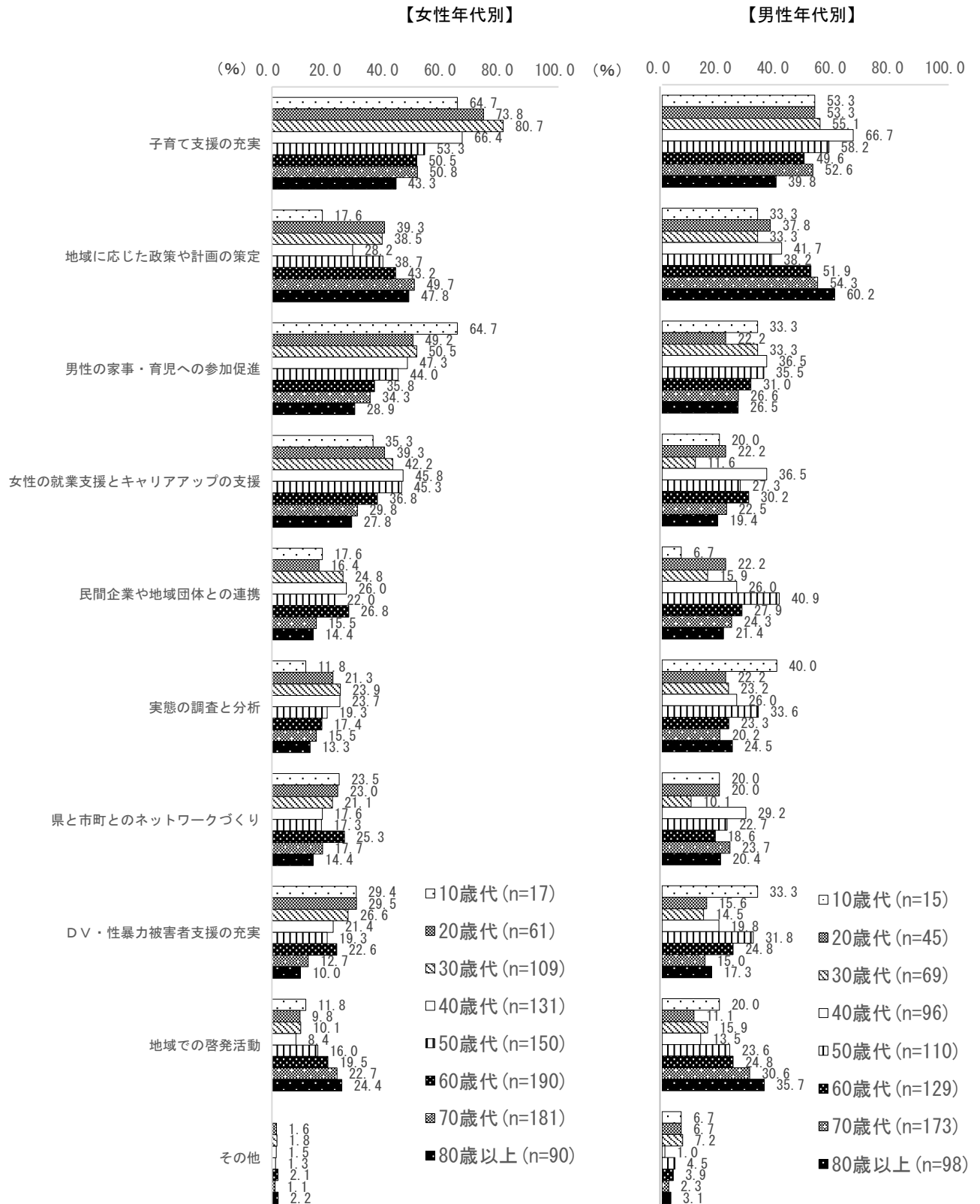
「子育て支援の充実」が55.2%でトップ。

全体で「子育て支援の充実」が55.2%で最も高く、次いで「地域に応じた政策や計画の策定」が43.7%、「男性の家事・育児への参加促進」が36.1%と続いている。

性別で見ると女性は全体との傾向に相違はみられないが、男性は「民間企業や地域団体との連携」が26.0%で4位項目に上がっている。



性別・年齢別で見ると全体で1位項目の「子育て支援の充実」は女性の方が要望は高く、女性は30歳代、男性は40歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられる。2位項目の「地域に応じた政策や計画の策定」で女性は40歳代以上で年代の上昇に伴い増加の傾向がみられ、男性は年代の上昇に伴い高くなっている。3位項目の「男性の家事・育児への参加促進」は男女ともに年代の上昇に伴い減少の傾向がみられる。



【健康課題について】

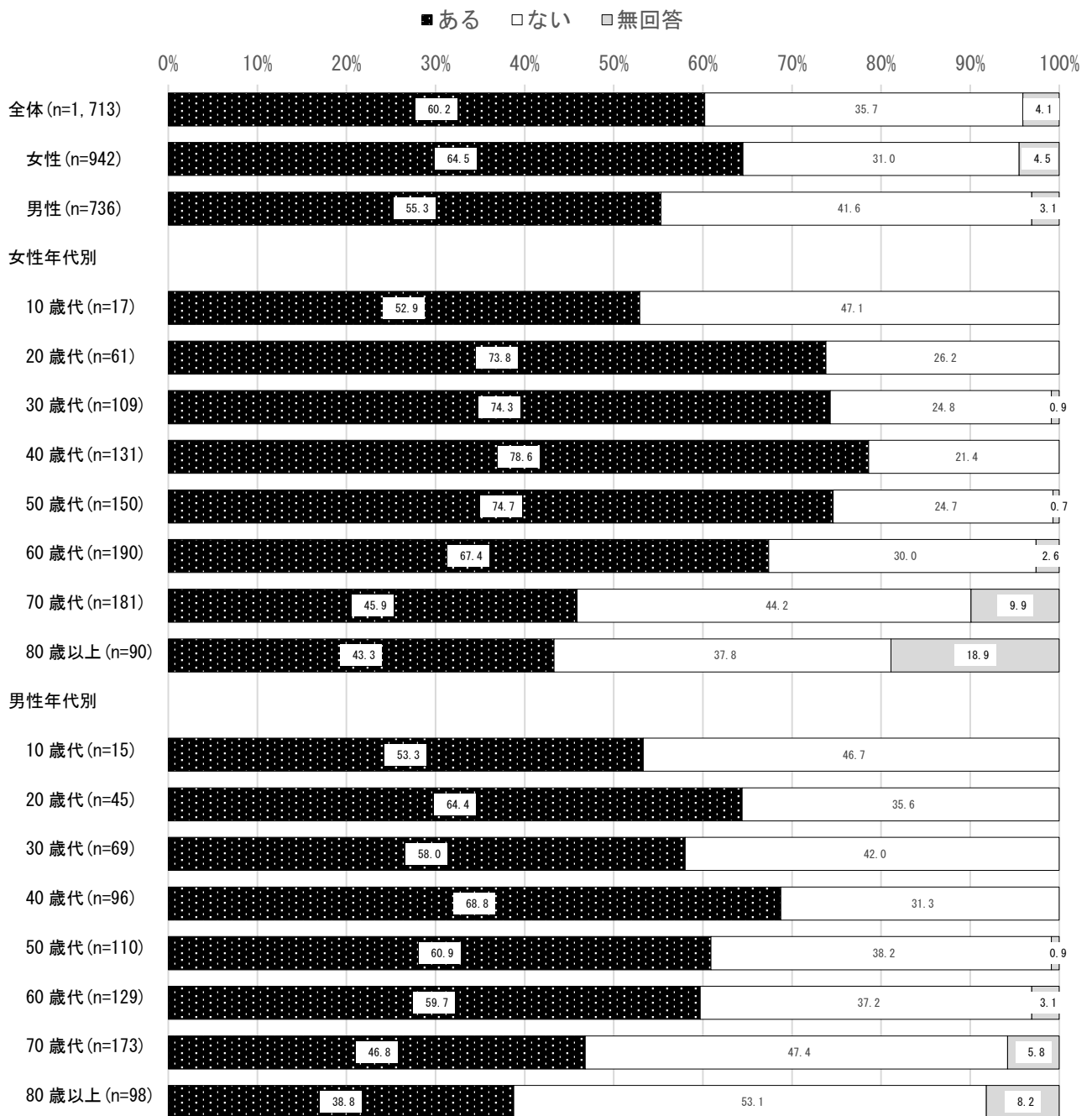
【全員がお答えください】

問2 1 家族やパートナー、同僚など周りの女性の生理やPMS、更年期症状による体調や機嫌の変化を感じたことはありますか。

「ある」が60.2%で、「ない」が35.7%。

全体で「ある」が60.2%で、「ない」が35.7%となっている。  
性別での傾向の相違はみられず、「ある」は女性の方が9.2ポイント高くなっている。  
性別・年齢別で「ある」の傾向をみると、男女ともに40歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられる。

(※：PMS=月経前症候群)

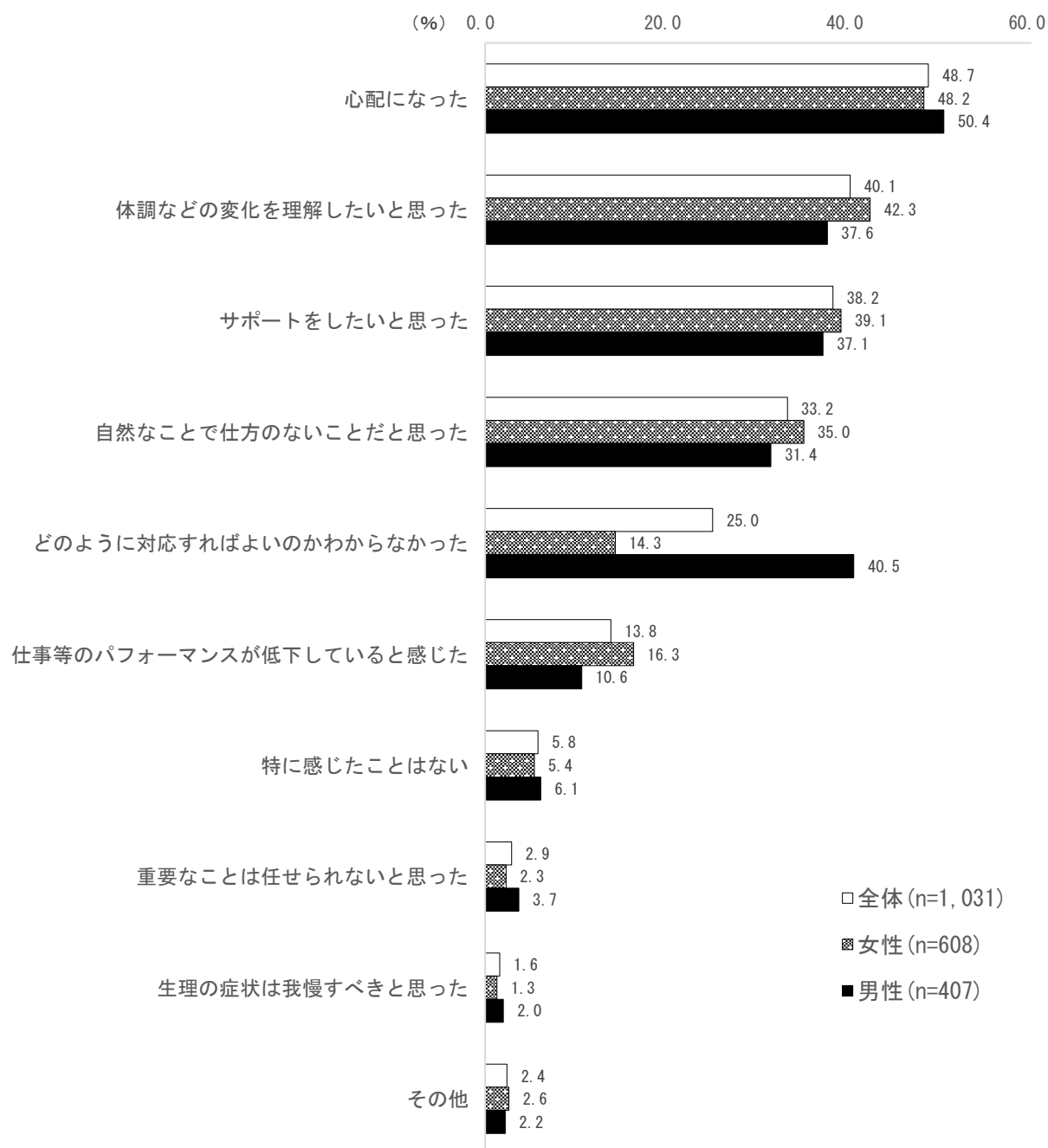


※「ある」と回答した方は、その時感じたことをすべて選んで○を付けてください。

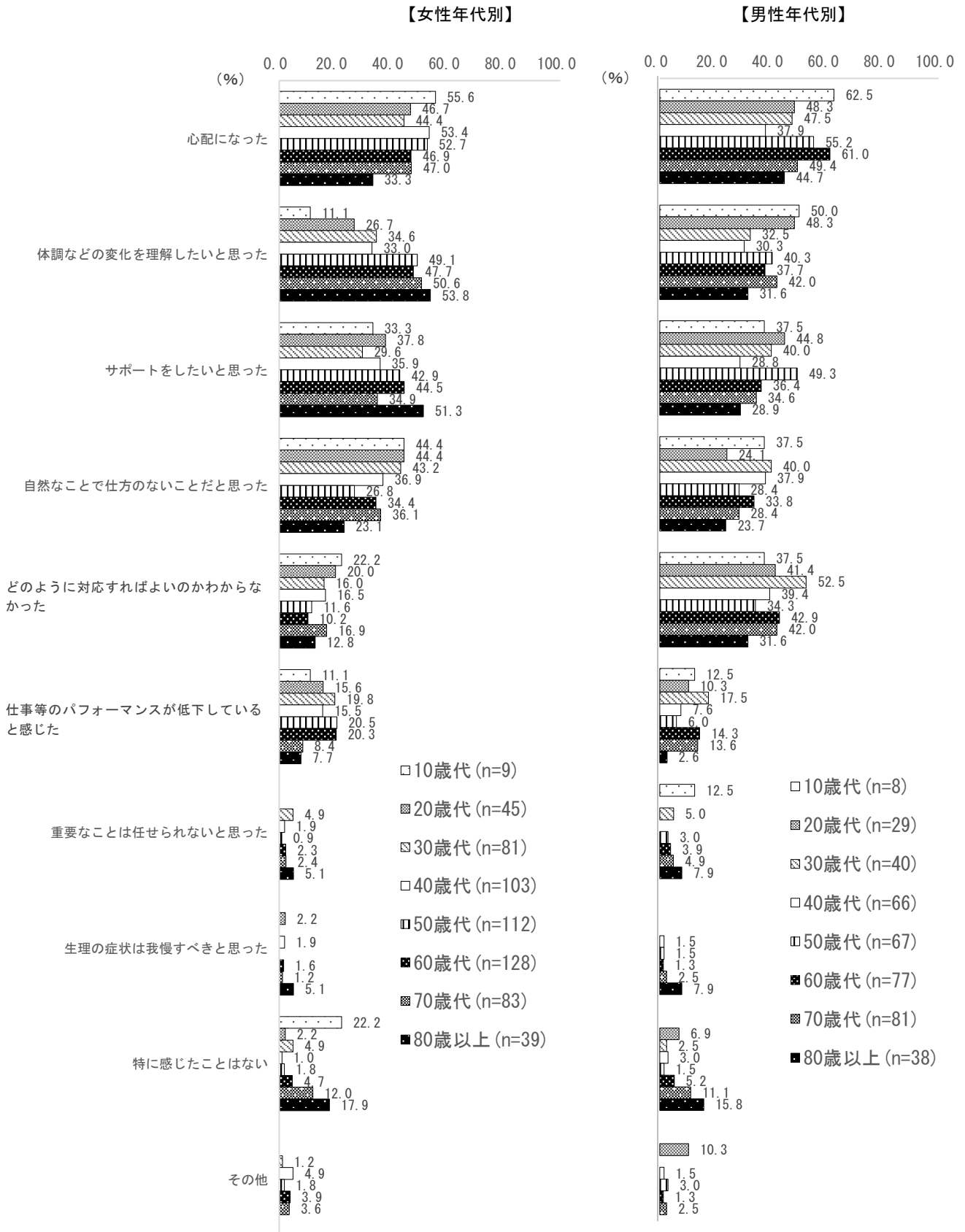
「心配になった」が48.7%でトップ。

全体で「心配になった」が48.7%で最も高く、次いで「体調などの変化を理解したいと思った」が40.1%、「サポートをしたいと思った」が38.2%と続いている。

性別で見ると女性は全体との傾向に相違はみられないが、男性は「どのように対応すればよいのかわからなかった」が40.5%で2位項目に上がっている。



性別・年齢別で見ると全体で認知度1位項目の「心配になった」は男性の方が高く、女性は40歳代をトップに山なりの傾向がみられ、男性は40歳代・60歳代が高くなっている。全体・女性の2位項目の「体調などの変化を理解したいと思った」、3位項目の「サポートをしたいと思った」は女性で年代の上昇に伴い増加の傾向がみられている。また、男性の2位項目である「どのように対応すればよいかわからなかった」は30歳代をトップに山なりになっている。



【女性がお答えください】

問22 あなたは、家庭や職場で生理・PMS・更年期の症状などの体調不良を周りに伝えていきますか。(〇はそれぞれ1つ)

「家庭」で「伝えている」が33.2%でトップ、「職場」で「伝えない」が28.7%でトップ。

全体で「家庭」では「伝えている」が33.2%、次いで「たまに伝えている」が31.0%、「伝えない」が16.7%、「ほとんど伝えない」が13.9%の順となり、「伝える（「伝えている」＋「たまに伝えている」）」は64.2%、「伝えていない（「伝えない」＋「ほとんど伝えない」）」は30.6%となっている。また、「職場」では「伝えない」が28.7%で最も高く、次いで「たまに伝えている」が22.1%、「ほとんど伝えない」が21.3%、「伝えている」が13.4%の順となり、「伝える」は35.5%、「伝えていない」は50.0%となっている。

年代別に見ると「家庭」で「伝える」は年代の上昇に伴い減少しており、「職場」で「伝える」は40歳代をトップに山なりの傾向にある。



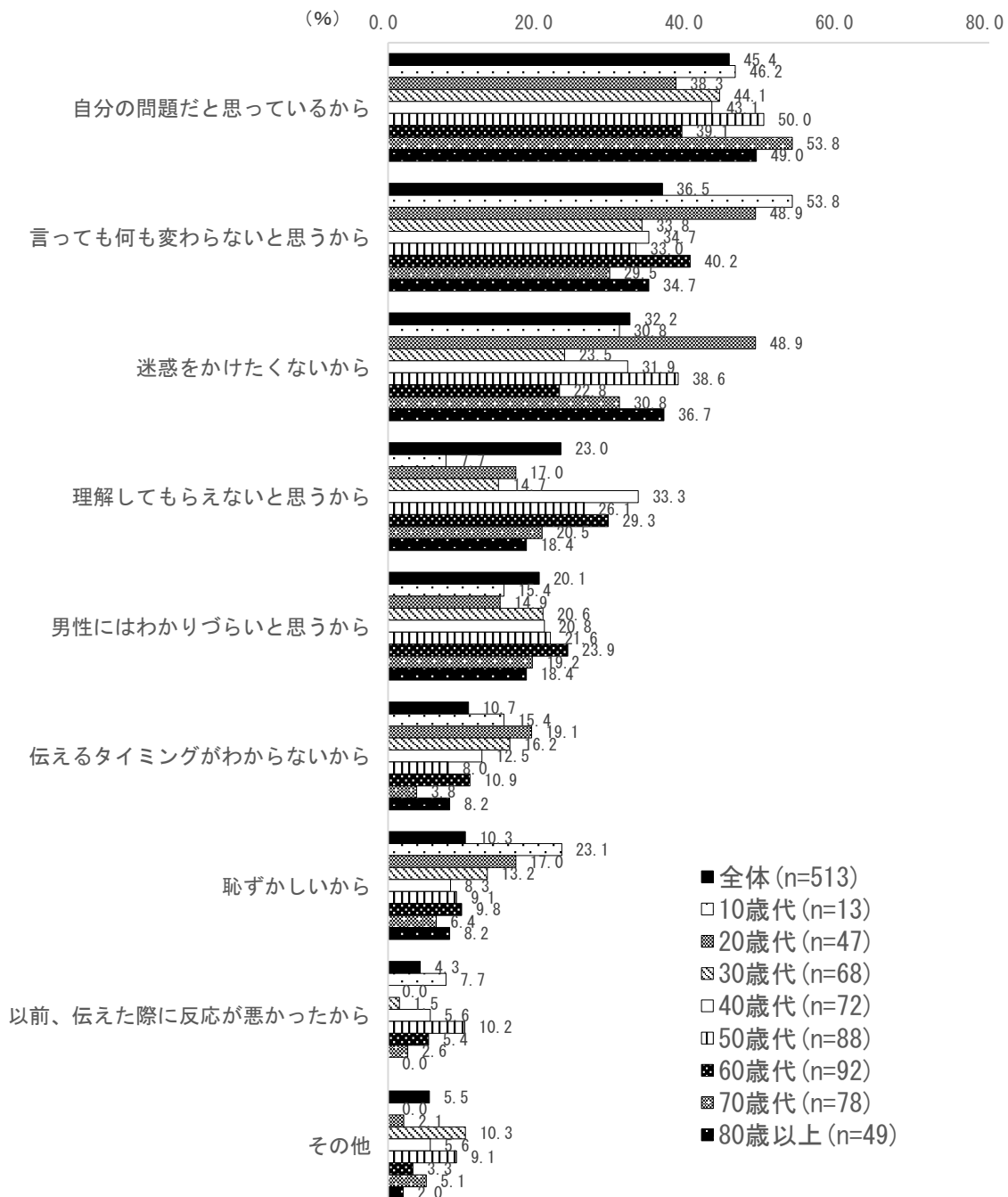
【問 22 で 3 または 4 を選んだ方がお答えください】  
 問 22-1 その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「伝えていない」は 54.5%、理由は「自分の問題だと思っているから」が 45.4%でトップ。

女性の回答者 942 名のうち、生理・PMS・更年期の症状などの体調不良を周りに「伝えない」、「ほとんど伝えない」と答えたのは、513 名 (54.5%) であった。

「伝えていない」理由は全体で「自分の問題だと思っているから」が 45.4%で最も高く、次いで「言っても何も変わらないと思うから」が 36.5%、「迷惑をかけたくないから」が 32.2%と続いている。

年代別で見ると 1 位項目の「自分の問題だと思っているから」は 50 歳代・70 歳代・80 歳以上が高くなっており、2 位項目の「言っても何も変わらないと思うから」は 20 歳代・60 歳代が高くなっている。また、3 位項目の「迷惑をかけたくないから」は 20 歳代・50 歳代・80 歳以上が高くなっている。



【全員がお答えください】

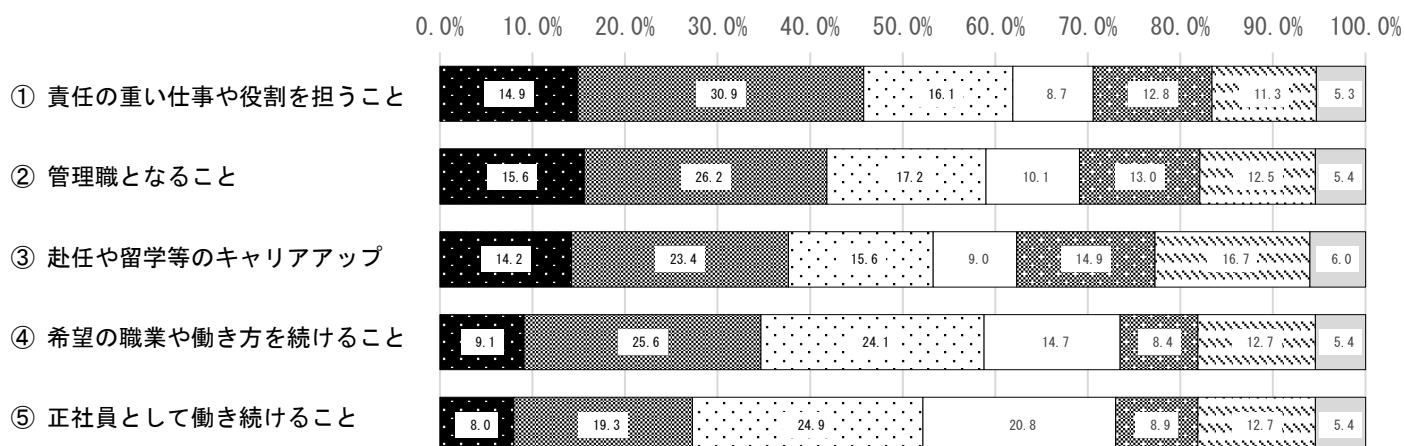
問23 男性や女性の特有の健康課題を抱えることで、どのようなことに難しさを感じますか。  
(〇はそれぞれ1つ)

「難しい」のは「①責任の重い仕事や役割を担うこと」が45.8%でトップ。

全体で「難しい（「難しいと感じる」＋「やや難しいと感じる）」と「難しくない（「難しいとは感じない」＋「さほど難しいとは感じない）」で見ると、「①責任の重い仕事や役割を担うこと」は「難しい」が45.8%、「難しくない」が24.8%、「②管理職となること」は「難しい」が41.8%、「難しくない」が27.3%、「③赴任や留学等のキャリアアップ」は「難しい」が37.6%、「難しくない」が24.6%、「④希望の職業や働き方を続けること」は「難しい」が34.7%、「難しくない」が38.8%、「⑤正社員として働き続けること」は「難しい」が27.3%、「難しくない」が45.7%となっており、「難しくない」が「難しい」を上回ったのは「④希望の職業や働き方を続けること」と「⑤正社員として働き続けること」となっている。

【R7年調査：n=1,713】

■ 難しいと感じる                      ■ やや難しいと感じる                      □ さほど難しいとは感じない  
□ 難しいとは感じない                      ■ そういう経験はない                      □ わからない  
□ 無回答

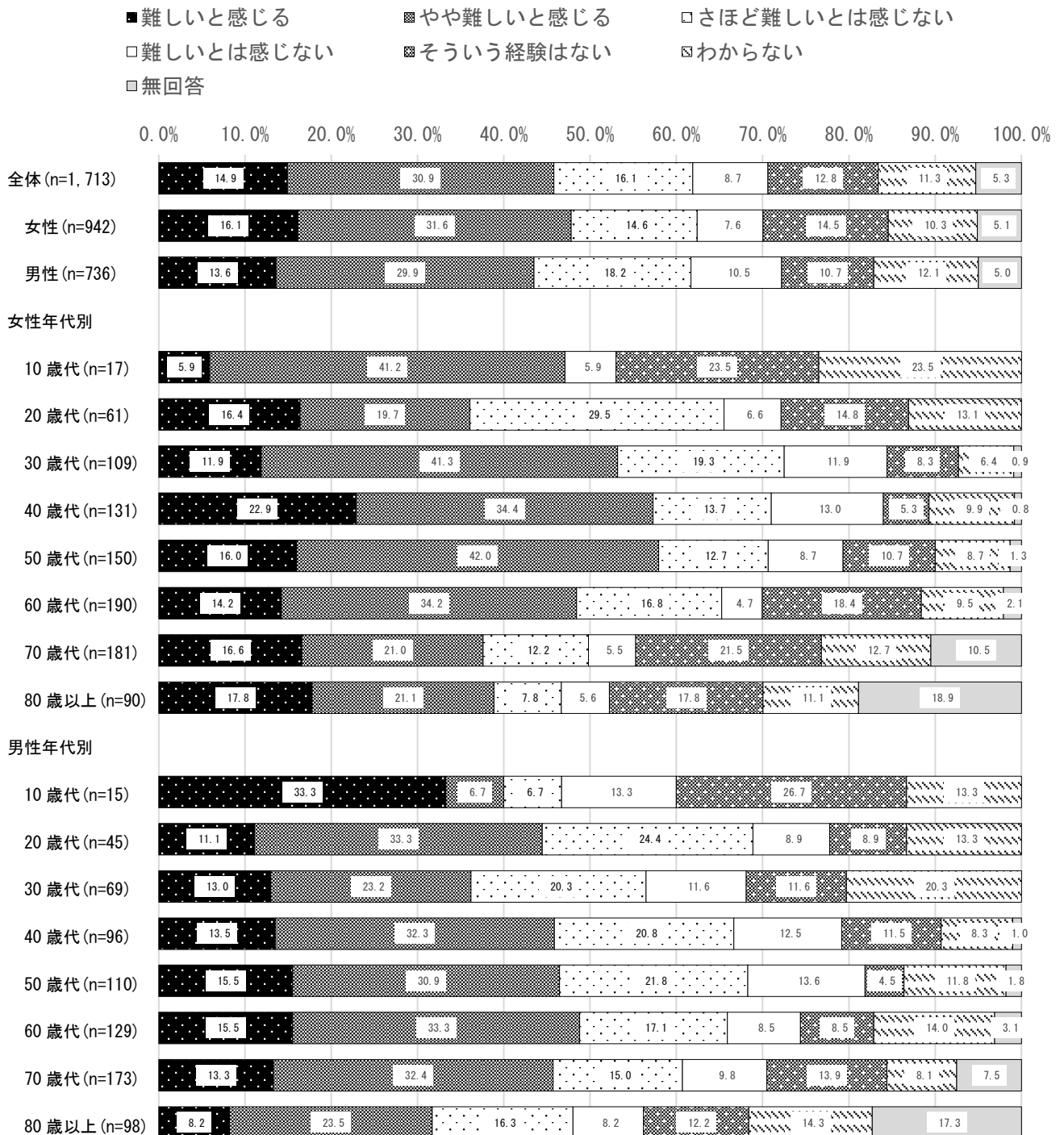


問23 ①責任の重い仕事や役割を担うこと

全体で「やや難しいと感じる」が30.9%で最も高く、次いで「さほど難しいとは感じない」が16.1%、「難しいと感じる」が14.9%続いており、「難しい」が45.8%、「難しくない」が24.8%となっている。

性別での傾向の相違は女性で「難しいと感じる」が2位項目となっており、「難しい」は女性が4.2ポイント高くなっている。

性別年齢別で見ると「難しい」は女性が50歳代、男性が60歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられ、60歳代・70歳代で「難しい」は男性の方が高くなっている。

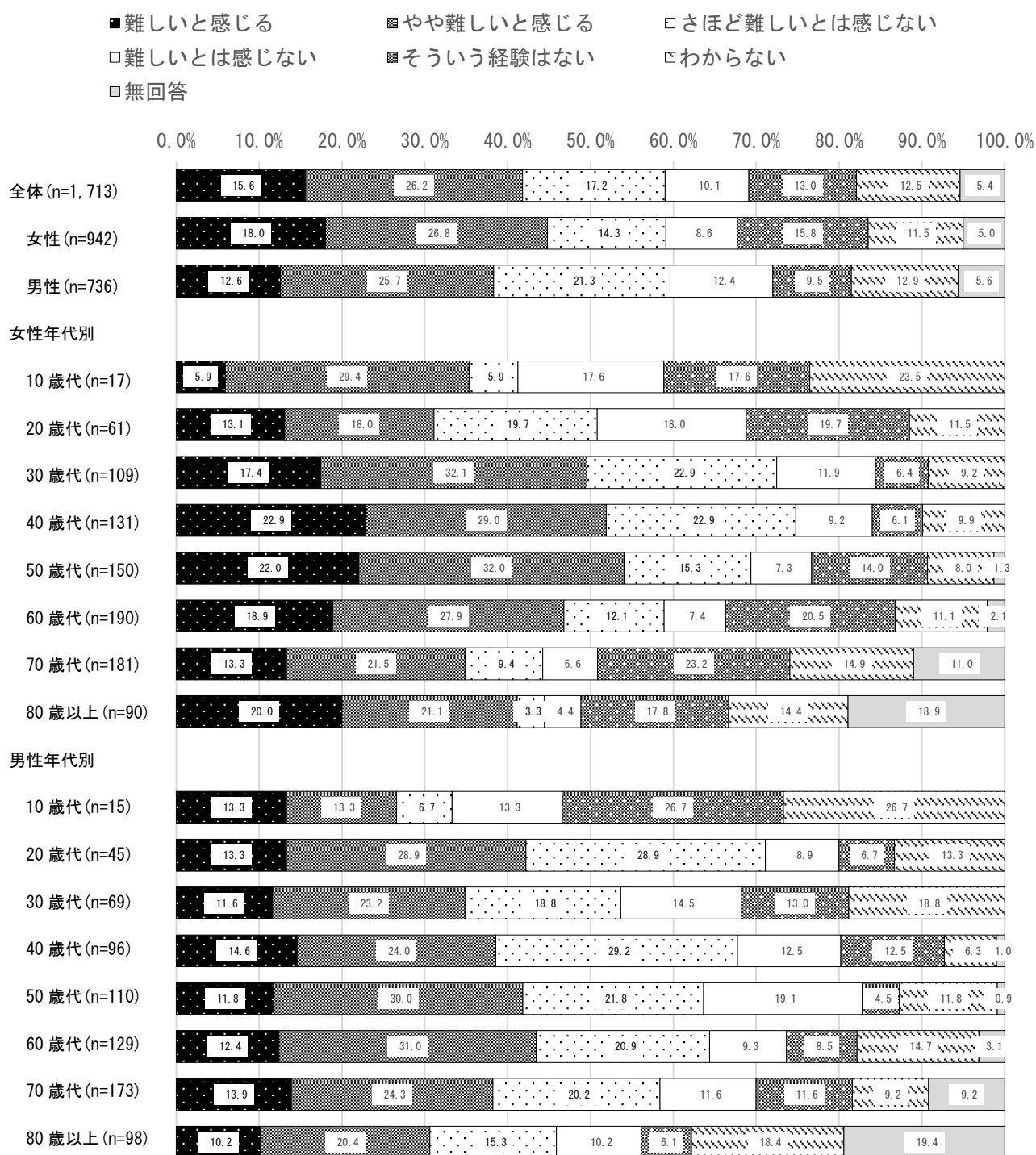


## 問23 ②管理職となること

全体で「やや難しいと感じる」が 26.2%で最も高く、次いで「さほど難しいとは感じない」が 17.2%、「難しいと感じる」が 15.6%続いており、「難しい」が 41.8%、「難しくない」が 27.3%となっている。

性別での傾向の相違は女性で「難しいと感じる」が 2 位項目となっており、「難しい」は女性が 6.5 ポイント高くなっている。

性別年齢別で見ると「難しい」は女性が 50 歳代、男性が 60 歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられ、20 歳代・70 歳代で「難しい」は男性の方が高くなっている。

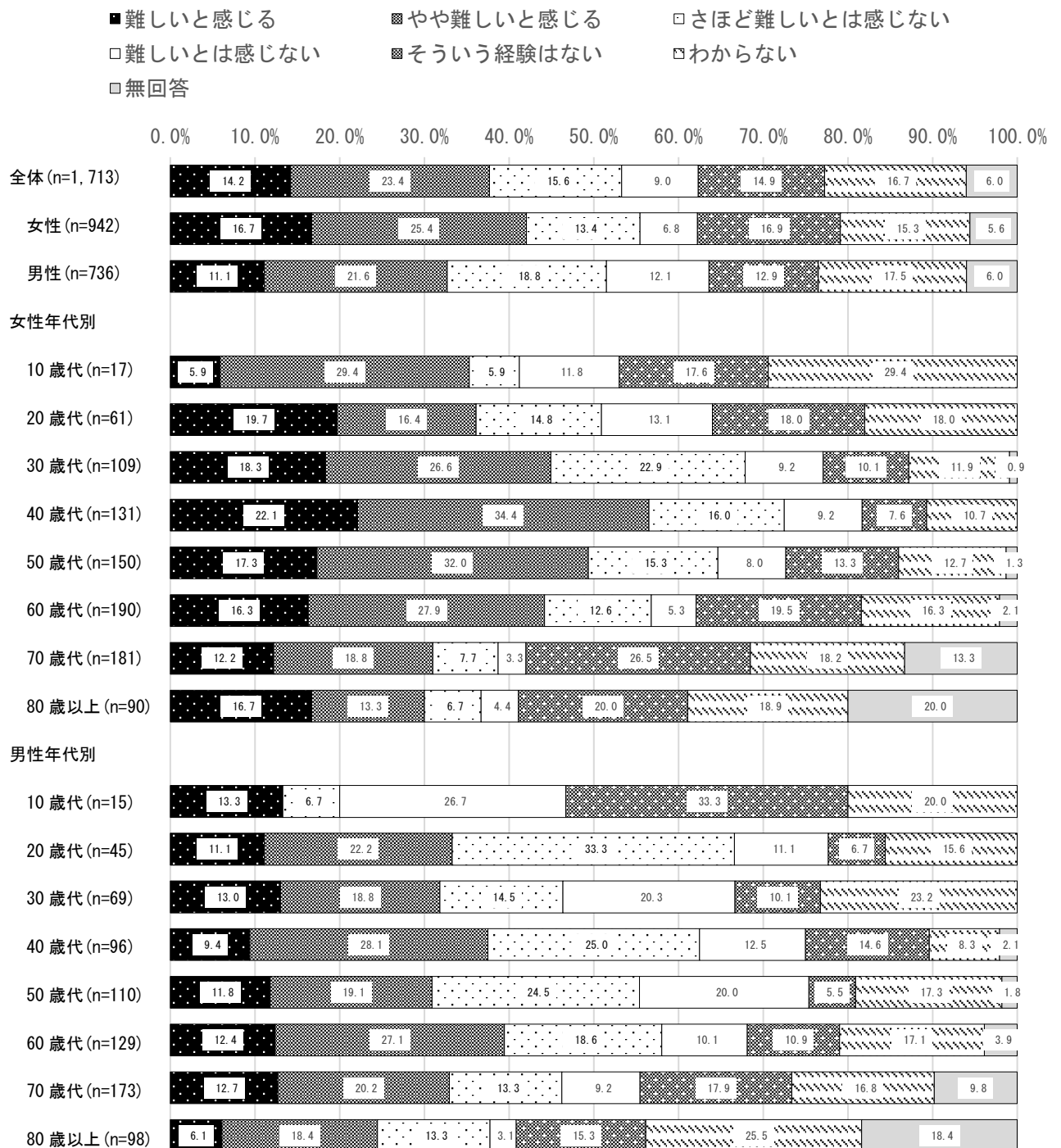


問23 ③赴任や留学等のキャリアアップ

全体で「やや難しいと感じる」が23.4%で最も高く、次いで「さほど難しいとは感じない」が15.6%、「難しいと感じる」が14.2%続いており、「難しい」が37.6%、「難しくない」が24.6%となっている。

性別での傾向の相違は女性で「難しいと感じる」が2位項目となっており、「難しい」は女性が9.4ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると「難しい」は女性が40歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は40歳代・60歳代が高くなっている。また、70歳代で「難しい」は男性の方が高くなっている。

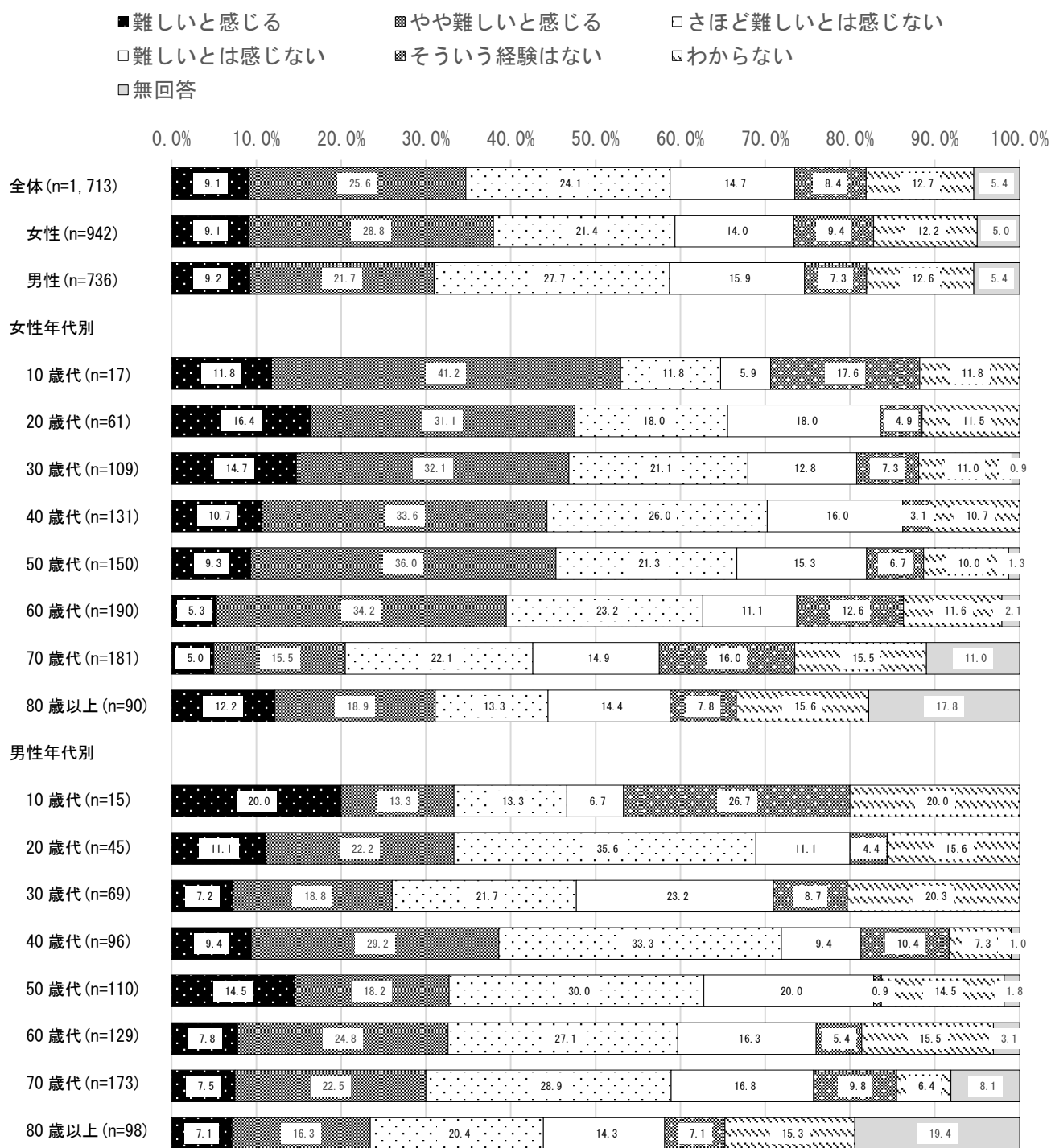


問23 ④希望の職業や働き方を続けること

全体で「やや難しいと感じる」が 25.6%で最も高く、次いで「さほど難しいとは感じない」が 24.1%、「難しいとは感じない」が 14.7%続いており、「難しい」が 34.7%、「難しくない」が 38.8%となっている。

性別での傾向の相違は男性で「さほど難しいとは感じない」が 1 位項目となっており、「難しい」は女性が 7.0 ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると「難しい」は女性が年代の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は 40 歳代が高くなっている。また、70 歳代で「難しい」は男性の方が高くなっている。

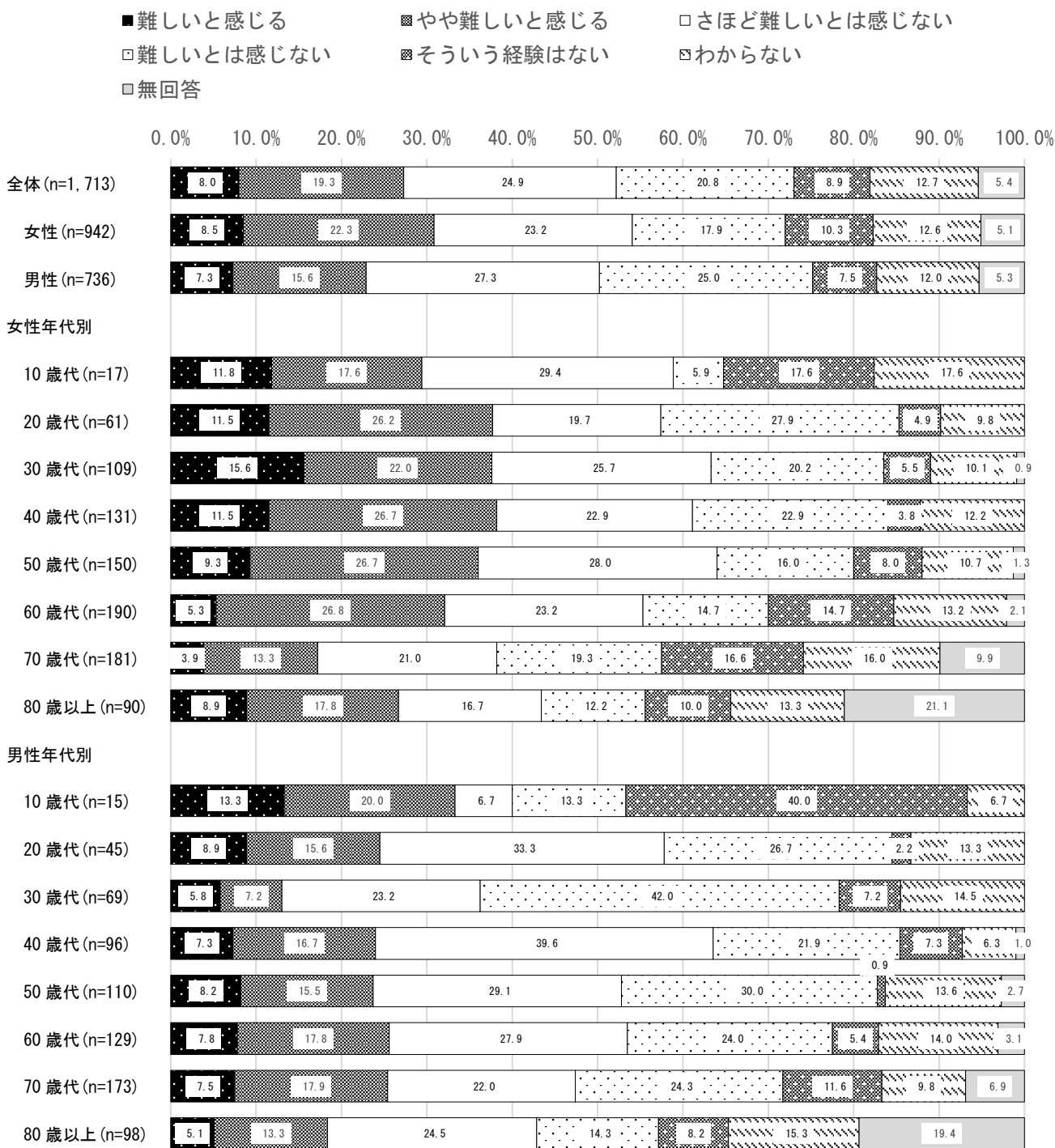


問23 ⑤正社員として働き続けること

全体で「さほど難しいとは感じない」が24.9%で最も高く、次いで「難しいとは感じない」が20.8%、「やや難しいと感じる」が19.3%続いており、「難しい」が27.3%、「難しくない」が45.7%となっている。

性別での傾向の相違は女性で「やや難しいと感じる」が2位項目となっており、「難しい」は女性が7.9ポイント高くなっている。

性別・年齢別で見ると「難しい」は女性が40歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は30歳代から60歳代まで増加し、以降減少している。また、70歳代で「難しい」は男性の方が高くなっている。

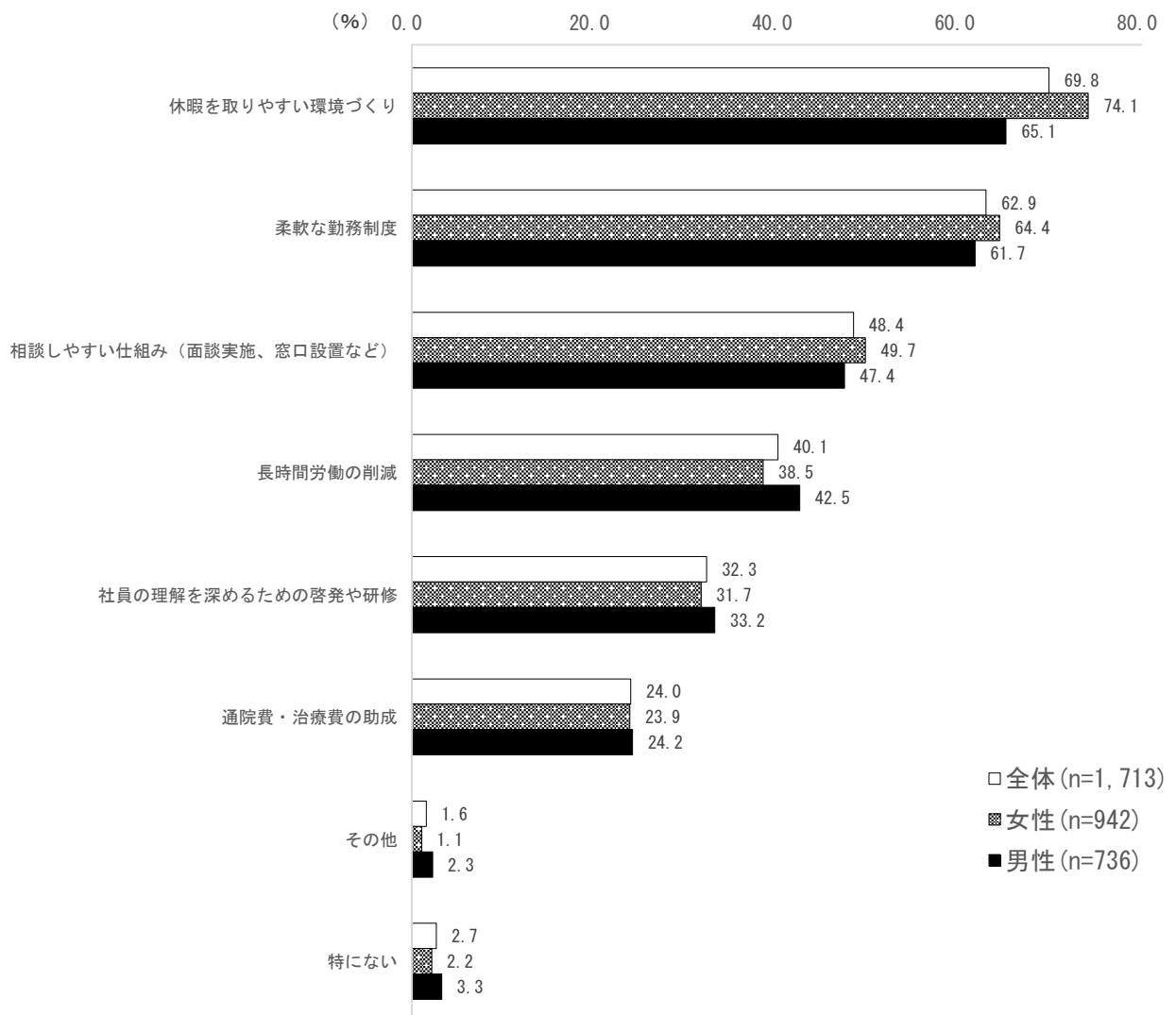


【全員がお答えください】

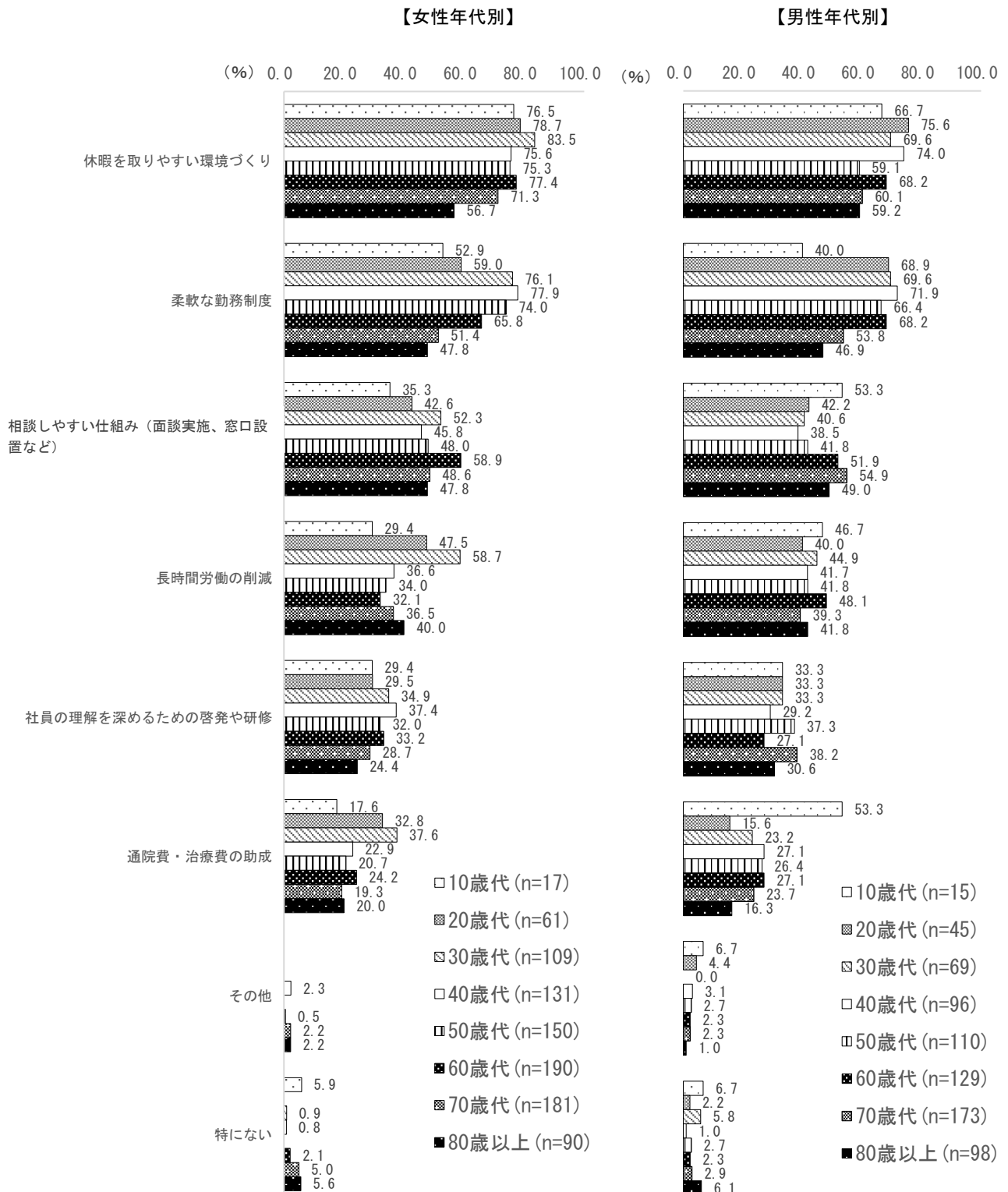
問24 男性や女性の特有の健康課題を抱えている時でも、普段と変わらない能力で仕事をするために、職場に必要なものは何ですか。(〇はいくつでも)

「休暇を取りやすい環境づくり」が69.8%でトップ。

全体で「休暇を取りやすい環境づくり」が69.8%で最も高く、次いで「柔軟な勤務制度」が62.9%、「相談しやすい仕組み（面談実施、窓口設置など）」が48.4%と続いている。  
性別での傾向の相違はみられない。



性別・年齢別で見ると全体で1位項目の「休暇を取りやすい環境づくり」は女性の方が高く、女性は30歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられ、男性は20歳代・40歳代が高くなっている。2位項目の「柔軟な勤務制度」は女男ともに40歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられ、3位項目の「相談しやすい仕組み（面談実施、窓口設置など）」で女性は60歳代、男性は70歳代が高くなっている。



F8 県で進めている「性別にかかわらず、互いを尊重し、誰もが個性と能力を発揮できる佐賀県づくり」の実現のために、ご意見やご要望がありましたら自由にお書きください。

【意見・要望の項目別件数（重複あり）】

種類（カテゴリ）	件数	内容（一部抜粋）
家庭・子育て/家事分担	87	「男性が、女性が…と言ってる時点で性差別。能力のある人が仕事をやればいいし、家事もやりたい人が…」 「もっと子育て支援をしてもらえれば、女性ももっと働きやすくなったり…」 「現在、いろいろな子育て支援があって良い事だと思います。男性も…育児にも協力する方も増えているようです…」等
仕事・職場/働き方	84	「家で待つ子どもや高齢者がいると…管理職や役員などをつとめることが難しい…柔軟な制度が会社にもできれば…」 「私の職場では男性の育児休暇が取得しにくいです…制度はあってもそれを利用できない環境があります。」 「性別にかかわりない仕事場での能力評価。子供ができた時の会社側のバックアップ…」等
公平・差別・偏見/尊重	67	「まずは男女差別をなくす。それが実現すれば、互いを尊重し、誰もが個性と能力を発揮できる社会が出来ると思う。」 「男女差別を無くし、相互扶助の精神で尊重しあえる社会を目指し…」 「…東大合格者進学は、何故男性が多いのか？…小学生のレベルでは、男女能力の差は全くありません…」等
教育/啓発	53	「学校教育での男女平等」 「学校教育で義務教育の段階で性教育を促進した方が…理解が深まる可能性が高まる…」 「今回の問題は、小、中、高からの教育の現場からの取り組みがとても大切…」等
男女共同参画の重要性/推進	33	「このような意識調査があることで、男女共同参画社会づくりというものがあることを知りました。意識改革が広まれば良いと思います。」 「…女性側の意識改革も必要である。そのためには幼少期からの男女平等の教育や男女共同参画などの啓発研修が必要であると感じている。」 「アバンセは…真に共同参画の拠点となるよう切に望みます。」等
地域・自治/ボランティア	30	「…私は、現在、町区の運営委員(7名)…女性に投票したいと思っています。」 「地域の役員(組長、体育・防災委員)が高齢化しており、ムリが目立つ…」 「…人口減少により、地域、自治体が成立しないので、男女が協力し…」等
制度・取組の説明不足/周知不足	29	「互いを尊重することについて、◎具体的にどのようなことか、◎どうすることなのか、などの説明が分かり易くしてもらったら良いと思います。」 「…置かれている環境がちがう人達の集まりが社会なんだということが周知されたら良いと思う。」 「教育の場、民間企業に啓発週間を設けて周知活動を行った方が良いと思います。」等
高齢・退職/世代	31	「80才になり退職後30年経過しており、年と共に考える事がめんどうになっております…」 「…高齢者が車免許返納で地区公民館の活動が活発となっています…補助金等を出資して下さいとありがたい…」 「年金生活者の高齢者への支援…規制々々で高齢者をはみださない支援が必要…」等
その他	78	「適材適所」 「期待しております」 「よくやっているとと思う」等
意見なし/肯定	19	「意見や要望はありませんが、佐賀は住みやすく、良い所、良い県だと思います。お疲れ様です。ありがとうございました。」 「『男女共同参画社会づくりのための県民意識調査』の皆様へ：何かと大変と思いますが、色々まとめで、お願いします。お疲れ様です。ありがとうございます。」 「…今回のアンケートへの回答で、改めて自分自身が考え反省させられる点もありました。逆にありがとうございます。」等

【性別・年齢別の個別回答】

意見内容	性別	年齢
主に高齢者の意識改革(選挙、家庭での役割の認識等)。	男性	10歳代
成長過程で置かれた環境の違いによって男女の差別意識というものは生じると思うので現在の段階から家庭内での夫婦の役割に差別をなくし、物心ついた頃からの男女の違いや平等性についての正しい教育を行うことが必要だと思う。	男性	10歳代
男性だからこうとか、女性だからこうとかじゃなくて、誰でも実力や実績で判断されるようにしてほしい。	男性	10歳代
性別や立場に関係なく、お互いを認め合える関係が大切だと思います。まずは私が小さな気づきからでも相手を尊重する姿勢を広めていきたいです。今回のアンケートで佐賀県が色々な活動をしていることを知りました。もっとたくさんの人に知ってもらえる機会があると良いなと思いました。なかなか簡単にはいかないと思いますが…。一県民として応援しています。頑張ってください。	女性	20歳代
女性が、産休や育休を取ってもキャリアに影響しないようにしてほしい	女性	20歳代
年寄りが多いから、昭和的な考えを捨ててもらうために、会社で講演会を行うべき	女性	20歳代
学校教育で義務教育の段階で性教育を促進した方が男女ともにお互いの精神的、肉体的な変化の理解が深まる可能性が高まると考える。	女性	20歳代
問4の「日常の家事は主にどなたが行なっていますか」の選択肢が「夫、妻、夫婦同じ、他の人」となっていますが、未婚の場合どれを選べばよいかわかりません。自分の両親のどちらが主に家事をしているかという回答になるのですか。両親が同一世帯に属しているとは限りませんが。親が家事をする場合、1人暮らしで自身が家事をする場合でも回答しやすい選択肢を考えていただきたいです(私にとって妻でも夫でもない人が家事を主にするので「他の人」を選びましたが、回答にじっくりきていません)。	女性	20歳代
近年では、男性の育児休暇取得も増えて来ていると聞きます。このような取り組みを続けていただけると共に、女性特有の体調不良を男性も理解して頂き、かつ休憩や休暇、相談しやすい環境整備を、県をあげてして貰えると、女性が働きやすく、女性のキャリアアップが目指されると思います。そうなれば、佐賀県が男女関係なく、生き活きと働けると場所となり、県全体の活性化に繋がると思います。	女性	20歳代
わりと女性がゆうぐうしやすく、平等とは何かを考える時がある。結婚するとき男性側の支たく金など、お金面での世の中そういう風潮が残っているのはおかしいと思う。本当の平等ならばそういう風潮をなくしてほしい。へんだと思う。	男性	20歳代
産休育休を男でも取りやすくしてほしい 何なら義務化してほしい	男性	20歳代
学校教育での男女平等	男性	20歳代
特に子育て支援を強化していく必要があると思う	男性	20歳代
男性向けの“女性理解”の教育は必須だと思います。そうして社会通念に働きかけ続けることで、組織内部の人間に『女性にとって過ごしやすい環境を整えよう、配慮しよう』という価値観を醸成することができれば、何かしら問題が起きたとしても、女性に配慮した言動や制度改革が自然と行われるのではないのでしょうか。末端の細々した問題に働きかけるのではなく、根本の価値観に働き掛ける。つまり、教育は必須。という考えです。	男性	20歳代
行政と民間企業がもっと活発に協力して、お互いの利点を生かしながら県民の生活を支えられるような企画に期待したいです。	男性	20歳代
一人ひとりが自分らしく活躍できる県づくりを進めていただきたいです。よろしくお願いします。	女性	30歳代
「決めつけ」をなくす。お互い話をして本人が何を希望しているのか受け入れる姿勢を持つことが大事だと思う。結婚して育児に専念したい女性もいる。出世欲なく家事が得意な男性もいる。持病でフルタイム勤務が難しい人もいる。考え方や状況はそれぞれ違う。断絶しない。役割を性別で当てはめない。資質で見る。やはり必要なのは意識改革だと思うが、だいぶ価値観も変わってきていると思うので、優秀な人は正当なポストに就くだろうし、時代の変化に合わせて徐々に柔軟な思考に向かっていけばいいと思う。	女性	30歳代
男性も育児に参加しやすいようにしてほしい。産後パパ育休は産後〇〇日以内なら取得可能など日にちが決まっているので使いづらい。休みの間の収入も保障してほしい。女性が育休復帰した後、育児しながら仕事しやすいように、制度をととのえてほしい。時短きんむしても収入がおちないようにしてほしい。子どもが小さいうちは時短きんむしたいけど、収入減して生活できないから時短きんむできない。10%手当だけじゃたりない。	女性	30歳代
もっと子育て支援をしてもらえれば、女性ももっと働きやすくなったり、個性と能力を発揮できたりすると思うし、親から沢山の愛情もらって育つことで、伸び伸びとした子どもが増え、	女性	30歳代

意見内容	性別	年齢
明るい未来にも繋がると思う。→育児休業が1年は短かすぎる。3歳ぐらいまでは親子の時間が必要。→3歳ぐらいまでは、子どもと一緒にいたいと思うけど、一年しか育休がないからという理由で仕事を辞めざるおえなくなる。→2年目からはお金がなくてもいいから、せめて籍は取っておくことができると辞めることなく復帰できる。		
「男だから」「女だから」そんな固定概念がない世の中になることを強く望みます。	女性	30歳代
働く子育て世代の女性が大変!!仕事から帰って、子どものお世話して…1日が本当に忙しいママがたくさんいます。家事は女性が担う部分が多いのが現実。共働きの男女のワークライフバランスって、みんなどうなってるのかなと思うくらいです。調べてみてほしいと思います!!	女性	30歳代
自分のことではないですが、主にSNSなどで流れてくる情報や、色々な人の想いを知って、男女関係なく、みんながもっと柔軟で視野の広い考え方だったら、もっときっと生きやすい世の中になるのかな、と思います(もちろん全てを肯定するのではなく…)。田舎こそ、せまいコミュニティで、昔ながらの考えで生活している人も多いので、佐賀でこういった調査や取り組みが行われているのは、とても良いことだと思います。上記の実現のために、何をしたら…というのは今すぐ思いつきませんが、悩んでる方の助けに少しでもなりますよう、お祈りしております。ありがとうございます。	女性	30歳代
専業主婦の方が、仕事を望んでいるとは限らないと思いますが、仕事復帰したいけれどできないという前提にたった質問が多かったように感じました。	女性	30歳代
家で待つ子どもや高齢者がいると、時間の融通がきかないと管理職や役員などをつとめることが難しい。残業ができなかったり地域役員の集まりが夜からだったり。昼間にあっても仕事を休まなければいけないと給与が減るし。柔軟な制度が会社にもできれば過ごしやすくなると思う。	女性	30歳代
男女関係なく、自分の機嫌で周りを振り回さないこと	女性	30歳代
国が男性の育児休暇を発している中、夫は職場が人手不足でそれは無理と言われました。また、同僚に負担がかかることがわかっているのに言わない、善意で頑張っていることが多いです。給料に反映されたら我慢できるのに善意で乗り切れ精神が嫌です。産後まもない時に1人で3人育児をした時は殺意が湧きました。	女性	30歳代
ここに書いても何も変わらないと思うので回答しません。	女性	30歳代
この設問自体が男女差があります。男性も女性も可能ならいい大学を出て出世すべきだし、男性も女性も経済を支えるべき。本当に男女差があるのは産む時だけです。そういうところから意識を変えられた方がいいかと思います。	女性	30歳代
共働きでは、PTAや幼稚園・保育園の役員などで平日に仕事を休まなければならないことが非常に負担です。自治体が主体となってPTAの見直し、役員などの負担軽減を進めてください。	女性	30歳代
自治会の年配男性の方々は男尊女卑思考が根強く残っています。古い考えや式たりを見直そうとしていますが、大きくやり方を変えるには年配の方たちが会合に来ることができなくなってきたと感じています。あと10年くらいは時間が必要です。	女性	30歳代
「女性の感性で」とかいまだに言われる。そんな感性はない。男性でも心配りができる人はいるし、柔らかい言葉を選べる人もいる。そんな言葉に逃げないでちゃんと周りを見て行動してほしい。	女性	30歳代
私の職場では男性の育児休暇が取得しにくいです。会社の制度上は長期で取得できますが、職場の上司から業務に影響があるので休暇は数日程度にするように言われたそうです。制度はあってもそれを利用できない環境があります。県の方々には育休の取得状況をきちんと把握してほしいと思います。	女性	30歳代
若い人たちの意識と年配の方々の意識の差を感じる。特に50代、60代の人たちは男女で差別意識の強い(残っている)社会や環境で育ってきているので、そういう意識があるのだと思う。現在、「多様性の時代」とよく言われるが、若い人も、年配の人も、柔軟に働くことができるような意識改革、考え方の変化が必要だと思う。そのためにも、社会の制度、法律、世の中の意識など様々な面で、変えていく必要があると感じる。学校の校則にも、まだ根強く残っているものがある。社会の中にもまだまだたくさん残っている。逆に女性の方が優遇されていることもある。しっかりと制度や条例など見直して、改善してほしい。	男性	30歳代
ご苦労様です。今後ともよろしくお願いします。	男性	30歳代
給料が低すぎて生活が大変。	男性	30歳代
前問でも書きましたが、結婚して子供を育てるという前提の是非、是とするのであれば、それなりの金銭的な支援をすべき。将来を担う子供が減少している事実を直視して、男女平等などと言っている場合ではない。	男性	30歳代
女性の中には責任ある立場に着きたくないと考える人も多くいると思います。そうした中で数だけ増やす議論には意味はないと感じます。本人が活躍を希望する時には能力が適切に評価されるべきであり、性別が判断材料になることは絶対にあってはならないと考えます。	男性	30歳代

意見内容	性別	年齢
最近の世間の風潮は男女平等では無く、女性優位にしたいという思惑を感じる。それだと本末転倒。どちらかを優位にするのではなく真の男女平等を目指すのなら応援したいと思っている。現状の流れは到底応援しようとは思えない。	男性	30 歳代
保育所の申請は、自治体に居住していることで優遇されることなく、申請した家族の実態に合わせて佐賀県内で選べるようにしてほしい。育児休業について、佐賀県が県内すべての事業所に1か月以上取得することを義務付けて取得率を100%を達成させてほしい。	男性	30 歳代
双方の考え、実態を確実に把握していくこと。	男性	30 歳代
制度を全く知らなかったので何かしら制度をしるイベントみたいなのがあればと思います	男性	30 歳代
おおまかに調べる、みるのではなく、時間がかかっても良いので、1つ1つの会社・企業へおもむき、1人1人の声を確かめ現実をはあくしてもらえたら…。	無回答	30 歳代
1人1人がきちんと相手の能力、自分の能力を把握し、社会に貢献できるように努められたら、楽する人が多く、なりすましが多。それでは国自体(GNP)が上がらない。問14:日本特有の伝統、しきたりを壊すことなく、有能な人材は男女(老若男女)とわず、能力が伸びていけばいいと思います。はっきり答えられません。問15:インターネットやメディアによる女性議員、知事の中傷が増えてきている様に感じます。違う事に国民の意識が向いているようで残念でたまりません。問18:DVや性暴力を受けている人は人間不信になっている事が多いので、身元がきちんとした人の方がいいと思います。	女性	40 歳代
シングルマザーで、3人の子どもを育てているが、働けば働くほど手当ては減額され、税金は上がっていく。子どもの年齢が上がるほど、かかるお金は増えていく。男性と同じ働き方していても、給料は万単位で低い。なにもかもやる気がでなくなっていく。子どもたちは、男の子だから青、女の子だから赤という固定概念があまりないように見える。スカートに見えるキュロットなど制服にも採用されており、すごくいいなと思いました。男性用トイレにも汚物入れがあると助かるみたいです。男性にはぜひ生理痛体験をしてほしいと思います。	女性	40 歳代
子育て支援の充実が必要だと思います。小児化とはいえ、保育園も待機児童が多いという話を良く聞くので、施設の整備も含め取り組むべき課題のような気がします。成人した子供がおりますが、今の状況で子供を持つということが、現実的ではないと話しておりました。(物価高や賃金格差などがあるため)	女性	40 歳代
女性だからと差別する事のない県にしてほしい。性別にかんげいなく、生活やれんあいが出来るといいなと思う。	女性	40 歳代
子供にとって、父は母のかわりが基本できないので(シングルご家庭は別)、育児のメインを父にするのは難しい。よって、母が育児をしている間のその他家事を父がしてくれるだけで母は助かる。【育児→「母」中心→その間家事できない→「父」家事サポート→「父」仕事がハードすぎると手伝えない→育児休暇をうまくとり入れる、毎日でなくてもよい→時々育児休暇が受け入れられやすい職場→子がいない人(体験のない人)にもわかってもらえるような啓発・研修・周知→「母」少し余裕が出来る→すきま時間で能力発揮→佐賀県活せい化】結局は環境のちがう人からの意見やクレームで、傷つき、働けなくなり、せつかくの能力がうもれてしまう。お互いの言い分を理解し合うことは難しいと考えられるので、せめて、置かれている環境がちがう人達の集まりが社会なんだということが周知されたら良いなと思う。	女性	40 歳代
他県から基山町に15年前に来ましたが、女性への尊重がない、という場面に何度もそう遇します。15年前と今、何も変わっていません。これでは優秀な若者が他県に流れてしまうな、といつも感じます。他県や国外へ行ってももちろんよいのです。しかし、自分が生まれ育った町、又は佐賀がよいところだなあ、と感じてくれるように、30代以上の佐賀にいる大人は、時代を読んで、考えを常に新しくする必要を感じます。ご老人たちが長々と会合で自分の自慢話をしている場合じゃないのです。同時代人として、子ども・若者と積極的に交流して、心身共に若々しく生きていける町(県)にしたいと切望します。また最近、強く感じるのは、公立小学校の教員の質の低下です。保護者の職業で子どもを判断するような発言をする教員、保護者が少しでも意見を言えば、平謝りして事を丸くおさめようとする姿勢、子どもへの尊重がまるでない教員がちらほらいらっちゃって、本当に残念ですし、「大人だから変わらないから仕方ない」と教頭、校長も質の低い教員の指導をされていません(もちろん、すばらしい教員もいらっちゃいます)。[要望]保育園・幼稚園・小学校・中学校教職員の人間性の向上を要望します。(そのための研修…すでにあるかとも思いますが…研修員を税金ではなく、身銭を切ることで、一生けん命に学ばれるのではないのでしょうか。	女性	40 歳代
子供の頃からの意識づけが必要。大人になってから、凝り固まった考えは、なかなか変えれないと感じる。それなら将来活やくする、今の子供達にそういう教育が必要だと思う。“皆平等”が“あたりまえ”になれば、このようなアンケートも不必要になる。そういう世の中になってほしい。	女性	40 歳代
男女関係なく全ての人々が安心して生活できる社会であれば、心にゆとりができ、自分も他人も大切にできるのではないかと思います。男女関係なく、ゆとりがないために能力を発揮する機会を見送るしかないということのない社会になればよいなと思います。	女性	40 歳代

意見内容	性別	年齢
職種も様々ななか、どの職場でどちらの性別が活やくできるのか、自然とそうように考えてしまうこともあるし、性別にかかわらずは大事だけど、性別を考えることも時には大事な場面もある。ただ、負担割合には差がない方が、女性も活やくできる場面が増えていくと思う。どうすればよりよくなるのかを考え、男女平等という言葉にとらわれすぎず、よりよい未来を作っていけるよう、考え歩み寄ることは大切だと思う。そんな取組をしていけば、少しずつでもみんなの意識は変わっていくのではないのでしょうか。	女性	40 歳代
困ってからの制度ではなく、困らないための制度を考えるべきだと思う。情報の発信方法も検討したら良いと思います。	女性	40 歳代
全国的に、女性進出はおそいけど、佐賀県は特におそい様な気がします。男性には男の女性には女のやり方とか考え方とかちがうけど。女性は、子育て、家事は、まだまだ離れられません。子育てで、もう少し、まだまだ改善の余地はあると思います。幼児、児童、さらには中高生までそれぞれにまだまだ公的にやれる事があると思いますヨ。家事については、男の心一つでなんとかなると思います。	女性	40 歳代
家庭の外で働くとなると、どうしてもパートナーの理解と協力が必要となります。今の若い男性は家庭的な方が増え、家事や育児に対しても協力的に自ら動いてくれる方が多いかもしれませんが、少し年をとられた男性になると、その方が育ってきた家庭環境もあるのか、非協力的な方が多いように思います。そういう方々の意識を変えていかないと、とても性別にかかわらず能力を発揮するために働くことは無理だと感じます。家庭内で性別にかかわらず働くことが、社会でも同じようにつながっていくのではないかと思います。	女性	40 歳代
職場に不満があり、行政に相談し調査が入ると上司は犯人探しを行う。特に家族経営など小さな世界では、完全にハラスメントをなくすのは難しいと思います。一般の者への調査と共に、上に立つ方の意識調査、研修を行政で行っていただければ、少しでも意識がかわっていくのかなと思います。	女性	40 歳代
母子家庭と父子家庭は、同じくらいサポートは得られているのでしょうか？母子・父子家庭に不足しがちなところ (needs が違う) をサポートできる社会資源があればと思います。病児保育を充実させてほしい→子どもが病気で働ける環境を同じ職種やエリア別などで作ってほしい。産后ケアが、受ける側の needs と離反している。もっと充実させてほしい。受けた方がよい人ほど拒否的、受けることで、お金やサービスが得られるシステムを作れば、開院している産婦人科の施設も人材も活かせるのでは。保育園にあづけるまでの 3 ヶ月をサポートできるシステムづくり。住みたい、育てたい県日本一を目指すためには必要だと思います。	女性	40 歳代
佐賀県では、なかなか難しいと思います。特に年配男性が今だに男尊女卑的な考えをもっていたり、田舎ならではの固定概念など、男性の考えを変えていくことが課題だと思います。	女性	40 歳代
メンバー構成の男女比率を同じにすべき	女性	40 歳代
男女とも働き過ぎだと思うので、特に子育て中の場合の男性の育休や時短勤務、フレックスタイム制の導入をまず行政が行い、企業にも推進することが必要。そうならないと女性だけが全ての負担を負う現実が変わることはない。また子供が朝から児童クラブに預けられるなどの負担を負う事になる。	女性	40 歳代
性別にかかわらず、は難しいと思う 子育て支援や、育児支援などと言うが、施設側は補助金をもらうために必死で環境を整えて、親があまり子どもを見ない世の中になっている気がする。誰でも通園制度など特に必要ないと感じる。子どもを見れない親が増えて、仕事をすれば子どもを見ないでいい、と、いう考えの親は少なくとも、一定数いる。子育てに向かない親もいるだろうが、3 歳までは上手く保育園などを利用しながら、余裕のある子育てをしてこそ社会は上手くいくのではないだろうかと考えます。性別に関わりなく、互いを尊重できるのは、全て心とお金の余裕のある人だけだと思うし、佐賀県はもっと、何かに特化した政策をし、魅力ある県として最先端に行くべきだとおもう。個性や能力が発揮できるのは、会社などの色々な環境が整わなければできない事もある。	女性	40 歳代
自分と違う性別を尊重出来るかどうかは個人差が激しいので、若い人はともかくとしてある程度年配の方の意識改革が必要。	女性	40 歳代
育児休暇制度も、男性が取りやすくなってきたが、まだまだ職場の環境がついてきていない。本人でなく、会社側から促してほしい。本人からはいいづらい環境がまだまだある。これでは、子育ての大変さがわからない事で、母親に負担増、少子化にも繋がる。	女性	40 歳代
男性への啓発活動について考えていただきたい。パンフレットを作っても男性が見なければ、意味がないと思う。直接男性へ訴える機会が必要では。	女性	40 歳代
1人1人がきちんと相手の能力、自分の能力を理解し、社会に貢献できるように。ラクする人が増えている。なりすまししても役場関連、税務関係迷惑かけるだけ	女性	40 歳代
こういう調査をされていることを初めて知りました。もっと調査が行われていて意見が反映していることを知ることが出来れば会社や、男女ともに協力し合える意識が広がるのではないかと思います	女性	40 歳代
多様性 個性 などにとらわれすぎで 逆に生きづらい世の中にならないようにしてほしい	女性	40 歳代

意見内容	性別	年齢
生まれ育ちが県外で、首都圏を含むいくつかの県で生活してきたので、佐賀でしか暮らしたことのない人と話すと考え方が古い、狭いと思うことがある。他方で、狭い地域で暮らす人の素朴さや人情の良さを感じることもある。佐賀の良さは残して欲しいと思っている。仕事で関わる50代以上の男性は、気に入らなければ怒鳴って言うことを聞かせようとする人間が多い。特に唐津。そういう人間の啓蒙は切り捨てて、未来を担う若者や適応可能な人間に教育をしてほしい。	女性	40歳代
年齢が高い人たちのほうが性別へのこだわりが強く感じる。親世代の意識改革が必要	女性	40歳代
田舎は偏見が強い	女性	40歳代
性差を認め役割分担する事でお互いを尊重し少子化対策もできるものだと思います 出産は女性しかできないものですから、なんでも男女同じ扱いを目指せば、歪みが出るものだと思います	女性	40歳代
田舎の地域の婦人会などに強制的に加入させられるような事がなくなってほしい	女性	40歳代
保育園のお迎えなど、男性の終業時間がはやくなるとできる事が増える。長時間働く事が良しとされる社会がおかしい事だと自治体から実践して変えて欲しい。子育て中親への制度の支援の拡充。	女性	40歳代
竹下パラダイスに宣伝してもらったらいいのでは？	女性	40歳代
年配の方達の意識変革 年配の方達はどうしてもまだ男性有利で女性を下に見ている感が多いただ、正直彼らの気持ちを変えることはできないのが現状 それに対して、若い世代に関しては、女性有利になりつつあるのも現状	女性	40歳代
昔からの固執した考えはなかなか変わることはないと思います。男性だから女性だからという言葉は、知らないうちに刷り込みされているような気がします。女性は結婚や子どもが出来ることで、仕事をお休みしたり、辞職せざるを得ないのが今の社会の現状です。復帰するにもプランクなどから、希望の職につけていない方も多いのではないのでしょうか。企業も大手は男性の育児休暇などを認めていますが、中小企業に関しては理解をされている所は少ないと感じます。私の周りでも子どもを作らない選択をする方が増えてきました。人口が減っていくなどの更なる問題も増えていきそうです。打開策が見つかることを祈ってます。	女性	40歳代
お互いを知る前に自分を知ること(内省)の取り組みが土台になるのではないかと思う。「こうあるべき」にはそう思う経験があるので。知識だけではカバーできない部分ではないでしょうか？	女性	40歳代
女性だから男性だからをなくし、性別関係なくそれぞれの能力をみるべき。足りない部分は周りで補えば良い。	女性	40歳代
男女参画はとても大切なことだと思うが、両親ともに長時間労働をすることにより、子どもの保育時間が長時間になりがちだったり、子どもの負担を感じる。両親ともに短時間労働できたり、両親のどちらか(母親に限らない、フランスのように父親側の職場近くの保育園に託児しなきゃならない等、母親側に負担が偏らないよう工夫は必要と思う)が、子どもが小学校卒業くらいまでは労働を調整できるような環境になるといいと思う。キャリアの維持のために望んで共働きはいいが、現実には、経済的理由で、望まず長時間労働をしている母親(父親も)が多いということ、重く受け止めて欲しい。	女性	40歳代
シングルマザーの大変さにばかり焦点が当たり、自分はシングルファザーで4人の子育てをしているが、女性ばかり優遇されている様で男女の差を感じる。男性側には子育てに係る何の情報も来ないと感じる。シングルファザーにとっても生きにくい。そういう人は女性に比べると少ないのだろうが、男性側にも有用な情報を提供してほしい。(情報を得る場もない)	男性	40歳代
性別ではなく、女性に対する制度を厚くすることが必要である。全ての始まりは女性であると大人たちが恥じることなく大きな声で言える社会にすればよいと思う。	男性	40歳代
上に立つ人物の考え方が変わらなければ、結局は一緒だと思う(特に会社)。差別と区別を一緒にしてはいけない。区別は必要。	男性	40歳代
佐賀県の場合、まだ「それ以前の問題」というところがまだあるのではないかと思う。今の時代に合ったような企業の経営者が育ったり寄りついたりしていないことが、一番悔やまれるような気がしてなりません。やはり、今がどういう時代なのか忘れられる時代になっているのではないだろうか…とさえ考えてしまいます。もう一度、今の時代にあった経営者や個人事業主などをどう育てていくべきなのかから考えてほしいと思います。それが「佐賀県の魅力度や幸福度を上げていくため」の目標につなげていくための課題だと思いたいし、お里が知れるような常識や風習は根本的に見直していただきたい!!	男性	40歳代
アンケート上、仕方ないと思いますが、『理想と考える仕事の分担』は個人的には主に夫、妻と単純に分けるのではなく、お互いにできること(得意なこと)で分担すれば良いと考えます。そういった選びづらい項目がいくつかありました。男性、女性がそれぞれ平等、ということではなく、多様な考えでお互いに協力しながら発展していける社会になればと思います。	男性	40歳代

意見内容	性別	年齢
県内ぜんいきですが、地域の除草作業、清掃作業にいたし方なく出席できない場合、その過程だけ別日にしてもらおうとかの対策ではなく罰金制にしている。特に男性が居ない家庭は地域の人からの言われ方が酷くなる傾向。部落単位でみるとまだまだだと思われることも多い。職場でも50代半ばからは奥さんがいるならお前は行かなくていいだろうとか平気で言う人もまだまだ多く、田舎になればなるほどそうゆう昔ながらの考えから変えようとしなくていい人が多く存在しているのが現状だと思います。	男性	40歳代
国と企業が連携した仕組みが必要	男性	40歳代
私は管理職ですが、私の周りでは、女性が管理職に就きたい方が少ない。無理に下駄を履かせて女性管理職〇〇%目標など、無理に数値目標すべきではないと思う。	男性	40歳代
女性だからとかではなく、やりたい事を男女関係無くやったらいいと思う。しかしながら、女性は出産を望めば、仕事や役割の第一線から退かないと行けない時期がある。社会的に少子高齢化が進んでおり、後世の確保は必須であり、女性活躍社会はこの問題と相反する結果が予想される。また、男性の方が力が強かったり、女性の方が気配りができる人が多かったりと、いろいろな特性がある中で自身がやりたい事をやりたいようにやればいい。ある程度男女の差はあってもしょうがない事だと思う。女性活躍を推進するなら子育ての支援(家族、行政)が必要と感じている。子育てが過ぎれば、仕事であったり、趣味であったり活躍することは可能と思います。男性もしかり。	男性	40歳代
・男性と女性の違いを踏まえた上で、個人の意志や能力に応じた役割を社会の中で果たせたらよいと考えます。そうした社会になるよう佐賀県には取り組んでもらいたいです。	男性	40歳代
昭和、平成、令和と昔に比べて男女の差別は無くなりつつあると思います、今後も国や県の方針をしっかりと示し、全ての人が活躍できる世界を実現できればと思います	男性	40歳代
職場の環境整備が必要	男性	40歳代
所詮、女性有利になっていくだけ	男性	40歳代
昭和の考え方から早急に脱却すべき。極論を言えば、時代にそぐわない思考は封殺してもいいと思う。発言力が強い人なら尚更。	男性	40歳代
育休など本人に対する制度は整備されていると思うが、職場で残され欠員をフォローする社員や職員に対する制度についてはあまり議論されていないと感じる。臨時の社員や職員で補填することはあるが、それだけでは十分ではない。職場の理解や助け合いという都合の良い言葉が、結果的に他の社員にのしかかっている。業務負担が増えることは避けられないと思うし、本人が育休を取りやすくすることは必要だと思うので、その分フォローする側に手当を出す制度を整備するなどすれば、理解は得やすいし休暇を取る側の心理的負担も軽くなると思う。綺麗事ではなく、目に見える形での本当の意味での男女共同参画を実現できればと思っている。	男性	40歳代
適材適所	男性	40歳代
全てを平等に扱えば、能力の劣る人の不利益になると思う。同一労働であれば当然性差はでるのが当たり前。	男性	40歳代
意見や要望はありませんが、佐賀は住みやすく、良い所、良い県だと思います。お疲れ様です。ありがとうございました。	女性	50歳代
子育て中の親が働きすぎだと思う。保育園児が小学生よりも長く園にいることを不思議に思わないこと自体、世の中おかしい気がする。人手不足の中でも職を持たない人が多いので、皆が働きやすい環境を整え、健康でやる気のある人に仕事に就いてもらいたい。そうすれば子育て世代や介護世代も仕事と両立しやすくなると思う。子どもや老人を施設に任せっ放し、預けっ放しという事態を改善すべき。	女性	50歳代
子供の頃から、男女に関係なく、炊事・清掃・洗濯については学校や家庭でもっと教えていくべきだと思う。勉強・運動も大切ですが、人が生きていく上で、日常生活をスムーズに運ぶことが重要だと思う。あと金銭管理や運用についても、もっと積極的に教えて欲しい。男女の性差があり、女性にしかできない妊娠と出産の期間と子供がある程度(3~5才)になるまでは、父親か母親がきちんと休んで育児ができるような環境の整備がなされるべきだと思う。安心して出産と子育てのできる環境とは(金銭面、メンタル・体力)多岐に渡っていると思いますが、子供が将来の日本を担ってってくれるものなので大切なことだと思います。	女性	50歳代
知事の交代してほしい。	女性	50歳代
50代いや60代以上の男性は特に古い考えを持ち続けている人が多く、どこまでがパワハラ、セクハラかわからない人も多い。若い人達は男女の考えは平等で教育現場での指導がいいと思う。地域で60代以上の方への社会づくりの話や、男女平等を学べる場があるといいと思う。	女性	50歳代
私のように、病気で仕事ができず、生活に困っているような人に、支援をして頂きたいです。20年以上前、父親のDVで、今の所に引っ越してきましたが、出来たら、別の所への引っ越しを望んでいます。しかし、仕事をしていない為、お金もなく、引っ越し出来ません。高齢の母の年金で生活しています。母にこれ以上、めいわくはかけられないので、金銭面の支援をお願い	女性	50歳代

意見内容	性別	年齢
いしたいし、新しい住居についても、支援をお願いしたいです。学力、性別、年齢に関係なく、本当に互いに尊重し、平等で、安定した生活が出来る佐賀県づくりを望みます。		
佐賀県の女性活躍推進課なのに、何故長崎の(一社)長崎交流センターが行うのですか?!何故他県へ?!	女性	50歳代
軽度の身体障害者でも働ける職場を増やしたり、シングルマザーでも住める県営団地など増やしたり、子供手当など給付金をふやしたりしてほしい。	女性	50歳代
夫婦のあり方もいろんなかたちがあってよいと思う。妻が経済力もあり、外で働く方がよいならそれで夫が家庭のことをするのもあり。また、夫の経済力だけでもよしとするなら妻の専業主婦もありだと思ふ。(働いてる女性がよい、家にいるのは…というのも違うと思う)。子ども達世代には、やる・やらないは別として、家庭のことはひととおり料理、掃除、洗濯などできるようにはなっていてほしい。男性女性とも。性別にかかわらず、それぞれの立場で、みんながあたりかき見守り、認めあえる佐賀県であってほしい。	女性	50歳代
私たち世帯の上の年齢の方々は性別にかかわらず説明しても、なかなか理解がむずかしい。今の子育て世帯よりも高令の方々の理解が必要となる。	女性	50歳代
問4ですが、親と同居なので主に「夫」「妻」となっているので、夫=父、妻=母と考えて回答しました。子どもや高齢者がいないを同じくくりにするのも現状に合っていないのではないかと思います。	女性	50歳代
小学校や中学校等の教育現場で、男女平等の考えをこれからも子供達へ教えてもらえたらと思います。これからの世代の子がそういう教育を受けていたら、変わっていくと思います。私は夫の実家で女だから、嫁だからという理由で、いろんなことを言われ、されてきました。そのことで、いろんなことをあきらめざるをえませんでした。佐賀の田舎では、まだまだそういう考えの人がたくさんおられます。私の子供やその子供達が性別にかかわらず、個性と能力を発揮できる、そういう世の中に変わっていくのを期待しています。	女性	50歳代
今回の問題は、小、中、高からの教育の現場からの取り組みがとても大切だと感じています。学校と家庭が一緒になってとりくめる体制を作ってくれる空気感を、佐賀県ももっと考えてほしいと、節に願います。	女性	50歳代
佐賀は昔から男性優位の地域でしたが、最近は若い方を中心に男女が協力し合って、仕事や家庭生活を営む風土が築かれつつあると思う。優しい男性が増えてきていると思うが、まだまだ年輩の男性の中には、女性を所有物のように扱う人も少なくない。その年代の人たちに時代が変わった事を伝える必要があると思う。元々、佐賀の男性も悪い人はいないはずだが、親やその前の代からそのように教育されてきたのだから仕方がないと思うので、やはり教育が必要だと思う。女性もその立場に甘える事なく、男性が頑張ってくれて助けられてきたこともあると思うので、優しさに甘えず、強くしなやかに生きる事が求められると思う。	女性	50歳代
こういった事をやっている事を知らなかった。もっと興味を持って、国や県、市町村が地元のために何をしているのかを知らなければ、と思いました。	女性	50歳代
選択的夫婦別姓が認められておらず、大多数の女性が結婚後男性の姓に変わるという時点で男女格差が生じています。別姓を強制しているわけではなく、選択することすら認められない現状をまず変えないと女性の置かれている立場は変わりません。これは法律改正の問題なので、早急に改正されることを願います。妊娠、出産、産後の育児は女性にとって肉体的・精神的に非常にエネルギーを消耗するため、産休・育休を取得することは権利ではありますが、それを支える為の社会の仕組み(補償、手当等)がまだまだ不十分です。ただ小規模の事業所にとっては財源がかなり厳しい部分があるので、そこに国や県からの援助があれば事業所にも労働者にも子供を産み育てやすい環境となり、少子化対策の一つになると考えます。そういった事業所が増えれば佐賀県で働いて子供を産み育てたいと希望する人も増え、定住、子供の割合の増加、ひいては人口減少に歯止めをかけられるのではないのでしょうか。人が増えればそこに住む人達の中から面白いアイデアや魅力ある企画が起こり、人が人を呼ぶ活気ある街に自然となっていくのでは?と期待を込めて。	女性	50歳代
住みよい佐賀であることを願っています。お疲れさまです。	女性	50歳代
☆子育て支援の充実。☆女性の就業支援の充実。他県に比べるとまだまだなので、もっと女性も社会に出れるような環境をつくってほしい。	女性	50歳代
男女平等については、意識が広がってきた一方で、地域の行事や家庭内の役割分担にはまだ古い価値観が残っていると感じています。性別によって無意識に任される仕事や責任が生じないよう、周囲の理解や仕組みづくりを行政が後押ししていただけるとありがたいです。男女どちらかに負担が偏るのではなく、お互いの状況を尊重し合う地域社会になることを願っています。	女性	50歳代
私は佐賀生まれ佐賀育ちで佐賀が地元が大好きです。「…佐賀県づくり」がんばって下さい。全市町郡協力して佐賀を平和に守ってほしいです。	女性	50歳代
男性が、女性が…と言ってる時点で性差別。能力のある人が仕事をやればよいし、家事もやりたい人がやればよい。ただ育事に関しては、子どもが小さい時は子どもは母親を求める傾向にあるので、母親と過せるようにしてほしい。そのためには働きやすい環境を作るのではなく、休みやすい環境を作ること!今、言われている子育て支援には、ものすごく違和感を感じる。	女性	50歳代

意見内容	性別	年齢
私は人口減少に対してとても危機感をいただいています。特に地方の過疎化も問題だと思います。近年、核家族化が進み、物価高もあり、子どもを産み、育てるという事が大変な時代だと思います。子供が減る事は、将来親を見る事も大変になります。子育ての孤立、介護生活の孤立、自分から人に頼れない人も多いと思います。生きづらさを抱えている人は、表面化していないだけで、大勢いると思います。人口減少による外国人労働者は、その時の労働力にはなるでしょうが、その人たちは日本で稼ぎ、海外にお金が流出して行き、日本国内にお金が流通しない悪循環だと思います。子育て特区として、里親制度の改正をして、定年された方や老人世帯、一人世帯などの方に、里親として活躍してもらうなどすれば使命感や生きがいにつながると思います。もちろん、県や自治体、国のフォローが必要ですが、世界中には、親のいない子供たちがたくさんいます。小さいうちに日本の子どもとして受け入れ、日本人として日本人が育てる。海外からの養子を個人で行うのではなく国や県や自治体がバックアップするといったのではないかと思います。	女性	50 歳代
県がそんな取り組みをしている事すら知りませんでした。佐賀県は何でも取り組みが遅いようです。この取り組みで、佐賀県が変わり、少しでも生きやすくなれば良いですね。佐賀県は賃金が低いので、結婚もむずかしく、ましてや、子供を産んで育てていくなんで経済的に苦しいですが、人口が減少している問題をなんとかするのが先ではないのでしょうか？	女性	50 歳代
このような意識調査があることで、男女共同参画社会づくりというものがあることを知りました。意識改革が広まれば良いと思います。	女性	50 歳代
育児休暇の間はよかったが、職場復帰してからのの方が大変でした。時短勤務やファミリーサポート体制、病児保育などの体制が整っていかないと、女性が仕事を継続していくことは難しいと思う。	女性	50 歳代
佐賀県は賃金が安すぎる。ボーナスも安すぎる。現在、犯罪が多いので夜勤勤務後は即帰宅できる様にしてほしい。○佐賀県の道路、町全体を明るくソーラー点灯設置し、犯罪防止してほしい(通路整備)。○佐賀県は長崎、福岡から 1 時間で行ける。若い人に含んでもらうには大型ストアや新幹線フル化、安く家を建てるとアピール、宣伝。通勤可能な様にする事も大事と考えます。JR 料安く。若い人を呼び戻せる様、働く環境作り。賃金・休日の充実。	女性	50 歳代
社会に出てから個人個人の意識を変えるのは難しい。それぞれの家庭に任せると偏るので、平等に受けられる公教育のレベルを上げるべき。子供の頃からの教育が大事だと思う。大人になって制度だけ充実させても、マインドが変わらない限り無理だと思う。	女性	50 歳代
年齢が高い層は性差別があるのは当たり前と思ってある方が多いと思うので、子どものうちに教えていくことが大事だと思います。	女性	50 歳代
現在の 20 代～30 代の男性はやや平等性が感じるが、50 代以上は男女差別を感じる。子育てが終わり女性がすべきという古い考えがある家庭も多い。まだまだ男性よりも女性の負担が多いと思う為、年代別のさまざまな負担割合等を普段購読している新聞に記載してほしい。	女性	50 歳代
この調査は回答が極端過ぎて、選択できないものが多い。あまりにも女性が女性がと言っているあたりが偏見を感じる。	女性	50 歳代
言っても、変わらないから、書きません。	女性	50 歳代
自分たちで意識して生活する	女性	50 歳代
会社でも、そういう研修が得ればと思う。また地域行事でも、女性は炊き出しや掃除など何となく決まっているので、区長や町内の会長にそういう研修を受けて欲しい。	女性	50 歳代
男女の役割に関して、高齢者の古い考えを変えるような啓発はできないのでしょうか？	女性	50 歳代
男性の育休取得も、実際とる人が増えると違和感を感じなくなってきている。仕事も家のことも男女関係ないことを当たり前にするための教育に力を入れて欲しい	女性	50 歳代
子どもや親が病気になった時に女性が仕事を休んで病院に連れて行かなければならないので平等ではないと思いで改善してほしいです	女性	50 歳代
佐賀県に移住してきたばかりなのでどのような活動をしているのかまだ全くわかりませんが、先日図書館に行った際にアバンセの掲示物を目にしたり、このようなアンケートをされていたりして、大変力を入れていることはわかりました。	女性	50 歳代
女性特有の体調の変化を踏まえた、性差別を無くした対応	女性	50 歳代
親を見て子供は育ちます！ だからこそ親世代が変わらないと子供達を変えれないと思います。	女性	50 歳代
現在、職場には、育児のため、多くの時短や休みを取得している人がいます。そのため、私達は、疲弊しています。しかし、皆、内心不満でも、口にしないです。当事者だけでなく、負担を受けている周囲へのフォローを含めて、考えてもらいたい。	女性	50 歳代
女性は体調の変化がもろに精神活動へ影響することが多いため、勤務形態を緩やかにする仕組みは必要であると思うし、ストレスは客観的には判断しづらいので、過度に尊重しすぎると業務に滞りが生じます。やはり勤務形態が柔軟になることが望ましいと思っています。ただ 1 つ重	女性	50 歳代

意見内容	性別	年齢
要な事は男女参画の重要ですが、子供に愛情をきちんと伝えるためには母親の存在が重要です。そこは男性が補う事は無理だと考えています。		
お願い:氏名の漢字に誤りがありました。選挙人名簿等からの抽出ならば、確実な抽出をして下さい。	男性	50 歳代
まずは男女差別をなくす。それが実現すれば、互いを尊重し、誰もが個性と能力を発揮できる社会が出来ると思う。	男性	50 歳代
人として平等であれば、男であっても女であっても関係ないと思う(このアンケートでの質問では一部に悪意を感じたところがあったが…)。そもそも男性と女性は体のつくりが違い、特性も異なる部分もあるため、そこにフォーカスするのではなく、人間というくくりで考えていかないと、いつまでたっても『男女平等』と言わないといけなような気がする。	男性	50 歳代
一部の自己主張の強い方々の意見も大切だとは思いますが、性別に関係なくサイレントマジョリティの意見にも耳を傾けることが重要だと思います。性別に関係なく、自己研鑽を積む方々が能力を発揮すれば良いと思います。なにごとにも諦めないで頑張りたいと思います。	男性	50 歳代
県下では、当たり前前に男女の役割が決まっている。まずはこの辺りからの啓発からかなと思う。その後、制度をどこまで固めるか?の議論かと考えます。	男性	50 歳代
何でも相談できる窓口を1つ。	男性	50 歳代
男女の概念をなくし、“人”として敬意をもって接するという教育がちゃんとできていて、“気遣い”を大切にすることが出来ていなければ、そもそも男女にかかわらず差別や偏見はなくならないと思う。	男性	50 歳代
特にありません。こういうアンケートを実施している時点で、佐賀県は真面目に男女の格差の是正に真摯に取り組んでいるなあと感じました。あと問17のDVや性暴力の相談窓口の存在は僕は全然知らなかったの、その点は反省すべき事だと思いましたが、自治体の方もそういう存在が有る事をもっとマスメディアを使って広く一般県民に知らせるべきだと思います。	男性	50 歳代
発揮出来る為には立場による意識改革と相互理解が不可欠です。	男性	50 歳代
職種によっても色々な見解の違いがあると思います。	男性	50 歳代
相談窓口の充実。前職では指摘してますが高田電機(有)、上司にパワハラ研修と経営者に経営学を勉強しなさいと退職時に苦言を申し入れしています。八原内科と連携してメンタルヘルス対策する事も提言しました。(2025年3月31日退職)日本心理学会認定心理士資格持ち、帝京大心理学科卒です。	男性	50 歳代
このアンケートの意味が理解できない。アンケート内容が難しい。なんのためにしているのか分からない。なにに役立つかわからない。このアンケートは、女性の立場の内容となっていると思われた。女性が有利にするためのアンケートですか?女性、男性の特有の性があるので、平等はそもそも無理と思う。お互いが理解し合い、感謝の気持ちをもって接すれば、それでいいと思う。	男性	50 歳代
性別に関わらず、如何なる役職、地位に就きたいと思うものが担うべきであり、女性が増えた方がいいとか問15のような協議をすべきではないと考えます	男性	50 歳代
家族(特に子どもや老人)の急な体調不良などで、やむを得ず早退や休暇を取らないといけなくなったときなどに柔軟に対応するためにも、職場で働く人の人数を少しだけ増やしてもらえたら、仕事に復帰したときの負担も減り仕事に集中出来るような気がします。	男性	50 歳代
職場ではなく、会社の組織や考え方。会議だったり、会社の行事に有給が重なったとき、本当に有休を優先できるのか?まだまだ環境下と会社側の経営者側の理解がないと思う	男性	50 歳代
教育の場、民間企業に啓発週間を設けて周知活動を行った方が良いと思います。	男性	50 歳代
環境面では整備されて感謝します。女性自身にも、逃げず自ら対応する(責任持って対応する)姿勢が不可欠と考えます。	男性	50 歳代
安易に女性を優遇する対応は、かえって女性を差別することにつながると思います。なお、10日ほど佐賀を離れているうちに依頼が届きましたが、すでに締め切りを過ぎていました。回答できませんので、回答期限は2週間以上先に設定してください。	男性	50 歳代
農業界では重労働からの解放の為、機械の導入が進んでいますが、女性でも気軽に利用できる農業機械の設計を強く期待します。そうです農機メーカーの設計に女性関わっていないから男性だけで設計していたら女性が扱いにくい機械になってしまいますよね。	男性	50 歳代
質問が多すぎて疲れました	男性	50 歳代
男性女性関係なくそれぞれの方が自身でできることを楽しんで仕事をしたり家事育児をやっていれば何も問題ないと思います。	男性	50 歳代
教育の充実	男性	50 歳代
よくやっていると	男性	50 歳代

意見内容	性別	年齢
女性管理職の登用を○%などと目標数値を示しているがこういうことはやめた方がよい。実力や実績がないにも関わらず、この数値目標を達成するために女性が昇進すること多いと感じている。特に公的機関に多い 審議会などの委員登用に関しても同じようなことが言えると思う 男女の比率をもって男女共同参画の進展具合を表すようなことはやめてほしいと思う 比率はあくまでも結果であって目標値を示していること自体がおかしい また、男性の意識改革も当然必要だが、女性側の意識改革も必要である そのためには幼少期からの男女平等の教育や男女共同参画などの啓発研修が必要であると感じている	男性	50 歳代
男女平等な世の中になるにはなかなか難しい事だとは思いますが、そうなる時代がくればもっと生きやすい、そして平和な世の中になるのではないかと思います。思いやりを持って生活する事で、性別に関係なく互いを尊重して生きる事ができるのではないかなと思って過ごしています。	女性	60 歳代
男性と女性は、生物学的な差がある。そのちがいを尊重、自らも認めていくことが必要。しかし男女の差なくできることは、実力で勝負できるようになることが理想。男性の方が女性を性の対象として公私混同する傾向が強いと感じる。その意識改革は、教育からだと思う。	女性	60 歳代
九州特有？なのかよくわからないけど、男尊女卑の傾向が根強くみられる。男だから、女だから、こうあるべきという呪いの様な言葉に縛りつけられているように思うので、そこを改善しないといけないと思います。	女性	60 歳代
高齢の母の世話(介護)は最近「娘」が面倒見ている所が多いと聞きます！私も3年前母(88才)と2人引っ越して2人暮らしです(暴言兄夫婦から言われて)。病院通院の付き添いや入院時のキーパーソン(主に責任者)、市役所・病院などの書類手続や書類整理(家事、洗たく、食事準備・片付け、買物、そうじなどなど)、母も一年前に大腸癌の手術して人工肛門造設、訪問看護とデイケア週2回ずつ行ってます。今は、元気にしてますが少しずつ物忘れや足腰が弱ってきてます。私も両膝手術して他にもいろいろと持病もあって、通院治療中です。車の運転(視力が悪い)できないのでバスか電車で移動してますが、最近タクシーの運転手からいろいろと文句言われてタクシー乗りたくありません。今も1ヶ月の15日ぐらい仕事休んで(平日休み、土・日・祝日仕事)、家事、母の世話などで休むひまがありません。母と食事内容も全くちがうのでけんかばかり。佐賀県は「糖尿病の患者が日本一」とききました。みんな甘いものが大好きです。私は15年ぐらい糖質制限してましたが、家族や周囲の人の理解がなく文句ばかり言われてます。仕事ができるのは「健康第一」です。佐賀県民がもっと「健康体」になるように、食育や栄養、介護、認知症の理解、あと「お金の使い方」などの勉強会や講演などを(終活なども)してもらいたい。今は、主に医師や看護師、栄養士などに相談してます。病院の先生から「教育は身を助ける」いつか役に立つ時があるので読書や資格の勉強をするように言われて、いろいろと資格とりました!!食育指導士や介護食・幼児食アドバイザー、薬膳アドバイザー、食育実践プランナー、スポーツ栄養プランナー、終活アドバイザー、FPなど、今は、高齢者傾聴アドバイザー(認知症サポーターで月1回会議(市役所))の勉強してます!(私のストレス発散!!)そろそろ収入になる仕事したいです!!	女性	60 歳代
現在、いろいろな子育て支援があつて良い事だと思います。男性も、感心を持って育児にも協力する方も増えているようです。本当に必要な方の児童クラブの利用はよいと思いますが、大人の事ばかり考えてあるようですが、子供たちの事も考える必要もあるかと思います。必要でない時間まであずけたり…、両親、親としての責任、役目等も、伝えるべきかと思ひます。こういう状態にならないよう職場の改善もあればよいと思う。子供は親と一緒にいる事、家庭で過ごす事が大事だと思います。親としての自覚も少し足りないのかなあと思う事もあります。	女性	60 歳代
私の年齢は60代です。義父も義母も昭和一けた世代です。もうすでに亡なっております。義母は父に対して、口ごたえせず、家庭を守ってきました。多少の病気もいとわず、家事全般をこなしてきました。“男子厨房に入らず”義母が先に亡なってから義父はとほうにくれました。私の夫も昭和生れ、最近義父ににてきて、私に対しても暴言や見下す発言も増えてきました。老年期の症状だとがまんしております。私達子供達の世代は家事の分担も話し合い、よりよい家庭を作るべく努力しているようです。私の時代とはちがう。女性がすべてを家事、子そだてをこなしてきた。「よく、やって来たよな」これが昭和の女の感想です。これからの世代もっとよりよい職場・家庭が築かれますことを願ってやみません。悪筆にて失礼いたしました。	女性	60 歳代
昭和の時代と比べるとずいぶん暮らしやすい佐賀県になったとは思いますが、田舎の高齢者の方の中にはまだまだ偏見も多く、いわゆる「老害」と呼ばれる方も多々目にします。あらゆる分野で佐賀県は遅れているので、視野を広く持って頂くためにも上の立場の方は都会の中央で学ぶ事をお願いしたいです。	女性	60 歳代
市町村の行政の格差を感じる時がある。	女性	60 歳代
男女が均等にと大事な事、将来ある子供を育てる親は働く安心して働く事の出来る大事。保育園で熱が出れば、親は、お迎えに行く、それはあたりまえですか？どうしても扱られない仕事、男女均等もいいですが、これでは少子化は変わらないですね。そこから変えて下さい。子供は熱が出るもの、病院と連携してもいいじゃないですか。生活して行くため働く。子供は1人。	女性	60 歳代

意見内容	性別	年齢
問 10 は記入していません。保育園勤務なので男性がいません。	女性	60 歳代
今の時代、共働きで健康に過ごすしかないと思います。子供を育てながらみんなが幸せになるには、周りの人が助けていかなければ子育てが出来ないと思います。	女性	60 歳代
男性だから、女性だからという理由で差ができてしまうのは平等とは言えない。夫は外で働き、妻は家庭を守るべきという考え方もアップデートしていく必要があると思う。古い考え方も時には「そうだ。」と納得できることがあるが、時代の流れとともに新しく変えていかなければいけないだろう。今回の意識調査に回答することで、男女共同参画社会について、考えるきっかけになったことはよかった。	女性	60 歳代
女性が社会で働き、管理職になった時に子育てができなくなると思うので、それを男性に子育てを手伝ってもらう事は理解があれば良い事と思うが、現在の子育てを見ていると女性と男性、両親がいる子育てで、女性より男性の方が子育てを(子供のせわ)している風景を見かけます。あまりにも女性に片よりすぎの男女平等ではないでしょうか?!女性よりは男性の方が大変なってる様に思いますが…これは私ひとりが思っているとは思わないので、男性の事も考えて「男女平等」を進めてほしいと思います。	女性	60 歳代
みんなが自由に自分を発揮できる社会になりますように。	女性	60 歳代
国を代表する国会議員は 70~80 代の方々の態度をみれば、まだまだ変わることは難しいとされます。代表が代表ですから…。初の女性総理ということで今後どう変わっていくのかを期待します。	女性	60 歳代
最近佐賀へ転入して来たのであまり佐賀の事は良く分かりませんが、男性が女性の事を理解し協力して尊重してもらいたい。まだまだ男性が家庭に置いては非協力的で、女性の負担が多くストレスの社会になってる気がする。	女性	60 歳代
県の取り組みに大きな期待もっています。女性の能力が発揮されるよう望みます。女性だからと教育の機会や社会参画の機会がせばめられないように、夫婦のパートナーシップについても教育の機会をお願いします。若い人達が魅力を感じる佐賀県になってほしい。若い女性は男尊女卑の考え方が嫌で、他県に行くとの話しききます。	女性	60 歳代
本当に性別にかかわらず能力がある人、向上心がある人、希望のある未来を実現させて下さい。今からの若い人達の為、人にやさしく尊重出来る社会へ。	女性	60 歳代
仕事と育児の両立はどんなに制度や環境を整えても難しい問題だと思います。キャリアを優先すれば子供との時間は減り、家庭を優先すれば仕事は諦めることが多い。それに加えて、学校行事や町内会活動などにも追われます。PTA 活動や町内会活動にも必要なことはあると思いますが、時代に合わせて削減していくことも視野に入れて子供との時間や仕事を優先できるようにしてもらいたいです。	女性	60 歳代
会社の役職の人達も研修を受け、困ってる人の立場になって考えてほしい。そして相談しやすい環境作りが大事と思う。	女性	60 歳代
問 4 など、単身には答えづらい質問がありましたので、単身でも答えやすい選択肢を用意するように改善していただければと思いました。	女性	60 歳代
今回のアンケートは、単身と答えていても夫婦どちらがメインでやっているかなどの質問があり、正確に答えられていません。また、例えば「知事に女性が増えるべきか？」などの質問自体が差別では？男女の仕分けの意識そのものがおかしいと感じます	女性	60 歳代
最近思うのは、子育て中の母親が正社員で働くためにもっともっと自由に勤務形態を選択できるようにしてほしい。	女性	60 歳代
懇談会の中性別立場に関係なく、意見を聞き物事を進めていくことが必要ではないかと思えます	女性	60 歳代
風通しの良い職場。 コミュニケーションの取りやすい関係性が大事。	女性	60 歳代
お互いを尊重することは、容易ではないが、お互いが分かりあおうと寄り添えない限り難しい。家庭、学校、地域が分かりあってお互いを支える事が必要なのでは。難しいですね。	女性	60 歳代
社会環境に合わせて少しずつ変えていくのが重要だと思う。	男性	60 歳代
子供が働いている職場は、サービス残業があたり前の状態です。休日でも個人の携帯電話に地域の方から連絡がはいり、対応のため出かける事が多々あります。大人数の職場との差が大きくて、個性と能力を発揮できる環境になっていない。	男性	60 歳代
県で進められているとありますが、具体的には観えません。又、施策のネーミング『性別にかかわらず・・・』の表現で今後も使用されるのですか??	男性	60 歳代
性別にかかわらずない仕事場での能力評価。子供ができた時の会社側のバックアップ。子供の頃からスポーツ等にはげみ、男女関係なく行動すること。	男性	60 歳代
硬直した現状から変化を誘引するには法の整備とそれに基づいた保障が必要。しかし、社会通念等の変化は大きな時間を要するので、急激な変化はゆがみを生じさせると思う。	男性	60 歳代
男女が平等な仕事に就き、対等な社会活動及び貢献する事は大変難しい事だと思います。家庭・地域や職場・職種によっても違いが有り、等一する事も難しく、人それぞれの考え方の違いも	男性	60 歳代

意見内容	性別	年齢
有ります。しかし、今回の調査の様に、不特定多数の方の意見を集約する事で、少しでも、男女年齢に関係なく集約され、それを、生かされる事を望みます。単なるアンケートに終わらない事を！今回のアンケートへの回答で、改めて自分自身が考え反省させられる点も有りました。逆にありがとうございます。		
県市職員がまず実践してみせる。	男性	60 歳代
男女共同参画社会といっても女性が社会に出て、対等に参加できるという気持を持てる教育が必要だと思います。その中で女性が社会で働く上で、まわりの男性(特に年齢が高い人)にどのような協力が必要なのか教育が必要だと思います。男性も女性も対等で能力があれば認める、評価してやること。古い社会の部落みたいコミュニティで協力しあえる社会体制が必要になってくると思います。	男性	60 歳代
調和をもって、感謝する人間作りをしてもらいたい。	男性	60 歳代
アンケートはしたくないです。	男性	60 歳代
社会的には男女共同参画は進んでいると思っています。ただ、家庭的には昔から言われている「亭主関白」とか「かかあ天下」という言葉もありますし、各家庭での話し合いが必要ではないかと感じています。	男性	60 歳代
女性だから出来ないという先入観を無くし、失敗したとしても積極的に様々な場面での女性の投与が必要でないかと思う。	男性	60 歳代
今回のアンケート調査で何を実施したいのか不明。	男性	60 歳代
平等な男女のあり方は、とても大切だが、人類は、持続していかなくては、人口減少により、地域、自治体が成立しないので、男女が協力しつつ、家庭、地域、職場の継続性を考えながら100年スパンで県の将来を議論すべきと考えます。いたずらに男・女の数値のみのイコールに固執するのではなく、他者を思う慈しみの心を持てば、男・女を越えた住みよい社会、ひいては男女共生の社会に自然体に向かっていくのではないのでしょうか。	男性	60 歳代
期待しております	男性	60 歳代
仕事してます感を、アピールしたいのは解るが、今回の質問は無駄使い。個人情報も無駄使い。男女参画女性の活躍推進課と云う事自体良からぬ思想を持って居られる様で、違和感しか無い。「男女の前に人間です」	男性	60 歳代
子育て支援(月々の食費)や結婚支援(住宅ローン)などを行って人口減少などの支援を行っていただき地域社会の活性化をしていただき高齢者の生活費支援なども行っていただきたいですよろしくお願いします	男性	60 歳代
子供の託児所の充実が必要だと思う。勤め先で子供の発病時の休暇制度の充実が必要だと思う。安心して仕事が継続できる環境づくりが必要だと思う。ハラスメントも含め気軽に相談できる第三者機関を設置して弁護士を含めた要員を配置してほしい。	男性	60 歳代
イベント、セミナーを増やしてほしい。	男性	60 歳代
男女の区別のない実力の発揮の場をつくる。	男性	60 歳代
性別による偏見を無くし「男性だから」「女性だから」という固定観念からの脱却が必要だと思います。	男性	60 歳代
74才の女、明治の義母につかえ、ほとんど家事をしている。力仕事はあまえています。ベビーのクリニックに連れて来ているパパにはびっくりです、多い。私の子育ての時とは違う。夫は働くばかり、少年野球のコーチなどしていたので遊ぶのは多かった。時代ですね。	女性	70 歳代
このアンケートは若い人の為の物だと思う。こんな事今の時代言うべきではないと思うけど、若い人の事ばかり考えている。私達、今のとしよりの人達は、子供の為、家の為、がんばって来た。今は何んでも事有る事に、無しようか無しようかとさわいでいる。子供をたいせつにではなく自分達のあそび、ゆとり、子供の為にキャリアをすてたくない、そんな若者がふえている。今、むしろ化をさげている若者たちの為に、年金で生活している年よりは、年金を減されるばかりで生活出来ない。若い人が結こんもイヤ、同きよもイヤをあたりまえのように言うけど、たしかにぶっかも高い、でも親が作った野菜は虫がいるからいや、土がついているからイヤと、あまり使わなくて買って来る若い人が多いと思う。今の若い人のために、がんばって子供達をそだててきたとしよりの年金、いりようひを減されるのはなっとくがいかない。お金をくばるのもいい。でもそれが本当に子供達の為につかわれているのか、本当にこまっている人の為につかわれるお金なら、なにも言わない。でもむしろ化でらくをする人の為に、つかわれるお金はイヤ。	女性	70 歳代
◎明るい職場づくりが大事。◎コミュニケーションが取りやすい家庭、職場。◎時間的に余裕のある勤務体制。◎気持ちに幅を持たせる。◎仕事の外に社会的な活動をする。◎社会的活動を多く準備し、だれでも参加しやすい体制づくり。	女性	70 歳代
私自身がまわりに恵まれているためか、不満を感じたことはほとんどありません。	女性	70 歳代

意見内容	性別	年齢
無作為とはいえ、4000人の中に選んで下さり、ありがとうございます。“さががすき”の広報誌も毎月楽しみにしています。私事です、丁度55年前、静岡から鹿島に嫁いできました。失礼ながら“島国根性”とでも言うのでしょうか、よそ者を受けつけない環境に戸惑ったのが今でも思い出されます。とはいえ、現在の佐賀県は大きく変わってきていると思います。私自身、80才の夫と77才の私の高齢世帯ですが、男性中心の世代を生きてきた夫族の扱いに女性は皆さん苦慮しています。70代、80代の男性の意識改革が必要だと思いますので啓発活動をお願いしたいです。それともう1点、高齢者が車免許返納で地区公民館の活動が活発となっています。運動の講師を呼ぶ補助金等を出資して下さるとありがたいのですが…。	女性	70歳代
各人が各家庭で男女平等の為の主張をしなればかわらない。	女性	70歳代
私は76才です。まだまだ働きたいですがなかなか仕事がかぎられています。家の近くに職場あまりないし、運転もできません。主人にも先立たれ、年金も2人合わせても(主人のいぞく年金は2ヶ月で6万円)です。あまりの少なさにこれからどうしようかと心配の毎日です。今の政治は子供中心のことばかりで年金受給者の中にも、沢山苦勞している人の事もわかってほしいです。	女性	70歳代
家でいにゆとりがないと、家でのめごとも多く、DVなどもおこり、物が高いのでくらしにくい。年金も多くないとくらしがきついです。	女性	70歳代
県の目標はすばらしいです。ぜひ実現してほしい。「ことば」が先行しないようにしてほしい。①まずは、佐賀の最低賃金を上げる。若い人が住みやすい。(働いた分の収入を得る)(福岡県と比べてひくい)。②文化的、質を上げてほしい。地域の文化的なとりくみ(地域にねざしているとりくみなど)を支援してほしい。例えば図書館、公民館などの運営費補助もふくめて。③学校で「性教育」(生きる、命、おたがいを認めあう、尊重する)ができるように(豊かな教育)→教科書にのっている分では不十分。自己肯定感が育つような、ゆとりある教育を!!④「平和」であってこそその人の権利。地域に分断をもちこむような「オスプレイ配備」「玄海原発稼働」等、きっぱりとNO!!を示してほしい。今まで築いてきた地域のつながりまでもこわしています。乱筆にて失礼。	女性	70歳代
現役世代ではないので、適切な回答が出来なかったように思います。	女性	70歳代
嫁さんの夜勤の時の孫の世話、保育園の送迎がきつい。保育園の土曜日が預ってもらえないので、嫁さんが土曜日休んで、子供の世話をし、日曜日仕事をするから、日曜日、息子が孫2人(3才と1才)を連れて来るのがきつい。	女性	70歳代
佐賀県は大企業が少なく、地場産業だとどうしても賃金格差が有り、せっかく大学生出ても公務員、教職以外、中央に行く人が多く、働き場が少なく、小子化にも繋がっている様な気がします。日本全体の事と思いますが人手不足が問題です。息子の会社も人手不足が深刻化してる様で、車の整備士をしておりますが、外国人が入って来てても技術を修得したら国に戻って行かれるそうで、それにせっかく専門学校(地元の人)で何を勉強して来たのか身についてない様です。資格が取れたのが不思議と言ってました。その点外国人の方が熱心だそうです。佐賀はとても住みやすいと思います。山口知事も頑張っておられると思います。高齢者で何も出来ないとは思いますが、健康に地域の方の役に立てたらと思います。	女性	70歳代
私は女ですが、現役時代は営業職で九州一という結果を出す為に懸命に仕事をしました。その為か女だからと差別を受けた経験はないが、殆んどの上司は99%男性だったという状況でした。これは男女の差別の結果と思うが、私は差別を受けたという認識はありません。	女性	70歳代
年の人にはアンケートやらないで下さい。	女性	70歳代
地方の方も僅かながら前向きな考えになって来ていると感じるが、会話の流れによると昔ながらの思考になり、43年そこに住んで地区の役員や、地域の事業に参加して馴染んでいると自分では思っているが話の流れで「他所者は黙っとかんかい」と言われたことがあり、心に棘として刺さっています。普段口には出さなくても、胸の内の本心が出るんだと地域交流が嫌になっています。こうゆう考えを変えない限り、地域誘導の移住等知人には進められません。行政の広報活動等で開かれた佐賀県をアピールして住みやすい県として発展してもらいたいと考えます。地方ほど閉鎖的な考えが残っていて「前からこうしていた」と会議の場でよく耳にします。	女性	70歳代
女性の活躍を期待しているが、男女同権という意味ではなく、女性の視点での男性には見えないうところに目を向けていけたらと思う。基本的に視点の違いはあると思うので。	女性	70歳代
後期高齢のシニアは女は家庭、男は仕事の時代に育ってるから、炊事・洗濯は女性が当たり前でしたから、今さら夫には何も要求は出来ませんですね。主人は(夫は)私から一切全てやってもらうのが当り前の習慣生活だから、こうあったら理想だなあ～の〇をしました。	女性	70歳代
退職年齢で切らず、働ける間は働きたい。	女性	70歳代
県政だよりが配布されているので大体の事は良くわかります。年令が高くなるにつれ、県の取り組みにはあまり関心が薄くなっていると思う。この度のアンケートで無関心の事が多く感じられ、改めて関心を持てるようになりたいと思う。	女性	70歳代

意見内容	性別	年齢
“アバンセ”が出来た時、船橋さんが館長とられた。佐賀も少しは女性の地位とまでは、いかなくても、尊重される方向へ進んでほしいと期待していたけど、実際はまだまだの感があると思う。“女では” “女のくせに”と面と向かって言わなくても、根底にあるのは日常的に感じている。佐賀、日本、世界共に人として、平等感のある状態になる事を願っている。	女性	70 歳代
佐賀県民の1人ですが、佐賀県が一番住みやすい県です。いろいろとお世話になってます。こう言うアンケートは始めてで、なるほどとおもい〇を付けさせてもらいました。これから先も若い人達の為に、佐賀県を大きく羽ばたくように願ってます。	女性	70 歳代
家庭生活では、ずいぶんと男女平等が進んでいると思います。配偶者との死別、離別、独身のままでのおひとりでの高齢者がこの長寿の時代、どうやって生きていくのか、すこやかな生活ができるのか、大切なテーマだと思います。男女共同参画社会づくりと同じように、経済的安定がのぞまれます。男女間の賃金の格差解消が必要です。	女性	70 歳代
大変ですけど頑張ってください!!	女性	70 歳代
誰もが安心して、地域で、人様と仲良く暮らしていけたらいいなと思います。佐賀県で住み良い環境づくりを目指して、今回の様な取りくみをされた事は大変良い事だと思います。難かしい事かと思いますが、実現に向けて進めていってほしいと思います。私達(主人と)は、70代ですのでお役には立ちませんが、子供や孫達の幸せを願います。宜しくお願い致します。	女性	70 歳代
もっと魅力ある佐賀県になって欲しい	女性	70 歳代
互いを尊重することについて、◎具体的にどのようなことか、◎どうすることなのか、などの説明が分かり易くしてもらったら良いと思います。	男性	70 歳代
男女共同参画社会作りには以前より重要性を感じていました。私は、現在、町区の運営委員(7名)、老人会会長、お寺の総代他いろいろと役をしているところです。私が区長をしていた時に、秋まつり(大名行列)には女性の参加は御法度でしたが、行列の参加者が少なくなり、廻りの反対をおしきり、女性を参加させ今は問題女性参加があたりまえと(当初5名)になりました。(各社のテレビ放送で取り上げてもらいました)。民生委員も4名中2名は女性にしました。また、卓球クラブを町で立上げ、18名中、13名が女性です。高市首相が誕生し、女性大臣が増えるか期待しましたが、残念な結果でした。11月16日(日)は鳥栖市会議員の投開票日です。私は女性に活躍してもらおうと、女性に投票したいと思っています。今後の男女共同参画社会が進んでいくことを願っています。(鳥栖市、78才・男性)	男性	70 歳代
①物価高に見合う給料・年金であること。特に食料品購入で最近、牛肉→ぶた肉→けい肉と変化し、現在はけい肉をほとんど食している。魚が高いので生魚は買わないでカン詰め中心にしている。食べるのに困らない支援が欲しい。	男性	70 歳代
男女参画しやすい環境づくりや法制改正など。	男性	70 歳代
あまり大きさに騒がず、自然に女性の参画を地域・職場で出来るよう進めるべきと思う。	男性	70 歳代
《是非取り上げて下さい》アバンセは、男女共同参画(生涯学習などの関連分を否定するものではありません。)を推進するための拠点とし整備された施設と思っています。それが現在では、貸館業に没落していると強く感じます。例えば、整備趣旨に沿ったことを実施したとしても、施設を使わずに、駐車場のみ(男女共同参画のための視察のために駐車場を使うことは拒否)の使用は認められないため、「いづれかの部屋を借りて、この部屋に行くために駐車場を利用する」といったコッパ役人の理屈がまかり通っています。どこが男女共同参画の拠点でしょうか。是非アバンセの設立目的に沿った運営がなされるよう御検討下さい。また、小さなことですが、ゴミ箱が撤去されています。駐車場の区切りも区切り用のヒモが乱れて、区別がつきにくい現状です。単に貸館業でなく、真に共同参画の拠点となるよう切に望みます。	男性	70 歳代
①男性も女性もそれぞれ役割りが有ります。人間としては、平等。男も女も。②結婚しない人が増えているのは、少子化の最大の原因です。結婚に仲人を立てない世の中になって、だから離婚者増えて～話を聞いてやる仲人がいないから。③男女平等の意味を勘違いしている世の中になっている。	男性	70 歳代
私が18歳で東京へ就職(公務員)になりました。40年後、佐賀へ帰省して見て、佐賀の街(佐賀市)は寂れるばかり、兵庫に夢タウンがありますが、街に夢、希望がないように思います。佐賀が魅力度ランキング最下位ですよね。私が東京へ行って聴かれて、『佐賀ってどこ』知らない。40年前です。現在は、それほど変わっていないと思います。子供に夢がないと思います。小中高生が遊ぶ場所がない。特に、市内にない。遊園地、動物園、水族館、植物園等、子供達が行ける場所、出合いの場がない。大人になっても、佐賀は、何も無い所になって、県外では話しにならない。もっと、子供の時から『佐賀にも、色々ある』と言える場所を造って下さい。吉野ヶ里公園にカンラン車あれば良かったかな。まずは子供達を育てる。スポーツにも力を入れて下さい。乱筆乱文で申し訳ありませんでした。	男性	70 歳代
質問内容は自営業者向きでは全くありません。サラリーマン経験ゼロの者にとっては、一般論でしか答えられません。担当者の仕事熱心さは理解しますが、無外者にとっては、むずかしすぎます。第三者からの意見です。女性向けのアンケート?ご苦労様です。	男性	70 歳代

意見内容	性別	年齢
佐賀県一人一人の話を聞いてください。幸せになります。	男性	70 歳代
相手を尊重する。	男性	70 歳代
補助等についてももっと子育て年令について補助してやるべき。子供を育てる為に生活するのに、生活が苦しいのが現状だ。老人達は充分年金を含めて豊かな生活をしている。中にはそうで無い人もいるけど、それは自分が、やり方を間違っていた為である(自己責任である)。もっと子育て全体に補助をすべきだ。外国人の生活保護は直ぐ停止すべき。税金の使い道を明確にすべきだ。	男性	70 歳代
男性女性というより、結婚したらしんせきの方はひかえてほしい。食べるし、酒ははらいっぱいのむ、夫婦の時間なし。男女よりこの問題がだいじだと思います。	男性	70 歳代
男性女性とも意識の高揚を図るための研修を行わなければならない。	男性	70 歳代
スウェーデンに(北欧)、経緯も含め、いろいろとヒントがあるかと感じております。	男性	70 歳代
夫婦仲良くが基本、互いに思いやりをもって接していれば自然に平等の世界が実現できるのでは…。	男性	70 歳代
佐賀県の男女共同参画の試みは分かりますが、この作業に不馴れな県民が佐賀県民の様に思われます。大胆さ、ユニークさのある小さな集りから盛り上がり行く方法はないでしょうか。	男性	70 歳代
兵庫県、静岡県、群馬県で、いろいろな大問題が起きております。①本人の職の意識、生活意識が不足している様に感じます。②仕事、社会において生きて行くためには先、先の先～先を読まなければ、行き当たりばったりの人間になるでしょう。③自分を知る事、状況を知る事が大切です。※今何を、将来何を、～計画と実行！ラブホテルへ行く等、out！どうしてこの様な事が??甘い！甘い！基礎的な研修、中級、上級の研修を行いたい！一年の計は元旦にあり！十年の計は穀物にあり！一生の計は人にあり！全て準備が必要であると思います。	男性	70 歳代
少子高齢化において、女性の社会進出が必要不可欠の時代であり、進めてほしい。	男性	70 歳代
身体が健康で日常が生活できるようにする。	男性	70 歳代
この調査が来るまでは、この様な取り組みが有るとは知らなかった為、県民に対し、もっと PR した方が良いのでは？市報掲載も一つの手法と思います。	男性	70 歳代
女性の経済的独立と社会進出は望ましいことだが、その代償として未婚、晩婚、非出産が起こり、少子化が進んでいることは、問題だ。女性が出産しても「人生の自己実現」が達成できる様な仕組みづくりが必要だと思う。	男性	70 歳代
男女差別を無くし、相互扶助の精神で尊重しあえる社会を目指し、よりよい社会・生きがいを個々が感じあえることが理想だと思います。	男性	70 歳代
生活しやすい環境作りをみずから作って、体制を作っていく事。個人個人が実現のために、がんばる姿勢必要。	男性	70 歳代
今回の意識調査は、行政・大・中・小の企業に働く人を対象にした調査に思えます。働き方は、自営業・自由業・非正規の従業員、その他の働き方の内容も調査したほうがよいと思います。企業との関係もありますが、しわ寄せは末端にしかこないです。中には、残業はあたり前、今の現状は厳しい状況です。業種ごとでは、差があると思います。男女共同参画社会づくりをする為には、大人から子供までの教育から社会の知識を理解しないと厳しいと思います。まずは、挨拶から。大人から子供、役所も出来ない人もいます。発展させる為には、全業種の理解と家庭の問題や生活状況も含めた所も考えるべきだと思います。女性が参画出来る体制を整えないと難しいと思います。今の日本の状況では、厳しい現状です。行政の調査もよいが、今後の佐賀県の発展の為に現状を業種ごとに見て考えるべき。県民も理解出来るように、家庭も社会も協力する必要があると思います。	男性	70 歳代
世の中変っている、昭和より 100 年、平成より 36 年、令和より早くも 7 年、現代社会においても日々変化・日常生活においても、デジタル化、キャッシュレス化・AI の時代、人・物・金と時間価値感が違い、変化している中で、現在の社会では個々の立場の違いはあるが互いに変わっている事を認識して行動・会話、コミュニケーションを図る事で、丸くおさまるのではないのでしょうか。男性、女性、会社において、家庭において言葉の DV が無いよう徹底する。健全で安全な社会生活・家庭生活が出来るように行政・企業の中で、指導・PR、家庭の中でより良い対話、会話が必要では!!言葉の DV[パワーハラスメント、モラルハラスメント、セクシュアルハラスメント]<まとめ>①世の中変っている一頭の切替え、②問題意識を持つ一相手は何をしようとしているか、何を云おうとしているか、佐賀弁で何んばしょと～、③情報は知識なり、知識は力なり(頭のハードディスクを大きく、最新版をインストール)。大変遅くなり申し訳ありません。	男性	70 歳代
性別にかかわらずが当り前の世の中になって欲しい。	男性	70 歳代
男女に関わりなく、現状での法制度、並びに宗教等など、過去の既成事実を全く疑わずに執着し続ける事により、安堵感を得るアホぼけの皆々様方が余りにも多過ぎる。ヤクザ幹部の子孫	男性	70 歳代

意見内容	性別	年齢
継承、それが天皇制なのに『女性天皇なら追認し続けるとか、税金で餌付け飼慣らされた共産党党首のアホぼけ』。男女の問題以前の福祉行政、予防医療への先導的自発性、自我自意識を熟慮保育すべき問題点なのにね。他の党派がヤクザ制天皇制を積極推進し続け、それらのお尻を追い掛ける共産党へと餌付け飼慣らされ落魄(おちぶ)れ行きましたな。高市早苗に和田アキ子上沼恵美子、これらアホぼけな男に担がれ行く薄弱三羽ガラスこそが、幾多な博識女性賢人の宿敵、その者だそうですねよ。【女性の宿敵は女性】だとか、あ～あ～。		
上記の実態調査の推進とそれを遂行する組織作り	男性	70歳代
企業によって温度差があり、また業務内容によっては全て平等とするには無理があると思う	男性	70歳代
家事・育児・介護等の性別に関する課題は、一朝一夕で改善できるものではないので、特に義務教育において意識向上のための教育をより充実する必要がある。県民に現状の課題を分かりやすく情報を提供してほしい。	男性	70歳代
80才になり退職後30年経過しており、年と共に考える事がめんどろになっております。私達が働いていた時代より今は本当にめぐまれていると思います。でも育児等には女性は今でも負担が多いので田舎でも家事の外注ができるとう良いのでは。教育等男女同等ですが、地方は教育の情報や施設が少ないのでこれらの充実が望ましい。	女性	80歳以上
日本ではもっと女性が会社や地域の中でも、男性と平等に社長や役員、重要な役割をやっていくべきだと思います。あたりまえですが、男性が女性より優れているという事はありません。	女性	80歳以上
明治生れの両親に育てられ、何をしても(食事もちろん)まず父、祖父が優先でした。それは悪いとは思いますが、母は炊事、洗濯(手洗い)をすませて、祖父、父より早く田仕事に行きました。相手の事は気にしない祖父、父はマイペースで自分達の仕事を進めて行きますが、母は家事を済ませてから、おくれないように行っていました。大中企業では改革などといって大分よくなりました。でも小、零細な企業では女性は端役な仕事の上、来客の接待させられます。女性が能力など持っていないと思われる。教職員などは残業はあたりまえ。休日出勤も部活業であります。都合のいい時にいいように使われているように思います。まだまだ男性優位の社会ですね。首相も女性というだけで注目されているようにみえます。午前3時迄働いたといいますが、周位の職員にも家族がおります。了	女性	80歳以上
人間を大事に小さい頃からの教育が一番大事だと思います。	女性	80歳以上
無作為はいいのですが、年令とか考えてほしいです。	女性	80歳以上
今私の生活は息子が調理士で弁当を作っていますから、孫もいせんので料理は息子が作ってくれますのでおいしく頂いています。私も今が一番幸福です。自由に自分の事が出来て、月に1回友達と宿泊温泉に行き、お食事が出来ると聞けば、姪っ子が車で食事にさそってくれます。庭が20m位あるので、私が腰かけて除草します。又食後1日に1回お宮の石段を数えて登り下りし、夕食後30分して20~30分のジョギングをします。又朝は脳トレや小説を読みます。自分の出来ることは何でもしています。	女性	80歳以上
色々な意見を出しあって話し合っしてほしい。	女性	80歳以上
老々介護で息子夫婦があまり気を使ってくれないので困っている。用事があるときは別の住所に住んでいる次男にたのんでいる。	女性	80歳以上
私自身の現役の時と色々考え方が異なる今に、質問されている事に当てはまらない解答をしている事が多いと思います。どうぞご理解下さいますようお願いいたします。	女性	80歳以上
89才の年金生活のバアバです。息子と暮していますが独身です。今結婚しない人(男女共)多いと思います。ここが一番の問題だと思っています。	女性	80歳以上
1. 女性議員の数をふやして、意見の多様化をはかって下さい。2. 家庭の問題(介護、子育て…etc)、福祉の面を女性に依存しない社会を実現させて下さい。3. 夫婦別姓制度を検討して差別の遠因をなくした社会の実現を望みます。4. 教育を男女平等に機会を与える考え方の家庭教育推進を望みます(例えば、東大合格者進学は、何故男性が多いのか?といつも思います。小学生のレベルでは、男女能力の差は全くありません(経験上…の意思)。	女性	80歳以上
全て教育、誰も取り残さない教育。信頼される教師の育成(情報が多すぎる世の中ですが)。	女性	80歳以上
身体障害者です。1種1級です。S20年生れです。	女性	80歳以上
「男女共同参画社会づくりのための県民意識調査」の皆様へ：何かと大変と思いますが、色々まとめ、お願いします。お疲れ様です。ありがとうございます。	女性	80歳以上
「誰もが個性と能力を発揮できる佐賀県づくり」→について、県が実際に行っていると思える事業やキャンペーンなど、まったく伝わってこない。	男性	80歳以上
地域の役員(組長、体育・防災委員)が高齢化しており、ムリが目立つ(認知症の人あり)。	男性	80歳以上
女性・男性に限らず、結婚し子供を持てば現在の勤務状態では活躍すればする程子供にしわよせがいくように思われる。義務教育年齢の子供がいる場合、男女かかわらず午後8時前(午後6時ならなお良い)には帰宅できるような制度にしないと子供を持つことすら難しい。今の制度で	男性	80歳以上

意見内容	性別	年齢
は余程の高給取りでなければ家族を持つての活躍は困難と思う。(サラリーマン家庭の場合)。女性・男性のどちらも現在佐賀県でリーダー的地位についている人の年齢と独身か既婚か給料、既婚ならその親と同居で家族の世話をしている者がいるかどうか等調査されてはどうでしょう。		
年金生活者の高齢者への支援、障害者への支援、規制々々で高齢者をはみださない支援が必要と感ずます。無記名なのに、メールアドレスや電話番号はおかしいのではないか。	男性	80歳以上
佐賀県は農業県で農村部では昔から、田んぼを沢山持っている人達の力が、巾をきかず傾向で…事業農家の人が言われればその方向で何事も決まる。私は鳥栖市に住んでいますが、私の年代(80代)で今のゆめ、佐賀大学へ行ったり、ボランティア活動を行うと、どうせ暇だから雑用はやってもらおうと云う話になっています。農村集落でも専業農家は一握りとなっているが全てが農家中心に廻ったり、決まる。…反対すれば外れ者になる○農業委員会…事業農家で持ち廻りで兼業農家の人が農地を畑地や宅地に変更しようとしても仲々許可が出なかったり、面積を狭められたりした物件があったり、聞いた事がある。	男性	80歳以上
子(成人)と親の精神的な繋がりを持続の維持。	男性	80歳以上
○平等とは結果が等しくなる事ではなく、機会が平等であるべきという考えになって欲しい。 ○「男は男らしく」「女は女らしく」と云う“らしさ”も大事な事と考える。男が女のような格好をしたり、その逆だったり、社会を歪めると思う。	男性	80歳以上
私は現在85才になります。子供は唐津市大石小路に住んでいました。私の内の20mの処に放送局がありました。小さな放送局でしたが、私はそこで、命令により歌を造っていました。当時は戦争の真只中で私は幼児でありましたが、時の時局にさからって戦争の歌をしませんでした。それは見つければ当然罰せられたかも知れませんが、40mの処には憲兵隊もあつたんです。そういう環境で女性の歌手を次々放送させました。高峰三枝子さん、松島詩子さん、高石かつ枝さん、まだ他多数ありますが、私がやった事は今日テレビでみられる当りのそのものです。私は長崎の原子爆弾を被爆しております。そういう過去をもった人間であります。	男性	80歳以上
※高齢者の為、今後は除外して下さい。[表紙に記載あり]	男性	80歳以上
○詫び申し上げます。ページ、乱筆にて、解説に苦勞されていたと思います。○後期高齢者、89歳の為、今の会社・工場での事が分らない。○佐賀県男女参画、女性の活躍を進めるなら、きめこまやかに町にも出席して、老人会等に説明して下さい。○大企業、中小企業の会社にて出前講座して下さい。より良い佐賀県をつくって下さい!!R7.11.12.私は87才、会社生活37年でした。[住所氏名記載あり]	男性	80歳以上
今回の調査、ランダムに選出されたのですが…現役引退後数十年たっていて、回答に窮する箇所がたくさん有り、満足な結果は得られないと思っています。しかし、子供や孫がおりますので、それらを頭の中において、少しでも前進、改善される事を願いつつ…微力乍ら答えました。申し訳ありません。よろしくお願い致します。	男性	80歳以上
女性が楽しく過せる為には、家族や職場の理解と協力が一番だと思う。女性もそれがあたりまえではなく、感謝しながら、日々を充実させ、共に楽しく生活していくことが大切だと思う。	女性	無回答
私は現在80代ですが、これまで男女の差はいろいろな場面で感じてきました。同年代の男性が確実に実力を発揮して行くなかで、女性は仕事上は保助的な仕事に甘んじてきたという思いがします。その中では、教職員の中では男女差をあまり感じなく仕事ができたと感ずます。しかし、男女の力の差(腕力)はあります、そこはおたがい補助し合うことが必要と思います。これからは今以上に格差が小さくなって行くことを願っています。そこには女性の意識がより大きいと思います。	女性	無回答
高齢ですけど、色々な活動に出来るだけ参加したい。	無回答	無回答
日本語も文化も理解できていないような外国人達が多くなってきている状態で、人数を制限すべきだと思う。なぜならば、子供が最近公園とかで遊ぶ事が出来なくなっている。	無回答	無回答

---

# 男女共同参画社会づくりのための佐賀県民意識調査

紙調査票見本

調査主体：佐賀県 男女参画・女性の活躍推進課

県では、性別にかかわらず、互いを尊重し、誰もが個性と能力を發揮できる社会を実現するために、「佐賀県男女共同参画基本計画」を策定し、男女共同参画を推進する取組を進めています。

この調査は、今後の施策を検討するための基礎資料として、県民のみなさまの意識や、実態をお尋ねするものです。

調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和7年11月

## 【回答者の選び方と個人情報の保護について】

- (1) 回答をお願いする方は、県内在住の18歳以上の中から、無作為に4,000人程度を選ばせていただきました。ご記入いただいた情報は上記の利用目的にのみ使用し、第三者に提供することはありません。
- (2) 回答は、無記名式です。回収したアンケートはすべてコンピュータで統計的に処理されますので、回答された方が特定されることはありません。
- (3) お送りした封筒に書かれている宛名のご本人がご回答ください。  
※お体が不自由で直筆が難しい場合は代筆でも構いません。

## 【提出方法】

回答の提出は、次の①か②のいずれかの方法により、  
令和7年12月17日(水)までをお願いします。

- ① WEBの回答フォームに入力する場合  
右記のURLまたは2次元コードから  
回答フォームにアクセスしてください。
- ② この調査用紙に直接記入する場合  
同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、  
郵便ポストにご投函ください。

スマートフォンなどでの  
回答はこちらから  
↓



<https://questant.jp/q/SHURR5TQ>

※アンケートについてご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

## お問い合わせ先

【調査の内容について】  
佐賀県 男女参画・女性の活躍推進課  
TEL：0952-25-7062(直通) FAX：0952-25-7338

【調査の回答方法について】  
受託事業者：(一社)長崎交流センター  
TEL：095-850-7525(担当：渡部)

回答にご協力  
いただいた方

抽選で200名様に  
クオカード Pay プレゼント  
応募方法は最終ページ  
をご覧ください



## ■男女の地位について

【全員がお答えください】

問 1

あなたは、次にあげる①～⑦分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。  
(○はそれぞれ1つ)

	女性の方が 優遇 されている	どちらかといえ ば 女性の方が優 遇 されている	平 等	ど ち ら か と い え ば 男 性 の 方 が 優 遇 さ れ て い る	男 性 の 方 が 優 遇 さ れ て い る
① 家庭生活	1	2	3	4	5
② 職場	1	2	3	4	5
③ 学校教育の場	1	2	3	4	5
④ 地域活動・社会活動の場	1	2	3	4	5
⑤ 政治の場	1	2	3	4	5
⑥ 法律や制度の上	1	2	3	4	5
⑦ 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5

【全員がお答えください】

問 2

あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要だ  
と思うことは何ですか。(○は1つ)

1. 法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改める
2. 性別によるさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める
3. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど積極的に能力の向上を図る
4. 女性の就業、社会参加を支援する体制・施設やサービスの充実を図る
5. 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実する
6. 学校教育において、社会や家庭における男女平等と相互理解についての教育を充実する
7. その他（具体的にお書きください： \_\_\_\_\_ )

## ■家庭・子育てについて

【全員がお答えください】

### 問 3

あなたは、一般的に「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思いますか。  
(○は1つ)

※ご自身の希望ではなく、考え方の是非についてお答えください。

- |                   |                          |                  |
|-------------------|--------------------------|------------------|
| 1. そう思う           | <input type="checkbox"/> | → 問 3-1 へお進みください |
| 2. どちらかといえばそう思う   | <input type="checkbox"/> |                  |
| 3. どちらかといえばそう思わない | <input type="checkbox"/> | → 問 3-2 へお進みください |
| 4. そう思わない         | <input type="checkbox"/> |                  |

【問3で1または2と答えた方がお答えください。】

### 問 3-1

そう思う理由は何ですか。  
(○はいくつでも)

1. 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
2. 自分の父親も外で働き、母親は専業主婦だったから
3. 男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
4. 女性が家庭を守った方が、子どもの成長に良いと思うから
5. 家事・育児と両立しながら女性が働くのは大変だと思うから
6. その他（具体的にお書きください： \_\_\_\_\_ )

【問3で3または4と答えた方がお答えください。】

### 問 3-2

そう思わない理由は何ですか。  
(○はいくつでも)

1. 性別による役割分担意識を押し付けるべきではないから
2. 自分の両親も外で働いていたから
3. 夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから
4. 女性も働いて能力を發揮したほうが、社会にとって良いと思うから
5. 夫も家事・育児に参画すれば、妻も働くことは可能だと思うから
6. その他（具体的にお書きください： \_\_\_\_\_ )

【全員がお答えください】

**問 4**

あなたのご家庭では、日常の家事（炊事・掃除・洗濯など）は主にどなたが行っていますか。また、あなたはどのような仕事の分担が理想的だと考えますか。  
（○はそれぞれ1つ）

		主に夫	主に妻	夫婦とも同じくらい	主に他の人	子どもや高齢者はいない
現在の仕事の分担	① 食事の支度・あとかたづけ	1	2	3	4	
	② 掃除・洗濯	1	2	3	4	
	③ 食料品・日用品等の買物	1	2	3	4	
	④ 対外的な対応 （町内会等のご近所付き合い、親戚付き合いなど）	1	2	3	4	
	⑤ 子ども（乳児・幼児含む）の世話	1	2	3	4	5
	⑥ 子どもの学校行事への参加	1	2	3	4	5
	⑦ 子どもの送迎	1	2	3	4	5
	⑧ 高齢者の世話（介護）	1	2	3	4	5
理想と考える仕事の分担	⑨ 食事の支度・あとかたづけ	1	2	3	4	
	⑩ 掃除・洗濯	1	2	3	4	
	⑪ 食料品・日用品等の買物	1	2	3	4	
	⑫ 対外的な対応 （町内会等のご近所付き合い、親戚付き合いなど）	1	2	3	4	
	⑬ 子ども（乳児・幼児含む）の世話	1	2	3	4	5
	⑭ 子どもの学校行事への参加	1	2	3	4	5
	⑮ 子どもの送迎	1	2	3	4	5
	⑯ 高齢者の世話（介護）	1	2	3	4	5

【全員がお答えください】

問 5

次の①～⑦について、あなたの考えに近いものは何ですか。  
(○はそれぞれ1つ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
① 女性は理系に向いていない	1	2	3	4
② 男性はいい大学を出て出世を目指すべきだ	1	2	3	4
③ 女性に高い学歴は必要ない	1	2	3	4
④ 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	1	2	3	4
⑤ 女性は結婚によって、経済的に安定を得る方がいい	1	2	3	4
⑥ 男性は社会の第一線で活躍するべきだ	1	2	3	4
⑦ 男性も女性も炊事・掃除・洗濯は同等のレベルで できた方がいい	1	2	3	4

## ■職業について

【全員がお答えください】

### 問 6

あなたは、女性が働くことについてどう思いますか。  
(○は1つ)

1. 結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい → 問7へお進みください
2. 結婚を機に仕事をやめる方がよい
3. 出産・子育てを機に仕事をやめる方がよい
4. 出産・子育てを機に仕事を中断し、子どもの成長後再び働く方がよい
5. 結婚や出産にかかわらず仕事はしない方がよい
6. その他 → 問7へお進みください

(具体的にお書きください:



【問6で2～5のいずれかを選んだ方がお答えください】

### 問 6-1

あなたが問6で、2～5のいずれかを選んだ理由は何ですか。  
(○は1つ)

1. 女性は家庭を守るべきだから
2. 仕事と家庭の両立が難しいから
3. 現在の子育て支援制度では不十分だから
4. 母親は子どもと一緒にいるべきだから
5. その他 (具体的にお書きください: )







## ■社会について

【全員がお答えください】

### 問 12

あなたは、自分自身が管理職等への登用や企画・方針決定の場に参画することを望みますか。(○は1～4の中からそれぞれ1つ)

※自分がその環境にいると想定してお答えください。

※3または4を選んだ方のみ  
理由を下記から選択し記載ください

	自ら望む	依頼された ら就く	望まない	自らは も断る	依頼されて	理由記載欄
① 職場の管理職	1	2	3	4		
② PTA会長、こども会会長	1	2	3	4		
③ 自治会長、町内会長	1	2	3	4		
④ 自治体の審議会や委員のメンバー	1	2	3	4		
⑤ 国や地方自治体の議員	1	2	3	4		

#### (理由選択肢一覧)

上記①～⑤において、3または4と答えた方のみ下記から選択し、上記理由記載欄に番号を記載ください。

1. 知識や能力の面で不安があるから
2. 責任が重く、自信がないから
3. 興味が無いから
4. 時間的・経済的に余裕がないから
5. 家族や周りの理解や協力が得られないから
6. 両立できる環境が整備されていないから
7. その他

※その他を選んだ項目(①～⑤)について、下記に具体的にお書きください。

- 項目①(理由: )
- 項目②(理由: )
- 項目③(理由: )
- 項目④(理由: )
- 項目⑤(理由: )



【全員がお答えください】

問 15

あなたは、次の①～⑬の役職について、今後女性が増えたほうが良いと思いますか。  
(○はそれぞれ1つ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
① 閣僚（国務大臣）	1	2	3	4
② 知事や市町長	1	2	3	4
③ 国会議員、県・市町の議会議員	1	2	3	4
④ 県・市町の審議会や委員会の委員	1	2	3	4
⑤ 県・市町など役所の管理職	1	2	3	4
⑥ 小・中・高校の校長、副校長、教頭	1	2	3	4
⑦ 大学教授・学長	1	2	3	4
⑧ 裁判官・検察官・弁護士	1	2	3	4
⑨ 医師、歯科医師	1	2	3	4
⑩ 農協など団体の役員	1	2	3	4
⑪ 会社の管理職	1	2	3	4
⑫ 経営者・起業家	1	2	3	4
⑬ 自治会長・PTA会長	1	2	3	4



【問 16-1 で「2. 相談しなかった」と答えた方がお答えください】

**問 16-2**

相談しなかった理由は何ですか。  
(〇はいくつでも)

1. 相談するほどのことではないから
2. 自分に原因（悪いところ）があるから
3. 自分が我慢すれば、何とかやっつけていけるから
4. 相談しても無駄だから
5. 世間体が悪い、恥ずかしいから
6. 相手の行為が愛情表現だと思ったから
7. どこに（誰に）相談してよいか分からないから
8. 相手の仕返しが怖いから
9. 相手を愛しており、別れたくないから
10. 別れた後、自分だけでは生活できないから
11. その他（具体的にお書きください： \_\_\_\_\_）

【全員がお答えください】

**問 17**

DVや性暴力の悩みを相談できる窓口などであなたが知っているものは何ですか。  
(〇はいくつでも)

1. DV 専用相談窓口（アバンセ）
2. 佐賀県女性相談支援センター
3. さが mirai（性暴力救援センター・さが）
4. 警察相談専用電話 #9110
5. 女性の人権ホットライン
6. 性暴力相談に関する SNS 相談（CureTime）
7. その他（具体的にお書きください： \_\_\_\_\_）
8. すべて知らない

【全員がお答えください】

**問 18**

DVや性暴力被害の相談窓口で対応してほしいことは何ですか。  
(〇はいくつでも)

1. 対面での相談
2. 電話での相談
3. メールでの相談
4. SNS、チャットなどでの相談
5. 匿名での相談
6. 24 時間体制の相談
7. 通話料無料の相談
8. 同性の相談員への相談
9. 心理専門職による相談（臨床心理士、公認心理師など）
10. 専門家への相談（弁護士など）
11. その他（具体的にお書きください： \_\_\_\_\_ )

## ■男女共同参画社会の実現について

【全員がお答えください】

### 問 19

県では誰もが個性と能力を發揮できる社会の実現に向けて、様々な取組を行っています。あなたが知っているものはどれですか。(〇はいくつでも)

1. 女性の活躍推進佐賀県会議 (SAGA WOMEN' S ACTION)
2. マイナス1歳からのイクカジ
3. SAGA PAPA POCKET BOOK (佐賀県版父子手帳)
4. SAGA PAPA 育休アシスト奨励金 (男性の育休取得促進)
5. フェムケア、フェムテック
6. プレコンセプションケア
7. すべて知らない

【全員がお答えください】

### 問 20

あなたは、県や市町の行政機関は男女共同参画社会づくりのために何をすべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 地域に応じた政策や計画の策定
2. 女性の就業支援とキャリアアップの支援
3. 子育て支援の充実
4. 男性の家事・育児への参加促進
5. DV・性暴力被害者支援の充実
6. 地域での啓発活動
7. 実態の調査と分析
8. 県と市町とのネットワークづくり
9. 民間企業や地域団体との連携
10. その他 (具体的にお書きください: )



【問 22 で 3 または 4 を選んだ方がお答えください】

**問 22-1**

その理由は何ですか。

(○はいくつでも)

1. 恥ずかしいから
2. 理解してもらえないと思うから
3. 迷惑をかけたくないから
4. 自分の問題だと思っているから
5. 男性にはわかりづらいと思うから
6. 以前、伝えた際に反応が悪かったから
7. 言っても何も変わらないと思うから
8. 伝えるタイミングがわからないから
9. その他（具体的にお書きください： \_\_\_\_\_ )

【全員がお答えください】

**問 23**

男性や女性の特有の健康課題を抱えることで、どのようなことに難しさを感じますか。

(○はそれぞれ 1 つ)

	難しいと感じる	やや難しいと感じる	それほど難しいと感じない	難しいと感じない	そういう経験はない	わからない
① 責任の重い仕事や役割を担うこと	1	2	3	4	5	6
② 管理職となること	1	2	3	4	5	6
③ 赴任や留学等のキャリアアップ	1	2	3	4	5	6
④ 希望の職業や働き方を続けること	1	2	3	4	5	6
⑤ 正社員として働き続けること	1	2	3	4	5	6

【全員がお答えください】

**問 24**

男性や女性の特有の健康課題を抱えている時でも、普段と変わらない能力で仕事をするために、職場に必要なものは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 柔軟な勤務制度
2. 休暇を取りやすい環境づくり
3. 社員の理解を深めるための啓発や研修
4. 通院費・治療費の助成
5. 長時間労働の削減
6. 相談しやすい仕組み（面談実施、窓口設置など）
7. その他（具体的にお書きください： \_\_\_\_\_ )
8. 特にない



F-5

配偶者（パートナー）のお仕事は  
（出産休暇や育児休業中の方も働いているものとみなします。）

1. 正規の職員・従業員（役員を含む）
2. 非正規の職員・従業員（期間従業員、契約社員、派遣社員を含む）
3. 自営業主・自由業
4. 家族従業者（家業を手伝っている者）
5. 主婦・主夫
6. 学生
7. 無職（主婦・主夫、学生を除く）
8. その他（具体的にお書きください： \_\_\_\_\_）

F-6

18 歳未満の子どもはいますか（○は1つ）

1. いる
2. いない

F-7

配偶者（パートナー）以外の同居家族はいますか（○はいくつでも）

1. 18 歳未満のこども
2. 18 歳以上のこども
3. 自分または配偶者（パートナー）の両親
4. 自分または配偶者（パートナー）の祖父母
5. 自分または配偶者（パートナー）の兄弟
6. 孫
7. 誰もいない（配偶者のみまたは単身）
8. その他  
（具体的にお書きください： \_\_\_\_\_）



## クオカード Pay 抽選応募のご案内

今回アンケートにご協力いただいた方で、**応募された方**の中から抽選で 200 名様にクオカード Pay（デジタルギフト）500 円分をプレゼントいたします。

抽選に応募される方は下記の応募者記入欄にメールアドレスをご記入ください。

**応募者記入欄**（応募は自由ですので抽選を希望されない方は空欄のまま返送してください。）

メールアドレス： \_\_\_\_\_ @ \_\_\_\_\_

メールアドレスをお持ちでない方はショートメッセージ（SMS）でのお受け取りも可能ですので、スマートフォンの電話番号をご記入ください。

電話番号記入欄（ \_\_\_\_\_ ）

※メールアドレス（又は電話番号）はプレゼントの送信以外の目的では使用しません。